第二號樣式（用紙半紙）

紹介營業狀況報告

種別 職業種類		藝妓		娼妓		酌婦		其ノ他		計			備考
縣內縣外ノ別		縣內	縣外	縣內	縣外	縣內	縣外	縣內	縣外	縣內	縣外	計	
求人者總數													營業者總數
求職者總數													
紹介者年齡別數	十歲未滿												
	十一歲ヨリ十六歲マテ												
	十七歲以上												紹介貸營業者數
	十八歲以上												
	十九歲以上												
	二十歲以上												
	二十一歲以上												
	二十二歲以上												
	二十三歲ヨリ二十五歲マテ												
	二十六歲ヨリ二十九歲マテ												
	三十歲以上												
	計												
紹介手數料	求人者ヨリ領收シタル金額												
	求職者ヨリ領收シタル金額												

警察署

〔山形縣〕

●婦女人身賣買防止ニ關スル件

〔山形縣〕

昭和九年八月二十四日
警察部長通牒保第一四〇號

本件ハ正當ナル理由ナクシテ藝妓、娼妓、雇女（酌婦）等賣笑ヲ爲シ又ハ其ノ虞アル稼業ニ就カムトスル者ヲ可及的ニ防止且ツ保護スルヲ以テ目的トスルモノナリ、本縣ハ舊來右稼業者ヲ多數出シ現ニ其ノ數ニ於テ全國有數ト稱セラル此ノ種稼業ハ夫自體風俗上取締ヲ必要トスルノミナラス稼業者ノ日常ノ業務竝ニ生活ハ極メテ辛酸ナルモノニシテ一度之等業界ニ身ヲ投スルヤ總テハ悲慘ナル境遇ニ陷ル者尠カラス從テ苟モ不純ナル動機ニ出タルモノハ極力之ヲ防止シ他ニ正當ナル生活ノ途ヲ求メシメ以テ本縣舊來ノ弊風ヲ打破セムコトヲ期スルノ緊要事タルヲ信スルモノナリ是卽チ一面風俗ヲ矯正シ他面弱者ヲ保護スル所以ナルヲ以テ概ネ左記各項ニ留意ノ上如上ノ目的達成ニ格段ノ努力ヲ致サルヘシ

記

一、紹介業者ノ取締ニ關スル事項

（一）藝妓、娼妓、酌婦等紹介營業者ヲ現在數以上ニ增加セシムルトキハ取締上弊害ヲ生スル虞アルヲ以テ爾今新規ノ營業許可願出アリタル場合ハ成ルヘク之ヲ許可セサルコト特ニ許可ノ必要ヲ認ムルモノニ在リテハ左ノ事項ヲ具シ警察部長ニ報告シ指揮ヲ受クルコト

（イ）藝妓、娼妓、酌婦等紹介營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第五條第一項各號該當事實ノ有無

（ロ）性質、素行、來歷

（ハ）資產、信用ノ程度

（ニ）特ニ新規許可ヲ必要ト認ムル事由

（二）常ニ紹介業者ノ觀察ヲ怠ラス違法行爲ハ嚴ニ之ヲ取締リ甚タシキ違反事實ニ對シテハ規則第十七條ノ規定ニ依リ營業停止又ハ營業許可取消ノ處分ヲ爲スコト、但シ右ノ處分ヲ爲スニ際シテハ違反事實ノ概要ヲ具シ豫メ警察部長ニ報告スルコト

（三）規則第十二條第四號ニ依リ紹介業者ハ絕對ニ求職ノ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス求職者ヨリ依賴アリタル場合ニ限リ紹介ヲ爲スコトヲ得ルモノナルニ付苟モ勸誘ニ亙ルカ如キコト無カラシムル樣嚴重ニ取締ヲ爲スコト

（四）規則第十一條ノ二（昭和九年八月縣令第四八號改正）ニ依リ紹介業者ハ求職者ヨリ紹介ヲ依賴サレタルトキハ直ニ求職者ノ住所所轄警察署ニ屆出ヲ爲スヲ要スルニ付嚴ニ之ヲ勵行セシメ斷シテ無屆ニテ紹介行爲ニ着手セシメサル樣注意スルコト

（五）前項ノ屆出アリタルトキハ遲滯ナク左ノ處置ヲ講スルコト

（イ）求職者及其ノ家庭ノ事情ヲ詳細ニ調査スルコト

（ロ）求職者及其ノ父兄（又ハ之ニ代ルヘキ保護者）ニ對シ

(1) 身賣ノ理由

(2) 紹介ノ依賴ヲ爲シタル職業ノ內容ニ關シ誤信シ居ルコトナキヤ

(3) 紹介業者ニ勸誘セラレタルモノニ非サルヤ

(4) 他ノ正當ナル職業ニ就クコト能ハサル事情アリヤ

(5) 必要トスル前借金額及其ノ使途等ヲ訊シ、身賣ノ不道德ニシテ且ツ將來悲慘ナル境遇ニ陷ルヘキコトヲ諭シ反省ヲ促ス等防止並ニ保護上必要ナル手段ヲ講シ尙藝娼妓、雇女ノ許可又ハ認可アル迄ハ前借金ノ收受其ノ他後日解消困難ナル事項ハ之ヲ爲サヽル樣注意ヲ與フルコト

（ハ）各市町村ニ設置セラルヘキ防止機關（四、部民ノ敎化ニ關スル事項（三）參照）ニ連絡シ防止策ヲ講セシムルコト特ニ求職者ヲ他ノ正當ナル職業ニ斡旋スル等經濟上ノ救濟ヲ圖ラシムルコト

（ニ）紹介業者ニ對シ前項ノ調査並防止策講究中ハ紹介行爲ニ着手セサル樣注意ヲ與ヘ調査ノ結果眞已ムヲ得ス絶對ニ防止不可能ト認メルモノニ付テノミ紹介ニ着手セシムル樣取計ヒ同時ニ之ニ對シ求職者ヲ欺罔シ又ハ其ノ意ニ反シタル紹介ヲ爲ス等ノ不正行爲ナキ樣警告ヲ爲シ且ツ之カ監視ヲ怠ラサルコト

（六）紹介業者求職者ヲ縣外又ハ求職者住所地以外ノ地方ニ紹介シ之ヲ同行スル者ハ其ノ旅程ヲ親シ途中ニ於テ假リニ宿泊セシメサル樣注意ヲ爲スコト若宿泊スルノ已ムヲ得サルモノニ付テハ宿泊地所轄警察署ニ通報シテ之ヲ監視セシムル樣手配スルコト

（七）規則第十一條ノ三（前掲改正）ニ依リ屆出アリタルトキハ紹介業者ニ不正事實ナキヤ契約ニ不當ナル點ナキヤ等ニ付周到ナル調査ヲ遂ケタルコトニ關シテ其ノ都度屆書ノ寫ヲ添ヘ警察部長ニ報告スルコト

（八）規則第十一條ノ手數料ニ關スル遵守事項及同第十二條ノ禁止事項ヲ嚴守セシムルコト（前掲改正ニ依リ第十二條第十二號以下ノ事項モ絶對禁止トナリタル點注意ヲ要ス）

（九）紹介業者紹介ヲ爲スニ際シ求職者側ヨリ白紙委任狀ヲ提出セシメ置キ後日ニ至リ擅ニ稼業先ヲ轉換セシムル等ノ奸策ヲ弄スル者アルニ付特ニ此等ニ注意スルコト

（十）無免許ニテ紹介行爲ヲ爲ス者ノ撲滅ヲ期スルコト他府縣ニ於テ免許ヲ得タル者ト雖モ本縣內ニ於ケル行爲ハ無免許行爲ナルヲ以テ注意スルコト

（山形縣）

（十一）營利職業紹介業者ハ藝妓、娼妓、酌婦又ハ之ニ類スル者ノ周旋ヲ爲スヲ得サルモノナルニ付取締上注意ヲ拂フコト（營利職業紹介事業取締規則第八條第八號）

二、藝妓及娼妓ノ營業許可又ハ名簿登錄ニ關スル事項

（一）營業許可又ハ名簿登錄ノ申請アリタル場合ハ身許調査ノ徹底ヲ期シ正當ナル理由ナクシテ徒然ト許可スルカ如キコト無キ樣注意スルコト

（二）他府縣ヨリ照會アリタル場合亦同シ

身元調査ニ際シテハ施行手續規定事項以外凡ソ左ノ諸點ニ付具體的且詳細ニ調査スルコト

（イ）家庭ノ狀況並ニ生活狀況（家族ノ員數、氏名、年齡、職業、資産、收入、支出、負債等）

（ロ）藝娼妓タラムトスル理由及本人ノ意思ニ出テタルモノナリヤ、父兄ノ勸メニ因ルモノナリヤ、紹介業者ニ勸誘セラレタルモノニ非サルヤ、他ノ正當ナル職業ニ就クコト能ハサル事情アリヤ等ノ諸點

（ハ）契約ノ內容（契約金額、稼業年限、前借金及其ノ使途、親元ノ手取金等）

（ニ）紹介者ノ住所、氏名及之ニ支拂フ手數料額ノ正否

（三）許可又ハ登錄前ニ事實上稼業ヲ爲サシメ又ハ前借金ヲ收受スル等ノコトナキ樣注意スルコト

（四）娼妓稼業年限延長ハ成ルヘク許可セサル方針ナルニ付注意スルコト

三、雇女ノ使用認可ニ關スル件

（一）大正七年四月縣令第七號、料理屋、飮食店、待合茶屋、貸座敷ニ於テ使用スル雇女ニ關スル件、第二條ノ規定ニ依リ營業者ハ雇女ヲ使用セントスルトキハ豫メ之ヲ屆出テ認可ヲ受クヘキモノナルヲ以テ屆出アリタルトキハ藝娼妓ノ營業許可又ハ名簿登錄ノ申請ノ場合ニ準シ之カ身元調査ヲ爲シタル上支障ナキ者ニ付テハ認可ヲ與ヘ防止保護ノ必要ナル者ニ付テハ相當ノ處置ヲ講スルコト（昭和二年三月縣令第十五號、料理屋飮食店待合茶屋營業取締規則第十一條ノ規定ト混同セサル樣注意ヲ要ス）

（山形縣）

四、部民ノ敎化ニ關スル事項

（一）各地方、市町村當局、敎育關係者、青年團、女子青年團、處女會、婦人會、主婦會、方面委員、消防組其ノ他各種ノ敎化團體或ハ有識者、有力者等ト連絡協調シ道德觀念乃至貞操觀念ノ向上ニ努ムルコト

（二）座談會、講話會等ヲ成ルヘク多ク開催シ輿論ノ喚起ニ努ムルコト

（三）市町村等ニ常設ノ防止機關ヲ設置シ常時敎化指導ニ當ラシメ且職業ノ紹介、經濟上ノ相談ニ應セシムルコト

五、其ノ他必要ナル事項

（一）受持巡査ヲシテ常ニ受持區域內ノ狀況ヲ精査セシメ身賣ノ虞アル家庭ニ付テハ戶口調査ノ際特ニ注意ヲ與ヘシムルコト

（二）身賣ヲ防止シ得タルトキハ引續キ常ニ其ノ家庭ヲ監視シ保護ヲ怠ラサルコト

（三）現ニ藝妓、娼妓、酌婦等ノ稼業ニ從事シ居ル者ノ家庭ニ付テモ常ニ觀察ヲ爲シ成ルヘク速カニ正業ニ就カシメ得ル樣誘導スルコト

（四）子守、女工等トシテ縣外ニ出稼セル者ニシテ後日ニ至リ賣笑婦ニ轉スル者相當多數ニ上ルヲ以テ之等ノ出稼ニ對シテモ注意ヲ怠ラサルコト

（五）一般ノ風紀紊亂スレハ道德觀念、貞操觀念ノ弛緩スルニ至ルヘキヲ以テ之カ取締ニ不斷ノ注意ヲ拂フコト

（六）不正ノ紹介ヲ防止シ又ハ求職者ニ於テ身賣ヲ斷念スル等本件目的達成ノ事實ニ付テハ其ノ都度警察部長ニ報告スルコト其ノ他本件ニ關シ參考トナルヘキ事項ニ付テモ同樣報告スルコト

●浴場營業取締規則

昭和七年九月二十八日
山形縣令第五十二號

第一條　本令ニ於テ浴場トハ白湯、藥湯、潮湯等ヲ設ケ公衆ノ入浴ニ供スル常設ノ場所ヲ謂フ

浴場營業トハ浴場ヲ公衆ノ入浴ニ供スル營業ヲ謂フ

第二條　本令ニ依ル願屆書ハ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人、妻ニ在リテハ夫ノ連署ヲ要ス

前項ノ連署者ニ變更アリタルトキハ其ノ旨五日以內ニ所轄警察署長ニ屆出ツヘシ

第三條　浴場營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日及職業（法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地、代表者ノ住所及氏名並ニ定款寫）

二　浴場ノ名稱及建設地ノ地名番號

三　湯質（白湯、藥湯、潮湯等）及用水ノ種類

湯花其ノ他藥物類ヲ用ヰルモノニ在リテハ其ノ名稱、成分、用量及效能（賣藥又ハ賣藥部外品ノ免許ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ免許證寫ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得）

四　燃料ノ種類

五　入浴料
六　建設物ノ構造仕樣書及圖面
七　汚水排除ノ方法
八　竣工期日
九　建設敷地ニシテ他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ承諾書

前各號ノ外必要ト認ムルトキハ書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條　前條第一項第六號ノ圖面ハ左ノ各號ニ依ルベシ
一　四隣平面略圖
二　四隣ノ既設浴場ニ對スル直線距離ヲ示シタル實測圖（浴場本屋ノ四壁中最近ノ部分ヲ起點トスルコト）
三　建設物ノ敷地內配置圖、平面圖、立面圖、斷面圖、小屋組平面圖及構造上緊要ナル部分ノ詳細圖

第五條　浴場營業ハ既設浴場ニ對スル直線距離三百三十米以內ノ場所ニ於テハ之ヲ許可セズ但シ土地ノ狀況又ハ公益上必要アリト認ムルトキハ制限以內ト雖特ニ許可スルコトアルベシ

第六條　浴場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フベシ
一　浴場ハ外部ヨリ見透シ得ザル構造ト爲シ入浴者ノ出入口ハ男女ヲ異ニスルコト
二　脫衣室及浴室ハ男女ヲ異ニシ其ノ境界ニ高サ二米以上ノ障壁ヲ設ケ互ニ見透シ得ザル構造ト爲スコト
三　浴室ノ上部ニ湯氣拔ヲ設クルコト
四　浴室ノ床ハ石、煉瓦、コンクリート等ノ不滲透質材料又ハ厚板ヲ以テ築造スルコト
五　浴室ニハ水栓若ハ水槽及湯栓若ハ湯槽ヲ設クルコト
六　汚水ヲ速ニ屋外ニ流下セシムル設備ヲ爲スコト
七　火焚場ハ石、煉瓦、コンクリート等ノ不燃質材料ヲ以テ築造シ其ノ天井ノ高サハ床上三米以上タルコト
八　煙突ハ不燃質材料ヲ以テ築造シ敷地內屋根ノ最高部ヨリ二米以上突出セシメ煙突ノ接觸部分ハ厚サ九糎以上ノ金屬以外ノ不燃質材料ヲ以テ特ニ包被スルコト
九　火消場及灰置場ハ火焚場內又ハ火焚場ニ隣接シテ不燃質材料ヲ以テ築造スルコト
十　燃料置場ハ火焚場ヨリ三米以上隔離スルコト
十一　入浴者ノ衣類、下足及携帶品ヲ保管シ得ベキ設備ヲ爲スコト
十二　汚水槽及汚水排除管ハ不滲透質材料ヲ以テ築造スルコト
十三　建物ノ屋根ハ不燃質材料ヲ以テ覆葺スルコト
十四　男女ヲ異ニシ客用便所ヲ設クルコト

第七條　浴場ノ工事竣功シタルトキハ所轄警察署長ニ屆出テ認可ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八條　讓受、借受又ハ相續ニ依リ浴場營業ヲ爲サントスルトキハ第三條第一項第一號乃至第五號及第九號ノ事項ヲ具シ双方連署ノ上所轄警察署長ニ願出テ許可ヲ受クベシ但シ連署シ能ハザルトキハ其ノ事由ヲ具シ承繼ノ事實ヲ證明スルニ足ルベキ文書ヲ添附スベシ

第九條　浴場營業者ニシテ其ノ浴場ヲ改築、增築、變更又ハ修繕セントスルトキハ所轄警察署長ニ願出テ許可ヲ受クベシ第三條第一項第三號乃至第五號及第七號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十條　第三條第一項第一號及第二號ノ事項ニ變更ヲ生ジ又ハ休業若ハ廢業シタルトキハ五日以內ニ所轄警察署長ニ屆出ヅベシ但シ豫メ屆出テタル定休日ハ此ノ限ニ在ラズ

浴場營業者死亡シタルトキハ相續人、浴場營業者タル法人解散シタルトキハ清算人ニ於テ五日以內ニ其ノ旨所轄警察署長ニ屆出ヅベシ

第十一條　警察署長ハ風俗衞生其ノ他保安上必要アリト認ムルトキハ浴場ノ改築、變更、修繕其他ノ必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察署長ハ營業ノ停止ヲ命ジ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトアルベシ
一　竣工期日ヲ過グルモ竣工セザルトキ
二　休業六十日以上ニ亙リタルトキ
三　法定代理人若ハ保佐人ノ同意又ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキ
四　風俗衞生其ノ他公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

第十三條　營業者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ
一　營業時間ハ日出ヨリ午後十二時迄トス但シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
二　消炭及灰ハ火氣消滅シタル後ニ非ザレバ火焚場外ニ出サザルコト
三　燃料置場以外ニ燃質物ヲ堆積セザルコト
四　浴槽、洗場其ノ他入浴者ノ使用ニ供スルモノ及火焚場ハ每日、煙突ハ每月二回以上掃除ヲ爲スコト但シ煙突ノ掃除ハ豫メ期日ヲ定メ所轄警察署長ニ屆出ヅルコト
五　脫衣場ニハ適當ナル看守人ヲ置キ入浴者ノ衣類其ノ他ノ携帶品ヲ看守セシムルコト
六　入浴料、營業時間、入浴者ノ遵守事項其ノ他所轄警察署長ヨリ指示セラレタル事項ハ入浴者ノ見易キ場所ニ揭示スルコト
七　泥醉人若ハ老幼者其ノ他危險ト認ムル者ヲ入浴セシメザルコト
八　人ニ傳染スル疾病者ヲ入浴セシメザルコト但シ疾病ノ治療ヲ目的トスル浴場ニシテ其ノ效能疾病者ニ對スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
九　前日用キタル湯水ヲ浴用ニ供セザルコト但シ藥湯ニシテ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル期間ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
十　手拭、櫛、梳、剃刀等ハ之ヲ貸與セザルコト但シ煮沸消毒シタル手拭ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　營業者ハ入浴者ヲシテ左ノ各號ノ事項ヲ遵守セシムベシ
一　浴槽、流場其ノ他ノ場所ニ於テ不潔ニ亙ル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメザルコト
二　放歌、高吟若ハ喧噪シ又ハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲ヲ爲サザルコト

第十五條　警察官吏浴場ノ檢査ヲ爲サントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十六條　浴場營業者組合ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ定メ所轄警察署長ノ認可ヲ受クベシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十七條　組合役員ノ任免及組合ノ解散ハ五日以內ニ所轄警察署長ニ之ヲ屆出ヅベシ

第十八條　警察署長ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ組合規約ノ變更又ハ役員ノ解任ヲ命ズルコトアルベシ

第十九條　第二條第二項第三條第一項第七條乃至第十條若ハ第十三條乃至第十五條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ從ハザル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十條　浴場營業者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　浴場營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十二條　本令ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第二十三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　明治三十三年一月縣令第四號浴場取締規則ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　本令施行ノ際現ニ存スル浴場營業（許可ヲ得テ浴場未ダ竣工セザルモノヲ含ム）ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ浴場ニシテ第六條ノ規定ニ適合セザルモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ之ヲ改造スベシ

第二十六條　本令施行ノ際現ニ存スル浴場營業者ノ組合ハ本令施行後二箇月以内ニ第十六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クルコトヲ要ス

●浴場營業取締規則執行手續

昭和七年九月二十八日
山形縣訓令第二十一號

第一條　本令ニ於テ規則ト稱スルハ浴場營業取締規則ヲ謂フ

第二條　規則第三條第一項第八條乃至第十條、第十三條第一號、第四號若ハ第九號、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ提出シタル願、屆書ヲ受理シタルトキハ本令ニ別段ノ定アルモノノ外警察署長ハ左ノ各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ願書ニ在リテハ許可若ハ認可ヲ爲スベシ

一　第十二條所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ否

二　設計ト事實トノ間ニ相違ナキヤ否

第三條　規則第三條第一項ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ前條ノ規定ニ依ルノ外規則第五條及第六條ノ規定ニ適合スルヤ否ヤヲ調査スベシ

但シ規則第三條第一項第五號入浴料ハ現金ヲ以テスル場合ノ外湯札ヲ以テスル場合ヲ含ムモノトス

第四條　規則第五條但書ニ依リ許可セントスルトキハ警察部長ニ稟伺スベシ

第五條　規則第七條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ警察署長ハ實地檢査ヲ遂ゲ支障ナシト認ムルトキハ認可スベシ

第六條　規則第九條ノ規定ニ依ル願書ニシテ浴場ノ改築、增築、變更又ハ修繕ニ係ルトキハ第二條ノ規定ニ依ルノ外規則第六條ニ適合スルヤ否ヤヲ調査スベシ

第七條　規則第三條、第七條若ハ第九條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ヲ受クベキ事項ニシテ同時ニ市街地建築物法令ニ依リ認可ヲ受クベキモノナルトキハ同法令ニ依ル認可アリタル後之ヲ許可若ハ認可スベシ

第八條　規則第十二條ノ規定ニ依リ營業ノ停止ヲ命ジ又ハ其ノ許可ヲ取消サントスルトキハ警察部長ニ稟伺スベシ

第九條　警察署長ハ規則第十三條第四號但書ノ掃除期日ニ警察官吏ヲシテ檢査セシムルノ外臨時警察官吏ヲ派遣シ左ノ各號ノ事項ニ付視察セシムベシ

一　規則第十三條若ハ第十四條ノ遵守事項ニ違反スルコトナキヤ否ヤ特ニ規則第十三條第五號ノ看守人ハ看守ニ適當ナル者ナリヤ否

二　浴場ノ構造設備ニシテ風俗、衞生其ノ他公安ヲ害スル虞アルモノナキヤ否

三　許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ屆出ヅベキ事項ヲ怠ルコトナキヤ否

四　前各號ノ外諸規則違反ノ事實ナキヤ否

第十條　組合規約ニ記載スベキ事項ハ左ノ標準ニ依ル

一　組合ノ名稱及目的

二　組合ノ事務所及地域

三　事業

四　組合ノ加入脱退及權利義務

五　役員ノ選任及事務執行

六　組合費ノ徵收及會計

七　組合ノ解散

第十一條　警察署長ハ別紙樣式ノ浴場營業者臺帳ヲ備付ケ所要ノ事項ヲ記載シ異動アル每ニ之ヲ整理スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年一月保收第三九號警察部長通牒湯屋取締規則執行手續ハ之ヲ廢止ス

樣式（用紙美濃紙）

（表）

番號	
浴場名	
營業者名	年　月　日生
營業許可	年　月　日
營業讓受、借受又ハ相續許可	年　月　日
湯質	
入浴料	
營業時間	
定休日	
燃料ノ種類	
營業掃除期日	
所在地	
住所	
使用認可	年　月　日
廢業屆出又ハ營業許可取消	年　月　日
四隣ノ既設浴場ニ對スル直線距離	
敷地坪數及建物構造別	
浴槽及流場ノ構造別	
上リ用湯水ノ設備	
火焚場ノ構造	
火消場及灰置場ノ構造	
煙突ノ構造及高	
汚水排除ノ方法	

許可、認可若ハ届出年月日	届出認可事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更事項	檢査年月日	違反事項	處分

●男女混浴禁止ノ件

明治三十三年五月二十四日
內務省令第二十五號

營業ノ公衆ヲ目的トスル浴場ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシムルコトヲ得ス

前項ニ違背シタル營業者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

〔內務省〕

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ廳府縣長官（東京府ニ於テハ警視總監）ハ營業者ノ出願ニ對シ本令施行ノ日ヨリ起算シ一年以內ノ範圍ニ於テ浴場ノ設備ヲ爲スニ必要ナル期間本令ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

●印版營業取締令

明治三十七年二月二十二日
山形縣令第十號

改正　明治四一年縣令第九二號、大正元年第二號、二年第八四號

第一條　本令ニ於テ印版營業ト稱スルハ各種ノ印章、版面ヲ製作シ又ハ製作シタル印章、版面ヲ販賣スルヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條　印版營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　氏名、年齡、住所
二　營業ノ場所

第三條　印版營業者ハ別記樣式ノ帳簿ヲ備ヘ第一號乃至第三號ノ事項ハ依賴ヲ受ケ又ハ仕入ヲ爲シ若ハ作製シタル日ニ於テ第四號及第五號ノ事項ハ引渡又ハ讓渡シタル日ニ於テ記入シ且其ノ印章、版面ノ影跡ヲ押捺スヘシ

一　製作依賴人ノ氏名、年齡、住所及仕入元又ハ製作人ノ氏名、住所
二　印章、版面ノ種類
三　製作ノ依賴ヲ受ケ又ハ仕入ヲ爲シ若ハ製作シタル年月日
四　印章、版面ノ讓受人ノ氏名、年齡、住所
五　印章、版面ノ引渡又ハ讓渡シタル年月日

第四條　前條ニ依リ備フヘキ帳簿ハ紙數ヲ記シ所轄警察官署ニ届出テ檢印ヲ受クヘシ其ノ變更ノトキ亦同シ

第五條　印版營業者左ニ掲クル印章、版面ノ製作ノ依賴ヲ受ケタルトキハ製作以前ニ於テ警察官吏ニ申告スヘシ

一　官署、公署、學校、病院、銀行及會社ノ印章
二　銀行又ハ會社ヨリ發行スル株券、債券又ハ手形ノ版面
三　從來製作シタル印章、版面ノ影跡ト同一又ハ類似ノ印章、版面

第六條　印版營業者ハ住所又ハ營業ノ場所ヲ轉シ若ハ氏名ヲ改メ又ハ廢業シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第七條　印版營業者ハ營業ニ關シ警察官吏ヨリ尋問ヲ受ケタルトキハ實ヲ以テ之ニ答フヘシ

第八條　印版營業ニ關シテハ家族、職工又ハ徒弟ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第九條　警察官署ハ印版營業ニ關シ特別ノ命令ヲ爲シ又ハ印版營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條ノ二　本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

〔山形縣〕

附　則

第十條　從來ノ印版、銅版、木版ノ彫刻營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

（別記）

第三條樣式　印版明細帳

番號	印章版面ノ種類	印章版面ノ影跡	依賴ヲ受ケタル年月日	引渡ノ年月日	依賴人ノ氏名年齡住所

（備考）印章版面ノ影跡大キクシテ其ノ欄內ニ押捺スル能ハサルトキハ別紙ニ押捺シ參照ヲ付シ本帳簿ニ編綴スヘシ

第二號樣式　印版明細帳

番號	印章版面ノ種類	印章版面ノ影跡	仕入（製作）年月日 讓渡年月日	仕入元（製作人）氏名住所 讓受人ノ氏名（年齡）住所

（備考）第一號樣式ニ同シ

●印版營業取締令執行手續

明治三十七年二月
警部長閣達第九號

改正　明治四五年縣令第二七號

第一條　印版營業ノ願出アリタルトキハ調査ヲ遂ケ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ拒否スヘシ

一　刑法第四章第一節乃至第五節ノ罪ヲ犯スノ嫌疑アル者及其ノ前科者ニシテ滿二年ヲ經過セサル者

二　印版營業ノ許可ヲ取消サレタル後滿二年ヲ經過セサル者

第二條　取締令第四條第一項ニ依リ帳簿ノ檢印ヲ請フ者アルトキハ其ノ紙數ヲ調査シ別記第一號樣式ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ檢印ヲ與フヘシ

取締令第四條第二項ノ認可ヲ申請スル者アルトキハ最後ニ使用シタル日ヨリ三ケ年ヲ經過シ且ツ保存ノ必要ナシト認ムルモノニ限リ廢棄ノ認可ヲ與フヘシ

第三條　取締令第五條ニ依リ申告アリタルトキハ依賴人ノ身元及其ノ依賴ノ正否ヲ調査スヘシ

第四條　印版營業者ヨリ所轄外ニ住所又ハ營業場所移轉ノ屆出アリタルトキハ即時之ヲ移轉地警察官署ニ通報スヘシ

第五條　削除

第六條　警察署長、警察分署長ハ時々部下警察官吏ヲシテ左記事項ヲ監査セシムヘシ

一　簿冊ノ整否

二　營業者ノ不正行爲ノ有無

三　製作依賴人、讓受人ノ身元ノ正否

第七條　警察官署ニ於テハ別記第二號樣式ノ印版營業人臺帳ヲ調製シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

（別記）

第一號樣式

紙數何枚

明治　年　月　日

印　警察署（又ハ分署印）

（變更ノトキ）

紙數何枚ヲ何枚ニ改ム

明治　年　月　日

印　警察署（又ハ分署印）

第二號樣式　印版營業人臺帳（營業臺帳用紙ヲ用ユ）

第　號	備考	第　號	備考
許可　年　月　日 明治　年　月　日（許可取消）廢業	取締上參考トナルヘキ事項		
營業種類			
族籍住所身分 氏　名　年齡			

●家畜市場法

明治四十三年三月十八日
法律第一號

改正　明治四五年法律第二〇號

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條　家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ市場業務規程ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ市場業務規程ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　家畜市場ノ開設許可ノ期間ハ二十年以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム但シ期間更新ノ出願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ畜牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條　市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニ於テ常設家畜市場ヲ開設スルトキハ地方長官ハ其ノ申請ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經テ必要ト認ムル地區內ニ於ケル私設家畜市場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得但シ產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　前條ノ場合ニ於テハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ廢場ヲ命セラレタル私設家畜市場ノ開設者ニ對シ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條　家畜市場ニ於テハ其ノ場內又ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ニ非サレハ之ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第七條　家畜ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ業トスル者若ハ屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者ハ家畜市場附近ノ區域內ニ於テハ市場開催日及其ノ開催日前後ノ期間中其ノ市場ノ取扱フ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ區域及期間ハ地方長官之ヲ指定ス

第八條　常設家畜市場ニ付主務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官ノ指定シタル區域內ニ於テハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ付市場ヲ開設スルコトヲ得ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ常設家畜市場ニ付其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ關シ指定シタル區域內ノ牛馬宿ニ於ケル賣買交換ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條　前三條ノ區域及期間ノ指定、變更又ハ取消ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十一條　家畜市場開設者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ市場ノ取扱フ家畜ノ賣買交換ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　家畜市場ニ於テ家畜ノ賣買交換ニ關スル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ市場ノ業務規程ヲ知ラサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ其ノ市場業務規程中ニ五十圓以下ノ過怠金ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　家畜市場及其ノ附屬建設物ノ構造、設備、市場ノ取引方法、仲立業者ノ資格其ノ他市場ノ監督及衞生上必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場開設者若ハ仲立業者ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ檢査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷シ又ハ其ノ移動ヲ停止セシムルコトヲ得

第十五條　家畜市場ノ休場又ハ廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

家畜市場開設許可ノ際指定シタル期間內ニ開場セサルトキハ之ヲ休場ト看做ス

第十六條　家畜市場開設者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ主務大臣若ハ地方長官公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置、構造、設備又ハ市場業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條　許可ヲ受ケスシテ家畜市場ヲ開設シ又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル停止若ハ制限ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第六條、第七條第一項、第十一條、第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者、第九條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者又ハ第十四條ノ規定ニ依ル停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢檢査ノ際當該官吏吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條　本法ハ帝室、政府、北海道地方費又ハ府縣ノ行フ家畜ノ賣買交換ニ之ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年十二月勅令第四百四十六號ヲ以テ明治四十四年二月一日ヨリ施行）

本法施行前地方長官ノ許可又ハ認可ヲ得タル家畜市場ハ本法施行後三年ヲ限リ本法ニ依リ許可セラレタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可又ハ認可ノ期間三年以內ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

●家畜市場法施行規則

明治四十三年十二月一日
農商務省令第二十六號

（改正　大正元年農商務省令第十三號）

第一條　家畜市場ヲ分テ常設家畜市場、定期家畜市場及臨時家畜市場トス

常設家畜市場トハ每年百日以上開催スルモノヲ謂ヒ定期家畜市場トハ每年定期ニ開催シ其ノ開催日數百日ニ達セサルモノヲ謂ヒ臨時家畜市場トハ常設家畜市場及定期家畜市場ニ該當セサルモノヲ謂フ

第二條　常設家畜市場又ハ定期家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書、用地ノ面積、建物ノ名稱、構造設備、坪數ヲ記入シタル圖書及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

一　家畜市場ノ名稱及位置
二　入場家畜見込頭數
三　資本金額及收支計算
四　開設期間

家畜市場開設者カ法人ナルトキハ前項書類ノ外尙其ノ定款及事業報告書ヲ差出スヘシ

第三條　臨時家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ前條第一項第一號、第二號及第四號ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條ノ二　家畜市場開設者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ開設者及新ニ開設者タラムトスル者ノ連署シタル願書ニ新ニ開設者タラムトスル者ノ履歷書（法人ニ在リテハ其ノ定款及事業報告書）ヲ添ヘ其ノ事由ヲ具シテ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事務所ノ位置
二　家畜ノ種類
三　開場ノ日時
四　市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類並徵收方法
五　仲立業者ノ手數料
六　取引ノ方法、手續
七　違約者處分ノ方法
八　其ノ他業務執行上必要ナル事項

第五條　家畜市場ノ名稱中ニハ其ノ種別ヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

家畜市場ニ非スシテ其ノ名稱中ニ家畜市場タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六條　家畜市場開設者市場管理者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ屆出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第七條　家畜市場開設者ハ臺帳ヲ調製シ入場シタル家畜ヲ一頭每ニ其ノ種類、產地、飼養地、性、毛色、高サ（羊豚ニ在リテハ重量）、年齡及用途ヲ記入スヘシ賣買交換シタル家畜ニ在リテハ尙賣買若ハ交換當事者ノ氏名又ハ名稱及住所竝其ノ家畜ノ價額ヲ記入スヘシ

第八條　常設家畜市場ニ於テ賣買交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ノ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ授受スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ家畜市場開設者其ノ責ニ任スヘシ

第九條　家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬場ニ牽入ルル家畜

リ健康檢査ヲ行ハシムヘシ

常設家畜市場ニ於テハ家畜ノ衞生事務ニ從事セシムル爲獸醫ヲ置クヘシ

第十條　家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ定メタル行政廳ニ願出ヘシ

第十一條　家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域內ニ於テ開設スルコトヲ得ル市場左ノ如シ

一　品評會、共進會、博覽會又ハ競馬會ノ開設スル臨時家畜市場

二　產牛馬組合法又ハ產業組合法ニ依リ設置シタル組合ノ家畜市場

三　家畜市場法施行前ニ開設ノ許可若ハ認可ヲ得タル家畜市場

第十二條　家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置ハ公衆及家畜衞生上妨ケナキ場所ナルコトヲ要ス

常設家畜市場ニ於テハ檢査所、賣場、繫場、畜舍、隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　檢査所ハ家畜ノ健康檢査及治療ニ必要ナル設備ヲ備フヘシ

二　賣場ハ屋根ヲ設ケ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料（コンクリート、アスファルト、漆喰類等）ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繫場若ハ畜舍ニ於テ賣買交換スル場合ハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得

三　繫場ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ

四　畜舍及隔離所ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ作リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其ノ內壁ハ石材、煉瓦、金屬板其ノ他不滲透質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ高サヲ爲シ適當ノ窓ヲ設ケ換氣ノ裝置ニ留意シ各三尺以上ノ通路ヲ附シ畜房ハ牛馬一頭每ニ較緬羊豚ハ適宜ニ之ヲ區劃シ界欄ヲ設クヘシ但シ家畜ヲ宿泊セシメサル市場ニ於テハ畜舍ヲ設ケサルコトヲ得

〔山形縣〕

五　汚物溜及尿溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ浸入ヲ防クヘシ

定期家畜市場及臨時家畜市場並其ノ附屬建設物ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ規定ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第十三條　家畜市場ノ仲立業者タラムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ家畜市場ノ仲立業者タルコトヲ得ス

一　未成年者

二　一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　家畜市場法、本則又ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケ其ノ情狀重キ者

四　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散者ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

五　三箇年以上畜產業又ハ牛馬商ニ從事シタル經驗ナキ者

六　素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第十四條　仲立業者ハ家畜市場開設者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ市場ニ於テ仲立スルコトヲ得ス

第十五條　仲立業者ハ其ノ業務ヲ行フ家畜市場ニ於テハ自己ノ計算ヲ以テ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十六條　家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱、家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ標示シ市場業務規程ヲ場內ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場內ニ揭示スヘシ

〔山形縣〕

第十七條　常設家畜市場開設者ハ其ノ市場ニ於テ賣買交換セル家畜ノ頭數、價額及其ノ平均、最高、最低價額ヲ種類、牝牡幼壯別ニ分チ其ノ當日又ハ翌日場內ニ揭示スヘシ

第十八條　地方長官常設家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名ヲ記載シタル書面ニ市場業務規程ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項及市場業務規程ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官定期家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名、開場ノ日時、取扱フ家畜ノ種類、料金ノ種類及其ノ金額ヲ、臨時家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ市場ノ名稱及位置、取扱フ家畜ノ種類ヲ各一箇年分取纏メ翌年一月三十一日限リ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官常設及定期家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ、廢止ヲ認可シ又ハ業務ヲ停止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　第六條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ科料ニ處ス

第二十條　第七條、第八條第一項、第九條、第十四條、第十五條、第十六條又ハ第十七條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條第一項ニ依リ認可ヲ受ケスシテ家畜市場ノ仲立業ヲ爲シタル者又ハ第十七條ニ揭ケタル事項ニ付虛僞ノ揭示ヲ爲シタル者ハ前項ニ同シ

附　則

本則ハ家畜市場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十四年三月一日）

●家畜市場法施行細則

明治四十四年三月一日
山形縣令第十四號

改正　明治四四年縣令第三二號

第一條　家畜市場法、家畜市場法施行規則及本則ニ依リ知事ニ爲スヘキ願屆ハ總テ所轄警察官署ニ差出スヘシ

第二條　家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ所轄警察官署ニ願出ヘシ

第三條　家畜市場法施行規則第七條ニ依リ調製スヘキ臺帳ハ別記第一號樣式ニ據ルヘシ

第四條　家畜市場法施行規則第九條第一項ニ依リ檢査ノ結果健康ナリト診斷シタルトキハ別記第二號樣式ノ健康票ヲ附スヘシ

第五條　家畜市場法施行規則第九條第二項ニ依リ獸醫ヲ置キタルトキハ其ノ履歷書ヲ添ヘ遲滯ナク之ヲ所轄警察官署ニ屆出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第六條　定期家畜市場及臨時市場ニハ檢査所、賣場、繫場、隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一　檢査所ハ家畜ノ健康檢査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

二　賣場ハ屋根ヲ設ケ地盤ニ相當勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繫場ニ於テ賣買交換スル場合ニハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得

三　繫場ハ家畜ノ逸走ヲ防クニ足ルヘキ設備ヲ爲シ地盤ニ相當勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ

四　隔離所ハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ適宜區劃ヲ設ケ病毒散布ノ虞ナキ設備ヲ爲スヘシ

五　汚物溜及尿溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ設備ヲ爲スヘシ

第七條　家畜市場及其ノ附屬建設物ノ構造設備ニシテ家畜市場法施行規則第十二條第二項又ハ本則第六條ノ規定ニ據ラサルトキハ其ノ詳細ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ開設願書ニ添附スヘシ

第八條　家畜市場及其ノ附屬建設物ハ開設地所轄警察官署ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條　家畜市場法施行規則第十三條ニ依リ仲立業者タルノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、族籍、氏名、生年月日ヲ具シテ申請スヘシ

第十條　仲立業者タルコトヲ認可スルトキハ認可證ヲ下附ス

仲立業者ハ認可證ヲ毀損、亡失シ又ハ住所、族籍氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以內ニ其ノ再渡又ハ書換ヲ申請スヘシ

第十一條　仲立業者ハ認可ノ效力ヲ失ヒ、認可ヲ取消サレ又ハ廢業、死亡シタルトキハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以內ニ認可證ヲ返納スヘシ但シ死亡ノ場合ニ在リテハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第十二條　仲立業者ハ仲立明細帳ヲ備ヘ置キ仲立ノ都度之ニ記載スヘシ

前項ノ仲立明細帳ハ別記第一號ノ樣形ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十三條　家畜市場ハ常ニ之ヲ淸潔ニ爲シ置クヘシ

第十四條　家畜市場法施行規則第十六條ニ依ル榜示ハ別記第三號樣形ノ木札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十五條　仲立業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ認可ノ效力ヲ失フ

一　一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第十六條　仲立業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ仲立業者ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　家畜市場法、家畜市場法施行規則又ハ本則若ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケタルトキ
二　仲立業者タルニ不適當ナル行爲アリタルトキ

第十七條　詐僞ノ所爲ヲ以テ仲立業ノ認可ヲ受ケタル者及第三條乃至第五條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

（別記）

（第一號樣形）

家畜臺帳

番號	種類	產地	飼養地	性	毛色	高サ（重量）	年齡	用途	賣買交換價格	賣渡人交換人住所氏名（名稱）	買受人交換人住所氏名（名稱）

一　牛馬羊豚ハ口別ヲ以テ之ヲ記入スヘシ
二　交換價格ハ其ノ見積價格ヲ記載スヘシ

（第二號樣形）　（五寸）　（用紙鳥ノ子其他厚紙）

（三寸五分）

番號

家畜檢查票

住所

所有者　何　某

獸種及種類	性	毛色	年齡
產地	飼養地	高サ（重量）	用途

右健康ナリト診斷ス

年　月　日　於何々市場

獸醫　氏　名　㊞

（第三號樣形）　（四尺）

（八寸）

何々牛馬羊豚市場
開設者　何　某
管理者　何　某

●家畜市場ニ關スル法令施行手續

明治四十四年三月
山形縣訓令第六號

改正　明治四五年訓令第二七號

第一條　家畜市場ノ開設ヲ願出タル者アリタルトキハ用地關係者ノ承諾書ヲ添附セシメ且左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ進達スヘシ

一　家畜市場法施行規則第二條乃至第四條ニ掲ケタル事項ヲ具備セルヤ否
二　市場並其ノ附屬建設物ノ位置及構造設備ニシテ公衆及家畜衞生上支障ナキヤ否
三　開設地ノ市町村ニ於テ市場ヲ開設セムトスル計畫ノ有無

四　市場開設者ノ性行並資産ノ有無

五　前各號ノ外許否上參考トナルヘキ事項

家畜市場ノ市場業務規程ノ變更認可ノ申請ヲ爲ス者アリタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第二條　家畜市場法第五條第二項ニ依リ補償金額決定ノ申請ヲ爲ス者アリタルトキハ協議不調ノ内情ヲ調査シ意見ヲ具シテ之ヲ進達スヘシ

第三條　家畜市場法施行細則第二條ノ出願アリタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ附シ指揮ヲ受クヘシ

第四條　警察署長、同分署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場開設者若ハ仲立業者ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ檢査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷シ又ハ其ノ移動ヲ停止スヘシ

第五條　家畜市場法第十五條ニ依リ家畜市場ノ休場又ハ廢止ノ認可申請ヲ爲ス者アリタルトキハ其ノ事實ヲ調査シテ之ヲ進達スヘシ

第六條　仲立業認可ノ申請ヲ爲ス者アリタルトキハ家畜市場法施行細則第十三條第二項各號ニ該當セサル者ニ限リ認可證ヲ下付スヘシ但シ其ノ第六號ニ該當スルニ因リ之ヲ拒否セムトスルトキハ詳細ノ事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

第七條　仲立業者認可證ノ再渡又ハ書換ノ申請ヲ爲ス者アルトキハ事實ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ認可證ヲ再渡シ又ハ書換下付スヘシ

第八條　削除

第九條　所轄警察署、同分署ニ於テ別紙樣式ノ仲立業臺帳ヲ備ヘ置キ仲立業認可證ヲ下付シタルトキハ之ニ登載シ異動アリタルトキハ之ヲ加除訂正スヘシ

第十條　所轄警察署長、同分署長ハ市場開催中ハ臨時警員ヲ派シ其ノ取締ヲ爲サシムヘシ

（別表樣式）　仲立業臺帳

（認可番號）第　　號	年月日認可
年月日廢業（死亡何々）	
住所　族籍　氏名　生年月日	
備考	取締上參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

一葉ニ付二人登載スルモノトス

●牛馬商取締規則

明治四十三年十二月一日
農商務省令第三十七號

改正　昭和七年農林省令第三一號

第一條　牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ住所所在地ノ地方長官ニ願出テ牛馬商ノ免許ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記樣形ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ牛馬商ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　一年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　免許ヲ取消サレタル後滿一箇年ヲ經サル者

三　破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

四　家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シテ處罰ヲ受ケタル後滿一箇年ヲ經サル者

五　業行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第三條　牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許ノ效力ヲ失フ

一　一年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三　家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シ處罰ヲ受ケタルトキ

第四條　牛馬商ハ免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條　牛馬商ハ畜産組合法ニ依リ設置シタル組合ノ定款ノ規定ニ依リ組合市場ニ附スヘキ義務ノ履行ヲ爲サザル組合員ハ[illegible]ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　牛馬商ハ帳簿ヲ調製シテ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタル年月日、牛馬ノ別、種類、産地、性、年齡、毛色、代價及賣買者ハ交換當事者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

第七條　牛馬商ハ免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ再渡又ハ書換ヲ地方長官ニ願出ヘシ

牛馬商ハ住所ヲ他ノ地方廳管内ニ移轉シタルトキハ當初免許ヲ受ケタル地方長官ニ之ヲ屆出テ且住所所在地ノ地方長官ニ免許鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第八條　牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ牛馬商ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一　牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ強請シタルトキ

二　牛又ハ馬ノ種類、産地、血統若ハ年齡ヲ僞リ又ハ疾病惡癖ヲ隱蔽シテ之カ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ

三　獸疫ノ疑アリ若ハ所有者ノ分明ナラサル牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ

四　其他營業上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛馬商ハ遲滯ナク免許鑑札ヲ返納スヘシ

一　第三條ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ失ヒタルトキ

二　免許ヲ取消サレタルトキ

三　廢業シタルトキ

牛馬商ニシテ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十條　詐僞ノ所爲ヲ以テ免許ヲ受ケ又ハ免許ヲ受ケスシテ牛馬商ヲ營ミタル者若ハ第八條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第四條、第五條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

牛馬商ニシテ本則施行前地方長官ノ免許ヲ得タル者ハ本則ニ依リ免許セラレタルモノト看做ス

附　則（昭和七年農林省令第三十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ下付シタル免許鑑札ハ仍其ノ效力ヲ有ス

地方長官ハ從前ノ規定ニ依ル免許鑑札ヲ有スル者ノ申請アルトキハ之ヲ改正規定ニ依ル免許鑑札ニ書換ヘ下付スヘシ

別記
樣形

第　　號 住所 族籍　氏名 生年月日
裏 牛馬商免許鑑札 年　月　日 道府縣廳

縱八・五糎
橫六・〇糎

●牛馬商取締規則施行細則

明治四十四年五月二十二日
山形縣令第十五號

改正　大正二年縣令第三五號

第一條　牛馬商取締規則第一條ニ依リ牛馬商ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、族籍、氏名及生年月日ヲ具シテ願出ヘシ

第二條　牛馬商取締規則第一條、第七條ノ願屆及同第九條ニ依リ返納スヘキ免許鑑札ハ之ヲ所轄警察官署ニ差出スヘシ

第三條　牛馬商取締規則第六條ニ依リ調製スヘキ帳簿ハ別記樣式ニ據ルヘシ

第四條　牛馬商ハ所轄警察官署ニ願出テ其ノ受クヘキ周旋手數料ノ認可ヲ受クヘシ

牛馬商ハ名義ノ如何ヲ問ハス前項ノ認可額ヲ超過シテ金錢、物品ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　牛馬商ニ於テ家族、同居者其ノ他ノ者ヲシテ營業ニ從事セシメムトスルトキハ所轄警察官署ニ願出從業證ヲ受クヘシ

解雇、死亡其ノ他ノ事故ニ因リ從業者ニ異動アリタルトキハ從業證ヲ返納スヘシ

第六條　從業者ニハ從業證ヲ携帶セシムヘシ

第七條　牛馬商ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スニ當リ不正ノモノナル疑アルトキハ直ニ之ヲ警察官吏ニ申告スルコト

二　警察官吏ヨリ請求アリタルトキハ何時ニテモ免許鑑札、從業證及帳簿ヲ提出シ又ハ相當ノ答辯ヲ爲スコト

第七條ノ二　牛馬商ハ規約ヲ定メ所轄警察署長ノ認可ヲ得テ牛馬商組合ヲ設クルコトヲ得

第八條　第三條乃至第六條、第七條第一號ニ違背シ又ハ警察官吏ノ請求アリタルニ拘ラス免許鑑札從業證及帳簿ヲ提出セサル者ハ科料ニ處ス

附　則

明治四十二年五月縣令第三十四號牛馬商取締令ハ之ヲ廢止ス

從來牛馬商ノ許可ヲ受ケタル者引續牛馬商取締規則ニ依リ免許ヲ受ケタル場合ニ於テハ從來認可又ハ下付ヲ受ケタル周旋手數料及從業證ハ本則ニ依リ之ヲ受ケタルモノト看做ス

（別記）　牛馬商明細帳

賣買交換		周旋	
番號		番號	
獸類		獸類	
種類		種類	
牝牡ノ區別		牝牡ノ區別	
毛色		毛色	
體尺		體尺	
特徵		特徵	
年齡		年齡	
產地		產地	
賣受交換價格 賣渡交換價格		賣買交換價格 周旋手數料額	
賣受交換年月日 賣渡交換年月日		周旋ノ依頼ニヨリ預リタル年月日 周旋終了年月日	
賣受人交換人住所氏名 賣渡人交換人住所氏名		賣渡人交換人住所氏名 賣受人交換人住所氏名	

（注意）周旋ノ依頼ニ依リ牛馬ヲ預リタル後所有者ニ其ノ牛馬ヲ返付シタルトキハ周旋終了ノ欄ニ其ノ事由及年月日ヲ朱書スヘシ牛馬商明細帳ハ一冊トシ賣買、交換、周旋ハ各口別ヲ爲シ記載スヘシ

（山形縣）

●牛馬商取締規則施行手續

明治四十四年二月
山形縣訓令第四號

改正　明治四五年訓令第二七號、大正一五年第六六號

第一條　牛馬商免許ノ願書ヲ差出シタルモノアルトキハ牛馬商取締規則第三條各號ニ該當セサル者ニ限リ所定ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ但シ同條第五號ニ該當スルニ因リ之ヲ拒否セムトスルトキハ詳細ノ事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

第二條　從業者ニ下付スヘキ從業證ハ別記樣形ニ據ルヘシ

第三條　免許鑑札ヲ毀損、亡失シ又ハ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタル爲其ノ再渡又ハ書換ヲ願出ル者アルトキハ事實ヲ審査シ直ニ再渡又ハ書換下付スヘシ

前項住所ノ異動ニシテ所轄外ニ係ルトキハ書換下付ノ後直ニ之ヲ移轉地ノ警察官署ニ通報スヘシ

第四條　削除

第五條　削除

第六條　免許鑑札又ハ從業證ノ返納アリタルトキハ直ニ之ヲ廢棄スヘシ

第七條　牛馬商取締規則執行細則第四條ノ周旋手數料ハ左ノ範圍內ニ於テ之ヲ認可スヘシ

一　賣買ニ在リテハ其ノ價格ニ對スル百分ノ五

二　交換ニ在リテハ時價見積ノ高價ナル一方ノ金額ニ對スル百分ノ五

第七條ノ五　牛馬商ニ於テ組合ヲ設置シ規約アリタルトキハ規約ヲ調主シ又議決共シテ屆ネルヘキ場合ハ之ヲ認可スヘシ

第八條　牛馬商ニシテ營業ノ停止ヲ命セラレタルトキハ免許鑑札ノ引揚ケ營業停止期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第九條　營業者ハ別記樣式ノ牛馬商臺帳ヲ調製シ所轄内ニ於ケル牛馬商營業者ヲ登載シ異動ハ之ヲ加除訂正スヘシ

（別記）

牛馬商臺帳（美濃紙）

營業者	（許可番號）第　號 年月日許可	年月日廢業（死亡何々）	住所　族籍　氏名　生年月日
	（認可番號）第　號 年月日認可	年月日廢業（死亡何々）	族籍　氏名　生年月日
	同	同	同
	同		
備考	年月日何々ニヨリ科料金何圓ニ處ス　〇年月日何々ニ付何箇月間營業停止セラル其ノ他取締上ノ參考事項ヲ記入スヘシ		

〔山形縣〕

牛馬商從業證票形式（厚紙鳥ノ子紙）

三寸六分

二寸六分

第　　號
牛馬商從業證　印
年　月　日

裏

何縣何郡何町（村）何番地
牛馬商營業人何某從業者
何府縣何町（村）何番地士
族（平民）
何　　某
年月日生

●代書人規則

大正九年十一月二十五日
內務省令第四十號

改正　昭和四年內務省令第二六號

第一條　本令ニ於テ代書人ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ囑託ヲ受ケ官公署ニ提出スヘキ書類其ノ他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作製ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　代書人タラムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齡及履歷並事務所ノ位置ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　代書人其ノ業務ノ爲補助員ヲ置キタルトキハ五日以内ニ本人ノ本籍、住所、氏名、年齡及履歷ヲ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第四條　代書人ハ其ノ事務所ニ代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ揭クヘシ

第五條　代書人ハ事務所以外ノ場所ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔山形縣〕

第六條　代書人ハ代書料額ヲ定メ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ代書料ハ事務所内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條　代書人ハ前條代書料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ其ノ業務ニ關シ報酬ヲ受クルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　代書人及其ノ補助員ハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　法令ノ規定ニ依ルニ非スシテ他人ノ訴願、訴訟又ハ非訟事件ニ關シ代理、鑑定、勸誘、紹介又ハ仲裁其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコト

二　囑託セラレタル事件ニ付利害ヲ異ニスル他ノ者ノ爲ニ代書ヲ爲スコト

三　業務上知得シタル事項ヲ他人ニ漏泄スルコト

四　書類ノ紙數ヲ增加スル目的ヲ以テ故ラニ文句ヲ冗長ニシ若ハ必要以外ノ書類ヲ作製スルコト

五　代書囑託者ノ印顆又ハ其ノ署名捺印若ハ捺印シタル白紙ヲ保管スルコト

六　事務所ヲ他人ノ法律事務所ニ貸與シ又ハ之ヲ他人ノ法律事務所ニ置クコト

第十條　代書人ハ其ノ代書シタル書類ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アルモノ又ハ書簡ノ類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　代書人ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　本人又ハ補助員ノ本籍、住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

二　事務所ヲ變更シ增設又ハ廢止シタルトキ

三　補助員死亡シ又ハ之ヲ解雇シタルトキ

四　廢業シタルトキ

代書人死亡シタル場合ニ於テハ戶主又ハ同居ノ家族ヨリ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十二條　代書人ハ代書事件簿ヲ備ヘ代書ヲ爲シタル都度囑託ヲ受ケタル事件ノ名稱、年月日、書類ノ紙數、代書料及囑託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

代書人ハ代書事件簿閉鎖後一年間之ヲ保存スヘシ代書人業務ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ亦同シ

代書人死亡シタルトキハ前項ノ規定ヲ家督相續人ニ準用ス

第十三條　警察官署ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ代書人ノ事務所ニ臨檢シ又ハ代書事件簿ヲ檢閱セシムルコトヲ得

第十四條　代書人業務上ノ義務ヲ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スト認メラルルトキ又ハ六月以上所在不明ナルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ許可ヲ受ケ業務ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　補助員業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認メラルルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ代書人ニ其ノ補助員ノ罷免ヲ命スルコトヲ得

第十六條　第二條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ハ其ノ所屬廳府縣ノ管内ニ效力ヲ有ス

第十七條　本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第七條、第九條ノ規定ニ違反シタル者

二　代書事件簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲シ若ハ第十三條ノ規定ニ依ル警察官吏ノ

三、臨檢又ハ檢閲ヲ拒ミタル者

二、第十四條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタル者

四、第十五條ノ規定ニ依リ警察官署ノ命令ニ違反シタル者

第十九條　第三條乃至第六條、第八條、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條　代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第二十一條　本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ代書ヲ業トスル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●代書人規則執行手續

大正十三年八月
山形縣訓令第十九號

第一條　代書人規則第二條若ハ第三條ニ依リ許可又ハ認可ヲ爲スニ當リテハ豫メ左記各號ヲ調査スヘシ

一、願書記載事項ノ正否

二、當該人ノ性行及經歷

三、文書僞造詐欺横領强竊盜等ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ改悛ノ情ナキモノニ非サルヤ否ヤ

四、禁治產者準禁治產者又ハ未成年者ニ非サルヤ否ヤ

五、曾テ代書人又ハ補助員タリシ者ニシテ業務上ノ義務ニ違反シ若ハ公益ヲ害シ許可又ハ認可ヲ取消サレ改悛ノ情ナキ者ニ非サルヤ否ヤ

六、代書能力ナキ者ニ非サルヤ否ヤ

七、其ノ他代書人又ハ補助員トシテ不適當ノ者ニ非サルヤ否ヤ

第二條　警察官署長代書人ノ不許可若ハ補助員ノ不認可又ハ補助員使用認可ノ取消處分ヲ爲スニ當リテハ特ニ慎重ノ措置ニ出ツヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ關係警察官署ニ通報スヘシ

第三條　代書人二以上ノ事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ヲ定メシムヘシ

第四條　代書人規則第五條但書ニ依リ事務所以外ノ場所ニ於ケル業務ヲ承認スルニ當リテハ事實已ムヲ得サルモノナリヤ否ヤヲ調査シ其ノ承認ハ弊害ナシト認メタルモノニ限ルヘシ尚代書事項ヲ指定シ豫メ承認ヲ與ヘ置クモ妨ケナシ

前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ關係警察官署ニ通報スヘシ

第五條　代書人規則第六條ニ依ル代書料額ノ認可又ハ同第七條但書ニ依ル特別報酬額ノ承認ヲ爲スニ當リテハ其ノ均衡ヲ保ツ必要上關係警察官署ニ照復シ左記標準ニ依ルヘシ

一、代書料額

半紙	一葉	八錢以内
美濃紙	一葉	拾貳錢以内

半紙及美濃紙ノ半葉ハ各其ノ半額以内圖面ハ參拾錢以内但シ特別ノ技術ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、特別報酬額

日當	一日ニ付	參圓以内
宿泊料	一夜ニ付	參圓五拾錢以内
車馬賃	一里ニ付	六拾錢以内

汽車汽船ニ付テハ賃金ノ實費

第六條　規則第十一條ニ依ル屆出アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ關係警察官署ニ通報スヘシ

第七條　規則第十二條ニ依リ備付クヘキ代書事件簿ハ別記第一號樣式ニ依ラシメ各葉ニ契印ヲ捺シ且別記第二號樣式ニ依リ檢印ヲ爲スヘシ

第八條　警察官署長ハ必要ニ應シ警察官吏ヲ派遣シテ左記事項ヲ監査セシムヘシ

一、代書事件簿記載事項ノ正否

二、業務上ノ義務ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルコトナキヤ否ヤ

三、不正行爲ノ有無

第九條　警察官署ニ於テハ別記第三號樣式ノ代書人名簿ヲ調製シ其ノ異動アル毎ニ之ヲ整理シ置クヘシ

〔山形警〕

第一號樣式

代書事件簿　（用紙美濃紙）

受託年月日	事件要領	書類枚數	代書料額	囑託者住所氏名

第二號樣式

枚數何枚

署名

大正　年　月　日

第三號樣式

代書人名簿（書籍[illegible]用紙ヲ用フ）

許可年月日	代書料認可年月日	補助員		備考
		認可年月日	廢止取消年月日	業務ノ取消停止補助員ノ取消事由規則違反ノ事實其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ
營業ノ場所	認可代書料額	族籍住所身分 氏名 生年月日		
族籍住所身分 氏名 生年月日				

●仲介業者取締規則

昭和五年六月十一日
山形縣令第六十五號

改正　昭和一〇年一一月縣令第五八號

第一條　本令ニ於テ仲介業者ト稱スルハ他人ノ委託ヲ受ケ土地、建物、立竹木ノ貸借、賣買、交換並ニ金錢貸借ノ仲介、周旋又ハ債權ノ取立、其ノ他之ニ對スル行爲ヲ業トシテ爲ス者ヲ謂フ

第二條　仲介業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ、之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日、履歴及最近六ケ月以内ニ撮影シタル寫眞（名刺型）二葉（法人ニ在リテハ其ノ名稱、定款寫及代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日）履歴並ニ寫眞二葉

二、業務所ノ位置及名稱

三、取扱フヘキ業務ノ種別及其ノ方法

四、資產（法人ニ在リテハ資本金額及其ノ出資方法）

五、手數料額及其ノ收受方法

第三條　仲介業者支店又ハ出張所ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ支店又ハ出張所所在地ヲ管轄スル警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、前條第二號乃至第五號ノ事項

二、主任者ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日、履歷及最近六ケ月以内ニ撮影シタル寫眞（名刺型）二葉

三、支店又ハ出張所ノ位置及名稱

四、取扱フヘキ業務ノ種別及其ノ方法

五、手數料額及其ノ收受方法

第四條　仲介業者從業者ヲ使用セムトスルトキハ其ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日及履歷竝ニ最近二ケ月以内ニ撮影シタル寫眞（名刺型）二葉ヲ具シ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

從業者ノ使用ヲ罷メタルトキ又ハ其ノ死亡シタルトキハ氏名ヲ具シ五日以内ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ從業者ノ住所又ハ氏名ニ變更アリタルトキ亦同シ

第五條　仲介業者及其ノ同居ノ戸主竝ニ家族ハ料理屋、飲食店、貸座敷、待合茶屋、營利職業紹介業及藝娼妓酌婦紹介業ヲ爲シ又ハ其ノ從業者タルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仲介業者法人又ハ未成年者ナルトキハ法人ノ代表者又ハ未成年者ノ法定代理人ニ之ヲ準用ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ仲介業者タルコトヲ得ス

一、禁治産者及準禁治産者

二、破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三、假出獄若ハ刑ノ執行猶豫中ノ者

四、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ若ハ免除ヲ受ケタル日ヨリ五年以上ヲ經過シ改悛ノ情特ニ顯著ナル者ハ此ノ限ニ在ラス

五、本則又ハ他ノ法令ニ依リ營業許可ノ取消處分ヲ受ケ二年ヲ經過セサル者

六、無資産又ハ資産僅少ニシテ信用ナキ者

七、素行不良其ノ他公安ヲ害スルノ虞アリト認ムル者

前項ノ規定ハ第六號ヲ除ク外從業者ニ付之ヲ準用ス

第七條　仲介業者ハ警察署ノ烙印ヲ受ケタル別記樣式ノ看板ヲ業務所入口睹易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條　仲介業者ハ許可ヲ受ケタル手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス報酬トシテ財物其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ手數料ノ額ハ店内睹易キ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

警察署長必要アリト認ムルトキハ手數料額ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九條　仲介業者及其ノ從業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一、業務ニ關シ誇大又ハ虛僞ノ廣告又ハ揭示ヲ爲ササルコト

二、業務上知得シタル人ノ秘密ヲ漏洩セサルコト

三、業務ニ從事スルトキハ許可證又ハ認可證ヲ携帶シ警察官吏ノ要求アルトキハ之ヲ提示スルコト

四、訴訟若ハ非訟事件其ノ他紛議ニ關シ代理人又ハ補佐人タルコトヲ要請シ又ハ鑑定若ハ仲裁ヲ爲ササルコト

五、仲介業者又ハ從業者自己ニ利害關係ヲ有スル事件ニ付仲介、周旋等業務ヲ執行スルトキハ相手方ニ其ノ事實ヲ告知スルコト

六、委託者ノ承認ヲ得スシテ他ノ者ヲシテ受託事件ヲ取扱ハシメサルコト

七、他人ノ債權ヲ自己又ハ家族ノ爲ニ讓受ケ其ノ取立ヲ爲ササルコト

八、手數料ハ受託事件解決後ニ在ラサレハ收受セサルコト

九、帳簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲ササルコト

十、仲介業者自己ノ取扱ヒタル事件ニ付紛議ヲ生シタルトキハ速ニ其ノ旨所轄警察署ニ申告スルコト

十一、其ノ他業務上不正又ハ虛僞ノ手段ヲ用ヒサルコト

第十條　仲介業者ハ業務所毎ニ別表ノ樣式ニ依リ警察署ノ捺印ヲ受ケタル帳簿ヲ備付ケ日々仲介周旋等業務ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ最終ニ記載シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

帳簿ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第十一條　仲介業者ハ毎月五日迄ニ前月分ノ業務ノ狀況ヲ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第十二條　仲介業者其ノ業務ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ其ノ旨所轄警察署ニ屆出ツヘシ支店又ハ出張所ノ業務ヲ廢止シタルトキ亦同シ

仲介業者死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ戸主ヨリ紹介業者タル法人解散シタルトキハ清算人ヨリ前項ニ準シ其ノ旨屆出ツヘシ

第十三條　警察署長ハ所屬警察官吏ヲシテ業務所ニ臨檢シ若ハ帳簿ノ提出ヲ命セシメ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

仲介業者及其ノ從業者ハ警察官吏ノ訊問ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ業務所ノ臨檢又ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　仲介業者及從業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察署長ハ營業許可又ハ從業者ノ使用認可ヲ取消シ若ハ其ノ營業ヲ停止スルコトヲ得

一、仲介業者又ハ其ノ從業者カ本令第六條第一號、第二號、第六號及第七號ノ事項ニ該當スルニ至リタルトキ

二、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、一年以上營業ノ實ナキトキ

四、故意ニ委託者ノ利益ヲ犯シ又ハ本則又ハ他ノ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第二條ノ許可ヲ受ケスシテ仲介業ヲ爲シタル者

二、第八條第一項ノ規定又ハ同條第三項ノ規定ニ基ク命令ニ違反シテ財物其ノ他ノ利益ヲ收受シタル者

三、第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十條ノ帳簿ノ備付及其ノ記載ヲ怠リ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

四、第十三條第二項ノ規定ニ違反シ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ業務ノ停止處分ヲ受ケ其ノ期間中ニ業務ヲ爲シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一、第三條、第四條ノ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ支店又ハ出張所ヲ設置シ又ハ從業員ヲ使用シタル者

二、第四條第二項、第十條第三項、第十一條、第十二條ノ屆出ヲ怠リタル者

三、第七條、第八條第二項、第十條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第十七條　仲介業者ハ其ノ家族、同居人其ノ他ノ雇人從業者ニ非サル者ノ爲シタル業務上ノ行爲ニシテ本則ニ違反シタルトキハ仲介業者ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令ハ昭和五年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本令第五條又ハ第六條ニ該當スル者ヲ除クノ外現ニ本令ニ該當スル業務ヲ營ム者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

此ノ場合ニ於テハ昭和五年六月三十日迄ニ本令第二條乃至第四條ノ事項

ヲ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

前項ニ依リ引續キ營業ヲ爲ス者ヲ除クノ外現ニ仲介業ヲ營ム者カ昭和五年七月十四日迄ニ於テ爲ス營業ノ整理ニ付テハ本令第二條乃至第八條、第十條乃至第十二條ノ規程ハ之ヲ適用セス

仲介業者事件簿（用紙美濃紙）

第　號	受託月日	結了月日	件名	委託者ノ住所	氏名	年齡	職業	手數料	受託物件ノ種類數量價格	處理ノ狀況

〔山形縣〕

業務狀況報告書

營業者住所

氏　　名㊞

一、委託者ノ住所氏名年齡職業

二、件名

三、手數料

四、處置ノ狀況

看板雛形

縱七十五糎

仲介業

住所

氏名

種別

烙印

橫二十一糎

●仲介業者取締規則取扱手續

昭和五年六月十一日
山形縣訓令第二十七號

第一條　本手續ニ於テ規則ト稱スルハ仲介業者取締規則ヲ謂フ

第二條　規則第二條ノ願書ヲ受理シタル警察署ハ左ノ各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ

一、願書ハ所定ノ事項ヲ具備シ事實ト相違ナキヤ

二、規則第五條及第六條各號ニ該當事實ノ有無

三、性質素行來歷

四、資產信用ノ程度

五、手數料額ノ當否

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ第一號樣式ノ許可證ヲ下付スヘシ

第三條　規則第二條ノ手數料額ハ委託者又ハ當事者雙方ヨリ受クルモノヲ合シ取扱ヒタル金錢物品ノ價格ノ百分ノ三ヲ超エサラシムヘシ

第四條　規則第三條及第四條ノ願書ヲ受理シタル警察署ハ前條ニ準シ必要事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ許可又ハ認可スヘシ

前項ノ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ夫々第一號樣式ノ許可證又ハ第二號樣式ノ認可證ヲ下付スヘシ

第五條　第二條、第四條ノ許可又ハ認可ノ申請ヲ拒否シタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ警察部長ニ報告スヘシ

第六條　規則第十四條ニ依リ營業許可ノ取消又ハ從事者使用認可取消竝ニ營業停止ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ警察部長ノ指揮ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可又ハ認可ノ取消ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ認可證ヲ返納セシムヘシ

第七條　規則第九條第十條ノ申告アリタルトキハ其ノ事情ヲ調査シ警察部長ニ報告スヘシ

第八條　規則第十條ニ依ル帳簿ノ檢印ノ申請アリタルトキハ其ノ紙數ヲ調査シ各葉ニ番號ヲ記載シ契印シ第三號樣式ニ依リ檢印ノ上交付スヘシ

第九條　警察署長ハ毎月一回以上所屬警察官吏ヲシテ業務所ニ臨檢セシメ帳簿ノ檢閱其ノ他業務狀態ノ視察ヲ爲サシムヘシ

第十條　規則第三條ニ依ル許可及第四條ニ依ル認可ヲ與ヘ又ハ第十二條ノ屆出ヲ受理シタルトキハ關係警察署ニ通報スヘシ

第十一條　警察署ニ第四號樣式ノ仲介業者臺帳ヲ備付ケ所要事項ヲ登載スヘシ

登載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ整理スヘシ

〔山形縣〕

第一號樣式　表（用紙鳥ノ子）

第　　號

仲介業許可證

年　月　日下付

警察署名㊞

十一糎（三寸七分）（裏）

寫眞貼付

業務種別

本籍住所

氏　　名

生年月日

八糎（二寸七分）

第二號樣式（表）（用紙鳥ノ子）

仲介業從業者認可證

年　月　日下付

警察署名㊞

十一糎(三寸七分)（裏）

八糎(二寸七分)

本籍住所

氏　名　　生年月日

業務種別

寫眞貼付

第三號樣式

紙數何枚

年　月　日

營業者署名印

第四號樣式（用紙美濃）

仲介業者臺帳

原籍

住所　氏　名　生年月日

許可證番號	第　號
許可年月日	昭和　年　月　日
營業所	
營業種別	

〔山形縣〕

前科	性行	證據	資産竝信用程度	從業者			備考
				認可年月日	廢業年月日	取消停止年月日	
				昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	
				族籍住所職業 氏　名 生年月日			

●宿屋取締令

明治四十年三月十一日
山形縣令第二十六號

改正　明治四二年縣令第一二號、大正元年第二號、七年第五四號、一一年第七四號、一四年第四五號、昭和九年第三〇號、一四年第二四號

第一條　本令ニ於テ宿屋ト稱スルハ旅人宿、下宿屋、木賃宿ノ三種ヲ總稱ス鑛泉宿ハ之ヲ旅人宿ト看做ス

本令ニ於テ旅人宿ト稱スルハ一泊定ノ宿泊料ヲ受ケテ旅人ヲ宿泊セシム

〔山形縣〕

ルモノヲ謂ヒ下宿屋ト稱スルハ一箇月ノ賄料、座敷料等ヲ約定シ人ヲ寄宿セシムルモノヲ謂ヒ木賃宿ト稱スルハ飲食物ノ世話料、夜具等ノ損料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ謂フ

第二條　宿屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ出願許可ヲ受クヘシ支店ヲ設ケ又ハ本條第一項第二號、第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　本籍、住所、氏名、生年月日竝ニ屋號、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款寫及代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日

二　營業ノ種類竝營業ノ場所

三　營業用家屋ノ構造、圖面竝客室ノ面積

妻又ハ未成年者カ前項ノ出願ヲ爲スニハ夫又ハ法定代理人ノ連署ヲ受クヘシ

第三條　宿屋營業者ハ同一邸宅ト認ムヘキ場所ニ於テ料理屋、飲食店又ハ雇人口入業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但現ニ料理店飲食店ノ營業ヲ兼ヌル者ニアリテハ料理屋飲食店ニ使用スル客室ト宿屋ニ使用スル客室トヲ區劃シ互ニ交通シ得サル構造ヲ爲ストキハ土地ノ狀況ニ依リ警察官署ノ許可ヲ得テ引續營業スルコトヲ得

第四條　客室、浴場、便所ノ構造、設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　客室ハ光線ノ射入及空氣ノ流通ニ適當ナル構造タルコト

二　客室ハ宿泊人一人三・三平方米ノ割合ヲ下ラサルコト

三　客室ノ出入口ニハ番號及定員ヲ掲記スルコト

四　削除

五　二階以上ノ客室六十六平方米以上アルモノハ階子ノ幅員〇・九米以上ノモノ二箇以上ヲ設クルコト

六　浴場ハ外部ヨリ見透シ得サル場所ニ設ケ流場ハ厚板、石、陶器若ハ漆喰敲トシ汚水ノ滲漏セサル構造タルコト

七　便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、陶器若ハ漆喰敲トシテ汚液ノ滲漏セサル構造タルコト

前項ノ構造設備ハ所轄警察官署ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　宿屋營業者ハ左記各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　營業ノ種類、氏名、屋號ヲ記シタル看板ヲ店頭又ハ門戶ニ揭出シ夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フヘキコト

二　宿泊人ノ所持品ハ特ニ其ノ寄託ヲ受ケサルモ相當ノ注意ヲ爲スヘキコト

三　宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥、食物等其ノ求ニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘキコト

四　宿泊料其ノ他宿泊人ニ必要ナル事項ハ帳場及客室ニ掲示スヘキコト

五　營業用寢具ノ襟及枕ハ清潔ナル白布ヲ以テ之ヲ包被シ敷布ハ清潔ナル白布ヲ用フヘキコト

六　客室、浴場、便所ハ日々清潔ニ掃除シ便所ニハ時々石炭酸、生石灰末若ハ石灰乳ヲ撒布スヘキコト

第六條　宿屋營業者ハ左記各號ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　強イテ旅人ノ宿泊ヲ誘引シ又ハ正當ノ事由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スルコト

二　藝妓酌婦取締規則第七條但書ニ依リ警察官署ノ許可ヲ得サル藝妓ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ午後十時後宿泊人其ノ他ヲシテ歌舞音曲ヲ爲サシムルコト

三　宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其ノ他ノ者ヲ濫リニ其室ニ入ラシメ又ハ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ拒絕シ若ハ隱匿スルコト

四　同行者ニ非サル者ヲ双方ノ承諾ナクシテ一室ニ合宿セシメ又ハ同行者ニ非サル男女ヲ一室ニ合宿セシムルコト

五　宿泊料其ノ他ノ賠償トシテ擅ニ宿泊人ノ所持品ヲ領置スルコト

六　宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ其ノ求ナキ飲食物ヲ供スルコト

七　酌婦妓、娼、藝妓其ノ他傳染性疾患アル者ヲ客席ニ侍セシムルコト

第六條ノ二　宿屋營業者ニシテ料理屋飲食店ノ營業ヲ兼ヌル者ハ左ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ第二號ノ所爲ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　料理屋飲食店ニ供用スル客室ニ於テ夜間十時後歌舞音曲其ノ他喧噪ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

二　料理屋飲食店ニ供用スル客室ト宿屋ニ供用スル客室トヲ相互ニ流用スルコト

第七條　宿屋營業者ハ左記第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル事項ノ生シタルトキハ三日以内ニ營業者死亡シタルトキハ七日以内ニ第四號乃至第八號ノ一ニ該當スル事項ノ生シタルトキハ遲滯ナク所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ營業者死亡ノ屆出ハ戸籍法ニ依リ義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

一　本籍、住所、氏名、屋號ヲ改メ又ハ休業、廢業シタルトキ

二　營業上ノ代理人若ハ管理人ヲ定メ又ハ之等ノ者ニ變更アリタルトキ

三　營業上ニ使用スルト否トヲ問ハス雇人ヲ雇入レ若ハ解雇シタルトキ但シ營業上ニ使用スル女ヲ雇入ノ際ハ警察醫ノ健康診斷書ヲ添フルコト

四　宿泊人ノ擧動不審ナルトキ若ハ宿泊人ニ變死傷アリタルトキ

五　宿泊人傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アルトキ

六　宿泊人其ノ所持品ヲ紛失シ若ハ盗難ニ罹リタルトキ

七　宿泊人ヨリ其ノ所持品ノ寶物若ハ貴入等ノ委託ヲ受ケタルトキ

八　宿泊料其ノ他ノ賠償トシテ宿泊人ヨリ其ノ所持品ノ提供アリタルトキ

第七條ノ二　相續其ノ他ノ事由ニ依リ宿屋營業ノ繼承ヲ爲サムトスル者ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ十日以内ニ本籍、住所、身分、職業、氏名、生年月日及繼承ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ讓受ノ場合ハ雙方連署シ相續ニ在リテハ其ノ旨記載スヘシ

第八條　宿屋營業者ハ第一號樣式ニ依リ宿泊人名簿ヲ調製スヘシ

第九條　宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カス發著每ニ之ヲ記入シ誤記等アルモ其ノ紙葉ヲ除却スルコトヲ得ス

宿泊人名簿ハ使用終リタル後一箇年間之ヲ保存スヘシ

第十條　宿屋營業者ハ宿泊人發著シタルトキハ第二號及第三號樣式ニ依リ每日午後十二時迄所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ午後十二時以後翌日午前八時迄ノ間ニ到著シタル宿泊者ニ付テハ其ノ都度第二號樣式ニ依リ之ヲ屆出ツヘシ

遠隔ノ土地ニ在ル宿屋營業者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得テ前項ノ屆出時間ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　宿泊人名簿及宿泊人ノ發著屆ハ左記第一號ニ該當スル者ハ其ノ族籍、氏名第二號乃至第四號ニ該當スル者ハ其ノ官職、氏名、第五號、第六號ニ該當スル者ハ隊名又ハ校名及人員、引卒者ノ官職、氏名ヲ記載シ其ノ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　華族

二　官吏、公立及官立、道、府、縣、郡立學校職員

三　僧侶

四　帝國議會議員、府、縣、郡、市會議員

五　軍隊

六　引卒者アル多數一團ノ學生、生徒

第十二條　宿泊人ハ營業主若ハ管理人又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ前二條ノ規定ニ依ル事項ヲ告ケ又ハ用紙ニ記載スヘシ

第十三條　下宿營業者ハ下宿人ノ族籍、氏名ヲ明記シタル標札ヲ店頭又ハ門戸ニ揭出スヘシ

第十四條　下宿營業者ハ下宿人外泊三泊以上ニ及ヒ其ノ所在不明ナルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十五條　木賃宿營業者ハ宿泊人滯在中外泊シタルトキハ其ノ旨旅行先地ヲ宿泊人名簿ニ記載スヘシ

第十六條　第四條第一項第一號乃至第五號第五條第五號及第六條第四號ハ木賃宿ニハ之ヲ適用セス

第十七條　土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ木賃宿營業ノ區域ヲ制限スルコトアルヘシ

第十八條　本令ニ依リ所轄警察官署ニ爲スヘキ屆出ハ警部補派出所、巡查部長派出所、巡查駐在所又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條　所轄警察官署ハ公益上必要アリト認ムルトキハ左ノ職權ヲ行フコトヲ得

一　構造ノ變更其ノ他相當ノ設備ヲ命スルコト

二　營業上ノ代理人、管理人ノ變更若ハ雇人ノ解雇ヲ命スルコト

三　營業ノ許可ヲ取消シ若ハ營業ノ停止ヲ命スルコト

所轄警察官署ハ營業停止ノ後本人ノ情狀ニ依リ其ノ停止ヲ解クコトヲ得

第二十條　宿屋營業者ニ於テ營業組合ヲ設クルトキハ組合規約ヲ定メ組長ヲ公選シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更シ若ハ組長ヲ改選シタルトキ亦同シ

第二十一條　第二條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ宿屋ノ業ヲ營ミ又ハ營業ノ停止中其ノ業ヲ營ミタル者、第四條第二項第五條乃至第六條ノ二第十條第十二條ノ規定ニ違反シタル者及第十九條第一號第二號ノ命ニ從ハサル者ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第二十一條ノ二　第七條乃至第九條第十三條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十二條　宿屋營業者ハ其ノ代理人、管理人、戸主、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條　本令ニ依ル罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

第二十四條　本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條　明治二十年縣令第七十二號宿屋取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十六條　宿屋營業者ニシテ從來料理屋、飲食店、雇人口入業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ムモノニハ本令施行ノ日ヨリ二箇年間第三條ノ規定ヲ適用セス

第二十七條　現ニ營業ニ使用スル客室、浴場、便所ノ構造、設備ニシテ第四條第一項ノ制限ニ適合セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ之ヲ改修シ同條第二項ニ依リ所轄警察官署ノ檢查ヲ受クヘシ

第一號樣式

到著月日時		族籍又ハ國籍	
出發月日時		住所	

行先地		職業氏名年齢男女別

第二號様式

宿泊者屆

明治　年　月　日

（市郡）（町村）何屋　氏　名

警察署　御中

到着日時	前夜ノ宿泊地	族籍又ハ國籍	居住所	職業男女別	氏名	年齢

第三號様式

開業屆

明治　年　月　日

（市郡）（町村）何屋　氏　名

警察署　御中

〔山形縣〕

出發日時	行先地	氏名男女別

●宿屋取締令施行手續

（明治四十年三月警務長保訓第五號）

改正　明治四五年訓令第二七號、大正一四年訓令第二四號

第一條　宿屋取締令第二條ニ依ル願出アリタルトキハ精密調査ヲ遂ケ左記各號ニ該當セサルモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

一、願書ノ成立正當ナルコト

二、營業用家屋ノ構造、圖面及客室ノ坪數ハ實際ト符合スルコト

三、客室、浴場及便所ノ構造竝設備ハ取締令第四條ノ制限ニ適合スルコト

四、他人ニ名義ヲ藉スノ事實ナキコト

五、強窃盜、詐欺取財、横領、贓物ニ關スル罪、猥褻、姦淫及密賣淫若ハ其ノ媒合容止ノ罪ニ依リ處刑セラレタルコトナキコト但シ改悛ノ情顯著ナル者ハ此ノ限ニ在ス

六、木賃宿ニ在リテハ人家稠密ナラス水路ノ上流ニ沿ハス要路ニ當ラスシテ風俗及公衆衛生ニ支障ナキ場所ニ於テ營業スル者ナルコト

七、營業ノ停止中廢業シ更ニ出願シタル者ニ非サルコト

第二條　宿屋取締令第七條第四號乃至第八號ニ該當スル事項ノ屆出アリタルトキハ遲滯ナク調査ヲ遂ケ適當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三條　相續其ノ他ノ事由ニ依ル營業繼承ノ願出アリタルトキハ本手續第一條第一項第一號第四號乃至第七號ノ事項ヲ調査シ之ニ該當セサルモノアルトキハ許可スルコトヲ得ス

第四條　宿泊人ノ屆出アリタルトキハ族籍氏名ヲ詐稱セル者ニアラサルヤ否ヤ犯罪者若ハ其ノ嫌疑者ニ非サルヤ否ヤヲ精密ニ調査シ認印スヘシ

第五條　宿屋取締令第十八條ニ依リ屆出ヲ受理シタルトキハ巡査派出所ニ在テハ其ノ翌日警部補派出所巡査部長派出所巡査駐在所ニ在リテハ毎旬投日ニ取纏メ之ヲ所屬警察官署ニ提出スヘシ

第六條　營業ノ場所ニ時々警察官吏ヲ派遣シ左記事項ヲ監査セシムヘシ

一、客室、浴場、便所ノ構造設備ニ異狀ナキヤ否ヤ

二、宿屋取締令第五條各號ノ事項ヲ遵守セルヤ否ヤ

三、宿屋取締令第六條各號ニ違犯セル事實ナキヤ否ヤ

四、營業上ノ代理人、管理人又ハ雇人ニシテ公安風俗ヲ害スノ所爲ナキヤ否ヤ

五、宿屋取締令第七條第十條及第十四條ノ屆出ヲ怠リ又ハ宿泊人名簿ノ記入ヲ怠ルコトナキヤ否ヤ

第七條　宿泊人名簿ト下宿人名簿トハ之ヲ別冊ニ爲サシムヘシ

第八條　警察官署ハ別記第一號様式ノ宿屋臺帳及第二號様式ノ宿屋雇人臺帳ヲ調製シ之ニ登錄シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

〔山形縣〕

（別記）第一號様式

宿屋臺帳書式（用紙美濃紙）

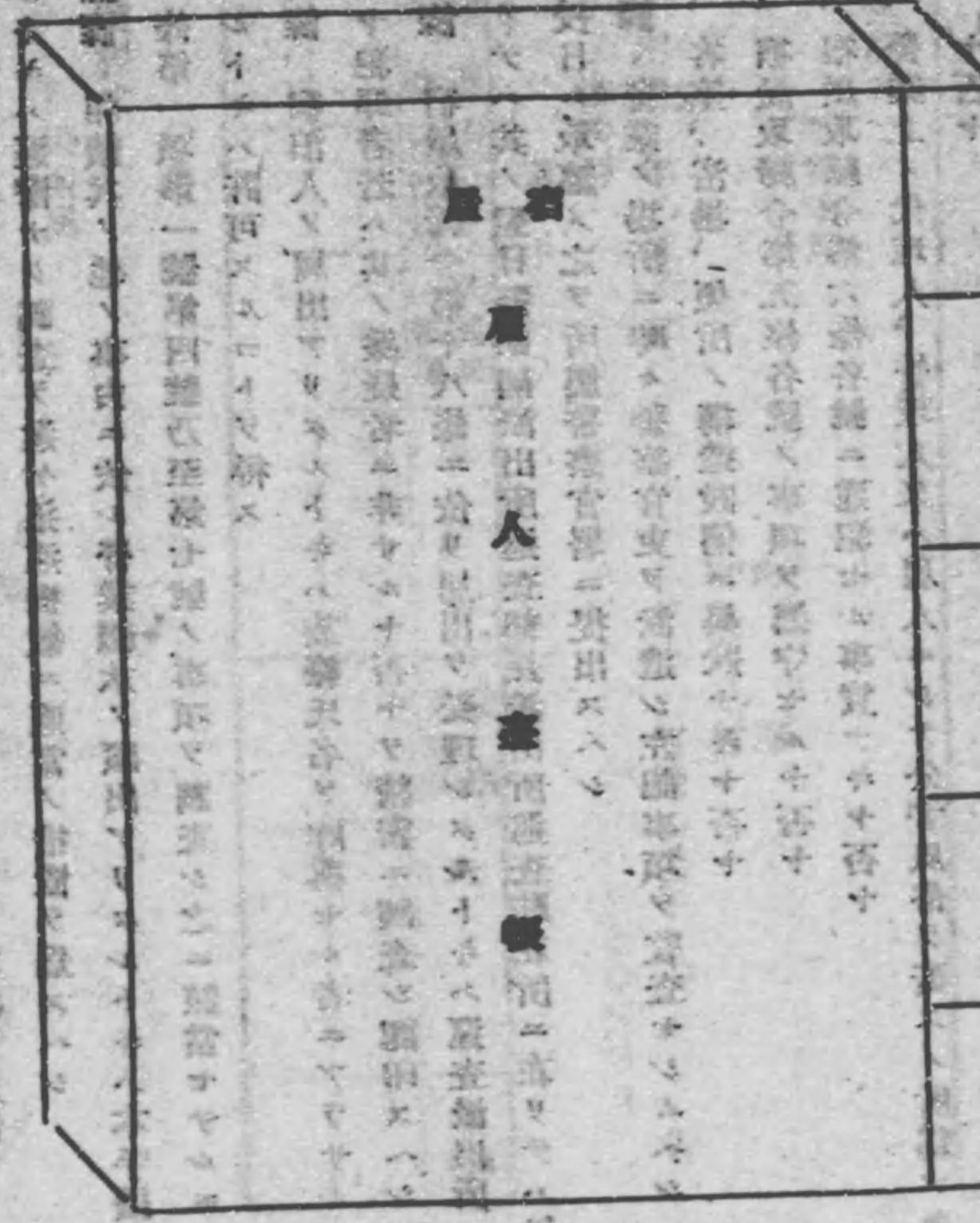
番號	屆出年月日	廢業年月日	營業名	客室	備考
何號	何年何月何日	何年何月何日	何々	下座敷　何疊敷　幾間　此定員　何人 二階座敷　何疊敷　幾間　此定員　何人	何年何月何日改氏名屆出宿何年何月何日客室ノ間取定員ノ變更屆出宿何年何月何日何々上ニ依リ何々ニ關セル又ハ何々其他照顧處分必要ナル事項ヲ記載スルモノトス

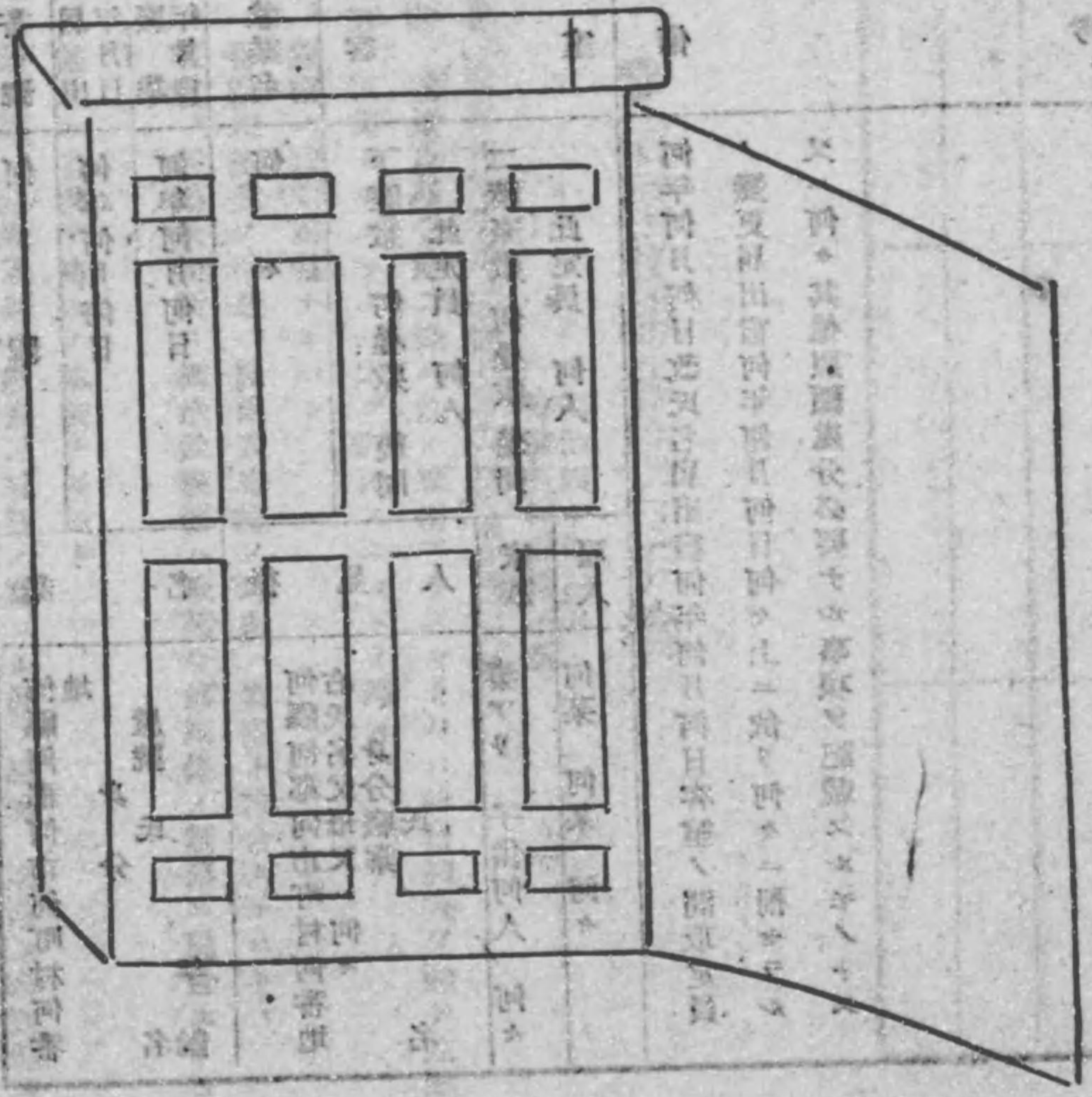
營業名	後見人	家族	雇人
何縣何郡何市何町村何番地 屋號　氏　名 身分　年齢	何縣何郡何市何町村何番地 右氏名父母又ハ何々 身分職業　氏　名	妻アリ　子供何人　何々	何某　何某　何々

一　宿屋臺帳ハ旅籠屋下宿屋木賃宿ノ三種ニ區別スヘシ

第二號樣式

竪八寸四分





何郡何市何町(村)何番地
若屋營業
屋號
氏　名

原籍何府縣何郡市何町(村)何番地
平民
當時同上何屋方
何年何月日雇入
氏　名
年齢

原籍何府縣何郡市何町(村)何番地
平民
當時同上何屋方
何年何月日雇入
氏　名
年齢

●食品市場取締規則

昭和四年十月四日
山形縣令第六十號

改正　昭和五年一月縣令第一號

第一條　本令ニ於テ食品市場ト稱スルハ生産者又ハ營業者集合シテ魚、鳥、獸肉、蔬菜及果實類ヲ相互ニ賣買取引スル爲開設スル市場ヲ謂フ

第二條　本令ニ依ル願屆書ハ願屆人ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人準禁治産者ナルトキハ保佐人妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

第二條ノ二　本令ニ依リ知事ニ提出スヘキ願屆書類ハ警察署長ヲ經由スヘシ

第三條　食品市場ヲ開設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一、開設者ノ本籍、住所、氏名及生年月日
二、開設者公共團體ナルトキハ其ノ團體名、其ノ他ノ法人又ハ組合ナルトキハ其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名生年月日及定款寫又ハ組合規約寫
三、開設ヲ要スル事由
四、市場ノ名稱
五、市場及事務所所在地
六、業務規程
七、敷地面積
八、建築物ノ種別及各階面積
九、建築物ノ構造、種別、高、軒高及階數
十、左ノ圖面及設計書
（イ）敷地附近ノ略圖（附近交通上ノ連絡關係及附近ノ重要建築物トノ關係記入スヘシ）
（ロ）建築物及附屬設備ノ配置圖（縮尺百分ノ一又ハ二百分ノ一）各階平面圖（縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一）及主要部分ノ斷面圖（縮尺二十分ノ一、五十分ノ一）
（ハ）建築物及附屬設備ノ設計書
十一、既設ノ同種市場トノ距離

十二、商品集散ノ地域、生産者又ハ營業者ノ集合豫定人員及一箇月平均賣買見込數量

十三、市場ノ竣工期日

十四、市場ノ敷地又ハ建築物ニシテ他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ所有者ノ住所及氏名

前項第二號中法人又ハ組合ノ代表者、定款又ハ規約、第六號乃至第十號及第十三號ノ事項ヲ變更シ若ハ市場ノ移轉、増設、改設、修繕其ノ他ノ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但シ變更ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前二項ノ願書ハ市場ノ所在地市街地建築物法適用區域内ナルトキハ同法令ニ依ル圖書ヲ併セ提出スヘシ但シ前二項各號ノ事項ニシテ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　業務規定ニハ左ニ揭グル事項ヲ定ムヘシ

一、商品ノ主ナル種類

二、市場開閉ノ日時及休日ニ關スル事項

三、賣買取引ニ關スル事項

四、市場内取締ニ關スル事項

五、市場内清潔方法ニ關スル事項

六、業務規程違反者ニ關スル事項

七、其ノ他市場經營上必要ナル事項

第五條　市場ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一、建築物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト

二、商品賣場及置場ニハ其ノ床ノ面積ニ應シ商品置臺ヲ備フルコト

三、場内ニハ專用ノ水道ヲ敷設スルコト但シ水道ノ敷設ナキ場所ニ在リテハ汚水ノ滲透又ハ汚物ノ投入ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ナル裝置ヲ施シタル井戸ヲ設クルコト

四、場内ニ適當ノ箇所ニ大小便所及取外シ自由ノ覆蓋アル排水溝ヲ設クルコト

五、商品ノ賣場置場及便所ノ床竝ニ排水溝ハ「コンクリート」其ノ他耐水材料ヲ以テ構造シ床ハ相當ノ勾配ヲ附スルコト

第六條　蔬菜果實類市場ノ構造設備ハ前條ノ規定ニ依ルノ外適當ノ商品洗場、牛馬繫留所及牛馬糞尿溜ヲ設ケ其ノ構造ハ前條第五號ノ規定ニ準スヘシ

第七條　魚、鳥、獸肉類市場ノ構造設備ハ第五條ノ規定ニ依ルノ外左ノ制限ニ從フヘシ

一、建築物ニハ屋上ニ適當ナル空氣拔ヲ設クルコト

二、商品賣場及置場ノ内壁ハ床上ヨリ高一、二米突以上「コンクリート」其ノ他耐水材料ヲ以テ構造シ又ハ腰張ヲ爲スコト

三、商品賣場ニハ適當個數ノ水栓ヲ設備スルコト

四、冷藏庫ヲ設備スルコト

五、場内排水溝ノ汚水ハ場内適當ノ場所ヘ誘出スルニ必要ナル設備ヲ爲スコト

第八條　前三條ノ規定スル制限ハ土地ノ狀況若ハ構造設備ノ種類ニ依リ特ニ之ヲ斟酌シ又ハ該制限ノ外別段ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　市場ノ構造設備竣工シタルトキハ知事ニ屆出テ使用認可ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第十條　市場ノ開設ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ許可セス

一、學校又ハ公園ニ接近スルトキ

二、保安衞生上ノ危害其ノ他ノ公害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキ

三、開設者不適當ト認ムルトキ

四、土地ノ狀況ニ由リ其ノ必要ヲ認メサルトキ

第十一條　市場ニ於テ問屋業又ハ仲買業ヲ營マムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、問屋業又ハ仲買業者（法人ナルトキハ其ノ代表者）ノ本籍住所、氏名及生年月日

二、店舖ノ番號及名稱

三、業務ノ種別

四、商品ノ種類

五、法人ニアリテハ定款寫

第十二條　市場又ハ問屋業若ハ仲買業ヲ承繼セムトスル者ハ被承繼人ト連署ノ上第三條又ハ第十一條ノ規定ニ準シ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ被承繼人ノ連署ヲ受クルコトヲ得サル正當ノ事由アルトキハ其ノ旨附記スヘシ

第十三條　市場ノ開設者問屋業者又ハ仲買業者ニシテ組合ヲ設ケタルトキハ組合規約書寫ヲ添ヘ組合代表者ヨリ知事ニ屆出ツヘシ其ノ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條　市場ニハ其ノ名稱ヲ記載シタル看板ヲ揭クヘシ

第十五條　市場ノ開設者、問屋業者及仲買業者ハ閉市後直ニ場内ヲ清潔ニ掃除シ塵芥、汚物等ハ適當ニ之ヲ排除シ又ハ處分スヘシ

第十六條　市場内通路ニハ猥リニ車馬其ノ他ノ物件ヲ放置スヘカラス

第十七條　市場ノ開設者ハ一箇月間ニ於ケル賣買取引高及其ノ數量ヲ翌月五日迄ニ知事ニ屆出ツヘシ

第十八條　市場ノ開設者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨十日内ニ知事ニ屆出ツヘシ

一、第三條第一項第二號中法人又ハ組合代表者ノ本籍住所、氏名竝ニ市場ノ名稱又ハ事務所所在地ニ變更アリタルトキ

二、第三條第一項第十四號ノ敷地又ハ建築物所有者ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ住所氏名ニ變更アリタルトキ

三、廢場シタルトキ

開設者第二條ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ氏名ニ變更アリタルトキ

市場ノ開設者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ其ノ相續人戸主又ハ同居ノ家族ヨリ開設者タル法人又ハ組合解散シタルトキハ清算人ヨリ其ノ旨前項ニ準シ屆出ツヘシ

第十九條　知事ハ保安衞生其ノ他取締上必要アリト認メタルトキハ左ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

一、市場移轉、増設、改設、修繕又ハ變更

二、市場ノ廢止

三、法人ノ定款、組合ノ規約若ハ役員又ハ業務規程ノ變更

四、其ノ他取締上必要ナル事項

第二十條　市場ノ開設者、問屋業者又ハ仲買業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ知事ニ於テ其ノ業務ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、市場ノ竣工期日ヲ經過シ竣工セサルトキ

二、市場使用ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ開設セス又ハ六箇月以上休業シタルトキ

三、他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認メタルトキ

四、法定代理人、保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ取消サレタルトキ

五、六箇月以上所在不明ト爲リタルトキ

六、本令又ハ本令ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

七、保安衞生上危害其ノ他ノ公害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

八、業務規程ニ違反シタルトキ

九、其ノ他公益上不適當ト認メタルトキ

第二十一條　市場開設者ハ當該官吏市場ニ臨檢シ書類帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第三條第一項第二項第九條第十一條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

二、第十九條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

三、第二十條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタルトキ

第二十三條　食品市場開設者ニシテ未成年者、禁治産者ナルトキハ本令ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ未成年者其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　市場ノ開設者、問屋業者又ハ仲買業者ニシテ法人又ハ組合ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法人又ハ組合ノ代表者ニ適用ス

第二十五條　食品市場開設者、問屋業者又ハ仲買業者ハ其ノ業務ニ關シ戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第二十六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條　大正七年四月山形縣令第三十六號魚市場取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十八條　大正七年四月山形縣令第三十六號魚市場取締規則ニ依リ許可ヲ受ケ現ニ開設中ノ魚市場ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ市場ニ對シテハ其ノ構造、設備其ノ他ニ關シ知事ハ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　前條ノ魚市場內ニ於テ問屋業又ハ仲買業ヲ營ム者ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ第十一條各號ノ事項ヲ知事ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ屆出テタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

【山形縣】

●食品市場取締規則施行手續

昭和五年一月八日
山形縣訓令第一號

第一條　食品市場開設ノ願出アリタルトキハ規則第三條、第四條、第五條、第六條、第七條、第八條及第十條ノ各事項ノ調査ヲ遂ケ意見ヲ附シテ進達スヘシ

食品市場取締規則第三條第二項ニ依リ市場ノ移轉、增設、改築、修繕其ノ他市場ニ關スル事項ノ變更願出アリタルトキハ前項ニ準シ進達スヘシ

第二條　問屋業若ハ仲買業許可願又ハ其等營業ノ繼承願アリタルトキハ該營業者トシテノ適否ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條　第九條ニ依ル食品市場ノ構造設備竣工屆アリタルトキハ速ニ檢査ヲ遂ケ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第四條　警察署長ハ隨時警察官吏ヲ派遣シ衞生並保安上諸般ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第五條　食品市場取締規則第十九條又ハ第二十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

第六條　警察署ニ第一號樣式ノ食品市場臺帳及第二號樣式ノ問屋業仲買業者簿ヲ備ヘ整理スヘシ

第一號樣式

市場ノ名稱	
新築許可年月日	
使用認可年月日	
市場所在地	
事務所ノ所在地	
敷地面積	
建築物ノ種類及各階面積	
業務規程ノ大要	
開設者ノ本籍住所氏名生年月日 開設者團體組合法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ本籍住所氏名生年月日	
市場ノ敷地又ハ建物ニシテ開設者以外ノ所有ナルトキハ其ノ所有者ノ住所氏名	
備考	

【山形縣】

第二號樣式

許可年月日	店舖ノ番號及名稱	商品ノ種類	本籍住所氏名生年月日	備考	許可年月日	店舖ノ番號及名稱	商品ノ種類	本籍住所氏名生年月日	備考

一、本簿ハ問屋ト仲買トロ座ヲ設ケ區別スルコト

●營業其ノ他ニ關シ取扱ヒタル事項通報ニ關スル件（昭和七年五月警保第七九號）

其ノ署ニ於テ取扱ヒタル左記事項ハ取扱注意事項ニ依リ關係市町村ニ通報スベシ

右訓達ス

追テ本件ニ關スル昭和四年二月九日發保訓第二十五號ノ訓達ハ之ヲ廢止ス

種別	通報事項
料理店、飲食店、待合茶屋	許可ノ年月日、屋號、住所氏名、客席坪數、支店ニアリテハ上記ノ外其ノ所在地
宿屋、質屋、古物商、仲介業、營利職業紹介業、藝娼妓酌婦等紹介業、牛馬商、理髮業、湯屋（冷鑛泉ヲ含ム）獸肉販賣業、貸座敷業、印刷營業	免許、許可又ハ認可ノ年月日、住所氏名貸座敷業ニ在リテハ營業所客室數（娼妓持部屋ヲ含ム）竝ニ其ノ坪數
牛乳營業 山羊乳營業	許可ノ年月日住所氏名
劇場、寄席、觀物場、遊技場	許可ノ年月日屋號、名稱、住所氏名、位置、客席坪數、遊技ノ種類、法人ニアリテハ其ノ名稱及代表者ノ住所氏名
藝妓置屋、藝妓	藝妓置屋ノ許可年月日、屋號住所氏名、法人ニアリテハ其ノ名稱代表者ノ住所氏名、藝妓ノ許可年月日、本籍、住所、氏名生年月日、藝名、許可後ノ營業所藝妓ニシテ廢業、休業、復業ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日、住所氏名、藝名、營業所
雇女	認可ノ年月日、本籍、住所氏名、生年月日、使用者ノ住所氏名臨時使用ノ雇女ニシテ引續キ五日以上使用ノ場合ハ前項ニ同ジ
氷營業	檢査證下附年月日住所氏名、貯藏場又ハ製造場ノ位置
鑛泉浴場營業（冷、鑛泉營業ヲ除ク）	許可ノ年月日、男女浴槽數管理人代表者所有者ノ住所氏名法人ニアリテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名
狩獵免狀	下附年月日、免狀ノ種類等級竝稅額、住所氏名
娼妓	名簿登錄年月日氏名、營業所、廢業、休業復業ノ場合ハ其ノ年月日事由

取扱上ノ注意事項

一、左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ縣稅ヲ賦課セザルモノトス

（イ）木賃宿（溫泉宿ヲ含マズ）

（ロ）學校專用車

（ハ）非常用及祭典用諸車

（ニ）官公署學校又ハ公益法人ノ主催ニ係ル演劇又ハ興行

二、通報スベキ事項ニ付廢業、許可、認可ノ取消、使用廢止、解雇其ノ他住所氏名位置貸座敷營業用客室又ハ物件ニ變更ヲ生ズル等課稅ニ關係ヲ有スル異動ニ付テハ其ノ年月日及事由ヲ可成速カニ通報ノコト

三、相續、賣買、讓受、讓渡ハ當事者雙方ノ住所氏名ヲ通報スルコト

四、縣稅ヲ賦課セザルモノノ調査ヲ正確ニシ既ニ處置シタルモノニシテ第一項ノ適用ヲ誤リタルモノハ速ニ訂正通報ノコト

五、通報ハ其ノ月分ヲ遲クモ翌月五日迄ニ爲スコト

遊技場、藝妓、雇女等月稅ノ賦課ヲ受クルモノニ付テハ其ノ月分ヲ遲クモ十七日迄ニ通報スルコト

〔山形縣〕

（山形縣）

第十一章　諸興行

●映畫法

昭和十四年四月五日
法律第六十六號

第一條　本法ハ國民文化ノ進展ニ資スル爲映畫ノ質的向上ヲ促シ映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　映畫ノ製作又ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ニ規定スル映畫製作業及映畫配給業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ其ノ業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ同項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四條　主務大臣ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ製作ノ業ヲ爲ス者（映畫製作業者）又ハ同項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者（映畫配給業者）本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ業務ノ停止若ハ制限又ハ其ノ許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五條　映畫製作業者ノ映畫ノ製作ニ關シ業トシテ主務大臣ノ指定スル種類ノ業務ニ從事セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登錄ヲ受クベシ但シ十四歲未滿ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　主務大臣ハ前條ノ登錄ヲ受ケタル者其ノ品位ヲ失墜スベキ行爲ヲ爲シタルトキ其ノ他同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スルヲ適當ナラズト認メタルトキハ其ノ業務ノ停止又ハ其ノ登錄ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第七條　映畫製作業者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケザル者ヲ同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ズ前條ノ規定ニ依ル業務停止中ノ者ニ付亦同ジ

第八條　行政官廳ハ危害豫防、衞生其ノ他公益保護上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫製作業者ニ對シ映畫ノ製作ノ現業ニ從事スル者ノ就業其ノ他映畫ノ製作ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第九條　映畫製作業者主務大臣ノ指定スル種類ノ映畫ヲ製作セントスルトキハ撮影開始前命令ノ定ムル事項ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ屆出ヲ爲シタル事項ノ主タル部分ヲ變更シタルトキ亦同ジ

主務大臣ハ公安又ハ風俗上必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十條　主務大臣ハ特ニ國民文化ノ向上ニ資スルモノアリト認ムル映畫ニ付選奬ヲ爲スコトヲ得

第十一條　主務大臣ハ公益上特ニ保存ノ必要アリト認ムルトキハ映畫ヲ指定シ其ノ所有者ニ對シ複寫ノ爲一時其ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫配給業者ニ對シ外國映畫ノ配給ニ關シ其ノ種類又ハ數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十三條　映畫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ檢閲ヲ受ケ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

主務大臣ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ノ檢閲ニ合格シタル映畫ノ輸出ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十四條　映畫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ檢閲ヲ受ケ合格シタルモノニ非ザレバ公衆ノ觀覽ニ供スル爲之ヲ上映スルコトヲ得ズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　主務大臣ハ命令ヲ以テ映畫興行者ニ對シ國民教育上有益ナル特定種類ノ映畫ノ上映ヲ爲サシムルコトヲ得

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特定ノ映畫興行者ニ對シ啓發宣傳上必

要ナル映畫ヲ交付シ期間ヲ指定シテ其ノ上映ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫興行者ニ對シ外國映畫ノ上映ニ關シ其ノ種類又ハ數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十七條　行政官廳ハ危害豫防、衞生、教育其ノ他公益保護上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ニ對シ興行時間、映寫方法、入場者ノ範圍其ノ他映畫ノ上映ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第十八條　主務大臣ハ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ映畫製作業者、映畫配給業者又ハ映畫興行者ニ對シ製作スベキ映畫ノ種類若ハ數量ノ制限、映畫ノ配給ノ調整、設備ノ改良又ハ不正競爭ノ防止ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　本法施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲映畫委員會ヲ置ク

映畫委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ映畫ヲ製作シ又ハ上映スル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

行政官廳ハ映畫製作業者、映畫配給業者又ハ映畫興行者ニ對シ其ノ業務ニ關スル事項ニ付報告ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　第二條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ映畫ノ製作又ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ依ル停止又ハ制限ニ違反シタル者

【山形縣】

二　第八條、第十二條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者

三　第十三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シテ映畫ヲ輸出シ又ハ輸出セントシタル者

四　第十四條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者

五　第十五條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六　第二十條第一項ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケズシテ業トシテ同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事シタル者

二　第六條ノ規定ニ依ル停止ニ違反シタル者

三　第七條ノ規定ニ違反シタル者

四　第九條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サズシテ映畫ノ撮影ヲ開始シタル者

五　第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十四條　映畫ノ製作若ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者又ハ映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第二十一條、第二十二條第一號乃至第五號若ハ第六號後段又ハ前條第三號乃至第五號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條　第二十一條、第二十二條第一號乃至第五號及第六號後段並ニ第二十三條第三號乃至第五號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナル

トキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十四年九月勅令第六百六十七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ第二條ニ規定スル映畫ノ製作若ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者又ハ其ノ業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ同條第一項ノ規定ニ拘ラズ引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ者前項ノ期間內ニ第二條第一項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

前二項ノ規定ニ依リ其ノ業ヲ爲ス者ハ之ヲ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ業トシテ第五條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ同條ノ登錄ヲ受ケズシテ引續キ業トシテ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

【山形縣】

●映畫法施行令

昭和十四年九月二十七日
勅令第六百六十八號

第一條　映畫法第二條ノ映畫製作業ハ企畫、撮影及編輯ヲ併セ行ヒ映畫ノ製作ヲ爲ス業トス

企畫、撮影又ハ編輯ノ一又ハ二ヲ行フ業ハ之ヲ映畫製作業ト看做ス

映畫法第二條ノ映畫配給業ハ映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ニ對シ映畫ノ賣付又ハ貸付ヲ爲ス業トス

第二條　映畫法第二條第一項、第四條及第十八條ノ主務大臣ハ內務大臣及文部大臣、同法第五條、第六條、第九條、第十二條、第十三條第二項及第十六條ノ主務大臣ハ內務大臣、同法第十四條及第十五條第一項ノ主務大臣ハ文部大臣トス

附　則

本令ハ映畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十四年十月一日）

●映畫法施行規則

昭和十四年九月二十七日
內務文部厚生省令第一號

第一條　映畫法第二條第一項ノ規定ニ依ル映畫製作業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書正副三通ヲ映畫製作業ノ主タル事務所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ヲ經由シ內務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

一　住所及氏名

二　業務ノ範圍

三　映畫製作所ノ所在地

四　映畫製作所ノ構造設備

イ　全體ノ配置（圖面ヲ添附スベシ）

ロ　撮影、錄音、現像、燒付、映寫及貯藏ノ用ニ供スル建物ノ構造設備（圖面ヲ添附スベシ）

ハ　撮影機、錄音機及燒付機ノ種類及臺數

ニ　電氣設備（圖面ヲ添附スベシ）

五　製作スル映畫ノ種類

六　一年間ニ製作スル映畫ノ數量

七　業務別從業員數

八　業務開始ノ時期

前項ノ許可申請書ニハ事業ノ起業目論見書及收支豫算書ヲ添附スベシ

第一項第二號、第三號、第四號イ、ロ、第五號又ハ第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一項ノ例ニ依リ地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ノ許可ヲ受クベシ

第一項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク屆書正副二通ヲ第一項ノ規定ニ依ル地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

第二條　映畫法第二條第一項ノ規定ニ依ル映畫配給業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書正副三通ヲ映畫配給業ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

一　住所及氏名

二　支所其ノ他ノ配給所ノ所在地

三　配給ノ區域

四　配給ノ方法

五　配給スル映畫ノ種類

六　一年間ニ配給スル映畫ノ數量

七　業務開始ノ時期

〔山形縣〕

前項ノ許可申請書ニハ事業ノ起業目論見書及收支豫算書ヲ添附スベシ

第一項第五號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一項ノ例ニ依リ地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ノ許可ヲ受クベシ

第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク屆書正副二通ヲ第一項ノ規定ニ依ル地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

第三條　映畫製作業者又ハ映畫配給業者其ノ業務ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク屆書正副二通ヲ第一條第一項又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ引續キ六月以上其ノ業務ヲ休止セントスルトキ亦同ジ

第四條　映畫製作業者又ハ映畫配給業者死亡シタル場合ニ於テ其ノ業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ一月以内ニ屆書正副二通ニ戸籍謄本ヲ添附シ第一條第一項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依ル地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

第五條　映畫製作業者又ハ映畫配給業者ハ毎年二月末日迄ニ前年中ニ製作シ又ハ配給シタル映畫ノ種類其ノ他ノ事項ヲ記載シタル様式第一號ノ屆書正副二通ヲ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ

第六條　映畫法第五條ノ規定ニ依リ業務ノ種類ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　演出

二　演技

三　撮影

第七條　映畫法第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル登錄申請書ヲ内務大臣ニ提出スベシ

一　住所、氏名及業務上ノ氏名竝ニ生年月日

二　業務ノ種類

前項ノ登錄申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　履歴書

二　内務大臣ノ指定シタル者ノ發行スル技能ヲ證スル書類

三　申請者未成年者ナルトキハ其ノ親權者又ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者、妻ナルトキハ夫ノ承諾ヲ證スル書類、在學中ノ者ナルトキハ學校長ノ意見ヲ記載シタル書類

第一項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ内務大臣ニ屆出ヅベシ

第八條　内務大臣映畫法第五條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ様式第二號ノ登錄證明書ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依ル登錄證明書ノ交付ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ業務上ノ氏名ヲ變更シ又ハ登錄證明書ヲ滅失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ書換又ハ再交付ヲ内務大臣ニ申請スルコトヲ得

第九條　映畫法第六條ノ規定ニ依リ業務ノ停止又ハ登錄ノ取消ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク前條第一項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル登錄證明書ヲ内務大臣ニ返納スベシ

業務停止ノ期間滿了シタルトキハ登錄證明書ヲ本人ニ還付ス

第十條　映畫法第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケタル者其ノ業務ヲ廢止シ又ハ死亡シタルトキハ廢止ノ場合ハ登錄ヲ受ケタル者、死亡ノ場合ハ其ノ戸主又ハ家族ヨリ遲滯ナク其ノ旨内務大臣ニ屆出ヅベシ

第十一條　映畫製作業者十四歳未滿ノ者ヲ業トシテ第六條ニ掲グル種類ノ業務ニ從事セシメントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ内務大臣ニ屆出ヅベシ

一　住所及氏名

二　業務ニ從事セシメントスル者ノ住所、氏名及業務上ノ氏名竝ニ生年月日

〔山形縣〕

三　從事セシメントスル業務ノ種類

前項ノ屆書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　業務ニ從事スルニ堪フルコトヲ證スル醫師ノ健康證明書

二　業務ニ從事セントスル者ノ親權者又ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者ノ承諾ヲ證スル書類、業務ニ從事セントスル者在學中ノ者ナルトキハ學校長ノ意見ヲ記載シタル書類

第十二條　映畫製作業者映畫法第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケザル者ヲ同法第七條ノ規定ニ依リ第六條ニ掲グル種類ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ル場合左ノ如シ

一　映畫ノ製作ノ都度雇入ルルトキ

第十三條　映畫製作業者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ映畫ノ製作ノ現業ニ從事セシムルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ從業地ノ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　映畫法第九條第一項ノ規定ニ依リ映畫ノ種類ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　劇映畫

第十五條　映畫製作業者映畫法第九條第一項前段ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サントスルトキハ撮影開始十日前左ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ内務大臣ニ提出スベシ

一　住所及氏名

二　映畫ノ題名

三　原作者及脚色者

四　演出者及主タル演技者

五　映畫ノ内容（脚本ニ依リ表示シ二部ヲ添附スベシ）

六　撮影開始及製作終了時期

内務大臣必要アリト認ムルトキハ映畫ノ著作權ヲ證スル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

映畫製作業者第一項第二號乃至第四號ノ事項又ハ第五號ノ事項ノ主タル部分ヲ變更シタルトキハ映畫法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ其ノ變更屆書ヲ内務大臣ニ提出スベシ

第十六條　映畫法第十條ノ規定ニ依ル映畫ノ選奬ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フ

一　推薦

二　賞金ノ交付

前項第二號ノ賞金ノ交付ハ同項第一號ニ依リ文部大臣ノ推薦シタル映畫ノ中ヨリ特ニ優秀ナリト認ムルモノニ付其ノ製作者ニ對シ之ヲ行フ

第十七條　前條ノ推薦ヲ受ケタル映畫ノ所有者ハ樣式第八號ノ合格印章ヲ押捺シタル當該映畫ノ臺本ヲ文部大臣ニ提出シ樣式第三號ノ推薦印章ノ押捺ヲ受クルコトヲ得

第十八條　文部大臣映畫法第十一條ノ規定ニ依リ映畫ノ提出ヲ命ズルトキハ其ノ所有者ニ對シ映畫ノ題名、提出期日、提出期間其ノ他必要ナル事項ヲ指示ス

前項ノ映畫ノ所有者前項ノ規定ニ依ル指示ニ從ヒ之ヲ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク文部大臣ニ屆出ヅベシ

第十九條　映畫法ニ於テ外國映畫ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一　外國ニ於テ製作シタル映畫但シ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ノ製作シタル映畫ニシテ帝國臣民ヲ主タル演出者、演技者又ハ撮影者トシ且字幕又ハ發聲ニ外國語ヲ主トセザルモノヲ除ク

〔山形縣〕

二　本邦ニ於テ外國人又ハ外國法人ノ製作シタル映畫但シ帝國臣民ヲ主タル演出者、演技者又ハ撮影者トシタル映畫ニシテ字幕又ハ發聲ニ外國語ヲ主トセザルモノヲ除ク

第二十條　映畫配給業者ハ内務大臣ノ割當テタル數量ヲ超エテ劇映畫タル外國映畫ヲ配給スルコトヲ得ズ

前項ノ割當ハ翌年中ニ配給セントスル劇映畫タル外國映畫ニ付之ヲ行フ但シ新ニ劇映畫タル外國映畫ヲ配給セントスル者ニ對シテハ當該年内ニ配給セントスル數量ニ付之ヲ行フコトヲ得

第二十一條　映畫配給業者前條ノ規定ニ依ル割當ヲ受ケントスルトキハ毎年十月三十一日迄ニ申請書ヲ内務大臣ニ提出スベシ

映畫配給業者前條第二項但書ノ場合其ノ他特別ノ事由アルトキハ前項ノ規定ニ依ル期日ノ制限ニ拘ラズ前項ノ申請書ヲ提出スルコトヲ得

第二十二條　前條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　住所及氏名

二　配給スル外國映畫ノ數量

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　申請ノ前月以前三年間ニ配給シタル劇映畫タル外國映畫ニ付樣式第四號ニ依ル調書

二　申請ノ前月以前一年間ニ輸出シタル映畫ニ付樣式第五號ニ依ル調書

第二十三條　内務大臣必要アリト認ムルトキハ第二十條ノ規定ニ依リ割當テタル數量ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條　映畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル檢閲申請書ニ檢閲ヲ受クベキ映畫及臺本一部ヲ添ヘ内務大臣ニ提出スベシ

一　住所及氏名

二　映畫ノ題名

三　製作者ノ住所及氏名

四　卷數及長サ

五　輸出年月日

六　輸出ノ目的

七　輸出地及仕向地

八　荷受人ノ住所及氏名

時事ヲ撮影シタル映畫ニシテ内務大臣ノ檢閲ヲ受クル暇ナキトキハ前項ノ規定ニ依リ製作地又ハ輸出地ノ地方長官ニ申請シ其ノ檢閲ヲ受クルコトヲ得

檢閲官廳必要アリト認ムルトキハ映畫ノ著作權ヲ證スル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條　映畫法第十四條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル檢閲申請書正副二通ニ檢閲ヲ受クベキ映畫及臺本（檢閲ニ合格シタル後三年以内ニ當該映畫ノ複製ニ付同一申請者ガ檢閲ヲ受ケントスル場合ハ一部）ヲ添ヘ内務大臣ニ提出スベシ

一　住所及氏名

二　映畫ノ題名（外國映畫ニ在リテハ其ノ原名及譯名ヲ併セ記載スベシ）

三　製作者ノ住所及氏名

四　卷數及長サ

五　劇映畫ニ在リテハ映畫法第九條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲シタル年月日

時事ヲ撮影シタル映畫ニシテ内務大臣ノ檢閲ヲ受クル暇ナキトキハ前項ノ規定ニ依リ上映地ノ地方長官ニ申請シ其ノ檢閲ヲ受クルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔山形縣〕

第二十六條　映畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ檢閲シタル映畫ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ不合格トス

一　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ又ハ帝國ノ威信ヲ損スル虞アルモノ

二　政治上、軍事上、外交上、經濟上其ノ他帝國ノ利益ヲ害スル虞アルモノ

三　國民文化ニ對シ誤解ヲ生セシムル虞アルモノ

四　製作技術著シク拙劣ナルモノ

五　其ノ他輸出ニ適セザルモノ

第二十七條　映畫法第十四條第一項ノ規定ニ依リ檢閲シタル映畫ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ不合格トス

一　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ又ハ帝國ノ威信ヲ損スル虞アルモノ

二　朝憲紊亂ノ思想ヲ鼓吹スル虞アルモノ

三　政治上、軍事上、外交上、經濟上其ノ他公益上支障ノ虞アルモノ

四　善良ナル風俗ヲ紊リ國民道義ヲ頽廢セシムル虞アルモノ

五　國語ノ醇正ヲ著シク害スル虞アルモノ

六　製作技術著シク拙劣ナルモノ

七　其ノ他國民文化ノ進展ヲ阻害スル虞アルモノ

第二十八條　檢閲ニ合格シタルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ申請アリタルモノニ付テハ樣式第六號ノ檢閲合格證明書ヲ交付シ映畫ニ樣式第七號ノ合格印章及記號番號ヲ押捺シ、第二十五條ノ規定ニ依リ申請アリタルモノニ付テハ映畫ニ樣式第七號ノ合格印章及記號番號ヲ臺本ニ樣式第八號ノ合格印章ヲ押捺ス但シ第二十四條第二項及第二十五條第二項ノ規定ニ依ル檢閲ニ合格シタルモノニ付テハ映畫ニ押捺スル合格印章及記號番號ヲ省略スルコトヲ得

第二十九條　映畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ノ合格有效期間ハ三

月、同法第十四條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ノ合格有效期間ハ三年トス但シ同法第十四條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ノ行フ檢閲ノ合格有效期間ハ三月トシ其ノ效力ハ他ノ道府縣ニ及バズ

第三十條　檢閲官廳ハ檢閲ヲ爲シタル映畫ニ付特別ノ事情アル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ異リタル檢閲ノ合格有效期間ヲ定メ又ハ地域其ノ他ノ制限ヲ爲スコトヲ得

檢閲官廳前項ノ制限ヲ爲シタルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ申請アリタルモノニ付テハ檢閲合格證明書ニ、第二十五條ノ規定ニ依リ申請アリタルモノニ付テハ臺本ニ其ノ旨ヲ記入ス

第三十一條　內務大臣映畫法第十三條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ禁止ノ場合ニ在リテハ檢閲合格證明書ヲ返納セシメ當該映畫ニ押捺シタル合格印章及記號番號ヲ抹消シ、制限ノ場合ニ在リテハ檢閲合格證明書ニ其ノ旨ヲ記入ス

內務大臣映畫法第十四條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ禁止ノ場合ニ在リテハ當該映畫ニ押捺シタル合格印章及記號番號並ニ當該映畫ノ臺本ニ押捺シタル合格印章ヲ抹消シ、制限ノ場合ニ在リテハ當該映畫ノ臺本ニ其ノ旨ヲ記入ス

第三十二條　檢閲ニ合格シタル映畫ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ合格印章又ハ記號番號ノ再押捺若ハ檢閲合格證明書ノ再交付ヲ當該映畫ノ檢閲官廳ニ申請スルコトヲ得

一　映畫ニ押捺シタル合格印章又ハ記號番號ヲ毀損シタルトキ
二　合格印章ヲ押捺シタル臺本ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキ
三　檢閲合格證明書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ在リテハ更ニ臺本一部ヲ提出スベシ

第三十三條　檢閲ニ合格シタル映畫ニ付第二十四條第一項第二號若ハ第七

〔山形縣〕

號又ハ第二十五條第一項第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ當該映畫ノ檢閲官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三十四條　檢閲官廳ハ映畫法第十四條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ニ付左ノ手數料ヲ徵收ス

一　內務大臣ノ檢閲スル映畫ニ付テハ一メートル又ハ其ノ端數每ニ一錢
但シ外國映畫ニ付テハ一メートル又ハ其ノ端數每ニ一錢五厘
二　內務大臣ニ於テ映畫ヲ檢閲シタル後三月以內ニ同一申請者ヨリ檢閲ヲ申請スル當該映畫ノ複製及檢閲ノ合格有效期間經過後六月以內ニ檢閲ヲ申請スル當該映畫ニ付テハ一メートル又ハ其ノ端數每ニ五厘但シ外國映畫ニ付テハ一メートル又ハ其ノ端數每ニ七厘五毛
三　地方長官ノ檢閲スル映畫ニ付テハ三メートル又ハ其ノ端數每ニ一錢

檢閲官廳公益上必要アリト認ムルトキハ手數料ヲ免除スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢閲申請書ニ貼附スベシ

第三十五條　映畫法第十五條第一項ノ規定ニ依リ上映ヲ爲サシムベキ映畫ハ國民精神ノ涵養又ハ國民智能ノ啓培ニ資スル映畫（劇映畫ヲ除ク）ニシテ文部大臣ノ認定シタルモノトス

映畫興行者ハ一回ノ興行ニ付前項ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル映畫二百五十メートル以上ヲ上映スベシ但シ映畫興行者映畫法第十五條第二項ノ規定ニ依リ映畫ヲ上映スル場合及第十六條ノ推薦ヲ受ケタル映畫ヲ上映スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　前條第一項ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケントスル者ハ第二十五條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ記載シタル認定申請書ニ認定ヲ受クベキ映畫及臺本二部（一部ハ樣式第八號ノ合格印章ヲ押捺シタルモノ）ヲ添ヘ文部大臣ニ提出スベシ

第三十七條　第三十五條第一項ノ規定ニ依ル認定ヲ爲シタルトキハ樣式第八號ノ合格印章ヲ押捺シタル當該映畫ノ臺本ニ樣式第九號ノ認定印章ヲ押捺ス

第三十八條　第三十五條第一項ノ規定ニ依ル認定ノ有效期間ハ當該映畫ノ檢閲ノ合格有效期間トス

第三十九條　文部大臣ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ第三十五條第一項ノ規定ニ依ル認定ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキハ當該映畫ノ臺本ニ押捺シタル認定印章ヲ抹消ス

第四十條　第三十五條第一項ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル映畫ニ付其ノ臺本ニ第三十二條第一項ノ規定ニ依リ合格印章ノ再押捺ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク當該臺本ヲ文部大臣ニ提出シ樣式第九號ノ認定印章ノ再押捺ヲ申請スベシ

第四十一條　地方長官映畫法第十五條第二項ノ規定ニ依リ映畫ノ上映ヲ爲サシメントスルトキハ一回ニ付一週間以內ニ於テ其ノ期間ヲ定ムベシ但シ一年ヲ通ジ一映畫興行場ニ付六週間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十二條　常設ノ映畫興行場ニ於テ興行ヲ爲ス映畫興行者ハ一映畫興行場ニ付一年ヲ通ジ五十本ヲ超エテ劇映畫タル外國映畫ヲ上映スルコトヲ得ズ

前項ノ映畫興行者當該映畫興行場ニ於テ曾テ上映シタル劇映畫タル外國映畫ヲ上映スル場合ハ之ヲ前項ノ本數ニ算入セズ

年ノ中途ニ於テ新ニ劇映畫タル外國映畫ノ上映ヲ開始シタルトキハ第一項ノ本數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第四十三條　常設ノ映畫興行場ニ於テ興行ヲ爲ス映畫興行者ハ一回ノ興行時間三時間ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ映畫法第十五條第二項ノ規定ニ依リ

〔山形縣〕

映畫ヲ上映スル場合ハ三十分ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條　映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ一分間二十七メートル四ノ速度ヲ超エテ映寫ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十五條　映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ自動式安全開閉器ノ裝置アル映寫機ヲ使用スルニ非ザレバ映寫ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十六條　映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ映畫法第十四條第一項ノ規定ニ依ル檢閲ニ合格シタル映畫ニシテ文部大臣（地方長官ノ行フ檢閲ニ合格シタル映畫ニ付テハ當該地方長官）ニ於テ年少者ノ教育上支障ナシト認定シタルモノノミヲ上映スル場合ヲ除クノ外十四歲未滿ノ者ヲ映畫ヲ上映スル場所ニ入場セシムルコトヲ得ズ但シ保護者ノ同伴アル六歲未滿ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條　前條ノ規定ニ依ル認定ヲ爲シタルトキハ樣式第八號ノ合格印章ヲ押捺シタル當該映畫ノ臺本ニ樣式第十號ノ認定印章ヲ押捺ス但シ地方長官ニ於テ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十八條乃至第四十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル認定ニ之ヲ準用ス

第四十八條　映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ地方長官ノ行フ映寫免許ヲ受ケザル者ヲシテ映寫機ノ操作ヲ爲サシムルコトヲ得ズ但シ難燃性ノ映畫ヲ上映スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ映寫機二臺以上ヲ用ヒ且其ノ映寫時間通例引續キ六時間ヲ超ユル場合ニ在リテハ映寫免許ヲ受ケタル者三名以上ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ二名以上ヲ使用スベシ

第四十九條　本令ニ依リ提出スル申請書又ハ屆書ニ住所及氏名ヲ記載スベキ場合ニ於テハ法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地、代表者ノ住所及氏名ヲ記載スベシ

第五十條　第三條、第四條、第十一條第一項又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第五十一條　映畫製作業者、映畫配給業者又ハ檢閲ニ合格シタル映畫ノ所有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第五十二條　第五十條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

第五十三條　本令ハ映畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十四年十月一日）但シ第二十條、第四十二條及第四十六條ノ規定ハ昭和十五年一月一日ヨリ、第三十五條第二項ノ規定ハ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市ニ在リテハ昭和十五年一月一日、其ノ他ノ市町村ニ在リテハ昭和十五年七月一日ヨリ、第四十五條及第四十八條ノ規定ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條　左ノ内務省令ハ之ヲ廢止ス

一　大正十四年五月内務省令第十號活動寫眞「フイルム」檢閲規則

二　昭和十年十月内務省令第六十三號輸出活動寫眞フイルム取締規則

三　昭和十二年十二月内務省令第五十五號（活動寫眞ノ興行時間及フイルムノ長サノ制限ニ關スル件）

第五十五條　映畫法附則第二項ノ規定ニ依リ其ノ業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ映畫製作業者ニ在リテハ第一條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ、映畫配給業者ニ在リテハ第二條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ記載シタル屆書正副二通ヲ第一條第一項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依ル地方長官ヲ經由シ内務大臣及文部大臣ニ提出スベシ但シ其ノ期間内ニ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十六條　本令施行前行政官廳ノ檢閲ヲ經タル檢閲濟「フイルム」又ハ合格輸出フイルムノ合格有效期間ハ從前ノ規定ニ依ル有效期間ノ殘存期間トス

第五十七條　映畫興行者ハ第三十五條第二項ノ規定ノ施行後六月ヲ限リ一月間ノ興行日數ノ半迄ハ仍同項ノ規定ニ依ル映畫ノ上映ヲ爲サザルコトヲ得

映畫興行者本令施行前行政官廳ノ檢閲ヲ經タル檢閲濟「フイルム」又ハ其ノ複製ニシテ第三十五條第一項ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタルモノヲ上映スル場合ニ於テハ本令施行後三年ヲ限リ同條第二項中映畫ノ長サニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

第五十八條　本令施行前行政官廳ノ檢閲ヲ經タル檢閲濟「フイルム」ノミヲ上映スル場合又ハ之ヲ第四十六條ノ認定ヲ受ケタル映畫ト共ニ上映スル場合ニ在リテハ文部大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外第四十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

〔山形書〕

様式第一號ノ一

昭和　年映畫製作屆

年　月　日

住所

氏名

映畫ノ種類	映畫ノ題名	映畫製作所名	演出者	巻數及長サ	製作費	製作日數	複製本數	推薦・認定其ノ他ノ別	備考

生フイルム消費量

用途	日本製	外國製	備考
陽畫用	メートル	メートル	
陰畫用	メートル	メートル	
錄音用	メートル	メートル	

備考

一　映畫ノ種類ノ欄ニハ現代劇、時代劇、實寫、時事、描畫其ノ他ノ別ヲ記載スルコト

二　推薦・認定其ノ他ノ欄ニハ映畫法施行規則第十六條ノ推薦ヲ受ケタル映畫ニ在リテハ推薦映畫、同則第三十五條ノ認定ヲ受ケタル映畫ニ在リテハ文化映畫、同則第四十六條ノ認定ヲ受ケタル映畫ニ在リテハ一般用映畫、映畫法第十一條ノ規定ニ依リ保存ノ爲提出ヲ命セラレタル映畫ニ在リテハ保存映畫ト記載スルコト但シ推薦映畫ニシテ賞金ノ交付ヲ受ケタル映畫ニ在リテハ賞金交付、文化映畫ノ認定申請中ノモノニ在リテハ其ノ旨備考欄ニ記載スルコト

〔山形書〕

様式第一號ノ二

昭和　年映畫配給屆

年　月　日

住所

氏名

映畫ノ種類	映畫ノ題名	映畫製作者名	巻數及長サ	配給本數	主タル配給先	推薦・認定其ノ他ノ別	上映成績ノ概要	備考

備考　様式第一號ノ一ノ備考ハ本屆ニ之ヲ準用ス

様式第二號

三十糎

登錄第　號

登錄證明書

登錄　年　月　日

業務ノ種類

氏名

生年月日

業務上ノ氏名

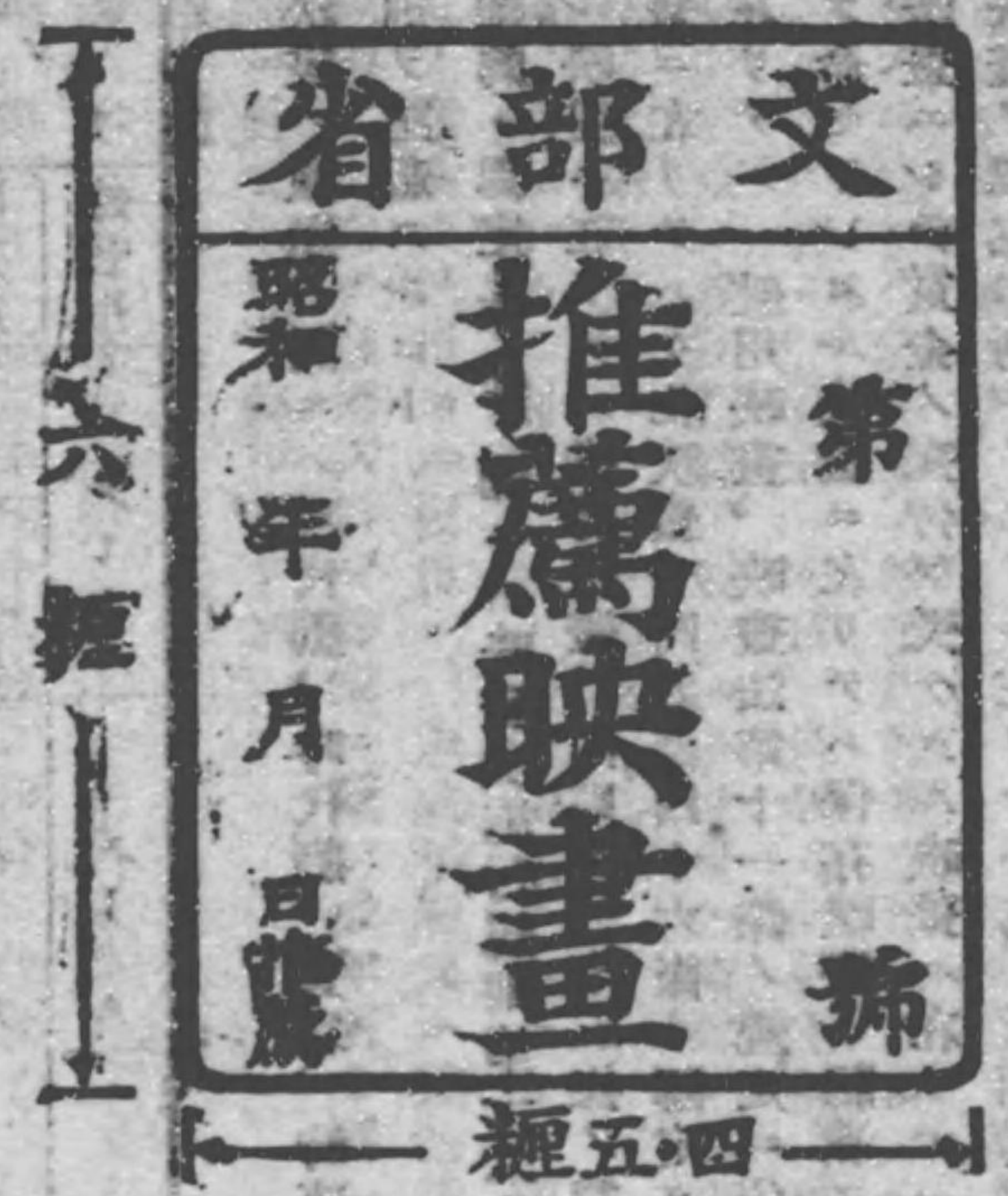
右ハ映畫法第五條ニ依ル登錄ヲ受ケタルコトヲ證ス

年　月　日

内務省

二十一糎

樣式第三號


文部省
第　號
推薦映畫
昭和　年　月　日推薦
六糎
四・五糎

樣式第四號

外國映畫配給調書

自昭和　年　月　至昭和　年　月

映畫ノ題名	原名及譯名	製作國	映畫製作者名	卷數及長サ	配給本數	備考

年　月　日

住所

氏名

〔山形警〕

備考　本調書ハ各年別ニ作成スルコト

樣式第五號

輸出映畫調書

自昭和　年　月　至昭和　年　月

映畫ノ題名	映畫ノ種類	映畫製作者名	卷數及長サ	輸出本數	輸出ノ目的	仕向地	備考

年　月　日

住所

氏名

備考　樣式第一號ノ一備考一ハ本調書ニ之ヲ準用ス

樣式第六號

檢閲合格證明書

住所及氏名	
映畫ノ題名	
輸出年月日	
輸出ノ目的	
輸出地	
仕向地	
荷受人ノ住所及氏名	
記號番號	第　號
有效期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日
備考	

昭和　年　月　日

內務省

十八糎

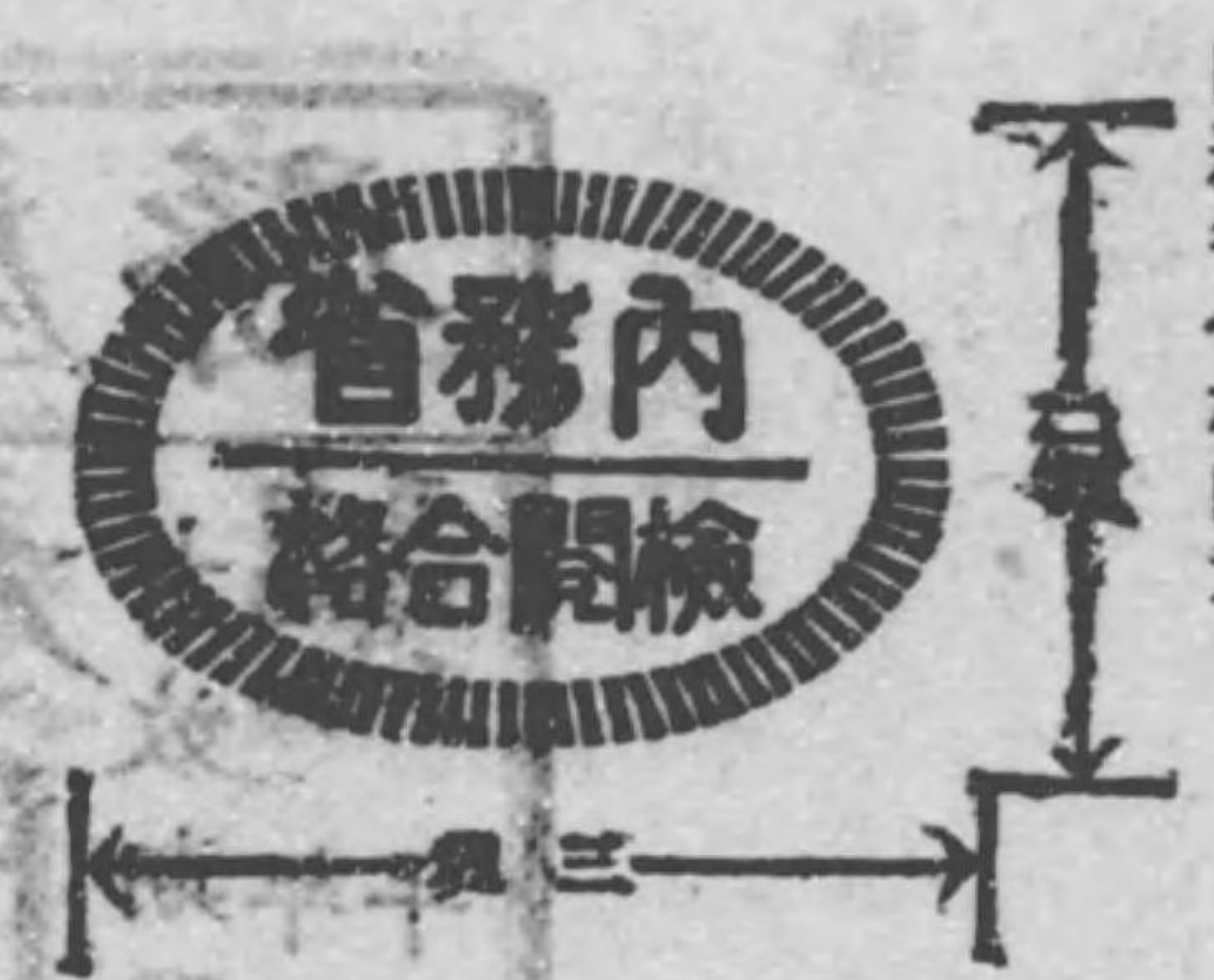
十三糎

〔山形警〕

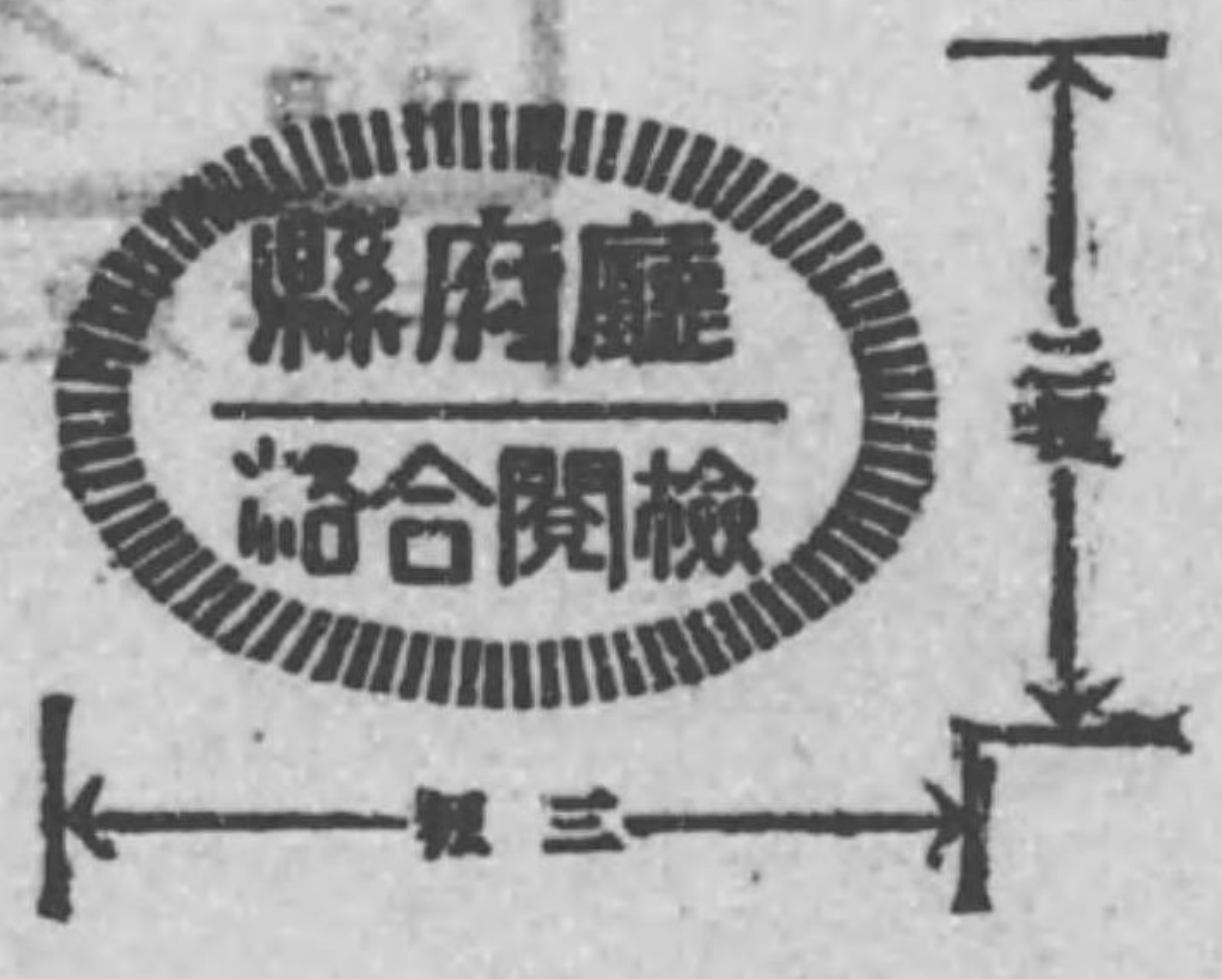
樣式第七號

一　合格印章

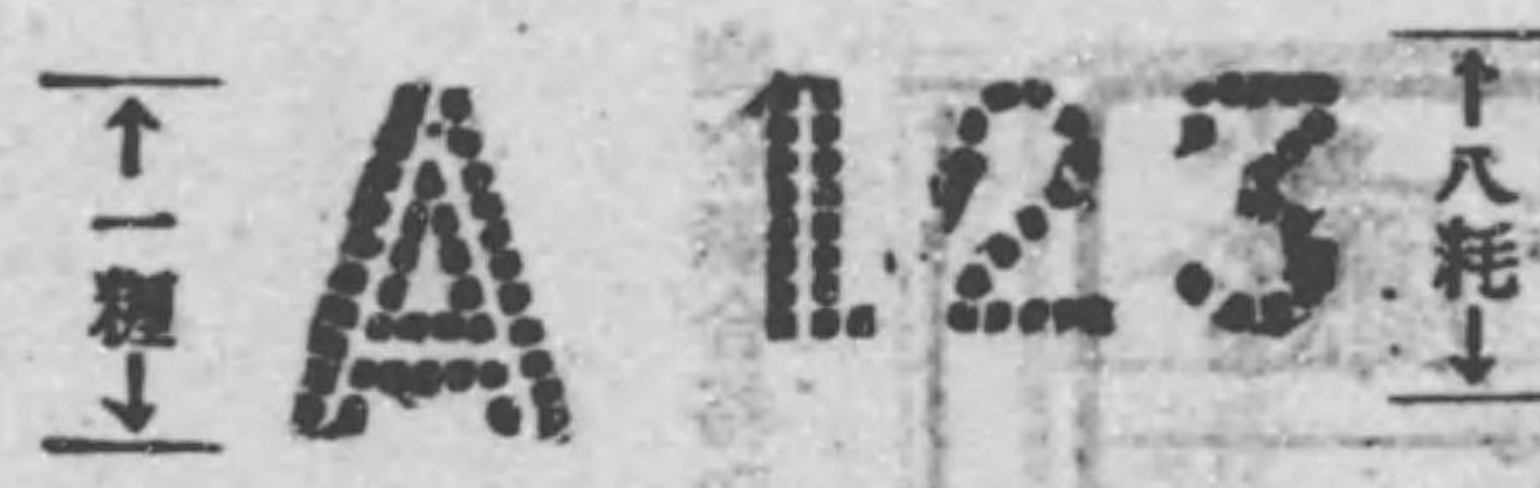
イ　內務省合格印章


內務省
檢閲合格
二糎
三糎

ロ　廳府縣合格印章


廳府縣
檢閲合格
二糎
三糎

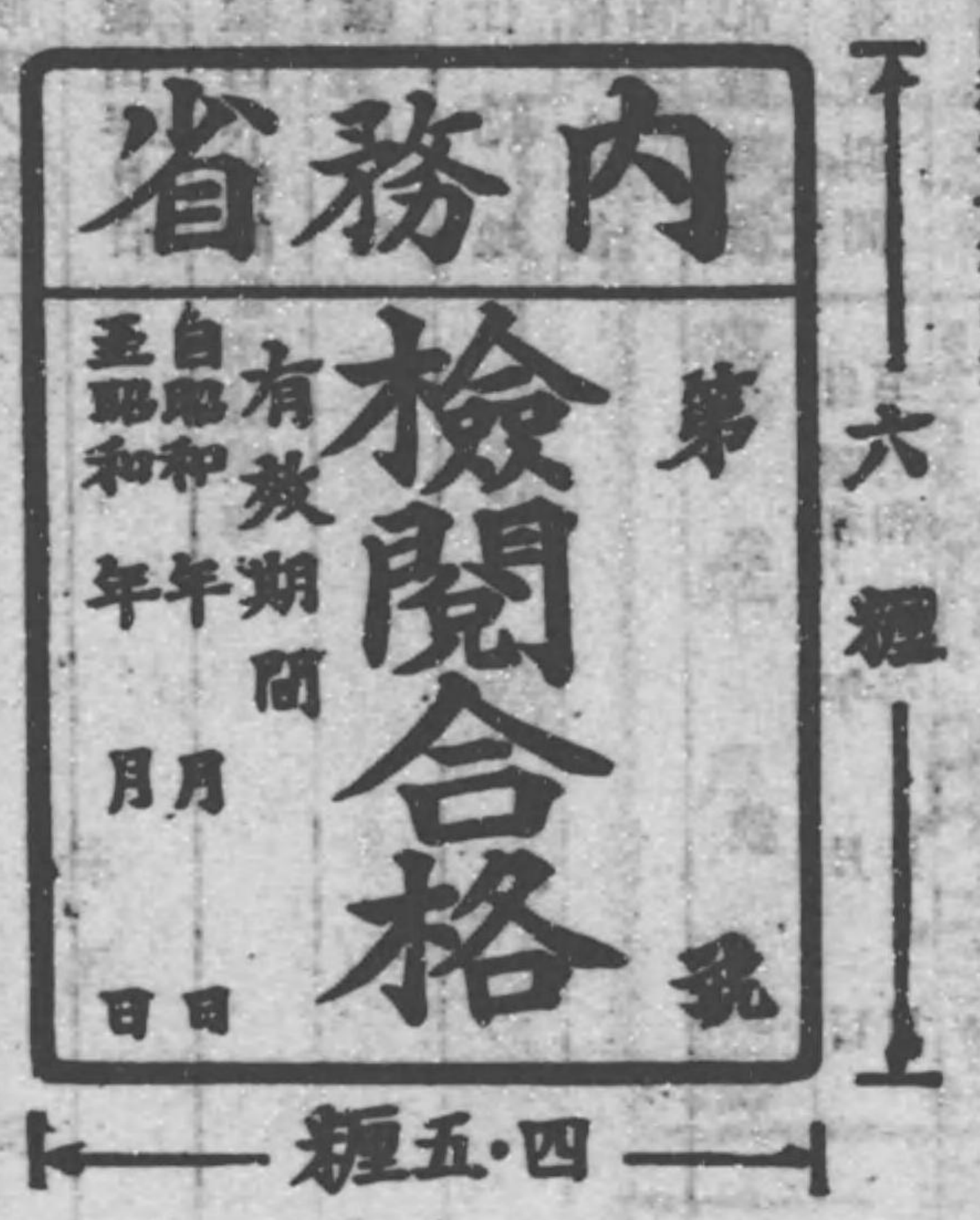
二　記號番號



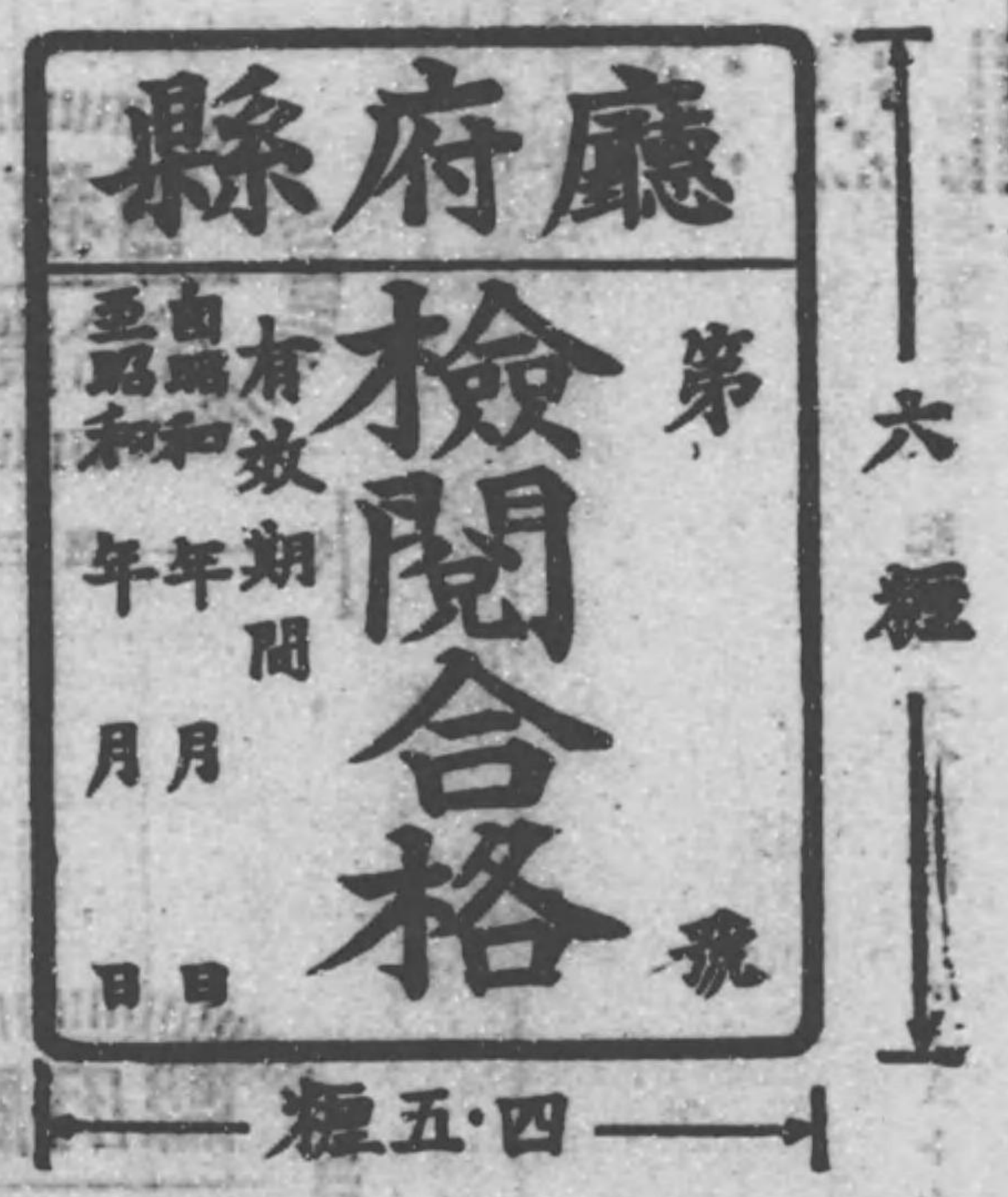
記號ハ本令施行ノ年ヲAトシ以下各年毎ニアルハベットノ順ニ從フ

様式第八號

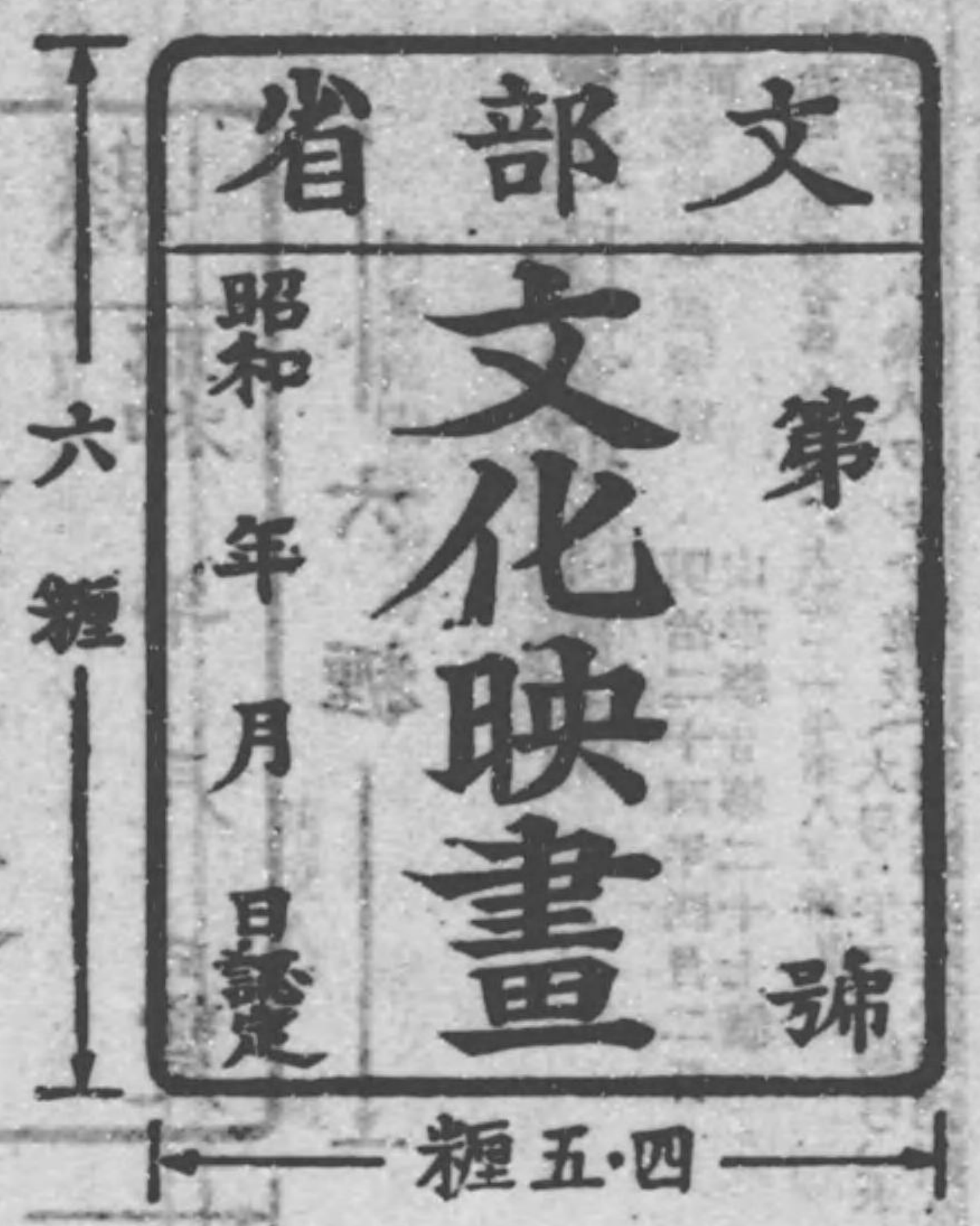
イ　内務省合格印章


内務省
第　號
檢閲合格
有效期間
自昭和　年　月　日
至昭和　年　月　日
六糎
四・五糎

ロ　廳府縣合格印章

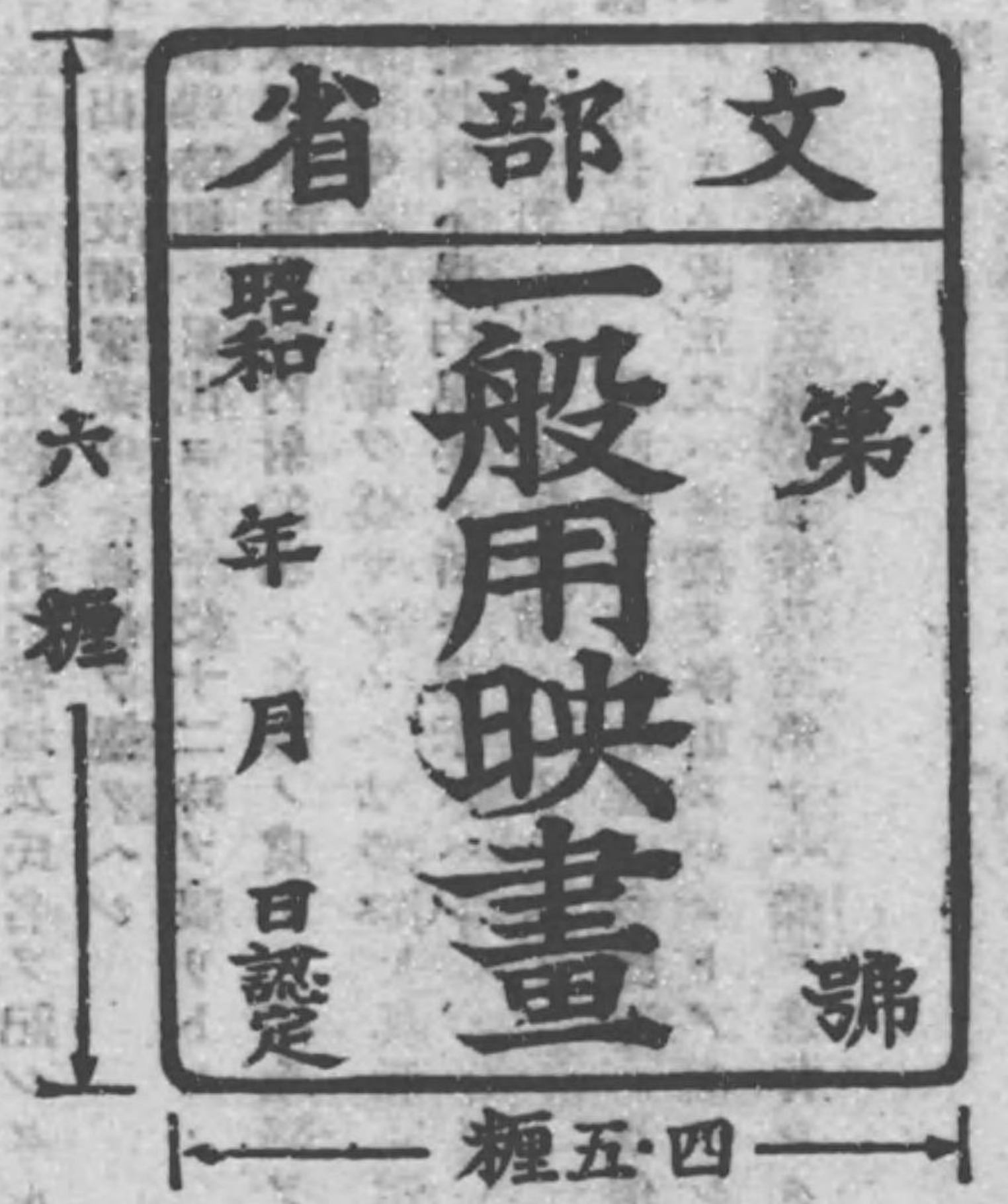

廳府縣
第　號
檢閲合格
有效期間
自昭和　年　月　日
至昭和　年　月　日
六糎
四・五糎

様式第九號

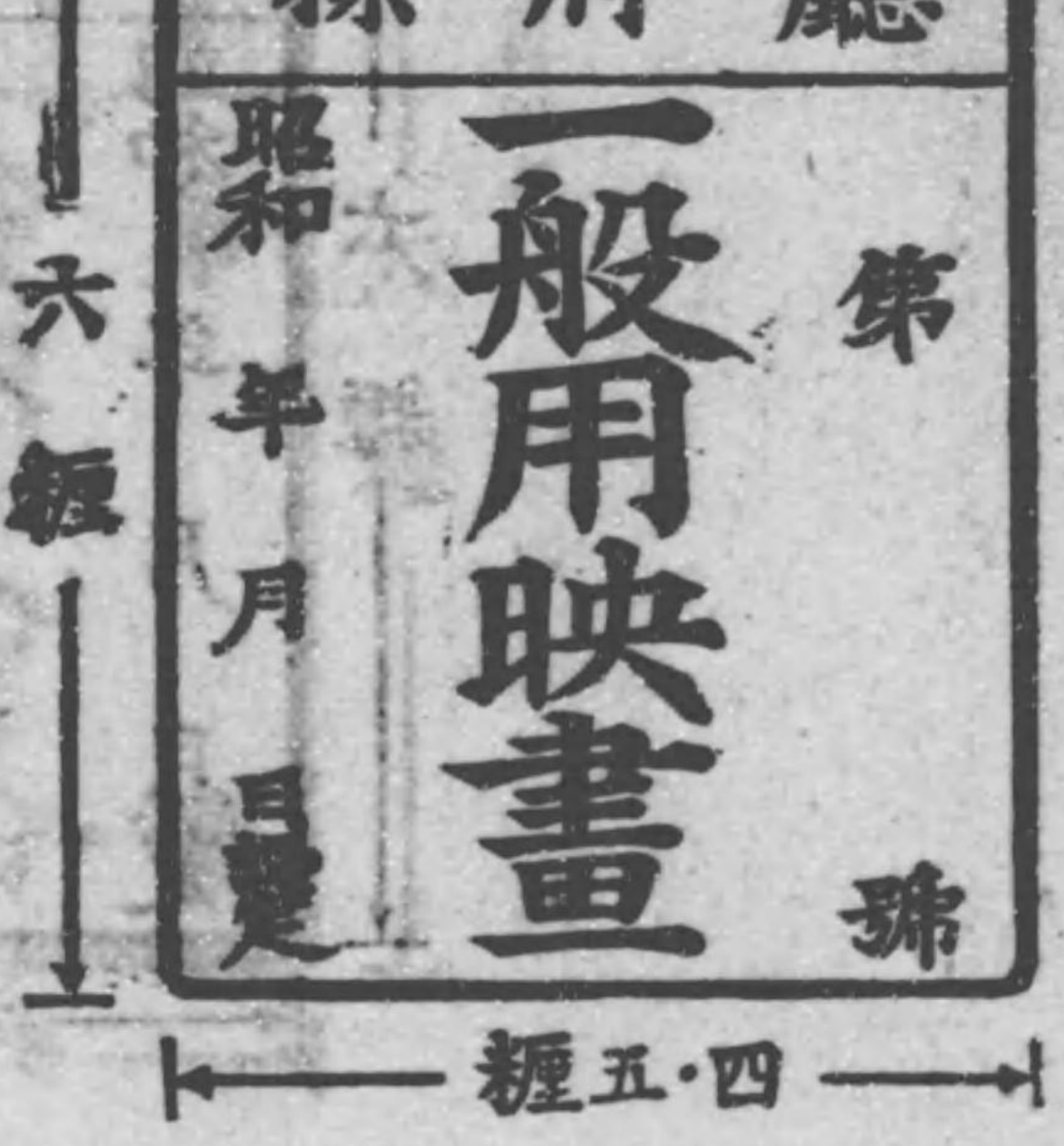

文部省
第　號
文化映畫
昭和　年　月　日認定
六糎
四・五糎

様式第十號

イ　文部省認定印章


文部省
第　號
一般用映畫
昭和　年　月　日認定
六糎
四・五糎

ロ　廳府縣認定印章



●遊技場取締規則

明治二十四年四月二日
山形縣令第二十七號

改正　明治四一年縣令第八四號、大正一一年第八五號

第一條　遊技場トハ衆人ヲシテ遊技（大弓、半弓、楊弓、玉突、玉投、投扇、吹矢、室內射的、玉轉ノ類）ヲ爲サシムル公開ノ場所ヲ云フ

第二條　遊技場ヲ開設セントスルモノハ遊技ノ種類遊技料及場所ヲ詳記シ所轄警察署（又ハ警察分署）ニ屆出ヘシ但遊技ノ種類遊技料又ハ場所ヲ變更シタルトキ亦同シ大弓半弓及室內射的ハ其射的場ノ仕樣書及四隣人家ノ距離ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察署（又ハ警察分署）ニ願出免許ヲ受クヘシ但改造又ハ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第三條　大弓半弓及ヒ室內射的場ノ新設改造又ハ變更ノ工事竣功シタルトキハ使用前所轄警察署（又ハ警察分署）ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

〔山形警〕

第四條　大弓半弓及室內射的場ハ適宜其廣狹ヲ斟酌シ總テ危險ノ虞ナキ構造スヘシ

第五條　營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢場シタルトキハ五日以內ニ所轄警察署（又ハ警察分署）ニ屆出ヘシ

免許證面ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ毀損亡失シタルトキハ五日以內ニ所轄警察署（警察分署）ニ屆出書換若シクハ再渡ヲ請フヘシ

第六條　遊技場ニハ其名稱町村名番地及氏名ヲ記シタル看板（竪三尺橫七寸）ヲ表出シ夜間營業中ハ標燈ヲ揭クヘシ

第七條　開場時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス

第八條　大弓半弓及室內射的場ハ危險ノ虞ナキ樣取締ヲ爲シ且ツ白痴瘋癲者及亂醉者等ニハ射擊ヲ爲サシムヘカラス

第九條　遊技料ハ場內見易キ所ニ揭示スヘシ

第十條　遊客ニ對シ强テ遊技ヲ勸ムヘカラス

第十一條　遊技場ニハ臨時警察官吏臨檢シ危險又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ改正又ハ遊技ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條　第二條第三條第五條乃至第十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

一　從來設置シタル遊技場ハ本則ニ依リ屆出ヘシ但射的場等ノ構造不充分ニシテ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

●遊技場取締規則施行手續

明治二十四年四月
警規第三八號

〔山形警〕

第一條　遊技場ハ遊技料ノ有無ニ拘ハラス公開ノ場所ハ總テ規則ニ依リ取締ヲ爲スヘキモノトス

第二條　遊技場ノ開設屆若クハ願出アリタルトキハ遊技ノ種類ヲ調査シ尙ホ大弓、半弓室內射的ニ在テハ其構造危險ノ虞ナキヤ否ヲ調査スヘシ但大弓半弓室內射的ノ免許ヲ與フルトキハ左ノ書式ニ依リ免許證ヲ下付スヘシ

免許證（免許證用紙ヲ用ユ）

表

第何號
（何何何何）遊技場免許證
何郡市町村大字何何
何番地職業身分
開設人　何　某

裏

明治何年何月何日
山形縣（何警察署何警察分署）印

第三條　大弓半弓室內射的場ノ新設改造又ハ變更ノ工事竣功ノ屆出アリタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ適當ノモノハ使用ヲ許スヘシ

第四條　遊技場ニハ每月一回以上警察官吏ヲ派遣シ危險ノ有無又ハ風俗ヲ害スルカ若クハ規則ニ違犯スルノ所爲ナキヤ否ヲ視察セシムヘシ但必要アリト認ムルトキハ臨時檢査ヲ爲スコトヲ得

第五條　警察署又ハ警察分署ニ於テハ遊技場ノ臺帳ヲ調製シ（營業臺帳用紙ヲ用ユ）增減變更アル每ニ之ヲ加除スヘシ

●劇場及演劇取締規則

明治二十四年四月八日
山形縣令第三十三號

改正　明治三四年一月縣令第四號、四一年一〇月第八五號、大正一一年九月第八六號

第一條　劇場ハ俳優ノ演藝ヲ公衆ノ觀覽ニ供スル公開ノ場所ヲ云フ

第二條　劇場ヲ建築セントスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

一　建物ノ圖面及構造ノ仕樣書
二　四隣人家ノ距離ヲ詳記シタル圖面
三　棧敷及土間ノ觀客定員
四　落成ノ期日

第三條　劇場ヲ改造又ハ變更セムトスルトキハ前條ニ依リ願出免許ヲ受クヘシ

第四條　前二條ノ構造落成シタルトキハ使用前所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第五條　劇場ヲ賣買讓與シ又ハ廢場シタルトキハ免許證ヲ添ヘ五日以內ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出ヘシ但賣買讓與ニ係ルトキハ連印ヲ要ス

第六條 劇場ハ左ノ制限ニ從ヒ堅牢ニ構造スヘシ

一　建物ノ周圍ハ五間以上ノ空地ヲ存スヘシ

二　棧敷ノ天井ハ床上ヨリ六尺以上ノ高サニ之ヲ設ケ一尺五寸以上ノ通路ヲ設クヘシ

三　土間ノ客席ニハ一間若クハ二間毎ニ堅横幅八寸以上ノ通路ヲ設クヘシ

四　棧敷ニハ各要所ニ階段及欄干ヲ設クヘシ

五　階段ハ幅三尺以上踏上六寸五分以下蹴込八寸以上ニシテ欄干ヲ設クヘシ

六　空氣ヲ疏通セシムル爲メ各要所ニ窓牖又ハ換氣器ヲ設クヘシ

七　木戸口ハ幅二間以上高サ六尺以上タルヘシ

八　場内左右ニハ各幅九尺高サ六尺以上ノ非常口ヲ設クヘシ但扉ハ外開キ又ハ引戸ナルヲ要ス

九　場内ニハ警察官ニ於テ求ムル席ヲ設クヘシ

十　非常用ノ爲メ井戸又ハ用水ヲ設クヘシ

十一　厠圊ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ之ヲ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ石陶器油桶又ハ厚板ノ類ヲ用ヒ其周圍ハ敲キ又ハ漆喰等ヲ以テ之ヲ堅メ汚汁ヲ滲透セサラシムヘシ

第七條 觀客ノ座席ハ一人ニ付方一尺六寸以上ノ割合ヲ以テ之ヲ定メ棧敷及土間ノ定員ハ各其見易キ場所ニ掲示スヘシ但定員外ヲ入場セシムヘカラス

第八條 劇場ニハ必要ナル火防具及人夫ヲ準備シ置クヲ要ス但所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受クルトキハ之ヲ備ヘサルモ妨ケナシ

火防具及人夫ハ警察官吏ニ於テ臨時點檢スルコトアルヘシ

第九條 免許證面ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出書換若クハ再渡ヲ請フヘシ

〔山形警〕

第十條 警察官吏ハ臨時劇場ヲ點檢シ若シ危險ノ虞アリト認ルトキハ直チニ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 演劇ノ興行ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

一　演劇ノ種類

二　俳優ノ本籍住所氏名

三　興行ノ日數開閉時間及場所

四　木戸錢及席料

第十二條 演劇ノ興行ヲ休止シ又ハ日延ヲ爲ストキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出ヘシ

第十三條 劇場ニアラサル場所ニ於テ演劇ノ興行ヲ爲サントスルトキハ其場所及建物ノ圖面ヲ添ヘ使用前所轄警察署又ハ警察分署ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第十四條 木戸錢及席料ハ場内見易キ所ニ掲示スヘシ

第十五條 警察官吏ハ臨時演劇ニ監臨シ其所作ニシテ風俗又ハ治安ニ妨害アリト認ルカ若クハ標題外ニ渉ルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條 演劇ノ興行時間ハ日出ヨリ午後十二時マテヲ限リトス但非常烈風等ノ場合ニ於テハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十七條 劇場ニ用フル燈火ハ轉落セサル樣裝置シ又挾籃若クハ物ニ觸レ易キ場所ハ不燃質物ノ防隔器ヲ備フル等總テ危險ノ恐ナカラシムヘシ

第十八條 劇場内及其近傍ニハ火災ノ虞アル物品ヲ收藏スヘカラス

第十九條 演劇ノ興行中ハ非常用ノ爲メ木戸口ヲ開放スヘシ

第二十條 觀客退出ノトキハ木戸口ノ外非常口ヲ使用スルモ妨ケナシ但非常口ニハ非常口タルコトヲ掲示スヘシ

第二十一條 演劇ノ興行中ハ毎日廁圊ヲ清潔ニ掃除シ防臭劑ヲ撒布スヘシ

第二十二條 演劇ノ興行中ハ觀客ニ對シ種々ノ名義ヲ付シ濫リニ出錢ヲ促スヘカラス

第二十三條 演劇ノ興行中ハ場内ノ公安ヲ妨害スヘキ所爲アル者ハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ退場セシムルコトアルヘシ

第二十四條 第二條乃至第五條第七條乃至第二十三條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

一　從來設置ノ劇場ニシテ本則ニ牴觸スルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出大修繕ヲ爲スマテ改造ノ猶豫ヲ請フコトヲ得但危險ノ恐アリト認ムルトキハ特ニ改造ヲ命スルコトアルヘシ

〔山形警〕

●劇場及演劇取締施行手續

（明治二十四年四月　警規第三七號）

第一條 劇場建設ノ願出アリタルトキハ圖面及仕樣書等ニ依リ審査ヲ遂ケ尚ホ實地檢査ノ上意見ヲ付シ警部長ノ指揮ヲ受ケ免許ヲ與フルトキハ第一號書式ノ免許證ヲ下付スヘシ但改造又ハ變更ノ願出アリタルトキ亦同樣指揮ヲ受クヘシ

第二條 劇場ノ新設改造又ハ變更ノ工事竣功ノ屆出アリタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ適當ト認ムルトキハ使用ヲ許スヘシ

第三條 免許證面ニ異動ヲ生シ又ハ毀損亡失ノ屆出アリタルトキハ其事實ヲ調査シ書換若クハ再渡ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ一個年三回以上劇場ヲ檢査シ若シ危險ノ恐レアルトキハ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコトヲ得但必要アリト認ルトキハ臨時檢査ヲ爲スヿヲ得

第五條 演劇興行ノ屆出アリタルトキハ審査ヲ遂ケ風俗又ハ治安ヲ害スルノ恐レナク其他規則ニ牴觸スル廉ナシト認ムルトキハ認可ヲ與フヘシ

第六條 演劇興行ハ觀料ノ有無ニ拘ハラス公開ノ場所ニ於テ演スルトキハ總テ規則ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第七條 劇場ニアラサル場所ニ於テ一時演劇興行ヲ爲サント屆出アリタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ適當ト認ムルトキハ使用ヲ許スヘシ但必要ナシト認ムルトキハ此限リニアラス

第八條 演劇興行ニハ警察官吏ヲ監臨セシメ諸般ノ取締ヲ爲サシムヘシ但必要ナシト認ムルトキハ此限リニアラス特ニ必要アルトキハ監臨官ノ外場内取締ノ爲メ警察官吏ヲ派遣スルコトヲ得

第九條 監臨警察官吏ハ左ノ事項ヲ注意スヘシ

一　演劇ノ所作ニシテ風俗又ハ治安ヲ害スルノ恐レナキカ又ハ標題外ニ渉ルコトナキヤノコト

二　火災盜難掏摸等ヲ警戒シ其他總テ場内ノ公安ヲ保護スルコト

三　喧嘩雜沓ヲ制止スルコト

尚各項ノ外規則ニ違犯スルノ所爲

第十條 演劇ノ所作風俗又ハ治安ヲ害スルノ恐レアルカ若クハ標題外ニ渉ルトキハ監臨警察官吏ニ於テ興行ヲ停止スルコトヲ得

第十一條 演劇興行中場内ノ公安ヲ妨害スヘキ所爲ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ退場セシムルコトヲ得

第十二條 警察署又ハ警察分署ニ於テハ第二號書式ニ依リ劇場ノ臺帳ヲ調製シ增減變更アル每ニ之ヲ加除スヘシ

第一號書式

免許證（免許證用紙ヲ用ユ）

表

第何號
何郡市町村大字何何
劇場免許證
何郡市町村大字何何
何番地職業身分
開設人　何　某

裏

明治何年何月何日
山形縣何警察署
何警察分署　印

第二號書式
臺帳（美濃罫紙ヲ用ユ）
何郡市町村大字何何
一　劇場一個所
何郡市町村大字何何何番地
職業身分
開設人　何　某

〔山形縣〕

一　免許年月日　、、、、、、、、、
一　棧敷及土間坪數　、、、、、、、、、
一　棧敷及土間定員　、、、、、、、、、
一　、、、、、、、、、、、、、

備考

何年何月何日檢査ヲ爲シタルニ危險ノ場所ナキ旨官何某カ復命セリ又ハ何所破損ニ付改修ヲ命シタル旨復命セリ又ハ何何

何年何月何日何郡市町村大字何何何某ニ讓渡シタリ

何年何月何日何何ニ付免許證ヲ書換下付ス

火防具何何及人夫何人ヲ準備ス又ハ何何ニ付何年何月何日火防具及人夫ヲ準備セサルコトヲ認可ス

等ノ類ニシテ總テ取締上參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘキモノトス

臺帳紙葉ノ末尾ニ圖面及仕樣書ヲ添付シ置クヘシ

●演藝場及遊觀場取締規則

明治二十四年四月八日
山形縣令第三十四號

改正　明治三四年縣令第五四號、同四一年第八六號、大正一一年縣令第八七號

第一條　演藝場ハ技藝（講談、能狂言、相撲、撃劍、音曲、手踊、落語、浄瑠璃、唄、輕業、手品、曲馬、足藝、綱渡、操人形、寫繪、幻燈ノ類）ヲ演シ公衆ノ觀覽ニ供スル公開ノ場所ヲ云フ

第二條　遊觀場ハ觀セ物（生人形、覗眼鏡其他動物ノ類）ヲ公衆ノ觀覽ニ供スル公開ノ場所ヲ云フ

〔山形縣〕

第三條　定席ヲ建設セントスルモノハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ願出免許ヲ受クヘシ

一　建物ノ圖面及構造ノ仕樣書
二　四隣人家ノ距離ヲ詳記シタル圖面
三　客席ノ定員
四　落成ノ期日

第四條　定席ヲ改造又ハ變更セントスルトキハ前條ニ依リ出願免許ヲ受クヘシ

第五條　前二條ノ構造落成シタルトキハ使用前所轄警察署又ハ〔警察分署〕ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第六條　定席ヲ賣買讓與シ又ハ廢席シタルトキハ免許證ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ屆出ヘシ但賣買讓與ニ係ルトキハ連印ヲ要ス

第七條　定席ハ左ノ制限ニ從ヒ堅牢ニ構造スヘシ

一　空氣ヲ疏通セシムル爲メ各要所ニ窓牖又ハ空氣拔ヲ設クヘシ
二　客席ノ天井ハ床上ヨリ九尺以上ノ高サニ設クヘシ
三　二階席階段ハ幅四尺五寸以上棧敷ハ幅三尺以上蹴込八寸以上踏上ケ六寸五分以下ニシテ欄干ヲ付シタル階段ヲ設クヘシ
四　客室十五坪以上アル二階席ハ階段二個以上ヲ設クヘシ
五　木戸口及客席出入口ハ幅並高サ六尺以上タルヘシ但二階席出入口ハ幅五尺以上トス
六　客室十五坪以上アルトキハ前項ノ外空地ニ面シ出入口一個以上ヲ増加スヘシ
七　圊厠ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ之ヲ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ石陶器油桶又ハ厚板ノ類ヲ用ヒ其周圍ハ敲キ又ハ漆喰等ヲ以テ之ヲ堅メ汚汁ヲ滲透セサラシムヘシ

第八條　客席ハ一人ニ付方一尺六寸以上ノ割合ヲ以テ之ヲ定メ其定員ハ見易キ場所ニ掲示スヘシ但定員外ヲ入場セシムヘカラス

第九條　免許證面ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ屆出書換若クハ再渡ヲ請フヘシ

第十條　警察官吏ハ臨時定席ヲ點檢シ若シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ直チニ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條　演藝又ハ觀セ物ノ興行ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ屆出認可ヲ受クヘシ

一　演藝又ハ觀セ物ノ種別
二　演藝者ノ本籍住所氏名
三　興行ノ日數開閉時間及場所
四　木戸錢及席料

第十二條　興行ヲ休止シ又ハ日延ヲ爲ストキハ所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ屆出ヘシ

第十三條　定席ニアラサル場所ニ於テ興行ヲ爲サントスルトキハ其場所及建物ノ圖面ヲ添ヘ使用前所轄警察署〔又ハ警察分署〕ニ屆出檢査ヲ受クヘシ但劇場ヲ用ヰルトキハ此限ニ在ラス

第十四條　木戸錢及席料ハ場内見易キ所ニ掲示スヘシ

第十五條　警察官吏ハ臨時演藝又ハ觀セ物ニ監臨シ風俗又ハ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條　興行時間ハ日出ヨリ午後十二時マテヲ限リトス但非常烈風等ノ場合ニ於テハ停止スルコトアルヘシ

第十七條　燈火ハ轉落セサル樣裝置シ其他總テ危險ノ虞ナカラシムヘシ

第十八條　興行中ハ非常用ノ爲メ木戸口ヲ開放スヘシ

第十九條　興行中ハ毎日圊圂ヲ清潔ニ掃除シ防臭劑ヲ撒布スヘシ

第二十條　興行中ハ客ニ對シ種々ノ名義ヲ付シ濫リニ出錢ヲ促スヘカラス

第二十一條　興行中場内ノ公安ヲ妨害スヘキ行爲アルモノハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ退場セシムルコトアルヘシ

第二十二條　第三條乃至第六條第八條乃至第二十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

一　從來設置ノ定席ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出大修繕ヲ爲スマテ改造ノ猶豫ヲ請フコトヲ得但危險ノ虞アリト認ムルトキハ特ニ改造ヲ命スルコトアルヘシ

●演藝場及遊觀場取締規則施行手續

明治二十四年四月
警規第三六號

第一條　定席建設ノ願出アリタルトキハ圖面及仕様書等ニ依リ審査ヲ遂ケ尙ホ實地檢査ノ上意見ヲ付シ警部長ノ指揮ヲ受ケ免許ヲ與フルトキハ第一號書式ノ免許證ヲ下附スヘシ但改造又ハ變更ノ願出アリタルトキ亦同様指揮ヲ受クヘシ

第二條　定席ノ新設改造又ハ變更ノ工事竣功ノ届出アリタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ適當ト認ムルトキハ使用ヲ許スヘシ

第三條　免許證面ニ異動ヲ生シ又ハ毀損亡失ノ届出アリタルトキハ其事實ヲ調査シ書換若ハ再渡ヲナスヘシ

第四條　警察官吏ハ一箇年三回以上定席ヲ檢査シ若シ危險ノ恐レアルトキハ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコトヲ得但必要アリト認ムルトキハ臨時檢査ヲ爲スコトヲ得

〔山形警〕

第五條　演藝又ハ觀セ物ノ興行届出タルトキハ審査ヲ遂ケ風俗又ハ治安ヲ害スルノ恐レナク其他規則ニ抵觸スル廉ナシト認ムルトキハ認可ヲ與フヘシ

第六條　演藝又ハ觀セ物興行ハ代料ノ有無ニ拘ハラス公開スルモノハ總テ規則ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第七條　定席ニアラサル場所ニ於テ演藝又ハ觀セ物興行ヲ爲サントスル届出アリタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ適當ト認ムルトキハ使用ヲ許スヘシ但必要ナシト認ムルトキハ此限リニアラス

第八條　演藝又ハ觀セ物興行ニハ警察官吏ヲ監臨セシメ諸般ノ取締ヲ爲サシムヘシ但必要ナシト認ムルトキハ此限リニアラス

第九條　監臨警察官吏ハ左ノ事項ヲ注意スヘシ
一　演藝又ハ觀セ物ニシテ風俗又ハ治安ヲ害スル恐レナキヤノ事
二　火災盜難擲投等ヲ警戒シ其他總テ場内ノ公安ヲ保護スル事
三　喧噪雜沓ヲ制止スル事
前各項ノ外規則ニ違犯スルノ所爲

第十條　演藝又ハ觀セ物興行ニシテ風俗又ハ治安ヲ害スルノ恐レアルトキハ監臨警察官吏ニ於テ興行ヲ停止スルコトヲ得

第十一條　演藝又ハ觀セ物興行中場内ノ公安ヲ妨害スヘキ所爲ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ退場セシムルコトヲ得

第十二條　警察署〔又ハ警察分署〕ニ於テハ第二號書式ニ依リ定席ノ臺帳ヲ調製シ増減變更アル毎ニ之ヲ加除スヘシ

第一號書式

免許證（免許證用紙ヲ用ユ）

表

第何號
何郡市町村大字何何
定席免許證
何郡市町村大字何何
職業身分
開設人　何　某

裏

明治何年何月何日
山形縣　何警察署
　　　　何警察分署　印

〔山形警〕

第二號書式

臺帳（美濃罫紙ヲ用ユ）

一　定席一箇所　何郡市町村大字何何
何郡市町村大字何何何番地
職業身分
開設人　何　某

一　免許年月日　、、、、、、
一　客席坪數　、、、、、、
一　客席定員　、、、、、、
一　、、、　、、、、、、

備考
何年何月何日檢査ヲ爲シタルニ危險ノ場所ナキ旨官何某カ復命セリ又ハ何所破損ニ付改修ヲ命シタル旨復命セリ又ハ何何 何年何月何日何郡市町村大字何何何某ニ讓渡シタリ 何年何月何日何何ニ付免許證ヲ書換下付ス 等ノ類ニシテ總テ取締上參考トナル事實ヲ記載スヘキモノトス

臺帳紙葉ノ末尾ニ圖面及仕様書ヲ添附シ置クヘシ

（參照）〇保安課ヨリ各署分署ヘ通牒保第六七四號　二十八年十二月九日

別紙甲號ノ伺ニ對シ乙號ノ通ニ指令相成候條此段及御通牒候也
追テ但書ニ付テハ指令不相成候條申添候也

（別紙）甲號　山形市署長伺

發第六六三一號　二十八年十二月六日

玆ニ料理屋貸座敷ノ藝妓等踊浚等ト稱シ劇場ニ於テ手踊興行ヲナストキハ縣令藝妓鑑札アリト雖モ別ニ俳優若クハ遊藝鑑札ヲ受ケシムル見込ニ候得共縣下一般一定ヲ要スル儀ニ付請伺仕候目下差掛ノ件有之本日中ニ何分ノ御指揮相成度候也但該興行ハ市街ヘハ相當ノ興行稅ヲ納メ木戸等ハ取ラサルモ下足手數料ト稱シ金二錢ヲ徵收候由是亦何等ノ名義ヲ附スト雖モ木戸錢ト思料セリ

（乙號）

警令第一二七號指令

十月六日付發第六六三一號藝妓手踊伺ノ件營利ノ事實ナキトキハ別ニ鑑札ヲ受クルニ及ハスト心得ラルヘシ

[illegible]

〔山形警〕

[illegible]

第十二章　銃砲火藥類其ノ他危險物

〔山形警〕

●爆發物取締罰則

明治十七年十二月二十七日
太政官布告第三十二號

（改正　明治四十一年法律第二九號、大正七年法律第三四號）

第一條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條　前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條　第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條　第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條　第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六條　爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條　爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條　第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條　廢止

第十一條　第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條　本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

●銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日
法律第五十三號

（改正　大正六年法律第二號、一一年第二號）

第一條　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的競技等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條　行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ爲スルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條　銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條　軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條　銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔山形警〕

第十條　行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條　前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍
二　銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱
三　銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項
四　銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項
五　火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條　第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

〔山形警〕

第二十三條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年三月勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ク

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

●銃砲火藥類取締法施行規則

明治四十四年三月十一日
勅令第十六號

改正　大正六年勅令第一八四號、一二年第一七六號

第一條　銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ

軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條　銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ揭クル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一　火藥　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類
二　爆藥　雷酸鹽（雷汞）ノ類起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛）ノ類其ノ他ノ起爆

類、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナマイトノ類、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル綿火藥、芳香系列ノ硝化物（ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロトリュオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチルアニリンノ類）及之ヲ主トスル混和物ノ類

三　火工品　實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線（一尺ノ燃燒時間十秒以上ヲ要スルモノ）、速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス

第二條ノ二　新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　火藥　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥

二　爆藥　雷酸鹽ノ類、雷汞、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナマイト、硝酸アンモニア若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル綿火藥、芳香系列ノ硝化物（ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロトリオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチールアニリンノ類）及之ヲ主トスル混和物又ハ煙火原料用爆藥

三　火工品全部

第二條ノ三　左ニ掲クル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セス

一　理化學上ノ實驗トシテ小量ノ火藥類ヲ製造、變形又ハ修理スル場合

〔山形縣〕

二　乙種狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル者又ハ學術研究若ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃器ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用實包一日百個以內ヲ製造スル場合

三　有害鳥獸威嚇ノ爲銃用空包發射ノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用空包一日百個以內ヲ製造スル場合

四　射的ノ練習又ハ競技ノ爲成年者タル練習者、競技者又ハ射的場ノ職員カ射的場內ニ於テ練習者又ハ競技者一人ニ付其ノ所要ノ非軍用銃用實包又ハ狹窄射擊用銃用實包一日三十個以內ヲ製造スル場合

五　學校ノ發火演習ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ學生又ハ生徒一人ニ付其ノ所要ノ銃用空包三十個以內ヲ製造スル場合

六　學校ノ運動會又ハ競技會ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ其ノ所要ノ信號用ノ銃用空包二百個以內ヲ製造スル場合

第三條　銃砲火藥類取締法又ハ本令ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

第四條　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添付シテ作業地廳府縣長官ニ屆出ツヘシ

第五條　軍用銃砲又ハ火藥若ハ爆藥（煙火原料用火藥又ハ爆藥ヲ除ク）ノ製造ノ許可ハ作業地廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ內務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ內務大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ火藥類ニ付テハ內務大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第六條　非軍用銃砲ノ製造、煙火原料用火藥若ハ爆藥ノ製造、火藥若ハ爆藥ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ營業地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第七條　行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル廳府縣長官ノ檢査ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第八條　銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條　前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官ノ職權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第十條　第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ

第十一條　銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ハ內務大臣之ヲ定ム

〔山形縣〕

第十三條　火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條　火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十五條　火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第十五條ノ二　火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

火藥類ノ作業主任者ノ資格ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第十六條　火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

火藥類讓受ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ亙リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條　左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ內務大臣ノ定メタル場合ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

一　火藥	三貫以內
二　爆藥	一貫三百匁以內
三　工業用雷管	二千個以內
四　信管	千個以內
五　爆管	千個以內
六　門管	千個以內
七　導火線	五百間以內

第十八條　軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察

管轄ニ之ヲ申請スヘシ

一　火薬　一貫三百匁以内
二　銃用實包　千個以内
三　銃用空包　千個以内
四　銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附薬莢　二千個以内

第十九條　前條ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス

前三條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

前三條ノ規定ニ依ル讓受ノ許可ハ讓受ヲ要スル事由ノ消滅ニ依リ其ノ效力ヲ失フ

第二十條　軍用銃砲又ハ火薬類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セサルモノトス

第二十一條　鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ採掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火薬類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火薬類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火薬類ニ限リ、狩獵免許ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火薬類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火薬類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス

第二十二條　火薬類ハ左ニ掲クル者カ其ノ火薬類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

一　火薬類販賣業者
二　火薬類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火薬類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
三　第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火薬類讓受ノ許可ヲ受ケタル者
四　前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火薬類ヲ讓受ケタル者

五　第二十三條ノ規定ニ依リ火薬類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
六　運送業者
七　相續又ハ遺贈ニ因リ火薬類ノ所有權ヲ取得シタル者
八　法人ノ合併ニ因リ火薬類ノ所有權ヲ取得シタル者
九　前各號ニ掲クル者ノ家族又ハ從業者

火薬類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セサルニ至リタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火薬類ニ之ヲ適用セス

第二十三條　銃砲火薬類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火薬類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條　前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火薬類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ讓受ケタル火薬類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第二十六條　銃砲火薬類取締法第十一條ノ規定ニ依ル銃砲火薬類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第二十七條　火薬類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火薬庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

一　土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火薬類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
二　六月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火薬類ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以内ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合
三　火薬ヲ裝塡セサル雷管附薬莢ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合

第二十八條　火薬類貯藏所ニ貯藏スル火薬類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

貯藏所ノ種類 火薬類ノ種類	火薬庫	倉庫	假貯藏所
火薬	一萬貫	十二貫	五千貫
爆薬	五千貫	三貫	二千五百貫
銃用實包	二千萬個	三萬個	千萬個
銃用空包	二千萬個	三萬個	千萬個
銃用雷管	五千萬個	十萬個	五百萬個
工業用雷管	三百萬個	一萬個	三十萬個
信管、導管、門管	無制限	三萬個	無制限

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火薬又ハ爆薬ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附薬莢及導火線ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火薬庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火薬類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得

第三十條　火薬類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火薬類ノ數量ハ其ノ設備ニ應シ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス

第三十一條　火薬類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火薬類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　火薬類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ增築、改築、修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ

工事ヲ竣リタル火薬類貯藏所ハ警察官ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條　第二十八條ノ規定ニ依リ火薬類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火薬類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

一　宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ヘ二十町以上
二　皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常繫場若ハ繫留所又ハ市街地ヘ四町以上
三　宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル發火物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所ヘ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ增減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ增減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減

少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條　內務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩堤ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條　第二十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條　第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條　火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬シ又ハ託送スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三十八條　地雷又ハ物件ヲ破碎スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ但シ內務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ採掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帶スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル兇器ニ之ヲ準用ス

第四十條　拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

〔山形縣〕

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ兇器ニ之ヲ準用ス

第四十一條　火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歲以上ノ者ニ限リ之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條　營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ兇器ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ讓渡シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ處分ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條　第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條竝本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及遞信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四十五條　第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者竝本令ニ基キテ發スル內務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類

貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條　第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條　銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ兇器及爆發性物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條　公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條　左ノ事項ハ內務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

一　火藥類ノ貯藏、取扱、荷造其ノ他ノ授受ノ方法及制限

二　第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法

三　火藥類運搬ノ方法及制限

四　火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備

五　火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條　前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附　則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改築スヘシ

〔山形縣〕

●銃砲火藥類取締法施行細則

明治四十四年三月十一日
內務省令第二號

改正　大正三年內務省令第二六號、六年第一六號、一二年第一二號

第一條　銃砲ノ製造又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齡、職業（會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、定款寫、社員若ハ株主ノ名簿）、製作ノ目的、製作品ノ種類、其ノ細密圖及說明、一定ノ期間內ニ製作スヘキ豫定數量、作業ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備、職工其ノ他ノ勞務者ノ取締ニ關スル規定、試驗射擊ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲特ニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

銃砲販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齡、職業會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、定款寫、社員若ハ株主ノ名簿、販賣所及貯藏所ノ位置ヲ具スルコトヲ要ス

第二條　火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齡、職業（會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、定款寫、社員若ハ株主ノ名簿）、製作ノ目的、製作品ノ種類及說明、一定ノ期間內ニ製作スヘキ豫定數量、作業主任者ノ氏名及履歷、作業ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備及其ノ附近ノ狀況、職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規定、

試驗爆發ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲特ニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ運搬及貯藏ノ方法、作業所ニ同時ニ置クヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限、其ノ他危害豫防ノ爲特ニ規定スヘキ事項ヲ具スルコトヲ要ス

火藥類販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齡、職業（會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿）、甲種、乙種ノ區別及販賣所ノ位置、設備ヲ具スルコトヲ要ス

第二條ノ二　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者第一條及第二條ノ規定ニ依リ許可申請書ニ具シタル事項（作業所ノ設備又ハ其ノ附近狀況ノ變更ヲ除ク）ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受ケタル行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ住所、氏名、職業（會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、定款、社員若ハ株主）ニ付テハ其ノ變更後七日内ニ屆出ツヘシ

第三條　銃砲火藥類製造業者其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ卸賣ヲ爲ストキハ其ノ事業開始前販賣所ノ位置、設備ヲ營業地ノ廳府縣長官ニ屆出ツヘシ

相續ニ依リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承繼シタル者ハ十日以內ニ其ノ營業ノ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

第四條　火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ廳府縣長官詮衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

一　實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他內務大臣ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上、直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

二　陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者

三　陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

四　別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

乙種

一　五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

第五條　一年間五千貫以上ノ火藥又ハ二千五百貫以上ノ爆藥ヲ取扱フ場合ニ於テハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者其ノ取扱ニ任スルコトヲ要ス

火藥及爆藥ヲ共ニ取扱フ場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做ス

第六條　火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、履歷及火藥類取扱免狀ノ種別ヲ具シ火藥類販賣業者ニ在テハ營業地、其ノ消費者ニ在テハ消費地警察官署ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ亙リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄警察官署ニ之ヲ屆出ツヘシ

第六條ノ二　火藥類作業主任者免狀ハ甲乙丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ甲種及乙種火藥類作業主任者免狀ハ內務大臣、丙種火藥類作業主任者免狀ハ廳府縣長官詮衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

一　火藥學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火藥學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二　陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者

三　高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類

製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

四　別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

乙種

一　高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二　陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三　實業學校令ニ依ル甲種實業學校其ノ他內務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

四　別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

丙種

一　實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他內務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者

二　陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三　別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

則　本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者

第六條ノ三　火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ左ノ免狀ヲ有スル火藥類作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

一　火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫以上ノ作業所ニハ甲種

二　火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫（雷汞ニ在リテハ二貫）以上ノ作業所ニハ乙種

三　煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿（雷汞ニ在リテハ二貫未滿）ノ作業所ニハ丙種

第六條ノ四　內務大臣ハ保安上必要ト認ムル場合ニ於テハ甲種及乙種火藥類作業主任者ノ變更ヲ命シ若ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ廳府縣長官ハ火藥類取扱人及丙種火藥類作業主任者ニ付亦同シ

第七條　銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ其ノ製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、製造又ハ取引ノ年月日及讓渡人並注文人、讓受人ノ住所氏名、法人ニ在テハ其ノ商號、事務所所在地其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

軍用銃砲、拳銃、短銃及仕込銃ヲ讓渡シ若ハ讓受ケ又ハ火藥類ヲ銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ要セサル者ニ讓渡シ又ハ同施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ要セサル者又ハ同施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ讓渡ノ認可ヲ受ケタル者ヨリ讓受ケタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓受人又ハ讓渡人ノ讓受又ハ讓渡ノ事由ヲ記載スヘシ

第八條　銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ一月間製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量並各種類月末現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十一條第一項、第二十二條及第二十二條ノ二ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀ハ一月分取纏前項屆出ト同時ニ所轄警察官署ニ之ヲ差出スヘシ

第九條　銃砲火薬類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者第二十一條第一項、第二十二條及第二十二條ノ二ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀ハ十日以內ニ所轄警察官署ニ之ヲ差出スヘシ

第十條　輸入許可申請書ニハ輸入スヘキ銃砲火薬類ノ種類、數量、輸入ノ目的、買入先、輸入港名及火薬類ニ在テハ其ノ成分、輸入數量ニ對スル貯藏ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

輸出許可申請書ニハ輸出スヘキ銃砲火薬類ノ種類、數量輸出ノ目的、輸出先、輸出港名、積載スヘキ船名及輸出品調達ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

第十一條　火薬類販賣業者火薬類ノ輸入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ輸入火薬類ノ種類及成分、數量、輸入港へ到達ノ日取、積載スヘキ船名並貯藏ノ方法ヲ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ屆出ツヘシ

第十二條　火薬類ヲ輸入シタル者ハ輸入ノ時ヨリ二十四時間以內ニ輸入シタル火薬類ノ種類、數量及陸揚シタル年月日ヲ輸入港所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十三條　銃砲火薬類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ム者銃砲火薬類ノ輸出ヲ爲サムトスルトキハ輸出前ニ其ノ種類、數量、輸出ノ目的、輸出先、輸出港名、輸出ノ年月日、輸出取扱者及積載スヘキ船名ヲ輸出港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　銃砲火薬類取締法施行規則第十六條第十七條及第十八條ニ依ル許可申請書ニハ讓渡シ又ハ讓受クヘキ銃砲火薬類ノ種類、數量、讓渡又ハ讓受ノ事由並火薬類ノ讓受ニ在テハ用途、消費ノ時、場所若シ消費ノ時又ハ場所定マラサルトキハ其ノ事由ヲ具スルコトヲ要ス但シ讓渡ニ付許可ヲ要スル者ヨリ火薬類ヲ讓受タル場合ニ於テハ讓受ノ許可申請ニ際シ讓渡ノ許可アリタルコトヲ證明スルコトヲ要ス

銃砲火薬類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火薬類讓受

【山形縣】

許可申請書ニ具スヘキ火薬類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

銃砲火薬類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ處分スヘキ火薬類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

第十五條　工事用、鑛業用、漁業用、船內銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火薬類ニ付テハ銃砲火薬類取締法施行規則第十七條ヲ適用ス

第十六條　銃砲火薬類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依ル工事若ハ工業ノ爲火薬類ヲ消費スルノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類、所要火薬類ノ種類、數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

第十七條　行政官廳軍用銃砲火薬類ノ讓渡、讓受又ハ運搬ノ許可若ハ銃砲火薬類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル火薬類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帶ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

銃砲火薬類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火薬類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至己號樣式ニ依ルモノトス

第十八條　前條ノ許可證ハ許可カ取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ

第十九條　軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火薬類又ハ第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ、盗取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知リタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知リタル時ヨリ二十四時間以內ニ銃砲火薬類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタ

【山形縣】

ル官廳名ヲ最寄警察官ニ屆出ツヘシ

第二十條　前條ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ疏明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條　軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火薬類讓受ノ許可證ハ銃砲火薬類ヲ讓受クルノ際之ヲ讓渡人ニ、其ノ讓渡ノ許可證又ハ認可證ハ銃砲火薬類ヲ讓渡スノ際之ヲ讓受人ニ交付スヘシ

銃砲火薬類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火薬類讓受ノ許可證ヲ有スル者ニ火薬類ヲ讓渡ス者ハ火薬類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印ノ上讓渡シタル數量カ許可數量ニ達セサルトキハ其ノ許可證ヲ讓受人ニ還付スヘシ

第二十二條　銃砲火薬類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火薬類ヲ讓受タル者ハ行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルニ足ルヘキ文書ヲ讓渡人ニ提示シ且鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ採掘ヲ爲ス者又ハ第十六條ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火薬類消費ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ讓受クヘキ火薬類ノ種類、數量、讓受ノ事由、用途、消費ノ時、場所、鑛業、工事若ハ工事ノ種類、試掘又ハ採掘登錄番號若ハ消費許可證番號ヲ具シタル讓受證書ヲ交付スヘシ

第二十二條ノ二　委任ニ依リ銃砲火薬類ヲ讓受クル者ハ前二條ノ許可證認可證若ハ讓受證書ト共ニ委任狀ヲ讓渡人ニ交付スヘシ

第二十三條　銃砲火薬類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リテ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ銃砲火薬類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火薬類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ日ヨリ十日以內ニ所轄警察官署ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二十四條　銃砲製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃ヲ變裝シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二十五條　第七條乃至第九條、第十七條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及其ノ罰則ノ規定ハ仕込刀劒其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第二十六條　火薬類作業所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　工場又ハ火薬類留置場ハ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

二　作業所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツヘシ

三　森林內ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍墻ニ沿ヒ幅一間以上ノ防火線ヲ設クヘシ

四　作業所內ハ危險區域ト無危險區域トヲ明瞭ニ區分シ作業上已ムヲ得サル建築物ヲ除クノ外危險區域內ニ築造スヘカラス

五　汽罐室及煙突ハ無危險區域內ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火薬類留置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

六　爆發ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有シ且爆發ニ當リ輕量ノ飛散物トナルヘキモノヲ用ウヘシ

七　爆發ノ危險アル工場又ハ火薬類留置場ニハ必要ニ應シ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ第三十二條第一項第六號乃至第八號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置及土堤ニ之ヲ準用ス

八　發火ノ危險アル工場ニハ避雷裝置ヲ爲スヘシ第三十二條第一項第六號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置ニ之ヲ準用ス

九　爆發又ハ發火ノ危險アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ强風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲撒水ヲ爲スヘシ但シ作業上已ムヲ得サルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

十　爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニハ適當個數ノ窓及非常ノ際避難者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開トシ其ノ金具ハ直接鐵ト摩擦スル部分ニハ銅、黄銅又ハ青銅ノ類ヲ用ヰ日光ノ直射ヲ受クル部分ノ窓硝子ニハ不透明ノモノヲ用ウヘシ

十一　爆發ノ危險アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剝落飛散ヲ防キ且鐵類ヲ露出セサル措置ヲ爲スヘシ

十二　火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井，内壁ハ罅隙ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐ユル塗料ヲ塗布スヘシ

十三　爆發又ハ發火ノ危險アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用ヰテ密ニ張リ詰メ火藥類ノ塗着又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

十四　發火性又ハ引火性瓦斯若ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ

十五　爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スヘシ

十六　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ原動機ヲ据付クルコトヲ得ス但シ火藥類粉末又ハ爆發性，引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スヘキ裝置アル區劃内ニ据付クルハ此ノ限ニ在ラス

十七　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ据付又ハ備付クル機械器具類ハ作業上已ムヲ得サル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用ヰ鐵ノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附着ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

十八　火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スヘシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得サルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

十九　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ溫水ノ外使用スルコトヲ得ス

暖房裝置ハ燃燒シ易キ物件ト隔離シ且塵埃又ハ火藥類粉末ノ附着ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

〔山形縣〕

二十　火藥、爆藥乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥、爆藥ヲ乾燥スル場所ヨリ隔離スヘシ但シ溫水暖房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二十一　工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部見易キ場所ニ揭示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ヘキ原料及製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スヘシ

二十二　工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、爆藥内ニ混入セシメサルノ措置ヲ爲スヘシ

二十三　火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スヘシ

二十四　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃燒シ易キモノヲ堆積スヘカラス

二十五　工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帶品ノ檢査ヲ行フヘシ

二十六　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スヘカラス

二十七　爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

二十八　危險區域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ノ外立入ラシムルコトヲ得ス

二十九　作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非サレハ喫煙スヘカラス

三十　爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スヘカラス

三十一　爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場ニハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス

〔山形縣〕

三十二　火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル最少量ニ非サレハ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ス作業中避クヘカラサル停滯品ヲ生シタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クヘシ

三十三　作業所内ニ於テ生シタル火藥類ノ廢藥及不良品ハ一定ノ廢藥容器ニ收容シ毎日一囘一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ

三十四　火藥、爆藥又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ作リ且確實ニ之ヲ閉塞スヘシ

三十五　火藥類運搬ノ通路ハ暴露シタル火氣使用ノ場所ヲ迴避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムヲ得サル場合ノ外六十分ノ一以下ト爲スヘシ

三十六　爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ於テ改築、修繕等ノ工事ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ着手前危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ

三十七　爆發其ノ他ノ變異ヲ生シタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ屆出ツヘシ警察官署ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ現狀ヲ變更スルコトヲ得ス

三十八　製造又ハ變形修理シタル火藥、爆藥ノ容器及其ノ外箱ニハ火藥、爆藥ノ種類、數量、作業所名及製造又ハ變形修理ノ年月日ヲ明記スヘシ

第二十六條ノ二　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ但シ同時ニ二十五貫以上ノ火藥ヲ取扱ハサル工場ニ於テハ土堤ヲ省略シ不燃質物ヲ以テ築造セル墻壁（高サ工場ノ屋頂ト同ク厚サ頂部ニ於テ二尺五寸以上脚部ニ於テ三尺五寸以上）ヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得

二　同時ニ百五十貫以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲スコトヲ得ス

三　放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ

四　火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離（外壁ヨリ外壁ニ至ル以下之ニ倣フ）ヲ保有スヘシ

五　爆發ノ危險アル工場ニシテ成形機、壓搾機若ハ研磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區劃セルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

六　同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ危險ナル作業用機械ヲ据付クルコトヲ得ス但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エサル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノヲ据付クルトキハ此ノ限ニ在ラス

七　火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製篩ヲ使用スルコトヲ得ス

八　火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スヘシ

九　木炭ハ炭化後七日以上ヲ經過スルニ非サレハ粉末ト爲スコトヲ得ス

十　硫黄、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉碎混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スヘシ

十一　混和機ヲ使用シ混和シタル硫黄、木炭ノ二味混和物ハ更ニ篩分スルニ非サレハ硝石ヲ混和スルコトヲ得ス

十二　硫黃、木炭、硝石ノ三味混和機ニハ金屬類ノモノヲ使用スヘカラス

十三　火藥及其ノ原料ニシテ床上又ハ地上ニ落下シ汚穢セルモノハ直ニ盛水容器ニ之ヲ收容スヘシ

十四　左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
三味混和工場	混和機一回ノ仕込量	二人
壓搾又ハ搗磨工場	壓搾機又ハ搗磨機一回ノ仕込量	二人
水壓工場	水壓機一回半ノ仕込量	四人
破碎工場	七十貫	三人
成形工場	成形機一回ノ仕込量又ハ八十貫	三人
篩分工場	八十貫	二人
乾燥工場	千貫	十人
篩粉工場	八十貫	二人
光澤工場	光澤機一回ノ仕込量	二人
混同工場	二百五十貫	三人
收函工場	二百五十貫	三人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ三味混和工場、壓搾又ハ搗磨工場、水壓工場、破碎工場、成形工場、篩分工場、乾燥工場、篩粉工場、光澤工場、混同工場及收函工場ヲ謂フ

〔山形縣〕

第二十六條ノ三　硝化綿爆藥ヲ主トスル無煙火藥、爆發ノ用途ニ供スル綿火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　綿火藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ

二　綿火藥乾燥工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ乾燥工場相互間ノ距離ハ此ノ限ニ在ラス

三　火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上五十貫以上ノ火藥類ヲ停滯セシメサルモノニ在リテハ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四　火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放爆式構造ニ依ルモノニ在リテハ三個壁ノ厚サヲ一尺以上トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ其ノ壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ放爆面ノ防火壁又ハ其ノ保有距離ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用ス

五　無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケ若ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

六　アルコール、エーテル、アセトン類ノ貯藏所ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

七　發火ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

八　發火ノ危險アル工場ニハ自働注水消火設備ヲ爲スヘシ但シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケ之ニ代ルヘキ消火設備ヲ爲スコトヲ得

九　工場內ニ於テハアルコール、エーテル、アセトン類ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用[illegible]

十　綿火藥ハ作業上必要アル場合ノ外之ヲ乾燥スルコトヲ得ス

十一　乾燥工場ニ於ケル乾燥溫度ハ攝氏五十度ヲ超ユルコトヲ得ス

十二　乾燥セル無煙火藥又ハ綿火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬容器ニ收容スルコトヲ得ス

十三　左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
除水工場	除水機二回ノ仕込量	一機ニ付二人
捏和工場	捏和機二回ノ仕込量	同三人
成形（壓伸、壓延、截斷等）工場	一機ニ付四十八貫	同三人
溶劑揮集又ハ風乾工場	四百五十貫	六人
光澤工場	光澤機二回ノ仕込量	三人
篩分工場	百三十五貫	五人
乾燥工場	千五百貫	六人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

〔山形縣〕

第二十六條ノ四　雷汞、雷管製造ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　化成洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱工場ハ各別棟ニ之ヲ建設スヘシ

二　乾燥工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、塡粒工場及塡壓工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

三　乾燥工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ

四　乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ取扱フ混和工場、塡粒工場及塡壓工場ハ三個壁ノ厚サヲ一尺以上トシ抗力微弱ナルモノヲ以テ他ノ一側壁及屋根ヲ築造シ連接シテ之ヲ築造スル場合ニ於テハ各工場間ノ防火壁ヲ厚サ一尺以上ノ煉瓦造ト爲スヘシ

五　混和工場ニハ混和機二箇以上ヲ据付クルコトヲ得ス

六　濕潤セル雷酸鹽ハ水ト共ニ硝子製容器ニ收納スヘシ但シ一容器ニ二貫七百匁以上ヲ收納スルコトヲ得ス

七　乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ハ紙又ハ護謨製容器ニ收納スヘシ

八　乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ運搬スル際ニハ百三十匁以內ヲ紙又ハ護謨製容器ニ收納シ總量二百六十匁以內ヲ限リ携行スヘシ

九　乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱ヲ爲ス勞務者ニハ胸當ヲ使用セシメ且其ノ粉末飛散ノ虞アル工場內ノ勞務者ニハ口覆又ハ眼鏡ヲ使用セシムヘシ

十　雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ乾燥溫度ハ攝氏五十度以下トシ乾燥ヲ了リタルモノハ乾燥室外ノ溫度ト大差ナキ溫度ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ容器ニ移入スヘカラス

十一　洗滌作業中水ト共ニ流出スル微量ノ雷酸鹽又ハ他ノ作業中床上等ニ落下シ若ハ器具類ニ附着セル藥粉及廢藥等ハ次亞硫酸曹達液ヲ以テ處理シ無危險物ト爲スヘシ

十二　左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類		火藥類ノ最大數量	勞務者定員
乾燥工場		十四貫	一人
混和工場	粘調狀態ニテ混和スルモノ	當該量六百匁	五人
	乾燥シテ混和スルモノ	同 二十七匁	一人
造粒工場	粘調狀態ニテ造粒スルモノ	同 五十四匁	一人
	乾燥シテ造粒スルモノ	同 十四匁	一人
篩分工場		同 百匁	一人

第二十六條ノ五 芳香系列ノ三硝基以上ノ硝化物（フェノール又ハクレゾールノ硝化物ヲ除ク）ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶劑等液回收工場ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ火氣ニ對シ特ニ安全ナル場所ヲ選定シ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ其ノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

二 乾燥工場及收函工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十間以上、收函工場ハ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得

三 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶劑等液回收工場ニハ作業中發生スル瓦斯及蒸氣ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ

四 引火性ノ原料及藥劑ハ完全ナル容器ニ收納シテ倉庫ニ貯藏シ又ハ堅牢ナル地下貯槽ニ收納シテ屋外安全ナル場所ニ貯藏スヘシ

地上倉庫ニ貯藏スル場合ニ在リテハ其ノ倉庫ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有シ且火災豫防上特別ノ設備ヲ爲スヘシ

〔山形縣〕

五 硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且就業後入浴セシムヘシ

六 硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場內ノ從業者ニハマスクヲ使用セシムヘシ

七 左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類最大數量	勞務者定員
乾燥工場	千五百貫	六人
收函工場	八百貫	十人

第二十六條ノ六 ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆藥各種ダイナマイトノ類ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 爆發ノ危險アル工場ハ汽罐汽機室、添加劑製造工場（硅藻土ノ燒燼ヲ除ク）、鉛工場等爆藥製造ニ直接關聯セル工場並從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場（乾燥工場、篩分工場ヲ除ク）等ダイナマイト製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、社宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、現場試驗室、秤量室、ダイナマイト包裝用紙又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二 爆發ノ危險アル工場ハ棉火藥乾燥工場、同篩分工場、配合工場、壓伸工場、包裝工場、收函工場及古藥分離工場ヲ除クノ外之ヲ系統的ニ配置スヘシ

三 一系統內ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ集築スルコトヲ得ス

四 系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

五 グリセリン硝化工場ハ作業所內ノ他ノ建築物（硝化豫備工場ヲ除ク）ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十三間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

六 ナイトログリセリン洗滌工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以內ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スヘシ

七 濾過工場、配合工場、豫捏和工場、捏和工場、壓伸工場、壓榨工場及包裝工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量第五號規定ノ限度ニ於テ各第五號規定ノ距離ヲ保有スヘシ

八 古藥分離工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

九 收函工場、棉火藥乾燥工場及同篩分工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

十 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン又ハナイトログリセリン等ノ流通樋又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設クルコトヲ得ス

十一 爆發ノ危險アル工場ニハ各個ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニ爆發ノ際飛散物ニ對スル避難ノ設備ヲ爲スヘシ

十二 ナイトログリセリンノ流通樋ハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲工場ヨリ隔離シ常ニ淸潔ナラシメ臨時故障ノ有無ヲ檢査スヘシ

十三 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通樋ニハ鉛、護謨又ハ釉藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加溫ノ設備ヲ爲スヘシ

〔山形縣〕

十四 爆發ノ危險アル工場ノ窓ハ外開キトシ且硝子戶ニ在リテハ其ノ內面ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ

十五 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ內容物ヲ檢溫シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

十六 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ內容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ

十七 グリセリン硝化器及分離器ノ內容物ヲ壓搾空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スヘシ

十八 左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
硝化工場	硝化二回分	四人
洗滌工場（又ハ洗滌濾過工場）	千百貫	二人（洗滌工場ニ於テ濾過作業ヲ行フモノハ三人）
濾過工場	百八十七貫	二人
配合工場	ナイトログリセリン 十四貫 棉火藥其ノ他 二十七貫	四人
豫捏和工場	百六十貫	三人
機械捏和工場	百三十四貫	三人
手捏和工場	八貫	五人
壓伸工場	百三十四貫	五人

壓伸工場	八貫	五人
包裝工場	百三十四貫	十人
收函工場	百三十四貫	四人
古酸分離工場	二貫	二人
綿火藥乾燥工場	二十七貫	二人
同篩分工場	三十二貫	四人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ棉火藥乾燥工場、同篩分工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌工場、濾過工場、配合工場、煉和工場、捏和工場、壓伸工場、壓斷工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ謂フ

第二十六條ノ七　硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場（攝氏四十五度以上ノ溫度ヲ以テスルモノ）、裝藥工場、包裝工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場及完成爆藥ノ取扱工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ

二　甲種硝安爆藥ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場ノ從業者ニハ火焔ニ對シ難燃性ヲ有スルモノヲ服セシムヘシ

三　乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場（攝氏四十五度以上ノ溫度ヲ以テスルモノ）及完成爆藥ノ取扱工場ニ於テ防爆壁及土堤ヲ設ケタル作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ作業所內作業スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四

〔山形縣〕

プロセント以上ノ硝化綿纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル爆藥ノ工場ニ在リテハ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量ニ關スル本號規定ノ區別ニ從ヒ六間、十二間又ハ十七間ニ短縮スルコトヲ得

四　乙種硝安爆藥ノ裝藥工場及包裝工場ニハ各個ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四プロセント以上ノ硝化綿纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル乙種硝安爆藥ノ包裝工場ハ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ二工場以內又ハ收函工場ト連接シテ築造スルコトヲ得

本條ニ於テ甲種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアヲ主劑トシ二硝基ベンジン、二硝基ナフサリン、硝酸鹽類又ハ穀粉ノ類ヲ混和セルモノヲ謂ヒ乙種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアヲ主劑トシナイトログリセリン、硝化綿纖維素、三硝基トリユオール、鹽素酸鹽類又ハ過鹽素酸鹽ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ

第二十六條ノ八　フエノール又ハクレゾールノ二硝基以上ノ硝化物ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　乾燥工場、收函工場、其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ各個ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十八間以上、收函工場其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ作業中停滯スヘキ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

二　硝化工場、洗滌及精製工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ヰ火焔ニ對シ安全ナル場所ヲ選定シ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以內ヲ連接シテ築造スルコ

〔山形縣〕

トヲ得

三　硝化物ヲ取扱フ工場ニ於テハ硝化物ハ接觸ニ依リ危險ナル鹽類ノ成生ヲ防クヘキ適當ノ措置ヲ爲スヘシ

四　硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムヘシ

五　硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場內ノ從業者ニハマスクヲ使用セシムヘシ

六　左ノ工場內ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
乾燥工場	千貫	六人
收函工場	五百三十貫	六人

第二十六條ノ九　硝化綿纖維素トナイトログリセリントノ捏合物ヲ主トスル無煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　爆發ノ危險アル工場及硝化綿乾燥工場ハ汽罐、汽罐室、鉛工場等無煙火藥製造ニ直接關係アル工場並ニ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、他工場、本工場、乾燥工場、硝化綿乾燥工場及乾燥工場ヲ除キ他ノ無煙火藥製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、社宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ト直接必要ナル小動力室、洗面所、休憩室又ハ各工場ノ附屬建築物等ヲ附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ系統的ニ配置シ系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

三　一系統內ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ス

四　グリセリン硝化工場ハ作業所內ノ他ノ建築物（硝化豫備工場ヲ除ク）ニ對シ作業中停滯スヘキナイトログリセリンノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十二間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

五　ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以內ニ於テ各號規定ノ距離ヲ保有スヘシ

六　棉火藥乾燥工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、乾燥棉火藥取扱工場及混和工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

七　溶劑回收工場及無煙火藥乾燥工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

八　捏和工場及壓伸工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ五間迄、異種類ノ工場ニ對シテハ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得

九　乾燥ノ工場ハ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ同種類ノモノニ限リ三工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

十　風乾工場、混同工場及收函工場ハ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設クル場合ニ在リテハ十四間迄短縮スルコトヲ得

十一　アセトン其ノ他ノ引火性物質ノ貯藏所ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ヰ作業所內ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離

ヲ保有スヘシ

十二　發火ノ危險アル工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ注水消火設備ヲ爲スヘシ

十三　一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン、ナイトログリセリン等ノ流過槽又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設クルコトヲ得ス

十四　爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケグリセリン硝化工場ノ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニハ爆發ノ際ニ於ケル飛散物ニ對スル遮蔽ノ設備ヲ爲スヘシ

十五　ナイトログリセリンノ流過樋ハ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スヘシ

十六　ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流過樋ニハ鉛、陶器又ハ釉薬ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スヘシ

十七　爆發ノ危險アル工場ノ硝子戸ニハ内面ニ硝子破損ノ際ニ於ケル破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ

十八　グリセリン硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ検温シ且發散瓦斯ヲ監見シ得ヘキ装置ヲ爲スヘシ

十九　グリセリン硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ装置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ

二十　グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓縮空氣ニ依リ攪拌スルモノニアリテハ完全ナル豫備攪拌装置ヲ爲スヘシ

二十一　工場内ニ於テハアセトン其ノ他ノ溶剤ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スヘカラス

二十二　乾燥工場内ノ温度ハ攝氏五十度ヲ、溶剤回收工場内ノ温度ハ攝氏六十度ヲ超エシムルコトヲ得ス

〔山形警〕

二十三　乾燥セル無煙火薬又ハ綿火薬ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

二十四　捏和機及壓伸機ハ同一工場内ニ二箇以上ヲ据付クルコトヲ得ス

二十五　捏和機及壓伸機ニハ蓄電ヲ避クル爲適當ノ装置ヲ爲スヘシ

二十六　左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火薬類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火薬類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
グリセリン硝化工場	硝化二回分	兩人
ナイトログリセリン洗滌及濾過工場	千百貫	三人
綿火薬乾燥工場	千五百貫	四人
乾燥綿火薬取扱工場	百十貫	二人
混和工場	八十貫	五人
捏和工場	捏和機二回ノ仕込量	三人
壓伸工場	四十八貫	六人
溶剤回收工場	四百五十貫	六人
無煙火薬乾燥工場	千五百貫	四人
混同工場	二千貫	十五人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ綿火薬乾燥工場、乾燥綿火薬取扱工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌及濾過工場及混和工場ヲ謂ヒ發火ノ危險アル工場ト稱スルハ捏和工場、壓伸工場、溶剤回收工場、無煙火薬乾燥工場、風晒工場、混同工場及收函工場ヲ謂フ

第二十六條ノ十　過塩素酸鹽ヲ主トスル爆薬ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　過塩素酸鹽ノ粉砕及篩分工場及乾燥工場ハ別棟ニ之ヲ築造シ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ウヘシ

二　混和工場、塡薬工場、包装及收函工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滞スヘキ爆薬ノ數量八十貫以内ノモノニ在リテハ八間以上、百六十貫以内ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ塡薬工場、包装及收函工場ハ厚サ一尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノモノニ限リ二工場ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

三　混和工場内ニハ二箇以上ノ混和機ヲ据付クルコトヲ得ス

四　左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火薬類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火薬類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
混和工場	混和機二回ノ仕込量	二人
塡薬工場	八十貫	塡薬機ヲ使用スル工場　五人 塡薬機ヲ使用セサル工場　十人
包装及收函工場	百六十貫	六人

第二十六條ノ十一　無煙火薬ヲ原料トスル爆薬ノ作業所ニ於テ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

〔山形警〕

一　無煙火薬風乾工場ハ避雷装置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ無煙火薬ノ水蓄場ヲ其ノ附近ニ設置スルハ此ノ限ニ在ラス

二　裁斷工場、粉砕工場、篩分及混和工場、塡薬及包装工場及收函工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キテ各別棟ニ之ヲ築造シ各箇ニ注水消火設備、避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ粉砕工場ハ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ限リ十工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

三　粉砕工場ニハ二箇ノ粉砕機ヲ据付ケ其ノ中間ニ避雷装置ヲ設ケ粉砕機ハ交互ニ之ヲ使用スヘシ

四　左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火薬類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火薬類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
裁斷工場	百貫	二人
粉砕工場	十五貫	粉砕機二箇ニ付　一人
篩分及混和工場	百五十貫	三人
塡薬及包装工場	百五十貫	五人
收函工場	百五十貫	四人

第二十六條ノ十二　内務大臣ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外必要ナル設備ヲ命シ又ハ其ノ規定セル事項ニ付土地ノ状況其ノ他ノ關係ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ特ニ其ノ變更ヲ許可スル

廳府縣長官ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外作業所内ニ於ケル防火ノ設備其ノ他取締上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 銃猟導火線及煙火ヲ除クノ外火薬類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納又ハ貯藏スヘシ

一 火薬及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火薬ニシテ火薬類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛引鐵器ニ、少量ノ火薬ニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得

二 火工品（導火線ヲ除ク）ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製箱ニ收納スルコトヲ要ス但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 ピクリン酸ハ陶器、磁器、純錫器、純アルミニユーム器、硝子器又ハ木器ニ、其ノ他ノ爆薬ハ其ノ種類ニ應シ木器、紙器、亞鉛器、陶器又ハ硝子器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝酸アンモニアヲ主トスル爆薬ニシテニトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得

四 雷汞ハ清水ニ滿タセル硝子器ニ收納シテ貯藏スルコトヲ要ス

五 火薬類ハ容器ト火薬類ト直接ニ觸接セサル爲火薬類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ容器ノ内面ニ塗又ハセルラツクノ類ヲ塗布シタル場合若ハ少量ノ火薬ヲ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

六 （削除）

七 火薬類ハ乾燥性植物油、亞麻仁油、荏油又ハ其ノ類ヲ以テ之ヲ包裝スルコトヲ得ス

八 各種ダイナマイトヲ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ薬包ヲ横置セシムルコトヲ要ス

九 各種ダイナマイトニシテ貯藏中薬包ヨリナイトログリセリン滲出シテ容器ノ外面若ハ床上ヲ汚染シタルトキハ苛性曹達ノアルコール溶液（苛性曹達五十瓦ヲ水七十五立方センチメートルニ溶解シテアルコール五百立方センチメートルニ混シタルモノ）之ヲ注キナイトログリセリンヲ分解セシメ布片ヲ以テ清拭スヘシ

十 各種ダイナマイトニシテ貯藏中凍結シタルトキハ徐ニ融解シ若ハ撤出スルヲ得サル館内ニ寒氣ノ侵入ヲ防止スル設備ニ融解セシメ又ハ氷分ヲ薬包ニ觸接セシメサル樣裝置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ溫湯ニ浸シテ間接ニ融解セシムヘシ

十一 火薬類ハ第二十八條ノ區別ニ依リ互ニ隔離スヘシ

十二 火薬類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルコトハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火薬類粉末ノ殘留ナキヲ要ス

十三 一旦使用シタル火薬類ノ容器又ハ其ノ外箱ハ適宜ノ方法ニ依リ清淨拭スルニ非サレハ再ヒ火薬類ヲ收納スルコトヲ得ス

十四 火薬類ノ容器ノ外箱ハ鐵類ヲ露スコトヲ得ス

第二十八條 銃砲火薬類取締法施行規則第三十一條ノ規定ニ依リ火薬類ヲ各別棟ノ火薬類貯藏所ニ貯藏スルハ左ノ各號ノ區別ニ依ル

一 有煙火薬、有煙火薬ヲ裝塡シタル銃用實包、銃用空包及有煙火薬ノミヲ裝塡シタル其ノ他ノ火工品硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆薬ニシテ有機硝化物ヲ含有セサルモノ

二 無煙火薬、無煙火薬ヲ裝塡シタル銃用實包、銃用空包及無煙火薬ノミヲ裝塡シタル其ノ他ノ火工品

三 爆薬

四 火工品

前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ銃砲火薬類取締法施行規則第二十八條ニ掲ケタル數量ヲ以テ貯藏セムトスル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘ其ノ和一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十九條 火薬類貯藏所ニ火薬類ヲ貯藏スルトキハ内壁ヨリ一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キテ容器ヲ積上クヘシ

火薬類貯藏所ニ於テハ警察官署ノ指示ニ從ヒ換氣ニ注意スヘシ

火薬類貯藏所内ノ温度ハ無煙火薬ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下爆薬ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以上三十六度以下ヲ保ツコトニ注意スヘシ

火薬類貯藏所ニ於テハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス

火薬類貯藏所ニ於テハ荷造、荷解ヲ爲シ又ハ鐵類若ハ鐵類ノ附屬シタル器具ヲ用ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコトヲ得ス戸外ニ於テ先ツ塵埃ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ

火薬庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第二十六條第一項第二號、第二十一號、第二十二號、第二十四號、第二十五號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ火薬庫及假貯藏所ニ之ヲ準用シ同條第一項第二十二號、第二十四號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ倉庫ニ之ヲ準用ス

第三十條 火薬類ヲ消費スル者ハ消費地警察官署ノ指示ニ從ヒ火薬類ノ收支ヲ明ニスヘシ但シ一年間ニ於テ銃砲火薬類取締法施行規則第十八條各號以内ノ火薬類ヲ消費スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 銃砲火薬類取締法施行規則第三十二條第一項ノ許可申請書ニハ位置、設備又ハ構築、改築、修繕若ハ模樣替ノ仕樣並貯藏スヘキ火薬類ノ種類、數量ヲ具スルコトヲ要ス

假貯藏所ニ在テハ前項ノ外火薬類ヲ要スル事業及期間ヲ具スルコトヲ要ス

第三十二條 火薬庫ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ地下又ハ本土キ設クル火薬庫ニ關シテハ廳府縣長官ノ許可ヲ得テ特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得

一 火薬庫ハ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ナルコト

二 火薬庫ノ屋根ノ斜面ハ輕キ金屬板、石盤瓦又ハ瓦若ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヰテ覆葺シ且盗難ヲ防キ得ヘキ構造ト爲スコト

三 庫壁ハ土造、鐵筋コンクリート造ノ部分ニ於テ厚サ五寸以上、煉瓦造、石造ノ部分ニ於テ厚サ七寸以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヒルコトナク且扉ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト

四 庫ノ内面ハ石、瓦、ベトン、土砂ノ類ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハササルコト

五 床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハササルコト

六 火薬庫ニハ避雷針ヲ設クルコト但シ避雷針ニ代ルヘキ裝置アルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ屋筋ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十五度以内ノ角度ヲ有ツコト

避雷針ハ少クモ毎年一回梅雨期以前ニ於テ之ヲ検査シ必要アルトキハ修繕ヲ施スコト

七 無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火薬庫ノ周圍ニハ土堤又ハ鐵筋コンクリート造、煉瓦造若ハ石造ノ圍壁ヲ、其ノ他ノ火薬類ヲ貯藏スル火薬庫ノ周圍ニハ土堤ヲ庫壁ノ外側面ヨリ堤脚又ハ壁脚迄三尺乃至六間ノ距離ニ於テ可成庫壁ニ接近シテ設クルコト但シ廳府縣長官ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ設備其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤又ハ圍壁ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトヲ得

火薬庫二以上相接スル場合ニ於テ各庫ノ土堤又ハ圍壁ハ相兼ヌルコトヲ得

土堤又ハ圍壁ハ其ノ外部ヨリ火薬庫ヲ透視シ能ハサラシムル爲其ノ一端ヲ屈折延長スルカ又ハ通路ノ入口ノ前面ニ更ニ土堤又ハ圍壁ヲ設ケ若ハ土堤ノ入口ヲ隧道ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設クルコト

無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火薬庫ノ土堤又ハ圍壁ノ高サハ火薬庫ノ軒桁ノ高サト、其ノ他ノ火薬類ヲ貯藏スル火薬庫ノ土堤ノ高サハ火薬庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、圍壁ノ厚サハ一尺五寸以上、土堤ノ頂部ノ厚サハ三尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但シ堤脚ハ火薬庫ノ屋頂ノ高サノ三分ノ十二[illegible]土留ヲ石積、煉瓦積又ハコンクリート造ト爲スコトヲ得

八 土堤ノ外部ニ於テ空地アルトキハ常盤木ヲ栽植スルコト

第三十三條 倉庫ノ設備ハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避雷針及土堤ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

一 避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ省略スルコト

二 庫壁ノ外側面ニ接續シテ高サハ倉庫ト略等シク厚サハ頂部ニ於テ二尺（入口ノ部分ヲ除ク）以上ヲ有シ礫ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍繞シ土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ二尺以上ナルハ之ト同一ノ抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得

倉庫ノ入口ハ危險ノ虞ナキ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ控壁ヲ築造セサル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムヘシ

第三十四條 假貯藏所ノ設備ニ付テハ廳府縣長官ノ命令ニ從フヘシ

第三十五條 繋留船又ハ倉庫船ハ火薬類ノ船積、船卸又ハ陸揚ノ場合ニ限リ一時倉庫ニ代用スルコトヲ得

第三十六條 繋留船又ハ倉庫船ニ火薬類ヲ貯藏セムトスル者ハ船舶ノ設備、繋留ノ位置及貯藏スヘキ火薬類ノ種類、數量ヲ具シ船舶所在地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

港務部ノ設置ナキ地ニ於テハ警察官ハ危害豫防ノ爲繋留船又ハ倉庫船ノ

位置ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日出前又ハ日沒後ニ於テ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ス

第三十八條　銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ運搬スヘキ火藥類ノ種類、數量、運搬ノ日時、方法、通路及發著ノ場所ヲ具スルコトヲ要ス

第三十九條　所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スルニハ許可證ヲ携帶スル外左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一　運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用ヒテ運搬スルニハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗（地質ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸）夜間ハ赤色安全燈ヲ携フヘシ

二　看守人及運搬人ハ消防安全燈ノ外燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ携帶シ又ハ荷造、荷解、荷積及荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ又ハ火氣ヲ取扱フコトヲ得ス

三　燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載スルコトヲ得ス

四　荷牛馬車ニ在テハ牛馬取付ノ儘荷積又ハ荷卸ヲ爲スコトヲ得ス

五　容器ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セサル樣適當ノ被覆ヲ爲シ摩擦、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナカラシムヘシ

六　運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ火氣ヲ取扱ヒ若ハ發火實物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場所ヲ通過スルコトヲ得ス

七　運搬具又ハ牛馬ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

二以上ノ運搬具又ハ牛馬ヲ連行スルトキハ其ノ距離各五間以上ヲ保有スヘシ

〔山形警〕

八　運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ撰ミ且看守人ヲ附スヘシ

運搬中宿泊セムトスルトキハ其ノ地警察官ニ屆出ツヘシ

第三十九條ノ二　索道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルトキハ索道直下ノ地點ヨリ六十間以內ニ在ル社寺、學校、官公衙、病院、公園、工場、鐵道、軌道、國道、府縣道等ヲ明ニスル平面圖、索道ト地面トノ距離、索道ノ方式及鋼子竝運搬具ノ構造、運搬具ニ積載シ得ヘキ重量、運搬具ニ積載スヘキ火藥類ノ種類、數量、積込ノ方法、發著ノ場所及火藥類運搬中看守人ヲ配置スヘキ場所ヲ具シ所轄廳府縣長官ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條ノ三　火藥類ヲ自動車ニ依リ運搬セムトスルトキハ危害豫防上特別ノ設備ヲ爲シ且其ノ運搬用トシテ所轄廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス但シ左ニ掲クル火藥類ヲ客ノ乘用ニ供セサル自動車ニ依リ運搬スル場合及小量ノ銃用火藥類ヲ其ノ携帶者ト共ニ運搬スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　緩燃導火線、煙火、信號焰管、星火ヲ發スル信號彈（十二個以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル樣各個ノ間ニ鋸屑、紙屑ノ類ヲ塡充シタルモノ）、火管（六個以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル樣各個ノ間ニ鋸屑、紙屑ノ類ヲ塡充シタルモノ）

二　銃用實包、銃用空包、火藥ヲ裝塡セサル雷管附若ハ爆管附藥莢、雷管（工業用雷管ヲ除ク）、信管、爆管、門管

三　濕藥（箱內ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ）

四　芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ

五　硝酸アンモニア又ハ過鹽素酸アンモニアヲ主トスル爆藥中ナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ

六　六貫以下ノ火藥

七　一貫三百匁以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）

第三十九條ノ四　索道又ハ自動車ニ依リ火藥類ヲ運搬スル者ハ第三十九條ノ制限ニ從フ外所轄廳府縣長官又ハ警察官署ノ指示スル事項ヲ遵守スヘシ

第四十條　銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ運搬ニ付テハ第二十七條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

第四十一條　無煙火藥又ハ爆藥（ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ除ク）ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季、ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季及冬季示差寒暖計ヲ備ヘ毎週一囘之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明記シ置クヘシ

示差寒暖計ヲ備フルハ夏季之ヲ最高溫度ノ位置ニ於テシ冬季之ヲ最低溫度ノ位置ニ於テスヘシ

本條ニ於テ夏季ト稱スルハ毎年七月ヨリ九月ニ至リ冬季ト稱スルハ毎年十二月ヨリ二月ニ至ル期間ヲ謂フ但シ土地ノ氣候ニ應シ廳府縣長官特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十二條　無煙火藥、綿火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ內箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試驗紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ其ノ外箱二十五箱（端數ハ二十五箱ニ切上ク）ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱（端數ハ十箱ニ切上ク）ニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試驗紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試驗紙全面ニ渉リ赤色ニ變シタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所內ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス

〔山形警〕

第四十三條　火藥、爆藥ニシテ遂ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス

第四十四條　第四十二條ノ注意品（硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ及蓚酸アンモニアヲ含有スルダイナマイトヲ除ク）ニシテ前條ノ作用ヲ起ササルトキハ外箱一箱毎ニ左ノ方法ニ依リ遊離酸試驗ヲ行フヘシ但シ本條ノ試驗ヲ省略シ直ニ第四十六條ノ耐熱試驗ヲ行フコトヲ得

試驗スヘキ火藥類ハ其ノ包被物ヲ除去シ之ヲ硝子瓶ニ入レ瓶內ノ高サ約五分ノ三ニ至ラシメタル後青色リトマス試驗紙ヲ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ吊シ直ニ瓶口ヲ密栓スヘシ

前項ノ場合ニ於テ無煙火藥及綿火藥ハ六時間內、其ノ他ノ火藥類ハ四時間內ニ試驗紙ヲ其ノ全面ニ渉リ赤色ニ變シタルモノハ不良品トス

第四十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試驗ヲ行フヘシ

一　遊離酸試驗ノ結果前條ノ不良品ニ該當セサルトキ

二　注意品タル火藥類ヲ汽車又ハ汽船等ニ依リ輸送セムトスルトキ及輸送ヲ終リタルトキ

三　硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ蓚酸アンモニアヲ含有スルダイナマイトニシテ第四十二條ノ注意品ニ該當スルトキ

四　前各號ノ外警察官署ノ指示アリタルトキ

第四十六條　耐熱試驗ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

湯煎器ノ口際迄水又ハ微溫湯ヲ滿シテ鋼網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓若ハ護謨栓ヲ以テ之ヲ保持スヘシ

試驗スヘキ火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ試料ヲ作リ之ヲ試驗管（中徑約十九粍高サ約百六十粍）ニ入ルヘシ

一　硅藻土質ダイナマイトハ其ノ二十瓦乃至三十瓦ヲ採リ鉢ニ壓シ細ニト爲シ之ヲ口徑約五糎ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製綿木石綿若ハ精製

硝酸綿ノ小片ヲ捲キタル上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尚其ノ上部ヲ三耗ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ上面ヨリ蒸餾水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スルナイトログリセリン三瓦乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試驗管ニ入ルヘキ試料トス

二　膠質ダイナマイトハ其ノ三瓦半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細截シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳棒ヲ以テ靜ニ輕ク完全ニ擂リ混セ之ヲ一試驗管ニ入ルヘキ試料トス

三　硅藻土質及膠質以外ノダイナマイトニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試驗管ニ入ルヘキ試料トス

四　無煙火薬ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ鎖狀ノモノハ小刀又ハ鋏ヲ以テ細粒狀ニ細截シ試驗管ノ高サノ五分ノ三ニ達スル量ヲ採リ之ヲ一試驗管ニ入ルヘキ試料トス

五　綿火薬及其ノ他ノ爆薬ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ヲ超エサル溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試驗管ノ高サノ三分ノ一ニ達スル量ヲ採リ之ヲ一試驗管ニ入ルヘキ試料トス

沃度加里澱粉紙ノ下部ヲ蒸餾水及グリセリン等分混液ヲ用ヒ硝子棒ニテ濕シ之ヲ硝子捍鉤ニ懸吊シ捍ヲ保持セル木栓ヲ以テ試驗管口ヲ塞ヒ沃度加里澱粉紙ノ下緣ヲシテ火薬類上面ヨリ稍上方ニ在ラシムヘシ

前各項ノ準備ヲ爲シタル後溫熱器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スルニ至ラハ試驗管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾濕分界部ヲ注視シ試驗管挿入ノ時ヨリ其ノ淡褐色ニ變スルニ至ルノ時間ヲ以テ火薬類ノ耐熱時間ト定ムヘシ

沃度加里澱粉紙ニ現ハレル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ムヘシ

標準色紙、沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ用ウヘシ

第四十七條　火薬類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十七條ノ二　硝酸アンモニアヲ主トスル爆薬ニシテナイトログリセリン又ハ硝化澱粉素ヲ含有セサルモノニ在リテハ製造後二年ヲ經過セルモノハ每年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月每ニ一回第四十四條第二項ノ方法ニ依リ耐熱試驗ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ四時間内ニ試驗紙ヲ其ノ全面ニ渉リ赤色ニ變シタルトキハ更ニ加熱試驗ヲ行フヘシ

第四十七條ノ三　加熱試驗ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

徑約三十五ミリメートル高サ約五十ミリメートルノ秤量壜ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥スヘシ

試驗スヘキ爆薬中ヨリ試料十グラムヲ採リ之ヲ前號ノ秤量壜ニ入レ密栓シ秤量シタル後栓ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ四十八時間靜置スヘシ

前項ノ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ起サザルトキハ再ヒ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減耗量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

試驗スヘキ爆薬ニシテ濕氣ヲ吸收シタル疑アルトキハ先ツ其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後秤量シ第二項及第三項ノ方法ニ依リ試驗ヲ行ヒ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十八條　耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ結果ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第四十九條　無煙火薬、綿火薬又ハナイトログリセリン若ハ硝化澱粉素ヲ含有スル爆薬ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ每年一回、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月每ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ三月以内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ二　硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆薬ニシテ硝基化合物ヲ含有スルモノ、硝酸アンモニアヲ主トスルモノ及ナイトログリセリン又ハ硝化澱粉素ヲ含有スルモノヲ除クニ在リテハ製造後二年ヲ經過セサルモノハ每年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ若ハ製造年月不明ノモノハ六月每ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ六月内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ三　廳府縣長官ハ前條爆薬中種類ヲ限リ第四十七條ノ三第二項、第三項ノ方法ニ依リ加熱試驗ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ試驗中赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ不良品トス

第四十九條ノ四　第四十七條ノ二、第四十九條、第四十九條ノ二及前條ニ依リ試驗ヲ行フヘキ火薬類ノ箱數ハ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火薬類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテハ外箱二十五箱（端數ハ二十五ニ切上ク）ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノニ在リテハ外箱十（端數ハ十ニ切上ク）ニ付各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各箇トス

第五十條　一年間ニ於テ無煙火薬五千貫以上、爆薬二千五百貫以上ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試驗又ハ加熱試驗ヲ行フコトヲ得ヘキ準備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ施行ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ試驗ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スヘシ

第五十二條　不良品タル火薬類ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火薬ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ其ノ他ノ火薬類ニ在リテハ屋外廣濶ナル場所ニ於テ風ヲ除ケ少量宛之ヲ燃燒スヘシ但シ警察官署ノ認可ヲ受ケ膠質ニアラサルダイナマイト類ハ海岸ヲ距ルコト二十浬以上ノ海水中ニ、ダイナマイト以外ノ火薬類ハ海岸ヲ距ルコト十浬以上ノ海水中又ハ他ニ危險ヲ及ホササル深キ水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得

不良ノ程度極メテ輕微ナル火薬類ハ警察官署ニ於テ危險ノ虞ナシト認メタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ之ヲ良品ト隔離スルヲ要ス

第五十三條　火薬類貯藏所危險ノ狀態ト爲リ又ハ火薬類異狀ヲ呈シタルコトヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ火薬類貯藏所又ハ火薬類ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ應急ノ措置ヲ行フヘシ

第五十四條　第二條ノ二、第五條、第六條ノ三、第十九條第二十六條第一項第一號乃至第三號、第九號、第十九號、第二十一號乃至第三十四號、第三十六號乃至第三十八號、第二十六條ノ二第一項第七號乃至第十四號、第二十六條ノ三第一項第九號乃至第十三號、第二十六條ノ四第一項第六號乃至第十二號、第二十六條ノ五第一項第四號乃至第七號、第二十六條ノ六第一項第十二號、第十六號、第十八號、第二十六條ノ八第一項第四號乃至第六號、第二十六條ノ九第一項第十五號、第十九號、第二十一號乃至第二十三號、第二十六號、第二十六條ノ十第一項第四號、第二十六條ノ十一第一項第三號、第四號、第二十七條第二十九條第一項乃至第六項第三十六條第一項第三十七條第三十九條、第三十九條ノ二、第三十九條ノ三、第三十九條ノ四、第四十一條第一項第二項第四十二條第一項第四十四條第一項第四十五條第四十七條ノ二第四十九條第五十條第五十二條第五十三條ニ違反シ又ハ第六條ノ四、第二十六條ノ八、第三十六條第二項ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第四十六條第七項ノ標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ヲ僞造シタル者又ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可條件ニ適合セサル火薬類作業所ニ於テ火薬類ヲ製造シ又ハ變形修理シタル者又ハ本令ニ基キテ發スル廳府縣長官ノ命令若ハ許可ノ條件ニ適合セサル火薬類貯藏所ニ火薬類ヲ貯藏シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第三條、第六條、第七條乃至第九條第十一條乃至第十三條第十八條第二十一條乃至第二十四條第三十條第四十六條第七項第四十八條ニ違反シ又ハ交付若ハ提示ヲ受クヘキ許可證、認可證又ハ文書ノ受領若ハ檢閲セスシテ銃砲火薬類ヲ讓渡又ハ讓受ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

〔山形縣〕

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十條ハ二年間其ノ施行ヲ延期ス

甲號（銃砲火藥類取締法施行規則第十八條銃砲火藥類取締法施行細則第十七條）用紙美濃半切

第　號

軍用銃砲讓（受渡）許可證

（明治）　年　月　日

警察官署名　印

讓（受渡）許可ヲ受ケタル者　住所　氏名

種類

數量

讓（受渡）ノ事由目的

證書有效期間　自（明治）　年　月　日　至（明治）　年　月　日

〔山形警〕

乙號（銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條第十八條第二十二條銃砲火藥類取締法施行細則第十七條）用紙美濃半切

第　號

火藥類讓渡許可（又ハ認可）證

（明治）　年　月　日

廳府縣（又ハ警察官署）名　印

讓渡許可（認可）ヲ受ケタル者　住所　氏名

種類

數量

讓渡ノ事由、目的

證書有效期間　自（明治）　年　月　日　至（明治）　年　月　日

丙號（銃砲火藥類取締法施行規則第十八條銃砲火藥類取締法施行細則第十七條）用紙美濃半切

第　號

火藥類讓受許可證

（明治）　年　月　日

警察署名　印

讓受許可ヲ受ケタル者　住所　氏名

種類

數量

讓受ノ事由、目的

用途

消費ノ場所

消費ノ日時

證書有效期間　自（明治）　年　月　日　至（明治）　年　月　日

〔山形警〕

丁號（銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條銃砲火藥類取締法施行細則第十四條第二項第十七條）用紙美濃四ツ折冊子

表　紙

第　號　（本許可證表紙共　枚）

火藥類讓受許可證

（明治）　年　月　日

廳府縣（又ハ警察官署）名　印

讓受許可ヲ受ケタル者　住所　氏名

種類

數量

期間

讓受ノ事由、目的

用途

消費ノ場所

消費ノ日時

證書有效期間　自（明治）　年　月　日　至（明治）　年　月　日

譲渡人記入ノ欄

種類										
數量										
譲渡年月日										
譲渡署名捺印										

〔山形警〕

戊號（銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條銃砲火藥類取締法施行細則第十七條第三十九條）用紙美濃半切

第　　號

火藥類運搬許可證

（明治）年　月　日

警察官署名印

運搬許可ヲ受ケタル者	住所 氏名
種類	
數量	
運搬ノ日時	
運搬ノ方法	
通路	
發着場所	

〔山形警〕

己號（銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條銃砲火藥類取締法施行細則第十七條第二十五條）用紙美濃半切

第　　號

拳銃（又ハ短銃、仕込銃、仕込刀劍、其ノ他變裝シタル戎器）授受（又ハ運搬、携帶）許可證

（明治）年　月　日

警察官署名印

授受（又ハ運搬、携帶）ノ許可ヲ受ケタル者	住所 氏名
種類	
數量	
授受（又ハ運搬、携帶）許可事由	

●銃砲販賣業者、火藥類販賣業者定員

明治四十四年三月十一日
內務省告示第十七號

改正　大正元年內務省告示第二四號、五年第三六號、六年第六三號、一〇年第一五號、昭和三年第一六〇號

銃砲販賣業者、火藥類販賣業者定員左ノ通之ヲ定ム

銃砲販賣業者定員ハ北海道二十六人東京府京都府大阪府長崎縣各二十人神奈川縣兵庫縣各三十人其ノ他ノ縣各十二人

甲種火藥類販賣業者定員ハ北海道四十六人東京府二十四人京都府大阪府兵庫縣長崎縣各二十三人神奈川縣二十八人福島縣二十八人福岡縣二十五人岡山縣佐賀縣各十九人其ノ他ノ縣各十八人

乙種火藥類販賣業者定員ハ神奈川縣二十三人兵庫縣二十五人長崎縣五人

●銃砲販賣業及甲種火藥類販賣業定員ノ配置

大正六年五月
山形縣告示第百十二號

明治四十四年七月山形縣令第四十七號銃砲火藥類取締法令執行規則第二條ノ規定ニ依リ銃砲販賣業及甲種火藥類販賣業定員ノ配置左ノ通之ヲ定ム

方面	郡市名	銃砲販賣業	甲種火藥類販賣業
第一	山形市 南村山郡 西村山郡 東村山郡	三	四

第二	北村山郡 最上郡	三	三
第三	飽海郡 西田川郡 東田川郡	三	五
第四	東置賜郡 西置賜郡 南置賜郡 米澤市	三	六

●火薬類取扱免狀書式

（明治四十四年六月二十日内務省告示第四十八號）

銃砲火薬類取締法施行細則第四條ニ依リ交付スヘキ火薬類取扱免狀書式左ノ通定ム

（用紙美濃四ツ切）

（甲種乙種）

火薬類取扱免狀

住所

第　號　　氏　名

生年月日

銃砲火薬類取締法施行細則第四條ニ依リ本免狀ヲ附與ス

年月日　　廳府縣　名

〔山形縣〕

●火薬類作業主任者免狀書式

（大正七年一月九日内務省告示第一號）

銃砲火薬類取締法施行細則第六條ノ二ニ依リ交付スヘキ火薬類作業主任者免狀書式左ノ通定ム

用紙美濃半切

（甲種乙種丙種）

火薬類作業主任者免狀

住所

第　號　　氏　名

生年月日

銃砲火薬類取締法施行細則第六條ノ二ニ依リ本免狀ヲ付與ス

年月日　　内務省
（又ハ廳府縣名）

●軍用銃砲ノ種類

（明治三十二年八月陸軍省海軍省告示）

銃砲火薬類取締法第四條ニ據リ軍用銃砲ノ種類ヲ左ノ通リ定ム

軍用銃砲トハ口徑五密米突以上ニシテ腔線ヲ施シ且ツ千米突以上ノ距離ニ達スヘキ照尺ノ裝置アル銃砲ヲ謂フ但シ特ニ遊用若クハ射的用ノ爲メ製作シタルモノ及軍用銃砲ト雖トモ陸海軍官衙ニ於テ廢品ノ處分ヲ爲シタルモノハ此ノ限リニアラス

〔山形縣〕

●軍用銃砲ノ廢品處分ニ關スル件

（明治四十四年八月警部長依命通達收保第一一四四號ノ一）

軍用銃砲ノ廢品處分ニ依リ非軍用銃砲トシテ取扱ハルヘキモノ、方式ニ關シ別紙甲號ノ通内務次官ヨリ陸軍次官竝海軍次官ニ照會ノ處乙號ノ通回答アリタル趣ヲ以テ其ノ筋ヨリ本縣知事ニ通牒有之候ニ付此ノ旨心得ヘシ

甲號

陸海軍次官ヘ照會（明治四十四年五月九日内務省警第二〇五九號）

陸海軍官衙ニ於テ軍用銃砲ニ對シ廢品處分ヲ爲シタルモノニシテ非軍用銃砲トシテ取扱ヲ爲スヘキモノハ取締ニ當ル者竝營業者ニ於テモ之カ方式ヲ承知致置候必要有之候間自然將來廢品處分ニ依リ右ニ該當候モノ相生候御見込ニ候ハ、豫メ方式ヲ一定セラレ官報ヲ以テ公示相成候樣御配慮相煩度此段及照會候也

乙號

陸軍次官回答（明治四十四年六月十日陸軍省陸普第二一八四號）

陸軍官衙ニ於テ廢品處分ヲナシタル軍用銃砲中非軍用銃砲トシテ取扱フヘキモノニ關スル方式公示方ノ件ニ付五月九日警第二〇五九號ヲ以テ御照會ノ趣了承當省ニ於テハ從來廢品處分ヲ爲シ非軍用銃砲ノ取扱ニ移セシモノニ付取締上不都合ノ點アルヲ認メ去ル明治四十一年以來ハ斷然從來ノ廢兵器處分法ヲ改正シ其ノ結果廢兵器トシテ拂下クヘキモノハ修理ヲ加フルモ銃砲ノ形態ニ復スヘキ虞ナキモノニ限リ其ノ他ハ總テ軍用銃砲トシテ拂下居候而シテ銃砲火薬類取締法改正後ニ於テモ依然右ノ取扱ヲ爲ス筈ニ付御照會ノ如キ方式公示ノ必要無之候條御了知相成度候也

海軍次官ノ回答（明治四十四年七月二十五日官房第一五九三號ノ二）

軍用銃砲取締ニ關スル件

右ニ關シ内務省警第二〇五九號御照會ノ趣了承當省ニ於テ廢品處分ヲ行フ銃砲ハ依然軍用銃砲トシテ取扱ヲ爲スカ若ハ直ニ材料ヘ保管轉持スルモノ、ミニシテ御照會ノ主旨ニ該當ノ場合無之候條御承知相成度右回答ス

●軍用銃砲取扱方ニ關スル件

（大正二年五月警務長通達收保第一五八七號ノ一）

今般内務省警保局長ヨリ軍用銃砲取扱ニ關シ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條取扱方注意スヘシ

（別紙）

（甲號）

高警第四七七號

警保局長宛　大阪府知事照會

軍用銃砲ニ關スル件

管下大阪市東區大手通一丁目非軍用銃砲製造業者小倉藤九郎ナル者四十年頃門司陸軍兵器支廠ヨリ拂下ヲ受ケタル露國式五連發銃二千三百挺ノ修繕方ヲ銃砲販賣業者岡田要藏ヨリ委託セラレ目下修繕中ニ有之全部修繕ヲ終レハ清國ニ輸出スル筈ニ有之候處其ノ成品ヲ檢査スルニ銃身ニ腔線ヲ有シ銃口ノ大サ露國式五連發銃ノ實包ニ適合シ且ツ照星及表尺ヲ裝置（最大射程二千六百米）ヲ有スルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第一條第二項ニ依リ軍用銃トシテ取扱フヘキモノト思料スルモ實際陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキモノナリヤ否疑義相生シ候間至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

（乙號）

大正二年五月二十日內務省警保局警阪第二〇六號ノ內

大阪府知事宛　警保局長回答

本月十二日附高親第四七七號ヲ以テ本件ニ關シ御照會ノ處右ハ軍用銃砲ニ屬スヘキモノニ有之候條御了知相成度隨テ右修繕行爲ハ軍用銃ノ製造ニ不外ヲ以テ法ノ認メサルコトニ候條相當御措置相成度候

●銃砲火藥類取締法令執行規則

明治四十四年七月三日
山形縣令第四十七號

改正　明治四四年一二月縣令第六七號、大正四年四月第三一號、一五年三月第三〇號、昭和六年五月第三六號、一一年一月第四號

第一條　銃砲火藥類取締法施行規則及同施行細則ノ規定ニ依リ知事ヲ經由シ又ハ知事ニ提出スヘキ申請書、届書ハ作業地、消費地、營業地、所在地所轄ノ區別ニ依リ警察〔官〕署ヲ經由スヘシ

第二條　銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ定員ノ配置ハ別ニ之ヲ定ム

〔山形警〕

第三條　火藥類取扱免狀又ハ火藥類作業主任者免狀ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ免狀ノ種類ヲ具シ履歷書並其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第四條　火藥類取扱免狀又ハ火藥類作業主任者免狀ヲ亡失、毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ再下附ヲ申請スルコトヲ得

前項亡失ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ

第五條　火藥類取扱免狀又ハ火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者死亡シタルトキハ戸籍法第百十七條ノ届出義務者ヨリ十日以内ニ該免狀ヲ知事ニ返納スヘシ

第六條　銃砲販賣業者廢業シ殘品ヲ生ジタルトキハ其ノ種類數量番號及口徑ヲ十日以内ニ所轄警察署ニ届出ヅベシ

第七條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セスシテ火藥類ヲ讓受クルコトヲ得ル者之ヲ縣外ヨリ讓受ケタルトキハ直ニ其ノ種類、數量、讓受ノ日時ヲ消費地警察〔官〕署ニ届出ツヘシ

第七條ノ二　鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ採掘ヲ爲ス者火藥類ヲ消費セントスルトキハ其ノ三日前迄ニ鑛山名消費地及消費開始年月日ヲ具シ所轄警察署ニ届出ヅベシ

第八條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ハ火藥類ヲ所持スルコトヲ得サルニ至リタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第八條ノ二　銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ火藥類ハ其ノ消費又ハ使用ヲ終リ殘火藥類ヲ生ジタルトキハ三日以内ニ其ノ種類數量讓受ノ事由及貯藏又ハ處分ノ方法等ヲ所轄警察署ニ届出ヅベシ

第九條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十五條ノ許可申請書ニハ其ノ火藥類ノ種類、數量及變更セムトスル事由、用途ヲ具スヘシ

〔山形警〕

第十條　銃砲火藥類取締法施行規則第三十八條ノ許可申請書ニハ火藥類ノ種類、數量、使用ノ目的、日時、場所及方法ヲ具スヘシ

第十條ノ二　銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ消費又ハ使用者ハ一箇月間ノ消費使用高ヲ第三號樣式ニ依リ翌月五日迄ニ所轄警察署ニ届出ヅベシ

第十一條　銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ規定ニ依ル拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帶ノ許可申請書ニハ銃砲ノ種類、數量ノ外授受ニ付テハ其ノ事由、運搬ニ付テハ其ノ事由、方法、日時、携帶ニ付テハ其ノ事由、期間及區域ヲ具スヘシ

第十二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ法令ニ違反シ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條　拳銃、短銃、仕込銃携帶ノ許可ヲ受ケタル者之ヲ携帶スルトキハ併セテ其ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第十四條　軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、獵銃ヲ所持スル者住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ之ヲ所轄警察〔官〕署ニ届出ツヘシ

第十四條ノ二　獵銃ヲ讓渡又ハ讓受ケ若ハ廢棄シタル者ハ三日以内ニ銃器ノ種類番號口徑數量及讓渡又ハ讓受先若ハ廢棄ノ事由ヲ所轄警察署ニ届出ヅベシ

第十五條　銃砲火藥類取締法施行細則第二十三條ノ規定ニ依ル届書ニハ銃砲又ハ火藥類ノ種類、數量及其ノ收得ノ事由ヲ具スヘシ

第十六條　銃砲火藥類取締法施行細則第二十四條ノ規定ニ依ル廢棄ノ届書ニハ其ノ廢棄ノ年月日、種類、數量及顚末ヲ具スヘシ

第十七條　銃砲火藥類取締法施行細則第七條ノ規定ニ依リ備付クヘキ帳簿ハ第一號及第二號樣式ニ依ルヘシ

第十八條　銃砲火藥類取締法施行細則第八條第一項ノ規定ニ依ル月末現在高届ハ第五號乃至第七號樣式ニ依ルヘシ

第十九條　前八條及其ノ細則ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ニ之ヲ準用ス

第二十條　銃砲火藥類取締法施行細則第二十七條第一號但書ノ規定ニ依リ收納スルコトヲ得ル火藥ノ數量ハ一貫三百匁以内タルコトヲ要ス

第二十一條　銃砲火藥類取締法施行細則第三十一條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同條及同第三十二條ニ規定セル事項ノ外敷地、坪數、周圍四町以内（倉庫ニ在リテハ周圍一町以内）ノ見取圖、建物ノ平面圖、斷面圖、正面圖、背面圖、側面圖及竣工期日ヲ具スヘシ

第二十二條　銃砲火藥類取締法施行細則第三十二條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ地下又ハ水上ニ設クル火藥庫ニ關シテハ設置地ノ狀況、設備ノ方法、土堤ノ全部又ハ一部ノ省略ニ關シテハ掩體ノ狀態又ハ土地ノ狀況及省略ノ方法ヲ具スヘシ

第二十三條　銃砲火藥類取締法施行細則第三十七條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ其ノ火藥類ノ種類、數量、日時、場所及事由ヲ具スヘシ

第二十四條　試驗紙ヲ入レタル火藥類ノ容器ニハ試驗紙ト共ニ之ヲ入レタル年月日ヲ記載シタル紙片ヲ入レ置クヘシ

第二十五條　銃砲火藥類取締法施行細則第五十一條ノ規定ニ依ル耐熱試驗及加熱試驗施行ノ申請書ニハ其ノ火藥類ノ種類、數量、製造年月日及異狀ヲ認メタルトキハ其ノ狀況ヲ具スヘシ

第二十六條　不良品ト認定シタル火藥類ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ種類、數量、廢棄ノ日時、場所ヲ具シ所轄警察〔官〕署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十七條　銃砲火藥類ニ關スル營業者又ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ消費者ハ雇人又ハ從業者ヲ雇入レタルトキハ族籍、住所、氏名、生年月日及目的ヲ具シ十日以内ニ所轄警察〔官〕署ニ

屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第二十八條　發煙筒火藥及煙火ノ取締ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十九條　第四條第二項、第五條、第六條、第七條ノ二、第八條ノ二、第十條ノ二、第十四條、第十四條ノ二、第二十四條又ハ第二十七條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十條　第七條、第十三條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第三十一條　銃砲火藥類取締法令施行以前ヨリ短銃、拳銃、仕込銃又ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ所持スル者ハ明治四十四年八月末日マテニ其ノ種類數量ヲ所轄警察(官)署ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十二條　銃砲火藥類取締法令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ明治四十五年六月末日マテニ之ヲ改造スヘシ

附　則（昭和十一年縣令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ殘火藥類又ハ獵銃ヲ所持スル者ハ本令第八條ノ二及第十四條ノ二ニ依リ昭和十一年一月三十一日迄ニ所轄警察署ニ屆出ヅベシ

(第一號樣式)　(用紙美濃紙)

銃砲(火藥類)製造(加工)明細簿

銃砲(火藥類)製造業者　何　某

製造又ハ加工年月日	種類	數量	備考

(第二號樣式)

火藥　單位 瓩

月	日	摘要	讓受高	讓渡高	現在高	讓受渡人 住所	讓受渡人 氏名
		前葉締高	450.000	224.270	225.730		
3	28	山第38號		2.500	223.230	東村山郡何々村	何　某
〃	29	牧保第2.672號		22.500	200.730	西村山郡何々村	何　某
〃	〃	21條山第80號		.750	199.980	山形市七日町	何　某
〃	30	營業者	67.500		267.480	福島縣何々町	何　某
		三月分計	90.000	125.750			
		逐次締高					

摘　要

一、各種類毎ニ口座ヲ設クルコト

二、摘要欄ニハ火藥類讓受許可證番號及許可官廳ノ頭字ヲ記入スルコト

三、勅令第二十一條ニ依ル讓受ハ試掘、採掘、登錄番號、消費許可官廳及番號又ハ狩獵免狀番號ヲ記入スルコト

四、月計ハ赤書ヲ逐次締高ハ累計トス

(第三號樣式)

月分火藥類消費使用高屆

種類	越高	讓受高	消費使用高	現在高	備考

(第四號樣式)　削除

(第五號樣式)　(用紙美濃紙)

銃砲(火藥類)月末現在高屆

銃砲(火藥類)製造業者　何　某

種類	越高	製造高	讓受高	讓渡高	現在高

(第六號樣式)　(用紙美濃紙)

銃砲(火藥類)月末現在高屆

銃砲(火藥類)販賣業者　何　某

種類	越高	讓受高	讓渡高	現在高

(第七號樣式)(用紙美濃紙)（本表ハ讓渡讓受各別表ニ作製スヘシ所轄內外ハ警察官署ノ所轄ニ依ル區別ナリ）

銃砲(火藥類)月末現在高屆讓渡(讓受)內譯表

讓渡(讓受)人ノ所屬		營業者	勅令第十六條	勅令第十七條	勅令第十八條	勅令第二十一條	勅令第二十二條第二項	勅令第三十九條
縣外								
縣內	所轄外							
	所轄內							

●銃砲火藥類取締法令執行心得

明治四十四年七月
山形縣訓令第三十五號

改正　明治四五年七月山形縣訓令第二七號、大正四年四月第二一號、大正一三年三月第四號、昭和一一年一月第一號

第一條　銃砲火藥類取締法令執行規則第一條ノ規定ニ依リ經由スル許可申請書ハ其ノ記載事項ノ實否ヲ確メ取締法令ノ規定ニ適合スルヤ否ヤヲ調査シタル上意見ヲ具シテ之ヲ知事ニ進達スヘシ

第二條　火藥類貯藏所竣工屆出アリタルトキハ其ノ旨報告シ檢査上ノ指揮ヲ請フヘシ

檢査ノ上支障ナキヲ認メタルトキハ第一號樣式ノ檢査證ヲ交付スヘシ

第三條　削除

第四條　銃砲火藥類取締法施行細則第八條第一項ノ規定ニ依ル屆書ヲ受理シタルトキハ其ノ都度營業者ニ付キ實地調査ヲ遂ケ特ニ左ノ各號ニ注意シテ視察取締ヲ爲スヘシ

一、讓受又ハ讓渡ニ關シテ取締法令ニ違反シタル事實ナキヤ
二、月末現在高ハ屆出ト符合スルヤ
三、諸帳簿ノ記載ハ正確ナリヤ
四、火藥類ノ貯藏取扱ニ關シテ取締法令ニ違反シタル事實ナキヤ
五、火藥類貯藏所ノ構造ニ破損ノ點ナキヤ

第五條　削除

第六條　左ノ各號ノ場合ニ於テ其ノ讓渡又ハ讓受ノ相手方他ノ警察官署ノ取締ニ屬スル者ナルトキハ本人ノ住所氏名其ノ讓渡又ハ讓受ケタル銃砲火藥類ノ種類、數量及月日ヲ毎月十日、二十日、月末ノ三回ニ區分シ當該警察官署ニ通報スヘシ但狩獵免狀ヲ有スル者又ハ威銃使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ火藥ヲ讓受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス

一、銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者カ銃砲火藥類ヲ其ノ讓受ケニ付許可ヲ要スル者ニ讓渡シタルトキ
二、銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者カ火藥類ヲ銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ其ノ讓受ニ付許可ヲ要セサル者ニ讓渡シタルトキ
三、銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者カ銃砲火藥類ヲ其ノ讓渡ニ付許可又ハ認可ヲ要スル者ヨリ讓受ケタルトキ
四、銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ火藥類讓受ニ付許可ヲ要セサルモノカ火藥類ヲ其ノ讓渡ニ付キ許可又ハ認可ヲ要スルモノヨリ讓受ケタルトキ

第七條　警察官署ハ前條ノ規定ニ依リ受ケタル通報及返納又ハ提出ヲ受ケタル許可證認可證銃砲火藥類取締法令執行規則第七條ノ規定ニ依ル屆出竝本令第四條ノ規定ニ依ル監査ノ結果等ヲ參照シテ銃砲火藥類ノ讓渡讓受ノ有無ヲ調査シ確實ニ之カ視察取締ヲ爲スヘシ

第八條　仕込刀劍其ノ他變裝シタル兇器ハ前二條ノ規定ニ準シテ視察取締ヲ爲スヘシ

第九條　銃砲火藥類ノ讓渡又ハ讓受ヲ許可シタルモノニ對シテハ其ノ讓渡又ハ讓受ニ關シテ取締法令違反ノ事實ノ有無ニ注意スルノ外銜火藥類ヲ讓受ケタル者ニ就テハ左ノ各號ノ視察取締ヲ爲スヘシ

一、許可證記載ノ用途以外ニ之ヲ使用スルコトナキヤ
二、貯藏取扱ニ關シテ取締法令ニ違反シタル事實ナキヤ
三、收支明細書ノ記載ハ正確ナリヤ
四、火藥類貯藏所ノ構造ニ破損ノ點ナキヤ
五、殘餘火藥有リトスレハ其ノ始末

第十條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受クルコトヲ得ルモノニ對シテハ前條ノ規定ニ準シ視察取締ヲ爲スヘシ

第十一條　火藥類ヲ讓受ケタル者ニ對スル視察取締ノ要領ハ第二號樣式ノ臺帳ニ登錄シテ之カ取締ノ資料ト爲スヘシ

第十二條　銃砲火藥類取締法令執行規則第八條ノ二ニヨリ殘火藥類ノ屆出アリタルトキハ第二號樣式ノ二ノ臺帳ニ登錄シ取締ノ資料ト爲スヘシ

第十三條　軍用銃砲ハ第三號樣式ノ臺帳ニ登錄シテ之カ取締ノ資料ト爲スヘシ

第十三條ノ二　拳銃、短銃、仕込銃及仕込刀其ノ他變裝シタル兇器ハ第三號樣式ノ二ノ臺帳ニ登錄シ取締ノ資料ニ供シ異動アル毎ニ整理ノ上一部知事ニ進達スヘシ

第十三條ノ三　銃砲火藥類取締法令執行規則第十四條ノ二ニヨリ獵銃讓受ノ屆出アリタルトキハ第三號樣式ノ三ノ臺帳ニ登錄シ異動アル毎ニ整理ノ上取締ノ資料ト爲スヘシ

第十三條ノ四　銃砲火藥類取締法令執行規則第六條ノ屆出ヲ受理シタルトキハ前三條ニ依リ之カ取締ヲ爲スヘシ

第十三條ノ五　火藥類ヲ消費又ハ使用スル鑛山工事場ニ對シテハ第三號樣式ノ四ノ臺帳ニ登錄シ取締ノ資料ニ供シ異動アル毎ニ整理ノ上一部知事ニ進達スヘシ

第十四條　銃砲火藥類取締法令執行規則第十四條ノ規定ニ依ル屆出ニシテ新ニ所轄內ニ移轉シタル者ニ係ルトキハ之ヲ前所轄警察官署ニ通報スヘシ

第十五條　火藥類運搬ノ許可ヲ與ヘタルトキハ同時ニ許可證記載ノ各事項ヲ運送地及到著地ノ警察官署ニ通報スヘシ

第十六條　火藥類運搬ノ途中休泊ノ屆出アリタルトキハ實地ニ臨檢シテ之カ取締ヲ爲スヘシ

第十七條　火藥類貯藏所臨檢ノ際ハ帶劍及靴ノ儘立入ルヘカラス

第十八條　銃砲火藥類取締法施行細則第三十條ノ規定ニ依ル火藥類ノ收支ヲ明ニスルニハ第四號及第五號樣式ノ帳簿ヲ用ヰシムヘシ

但シ鑛業用火藥類取扱規則ノ適用ヲ受クルモノニ限リ第五號樣式ノ帳簿ヲ省略セシムルコトヲ得

第十九條　耐熱試驗及加熱試驗ノ結果ヲ記載スヘキ帳簿ハ第六號及第十號樣式ニ依ラシムヘシ

第二十條　銃砲火藥類取締法令執行規則第二十七條ニ依リ屆出タル雇人及從業者ハ第七號樣式ノ臺帳ニ登載シ之カ取締ノ資料ト爲スヘシ

第二十一條　警察官署ハ第八號及第九號樣式ノ銃砲火藥類製造販賣業臺帳火藥類貯藏所臺帳ヲ調製シ異動アル毎ニ之カ加除訂正ヲ爲スヘシ

第一號樣式（用紙鳥ノ子）

26×19cm

檢査證

第　號火藥庫	管理者住所氏名	位置	貯藏數量	構造	檢査年月日
					昭和　年　月　日　印

年　月　日

警察署

第二號様式ノ一

火藥類讓受人臺帳

工事名	消費場	火藥類取扱者	許可證 消費期間 自	許可證 消費期間 至	許可證 讓受期間 自	許可證 讓受期間 至	許可證 火藥	許可證 爆藥	許可證 雷管	許可證 導火線	備考
			自 月 日	至 月 日	自 月 日	至 月 日					
			月 日	月 日	月 日	月 日					
			月 日	月 日	月 日	月 日					
			月 日	月 日	月 日	月 日					

讓受者 住所氏名	讓受高 火藥	讓受高 爆藥	讓受高 雷管	讓受高 導火線	月別	消費高 火藥	消費高 爆藥	消費高 雷管	消費高 導火線
					1				
					2				
					3				
					4				
					5				
					6				
					7				
					8				
					9				
					10				
					11				
					12				

一　本簿ニハ勅令第十六條第十七條ニ依リ讓受クル者ヲ記載スルコト

〔山形縣〕

第二號様式ノ二

殘火藥類所持者臺帳

所持者ノ住所 職業氏名年齢	種類數量	讓受時ノ事由	貯藏方法	處置	所持者ノ住所 職業氏名年齢	種類數量	讓受時ノ事由	貯藏方法	處置

〔山形縣〕

第三號様式

軍用銃砲所持者臺帳

所持者ノ住所 職業氏名年齢	種類	數量

備考	所持者ノ住所 職業氏名年齢	種類	數量	備考

第三號様式ノ二

拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝兇器所持者臺帳

種類	所持者ノ住所 職業氏名年齢	所持者ノ性質 業行來歷	讓受ノ年月日及 其ノ事由	廢棄ノ年月日及 其ノ事由	摘要

第三號様式ノ三

獵銃所持者臺帳

所持者ノ住所職業氏名年齢	種類數量	口徑番號

備考	所持者ノ住所職業氏名年齢	種類數量	口徑番號	備考

第三號様式ノ四

火薬類消費（使用）場臺帳

消費場名稱	消費場所在地	消費場責任者氏名	火薬類讓受許可官廳	消費場開始年月日	同上閉止豫定年月日	備考

第四號様式（各種類毎ニ口座別ニスヘシ）

火薬類收支明細簿（用紙美濃紙）

月日	受入	假出	戻入	現在

〔山形書〕

〔山形書〕

第五號様式

火薬類收支明細内譯簿（用紙同上）

受取人　何　某

月日	假受	消費	戻入	消費者（受取人ト消費者ト同一ナルトキハ本欄ニ記入ヲ要セス）

第六號様式

耐熱試驗成績簿（用紙美濃紙）

種類	數量	製造年月日	試驗日時	試驗時間	結果	備考

第七號様式

雇人從業者臺帳（用紙同上）

（雇主）住所　職業　氏名

雇入年月日 解雇年月日	雇入ノ目的 解雇事由	原籍 住所	氏名 生年月日

第八號様式

銃砲（火藥類）製造販賣業臺帳（用紙美濃紙）

番號	年月日許可 年月日（廢業 許可取消）	銃砲（火藥）製造業 銃砲（火藥）販賣業	本籍 住所 店舖營業所ノ所在	氏名 生年月日
備考	本欄ニハ火藥類貯藏所ノ所在竝棟數及營業上處分アリタルトキハ其ノ年月日事由其ノ他取締上必要ノ事項ヲ記載スルモノトス			

〔山形縣〕

注意　本帳簿ハ種類ニ依リ口別ニ調製スヘシ

第九號様式

火藥類貯藏所臺帳（用紙同上）

番號	年月日建設許可 年月日廢止	火藥庫（假貯藏所 倉庫）	本籍 住所 職業	氏名 生年月日
備考	本欄ニハ位置構造ノ概要其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ			

〔山形縣〕

注意　本帳簿ハ貯藏所ノ種類ニ依リ口別ヲ爲スヘシ

●刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器取締規則

昭和十二年十月八日
山形縣令第三十一號

第一條　本令ニ於テ刀劍ト稱スルハ太刀及短刀ヲ謂ヒ匕首トハ短刀様ノモノニテ鍔ナキモノヲ謂ヒ其ノ他之ニ類似ノ戎器トハ刃渡一〇、六糎（三寸五分）以上ノ刃物ヲ謂フ

第二條　刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器（以下刀劍匕首類ト稱ス）ハ業務上其ノ他正當ノ事由ニ依リ特ニ必要アル場合ノ外之ヲ携帶スルコトヲ得ズ

第三條　刀劍匕首類販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ屆出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

一　本籍住所職業氏名生年月日
二　營業ノ場所
三　販賣品ノ種類

販賣業者廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第四條　刀劍及匕首ハ行商ニ依リ又ハ露店ニ於テ販賣スルコトヲ得ズ

第五條　販賣業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ刀劍匕首類ヲ販賣スルコトヲ得ズ

一　未成年者
二　精神異常者

三　住所氏名等不詳ニシテ擧動不審ト認メラルル者

四　酒氣ヲ帶ビタル者又ハ自他ニ危害ヲ及ボスノ虞アル者

第六條　刀劍及匕首ノ販賣業者ハ別記樣式ノ刀劍匕首明細簿ヲ備置キ該當事實アリタル都度之ヲ記載シ警察官吏ノ要求アルトキハ之ヲ提示スベシ

第七條　第三條乃至前條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス前條ノ帳簿ニ不實ノ記載ヲ爲シ又ハ警察官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者亦同ジ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帳簿樣式

刀劍匕首明細簿

仕入年月日	仕入先	種類	員數	賣渡年月日	讓受人住所氏名年齡	種類	員數

●刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器取締規則施行手續

昭和十二年十月八日
山形縣訓令第三十二號

〔山形縣〕

第一條　取締規則第三條ノ規定ニ依リ販賣營業ノ屆出アリタルトキハ營業者ニ對シ規則ノ趣旨ヲ說示シ販賣上ノ注意ヲ與フルト共ニ刀劍匕首類販賣業者臺帳（諸營業臺帳ニ準ズ）ニ登載シ視察取締ノ便ニ供スベシ

第二條　販賣業者ニシテ規則ニ違反シ又ハ公安保持上其ノ販賣ヲ禁止スルノ要アリト認ムルモノアル場合ハ其ノ實情ヲ具シ警察部長ニ報告スベシ

第三條　販賣業者ニ對シテハ每月一回以上營業監査ヲ爲シ取締ノ徹底ヲ期スベシ

●銃砲火藥類取締ニ關スル法令執行ノ參考

明治四十四年七月
警務長訓達保第四六號

銃砲火藥類取締ニ關スル法令ハ施行後日尙淺クシテ執行上疑義ノ存スルモノアルヘキヲ以テ其ノ運用ヲ萬全ナラシムル爲參考トシテ別冊送付候條各位ニ於テ充分硏究ノ上部下一般ニ訓示シ苟モ其ノ執行ヲ誤ルカ如キコト無之樣注意ヲ拂フヘシ

（別冊）

銃砲火藥類取締ニ關スル法令執行ノ參考

一、銃砲火藥類取締法施行規則第十六條ノ規定ニ依ル火藥類ノ讓渡又ハ讓受ノ申請ニシテ其ノ消費地ノ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合又ハ其ノ用途ノ銃砲火藥類取締法施行細則第十五條ニ揭ケタル目的以外ニ係ル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ意見ヲ付シ進達スヘシ

二、銃砲火藥類取締ニ關スル法令ハ官公署ニ適用スルノ限リニアラサルモ右ハ危險物ナルト一方ニハ人民ニ對シ制裁モアルコトナレハ官公署ニ於ケル火藥類ノ授受、運搬、貯藏ノ方法等モ亦該法令ノ規定ニ準據シ取扱フコト

〔山形縣〕

三、銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條ハ警察官署ニ於テ火藥類ノ讓渡其ノ他必要ナル處分ニ付認可ヲ與フルノ規定ヲ爲セリ然ルニ右認可ノ申請者カ火藥類ヲ所持シタル事由種々アルヘク或ハ營業ノ爲何等讓受ニ付許可ヲ要セサリシ者アリ或ハ其ノ許可ヲ要セシ者ニアリテモ許可ヲ爲シタル行政官廳ヲ異ニスルモノアルヲ以テ警察官署ニ於テ認可ヲ爲ス場合ニ於テハ能ク本人カ火藥類所持ノ事由ヲ調査シタル上認可ヲ爲スヘシ

四、營業者及倉庫船ヲ以テ一時倉庫ニ代用セムトスル者アルトキハ銃砲火藥類取締法施行細則第三十六條ノ各項ヲ具シ意見ヲ附シ知事ノ指揮ヲ受ケタル上許否ノ處分ヲ爲スヘシ

五、火藥類ヲ要スル工事ノ爲火藥類讓受許可ヲ受ケタル者ニアリテハ自ラ之カ消費ヲ爲スノミナラス却テ請負人使用人及其ノ職工其ノ他勞務者ニ於テ之ヲ使用スル場合多キヲ占ム然ルニ從來往々是等ノ者ノ間ニ於ケル火藥類ノ授受甚タ疎漏ナルノ虞アリ依テ現行火藥類取締法施行細則第三十條ニ於テ之カ消費者ヲシテ火藥類ノ收支ヲ明カニセシムルノ規定ヲ設ケラレタリ之ニ對スル取締ヲ勵行シ帳簿ノ記載ヲ明確ニセシメ濫ニ授受スルカ如キコトナカラシムルコトヲ要ス

六、舊法ニ於テハ乙種火藥商ニシテ甲種火藥商ニアラサレハ爲スコト能ハサル商行爲ヲ爲ス場合ニ對シ制裁ノ規定アリシモ現行銃砲火藥類取締法施行細則ニハ之カ罰則ノ規定ヲ設ケス之レ銃砲火藥類取締法第三條違反トシテ處分シ得ルノ途アルニ依ルヲ以テ該違反者アラハ同條ニ依リ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

七、烽火ヲ發スル信號、火箭及信號焔管ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル普通火工品ニ該當スルヲ以テ遞信省令船舶信號器救命具取締規則ニ依リ信號器トシテ製造販賣ヲ爲サムトスル者ハ先ツ普通火工品ノ製造販賣ヲ爲スノ許可ヲ要スヘキモノニ付該品製造ヲ爲サムトスル者アルトキハ如上ノ手續ヲ爲サシムヘシ

八、火藥類ノ製造ニ關シテハ銃砲火藥類取締法第二條ノ規定アルヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ於テ銃用實包等ヲ製造スル場合ニ於テモ行政官廳ノ許可ヲ受クヘキ筋合ノモノナレトモ狩獵免狀ヲ有スル者ニ對シテハ火藥類讓受ニ付テモ同施行規則第十八條ノ火藥類ニ限リ許可ヲ要セサルノ特例ヲ認メタル義モアレハ同條ノ數量內ニ於テ火藥類ノ製造ヲ爲スニ當リ許可ヲ要セシムルハ煩瑣ニ渉ルノミナラス取締上差シタル必要モナカルヘキヲ以テ狩獵免狀ヲ有スル者カ其ノ狩獵ノ爲銃用實包等ヲ製造スル場合ニ於テハ許可ノ手續ヲ要セス便宜之ヲ默認シ尙射的場ニ於ケル射的練習ノ爲製造スル場合ニ於テモ亦同樣取扱フヘシ

九、銃砲火藥類取締法施行細則第四十二條ニ依レハ青色試驗紙ヲ容器ノ內箱ニ入レ置クヘキ規定アルモ其ノ容器內ノ各內箱ノ收容品カ悉ク同一製造年月日ノモノナル場合ニ於テハ各內箱每ニ試驗紙ヲ入ルヽヲ要セス其ノ一個ノ內箱ニ入ルヽノミニテ差支無之ヘク之ヲ交換スル場合ニ於テハ同容器內ニ於ケル他ノ內箱ニ入ルヽモ差支ナク又若シ一容器內ニ製造年月日ノ異ナル火藥類ヲ收容セル內箱ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ內ニ於ケル同一製造年月日ノモノニ就キ如上ノ趣旨ヲ適用シ是亦差支ナキヲ以テ右ノ方法ニ依リ取扱ハシムヘシ

同一火藥類貯藏所內ニ同種類ノ火藥類ヲ多數貯藏スル場合ニ於テ其ノ火藥類ニシテ製造所及製造年月日ヲ同シフスルモノニ限リ必スシモ各箱內ニ青色試驗紙ヲ裝置スルヲ要セス左ノ區分ニ依リ取扱ハシメ尙製造年月及製造所名ヲ各內箱ニ記入スルハ必要ナレトモ此等ノ事項ヲ各外箱ニモ記入セシムルヲ要ス

ホ、製造後二年未滿ノ火藥類ニ付テハ其ノ外箱數百ニ對シ四箱以上ノ割合ヲ以テ青色試驗紙ヲ裝置スルコト但シ二十五箱以下ヲ貯藏スル場合ハ其ノ内ノ一箱以上ニ裝置スルコト

ヘ、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノ火藥類ニ付テハ其ノ外箱數百ニ對シ拾箱以上ノ割合ヲ以テ青色試驗紙ヲ裝置スルコト但シ拾箱以下ヲ貯藏スル場合ハ其ノ内ノ一箱以上ニ裝置スルコト

ト、右青色試驗紙ヲ裝置スヘキ箱ハ積込ノ狀況ヲ察シ方面ヲ異ニシ層ヲ異ニスル等適宜ノ措置ヲ採ルコト

十、勅令第四條ニ依ル委託製造ノ屆出製造業ノ屆出テアラサルヲ以テ包括的ニ之カ屆出ヲ爲スヲ得ス委託製造ノ都度屆出ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

十一、勅令第三十八條ハ火藥類買入ノ許可ヲ得タル者モ尚本條ノ許可ヲ要スルモノトス

十二、省令第四條ニ於ケル火藥類取扱免狀ノ效力ハ全國ニ及フモノニシテ同免狀ハ技術ト年齡トヲ條件ト爲シタルニ依リ此ノ條件ヲ充シ得ル者ナルニ於テハ他ノ事由如何ニ拘ハラス之カ交付ヲ爲スヘキモノニ付之ニ關スル願書ヲ受理シタルトキハ如上ノ趣旨ニ依リ調査進達スヘシ

十三、省令第二十八條第二項ノ「各號ノ二種以上ヲ同樣ニ貯藏スル云々」ノ規定ハ同一號中ナル二種以上云々ノ意ニ外ナラサルヲ以テ同條ニ於テ號ヲ異ニシ列記セル火藥類ヲ同樣ニ混容スヘカラサルモノトス

十四、省令第三十五條及第三十六條ニ於ケル繫留船及倉庫船ハ一時倉庫ニ代用スルモノナルヲ以テ一般倉庫ノ貯藏制限ニ準據スヘキモノニシテ其ノ船型及噸量等ハ貯藏ノ位置及貯藏スヘキ火藥類ノ種別ニ應シ適宜措置スヘキモノトス

十五、火藥類假貯藏所ノ設備ハ大要左記標準ニ依ルモノトス但シ火藥類ノ貯藏期間、貯藏品ノ種類數量設置ノ場所及附近ノ狀況ニ依リ火藥類ノ設備ニ準セシメ若シクハ設備ヲ簡易ナラシムル等彈力的ナルコトアルヘシ

（一）假貯藏所ハ木造又土藏造平家建ト爲シ壁ノ外側ハ金屬類ニアラサレハ不燃質物ヲ以テ被覆スルモノトス

（二）屋根ハ施行細則第三十二條第二號ニ準用ス但シ天井ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

（三）壁ノ厚ハ適宜ト爲シ扉ハ之ヲ設クルコトヲ要スル窓ハ設ケサルコトヲ得

（四）内面ハ施行細則第三十二條第四號ヲ準用ス

（五）床ハ施行細則第三十二條第五號ヲ準用ス但シ地面ト床トノ間ニハ必ラスシモ空間ヲ存スルヲ要セサルモノトス

（六）避雷針若ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲ爲スヲ要ス但シ假貯藏所ノ使用期間極メテ短ク且雷鳴期ニアラサル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

（七）土堤ハ之ヲ設クルヲ原則ト爲シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

土堤ノ幅員及位置ニ關シテハ適宜斟酌ヲ加フルコトアルヘシ及法面ハ芝草類ヲ以テ被覆セサルコトヲ得

（八）土堤ノ全部又ハ一部ヲ省略シタル假貯藏ニ於テハ適當ノ場所ニ警戒札ヲ建設スルモノトス

（九）假貯藏所ハ丘陵ノ斜面又ハ隧道ノ側壁ニ横穴ヲ穿チ若ハ地面ニ孔ヲ穿チ之ヲ設クルコトヲ得

（十）前號ノ假貯藏所ニ對シテハ其ノ狀況ニ依リ第一號乃至第八號ノ設備ヲ緩和スルコトアルヘシ但シ扉ハ之ヲ設クルコトヲ要ス

〔山形警〕

十六、銃砲火藥類取締法及其ノ施行命令新舊對照（大要）

銃砲火藥類取締法及其ノ施行命令ノ適用ヲ受クヘキ物件

〔山形警〕

一、舊法ニ於テハ銃砲ヲ分チテ軍用銃砲及非軍用銃砲ノ二種トシ（法第一條）軍用銃砲ノ種類ハ法ノ委任ニ依リ（法第四條）陸海軍告示ヲ以テ之ヲ指定シタレトモ現行法ニ於テハ法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲ノ範圍ハ命令ニ委任シ（法第十四條第一號）タルヲ以テ勅令ニ於テ範圍及種類ヲ明定セリ（勅令第一條）從來火藥類ノ爆力ニ依ラスシテ彈丸ヲ發射スル銃砲卽チ空氣銃ノ類ノ如キモノニシテ其ノ效力ノ裝藥銃ニ均シキカ爲非軍用銃トシ取扱ヒ來リタルモノハ新法ニ於テモ亦變更セラルヽ所ナシ

現行陸海軍告示ニ依レハ軍用銃砲ト雖モ陸海軍官衙ニ於テ廢品ノ處分ヲ爲シタルモノハ軍用銃砲ト認メサル如ク現行法令ニ於テモ法規上之カ規定ヲ爲スモノナケレトモ其ノ廢品處分ヲ爲シタルモノハ非軍用銃砲トシ取扱フヘキコト何等異ルナシ陸軍砲兵工廠及兵器本廠ニ於テ拂下ヲ爲ス銃砲ニハ完全ナル軍用銃砲及廢品處分ヲ爲シタル軍用銃砲トノ二種アリテ廢品處分ヲ爲シタル銃砲ニハ廢品タルノ刻印アルヲ以テ一見兩者ノ區別明カナリト云フ

拳銃、短銃、仕込銃ハ舊法ニ於テ之ヲ非軍用銃砲トセルカ如ク現行法ニ於テモ其ノ性質ハ之ヲ非軍用銃砲ト認ムルニ拘ハラス之カ授受ノ制限ニ付テハ軍用銃砲ト同一ナラシメ尚其ノ所持運搬携帶ニ付制限ヲ付セリ（勅令第三十九條第四十條第四十二條省令第七條乃至第九條第十七條乃至第二十一條第二十三條第二十四條）

二、舊法ニ於テハ火藥類ヲ分チテ火藥、雷管、導火線、其ノ他爆發質物品トシ（法第一條）火藥中ニ火藥及爆發火藥ヲ包含セシメ（法第一條勅令第五條第十一條乃至第十四條其ノ他）爆發質物品中ニハ煙火、銃寸、爆發質玩弄品ヲモ包含セシメタレトモ現行法ニ於テハ火藥類ヲ分チテ火藥、爆藥、火工品トシ（勅令第二條）爆發火藥ヲ稱シテ爆藥ト云ヒ導火線其ノ他總テ火藥工業品ヲ名ケテ火工品トシ玩具用ノ普通火工品ハ之ヲ除外シテ法ノ適用ヲ爲サス其ノ取締ハ之ヲ府縣令ニ委任シタリ

三、舊法ニ所謂爆發質物品中ニハ性質上火藥類ニ屬スヘキモノト否ラサルモノトアルヘク其ノ火藥類ニ屬スヘカラサルモノト雖モ火藥類ト同樣ノ取締ヲ要スルモノアルヘキヲ察シ此等ニ對シテハ法ノ準用ヲ爲スノ規定ヲ設ケタリ（法第十五條勅令第四十八條）

銃砲ノ製造及火藥類ノ製造、變形、修理

一、舊法ニ於テハ非軍用銃砲ノ製造ハ之ヲ認ムルトモ軍用銃砲及火藥類ハ凡テ官廳ノ委任ヲ受ケタル者又ハ新奇發明ニ係ル試驗製造ノ場合ノ外之カ製造ヲ許サヽリシモ（法第二條、第三條）現行法ニ於テハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テスル場合及新奇發明ニ係ル試驗製造ノ場合ニ於テ軍用銃砲ヲ製造スルコトヲ許セリ卽チ舊法ニ認メサリシ輸出ノ目的ノ爲ニハ軍用銃砲ノ製造ヲ許スコト、セリ（法第一條）

二、火藥類ニ付テハ軍用銃砲ト同シク舊法ニ於テハ官廳ノ委任ヲ受ケタル場合及新奇發明ニ係ル試驗製造ノ外ハ之カ製造ヲ許サス（法第二條第三條）唯タ導火線、煙火、銃寸、爆發質玩弄品ニ限リ命令規定ニ依リ之カ製造ヲ認メ（法第十八條）タルニ過キサレトモ現行法ニ於テハ火藥、爆藥ノ製造ハ行政官廳ノ委託額以上ノ同種類ノ軍用火藥類ノ委託ヲ受ケタルモノ、製造スル場合ノ外ハ絶對ニ之ヲ禁止シ軍用火工品ニアリテハ輸出ノ目的ノ爲普通火藥品ニ付テハ許可ヲ受ケタル者又ハ營業トスル場合ハ之カ製造ヲ認メ尚軍用火藥類タルト否トヲ問ハス理科學上ノ實驗ノ爲ニハ小量火藥類ノ製造ニ付何等制限ヲ設ケス（法第二條）

三、舊法ニ於テハ火藥類ニ關スル加工其ノ他ノ行爲ヲ爲スヲ禁シタリシモ現行法ニ於テハ火藥爆藥ノ變形修理ハ火藥類ノ製造ヲ許サレタル者及行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ之ヲ許スノミナラス理科學上實驗ノ爲ニ

ハ銃砲火藥類ノ整形修理ニ對シ何等制限ヲ付スルコトナシ（整形修理ニ付テハ左記參照參考）

銃砲火藥類ノ製造、販賣及營業者定員

一、舊法ニ於テハ銃砲製造營業者ハ其ノ製造改造ニ係ル銃砲ノ官廳又ハ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ニ讓渡ス場合ノ外ハ凡テ銃砲商ニ賣渡スモノトシ其ノ小賣ヲ禁シタルト同シク現行法ニ於テ銃砲ノ外火藥類ニ在テモ製造業者ノ製造シ加工シタルモノヽ卸賣ハ之ヲ認メ而シテ其ノ賣先ヲ制限セス（法第三條）

二、銃砲及火藥類販賣業者ニ對シ定員ヲ定メ又火藥類販賣業者ニ甲乙ノ種別ヲ置タコトハ兩法ニ於テ異ル所ナシ舊法ニ於テハ銃砲製造業者ハ其ノ賣先ヲ銃砲商ニ限ルヲ以テ販賣業者タル定員ノ關係ヲ生セサレトモ現行法ニ於テハ銃砲及火藥類共ニ其ノ製造業卸賣ヲ認メ尙其ノ賣先ヲ制限セサルヲ以テ定員內ニ算入スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ヲ生セサルヘカラス現行法ハ之ニ對シ定員ニ算入セサルノ規定ヲ爲（法第四條）セシヲ以テ從來ニ比スレハ定員外ノ銃砲火藥類販賣業者ヲ見ルモノトス

舊法ニ於テ銃砲ノ修繕業者ハ之ヲ其ノ製造業者ト看做シタルト同シク現行法ニ於テモ其ノ修繕ノ外改造ノ業ヲ營ムモノヲ其ノ製造業者ト看做シ同時ニ火藥類ニ付テモ整形修理ヲ營業ト爲ス者ヲ以テ火藥類ノ製造業者ト看做セリ（法第三條）

三、從來銃砲商ノ許可ヲ受ケタルモノハ何等手續ヲ要セス其ノ儘現行法施行ト同時ニ銃砲販賣業者タリ銃砲ノ修繕業者モ亦同樣ナルノミナラス現行法施行ト同時ニ修繕以外ニ改造行爲ヲ爲スヲ得ヘシ火藥商ニ付テハ火藥商ノ行爲ニ付何等制限ヲ付セサリシ時代ニ經過シテ舊法ニ於テ甲乙ノ二種ニ分チテ商行爲ノ範圍ヲ制限シタルカ爲從來ノ火藥商ニ對スル其ノ種別ヲ明カニスル必要ヲ認メ勅令中其ノ附則ニ於テ其ノ種別ヲ定メ商行爲ヲ爲スノ範圍ヲ明ニセリ

銃砲火藥類輸入及輸出

一、舊法ニ於テハ非軍用銃砲ノ輸入ニ付テハ制限ヲ附セス軍用銃砲及火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタルモノ特ニ官廳ノ許可ヲ受ケタル者及火藥商ニ限リ輸入ヲ爲シ得ルモノトセリ（法第二條）現行法ニ於テハ此等物件ニ對シテハ舊法同樣ノ取締ヲ爲スノ外尙非軍用銃砲モ亦軍用銃砲ト同一ノ場合ニ限リ輸入ヲ爲シ得ルモノトシ火藥類輸入ニ付テハ輸入前及輸入後ニ於ケル屆出ノ義務ヲ命セリ（法第九條省令第十一條第十二條）

二、舊法ニ於テハ銃砲及火藥類ノ輸出ニ對スル制限ヲ設ケサリシモ現行法ニ於テハ其ノ製造又ハ販賣業者ノ外ニ在リテハ特ニ行政官トノ許可ヲ要セルモノトシ尙軍用銃砲及軍用火工品ニ付テハ製造業者ノ輸出ニ付テモ輸出前ノ屆出ヲ必要トセリ（法第八條省令第十三條）輸入及輸出ノ制限ノ規定ハ煙火及船舶備付用煙火類似ノ火工品ニハ適用セサレトモ緩燃導火線ニ付テハ尙之カ制限ヲ付セリ（勅令第四十四條）

三、舊法ニ於テハ銃砲火藥類ノ輸出入ニ關スル禁止制限ノ規定ヲ缺キタレトモ現行法ニ於テハ保安上、軍事上又ハ外交上必要ノ場合ニ對スル制限ヲ規定セリ（法第十一條）且勅令ニ於テハ行政官廳ノ職權ヲ定ム（勅令第二十六條）

銃砲及火藥類取扱人

一、舊法ニ於テハ銃砲及火藥類取扱人ニ關スル規定ヲ缺ケリ現行法ニ於テハ其必要ヲ認メ之カ規定ヲ命令ニ委任シタルニ依リ（法第十四條）勅令中ニ火藥類販賣業者及一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スルモノ、火藥類取扱免狀ヲ有スルモノヽ之ニ任スルヲ必要トシ（勅令第十四條）省令ニ於テハ火藥類取扱人ノ資格ヲ甲乙二種ニ區別シ尙甲種火藥類取扱人ニアラサレハ假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥又ハ爆藥ヲ取扱フ能ハサルコトノ制限ヲ附セリ（省令第四條、第五條）

火藥類ノ買入、貯藏及運搬ノ數量

一、舊法ニ於テハ勅令第五條ニ於テ所持シ得ヘキ數量同第十三條ニ於テ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ數量ノ制限ヲ爲セリ勅令第五條ノ數量ニ付テハ從來民間ニ於ケル苦情ヲ聞カサリシモ第十三條ノ數量ニ付テハ其ノ改正ヲ希ムルコト夥シカリシナリ現行法ハ大ニ民間ノ希望ニ副ハシムルニ力メタルモノトス（勅令第十八條第二十八條）

二、火藥類ノ種類ニヨリ同樣ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ルモノト否ラサルモノトノ別ヲ爲セルコト現行法ハ舊法ト異ルナシ然レトモ舊法ニ於テハ同一棟內ニ貯藏シ得ルモノヲ二種以上貯藏スル場合ニ關シ何等制限ノ規定ナキハ其ノ不備タルヲ免レサルヲ認メ之ニ處スヘキ方法ノ規定ヲ爲セリ（省令第二十八條第二項）

三、舊法ニ於テハ小量火藥及爆藥ノ分ハ凡テ廳府縣長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ買入ルヽ能ハサリシモ（舊勅令第八條第九條）其ノ用途ノ如何ニ依リテハ多少若額數量ノ火藥類ノ買入ヲ警察官署ニ於テ許可セシメサルニ於テハ事業ノ實ニ應シ得ヘカラサルヘキヲ察シ之カ規定ヲ新設セリ（勅令第十七條省令第十五條）

四、舊法ニ於テハ火藥商ニ非スシテ讓受ノ許可ヲ要セス火藥類ノ讓受ヲ爲シ得ル者ヲ狩獵免許又ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタルモノヽミニ限定シタリシモ現行法ニ於テハ鑛物ノ試掘採掘ヲ爲ス者ヲ加ヘ尙工業用ノ爲火藥類ヲ要スル者ニハ其ノ工業ノ許可ニハ火藥類ノ讓受ヲ許サス特ニ火藥類讓受ノ許可ヲ受クルニ於テハ買入ノ都度許可ヲ必要トセサルコトニ改正セリ工業用以上工事用ノ場合ニ付テモ亦同樣ノ規定ヲ新設セリ（勅令第二十一條省令第十六條）

五、火藥類ノ運搬ニ許可ヲ要スルハ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル場合ナルコト現行法ト舊法ト異ルコトナシ然レトモ（勅令第十九條新勅令第三十六條）倉庫ノ貯藏數量ハ現行法ト舊法トヲ比スルニ其數量ヲ增大ナラシメタリ（舊勅令第十三條新勅令第二十八條）舊法ニ於テハ火藥類ノ運搬許可ヲ要スルニハ倉庫ニ貯藏スル數量ヲ超過シタル場合ナルヘキ規定ヲ爲シナカラ運搬中赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗ハ數量ノ如何ニ拘ハラス之ヲ建ツヘキ規定（舊省令第十八條）ヲ爲シタルハ適切ノ方法ニアラサルヲ認メ現行省令中ニ於テ運搬許可ヲ要スル場合ニノミ赤旗ヲ携フヘキコトニ改正セリ（省令第三十九條）

火藥類貯藏所

一、舊法ニ於テハ火藥商ニ對シ火藥庫ヲ備フヘキ規定ヲ缺キタルヲ以テ現行法ニ於テハ之カ規定（勅令第十三條）ヲ新設セリ本條ノ規定ハ火藥類販賣業者ニ對シ一個以上ノ火藥庫ヲ所有セシムルノ趣旨ニアラス共同シテ之ヲ設クルモ差支ナク又ハ之カ借入ヲ爲スモ差支ナシ要スルニ營業品タル火藥類ヲ收容スル自用ノ火藥庫ヲ備ヘシメ因テ倉庫內其他ノ場所ニ多量ノ火藥類ヲ貯藏スル等危害ノ發生ヲ豫防セムトスルニ在リ

二、舊法ニ於テハ火藥庫假貯藏所ノ保存スヘキ距離ハ僅少ニシテ爆發ノ危害ヲ豫防シ得ヘカラサルト現行法ニ於テハ火藥類貯藏所ニ貯藏シ得ル數量ノ最大限ヲ增大シタル結果距離ニ關スル規定ヲ改正セリ（勅[illegible]三十三條）然レトモ舊法ニ於ケル不備ヲ補ヒ貯藏數量ノ增減ニ從ヒ距離モ亦增減シ得ルノ規定ヲ爲シ之カ調和ニ努メタリ卽チ火藥庫ハ一萬貫ノ火藥ヲ收容シ得ルモ其ノ保有スヘキ距離ハ皇陵、社寺、學校市街地其ノ他ニ對シ四町以上ナラサルヘカラサレトモ假ニ五千貫以上ノ火藥ヲ收容スル能ハサル火藥庫ニ在リテハ貯藏數量ノ平方根ニ比例シ其ノ距離ヲ減シ二町四十九間餘ト爲ルカ如シ卽チ左式ノ如トス

$\overset{貫}{\sqrt{10000}}:\overset{町}{4}=\overset{貫}{\sqrt{6000}}:x=\overset{町}{2}\ \overset{間}{9}\ \overset{尺}{3}\ \overset{寸}{7}.$

三、舊法ニ於テハ火藥庫ニ備フヘキ土堤ハ高八尺以上（舊勅令第十六條）トナルヘキ旨ナレトモ元來土堤ノ高サハ火藥庫ノ高サニ比例シ其ノ高サヲ定ムヘク且土堤ニ依リ火藥爆發ノ被害ヲ他ニ及ホサヽラシムルニハ其ノ厚サヲ制限スル必要ヲ認メ現行法ニ於テハ其ノ頂部ノ厚サヲ三尺以上ト爲スヘキ規定（新勅令第三十二條）ヲ爲シタルヲ以テ土堤ノ勾配ヲ一分一卽チ四十五度ト爲スニ於テハ土堤々脚ノ幅員ハ七間半ヲ要スルモノトス

四、舊法ニ於テハ火藥庫ハ地上ニ設備スヘキ趣旨ヲ以テ規定セラレタルニ止マレトモ之ヲ事實ニ徴スルニ地下又ハ水上ニ設クルノ必要アルヘキヲ認メテ之カ規定（省令第三十二條第一項）ヲ爲セリ尙其ノ位置、設備ニ依リテハ規定ノ數量以外ノ貯藏ヲ許シ（勅令第二十九條）其ノ土堤ニ在リテモ例ヘハ自然ノ山ニ擁ハル、等危險ノ虞ナシト認ムル場合ニ於ケル土堤ノ省略ノ規定ヲ爲セリ（省令第三十二條第七號）

五、倉庫ハ火藥類販賣業者ノ小賣用火藥類貯藏所ナルヲ以テ從來ノ經驗ニ鑑ミ勅令第三十三條ニ於テ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ存スヘキモノトシ尙廳府縣長官ノ許可ヲ受クルニ於テハ多少ノ斟酌ヲ爲シ得ルコト、シ尙其ノ設備ニ付テハ省令中之カ規定ト爲セリ（省令第三十三條）

六、假貯藏所ハ舊法ニ於テハ鑛業土工ニ要スル火藥類ヲ事業中貯藏スル所トセリ（舊勅令第十二條）然レトモ鑛業ノ如キハ殆ント永久的ノ性質ヲ有スルヲ以テ其ノ常用火藥類ノ貯藏ハ火藥庫ニ於テ爲サシムヘキモノトノ趣旨ニ依リ現行法ニ於テハ土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ノミニ制限セリ（勅令第二十七條）

假貯藏所ハ以上ノ趣旨ニ依リ短期間ノ貯藏所タルニ拘ハラス之カ構造ヲ嚴密ナラシムルハ實行上困難ナルヘキヲ察シ一ニ廳府縣長官ノ命令ニ從ハシムヘキコトヽ規定セリ（省令第三十四條）

〔山形縣〕

七、繫留船及倉庫船ノ規定ハ從來遞信省令中ニ存セルモ現行法ニ於テハ本省令中ニ之ヲ收メ且元來火藥類貯藏所ハ火藥庫、倉庫、及假貯藏所ノ三者ニ限ルヲ以テ此等船舶ハ一時假倉庫ニ代ハルモノトス隨テ其ノ貯藏數量ニ付テ別段ノ規定ヲ爲サヽルモ倉庫ノ貯藏數量ヲ超ユヘカラサルハ勿論ノコト、ス（省令第三十五條第三十六條）而シテ同船舶ノ位置ノ指定變更其ノ他ノ命令ハ横濱港、神戸港、門司港及長崎港ニ於ケルカ如キ港務部長ノ職權ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ場所ニ於テハ警察官ノ職權ト爲セリ

八、近來火藥類ハ其ノ爆力大ニ強ク此等ハ其ノ製法ニ精巧ヲ極ムルカ爲勢ヒ其ノ變質モ亦容易ナルヲ免レサルヲ以テ從前微力ノ火藥類ニ在リテ爆發ノ虞少ナカリシニ反シ温度ニ注意ヲ缺クトキハ自然爆發ノ虞尠シカラムトス故ニ現行法ニ於テハ此ニ顧慮シ換氣ノ注意温度ノ登簿等ニ關スル規定（省令第三十九條第四十一條）ヲ新設セリ取締ノ任ニ當ル者ハ爆發豫防上大ニ注意ヲ要スルモノトス

火藥類不良ノ檢定

一、舊法ニ於テハ棉火藥、及ダイナマイトノ類ニ依リ檢査ノ規定ヲ爲シ（舊勅令第十一條第四號）青色試驗紙ニ依ル方法ヲ以テ唯一ノ檢定方法トセリ現行法ニ於テハ試驗ノ結果不良品ト認定シタルモノニ對シテハ必要ナル處置ヲ取ルヘキ規定（勅令第四十三條）ヲ爲シ其ノ試驗方法ニ付テハ省令中ニ之ヲ設ケ青色試驗紙ニ依ルコト遊離酸試驗ニ依ルコト及耐熱試驗ニ依ルコトノ三方法ヲ以テス（省令第四十二條乃至第四十七條第四十九條、第五十條）

二、耐熱試驗ニ要スル沃土加里澱粉紙及標準色紙ハ官廳ノ製造ニ係ルモノヲ要スルノ規定（省令第四十六條末項）ヲ爲シタリ

〔山形縣〕

（參照）

修理ノ例

一、銃砲火藥耐熱降下シテ使用ニ堪ヘサル爲メ之ヲ「メチルアルコール」ニテ洗滌スルコト

一、黒色火藥ノ水分規定外ニ含有シタル爲目的ノ用途ニ供スル能ハサルヲ以テ之ヲ乾燥スルコト

一、雷汞ヲ貯藏スル爲一時水中ニ貯ヘ置キタルモ使用ニ際シ取出シテ乾燥スルヿ

變形ノ例

「ダイナマイト」ノ有スル一定ノ寸度ノモノ其儘ニテ使用スルコト能ハサル爲更ニ之ヲ切斷シテ使用ニ適セシムルコト

十七、火藥類貯藏所ノ容積ハ其ノ貯藏スル火藥類ノ種別ニ依リ之ヲ異ニスト雖モ假ニ「ダイナマイト」ノ最大數量ヲ貯藏スルモノトスル火藥庫ノ大サヲ計算スレハ左ノ如シ

一、「ダイナマイト」一箱ノ容積二立方尺ニシテ其ノ重量六貫匁トスレハ施行規則第二十八條ニ依リ「ダイナマイト」ノ最大貯藏重量五千貫匁ハ八百三十三箱二貫匁ナルヲ以テ八百三十四箱ヲ貯藏スルモノトシ火藥庫ノ大サヲ計算スレハ同庫ノ大サハ内法ニテ縱二十七尺横二十一尺ノ面積ヲ要スルモノトス

以上ハ「ダイナマイト」五千貫匁ヲ收容シ得ヘキ最少限ノ火藥庫ヲ見積リタルモノニシテ之ニ「ダイナマイト」八百三十四箱ヲ貯藏スルニハ左ノ方法ニ依ル

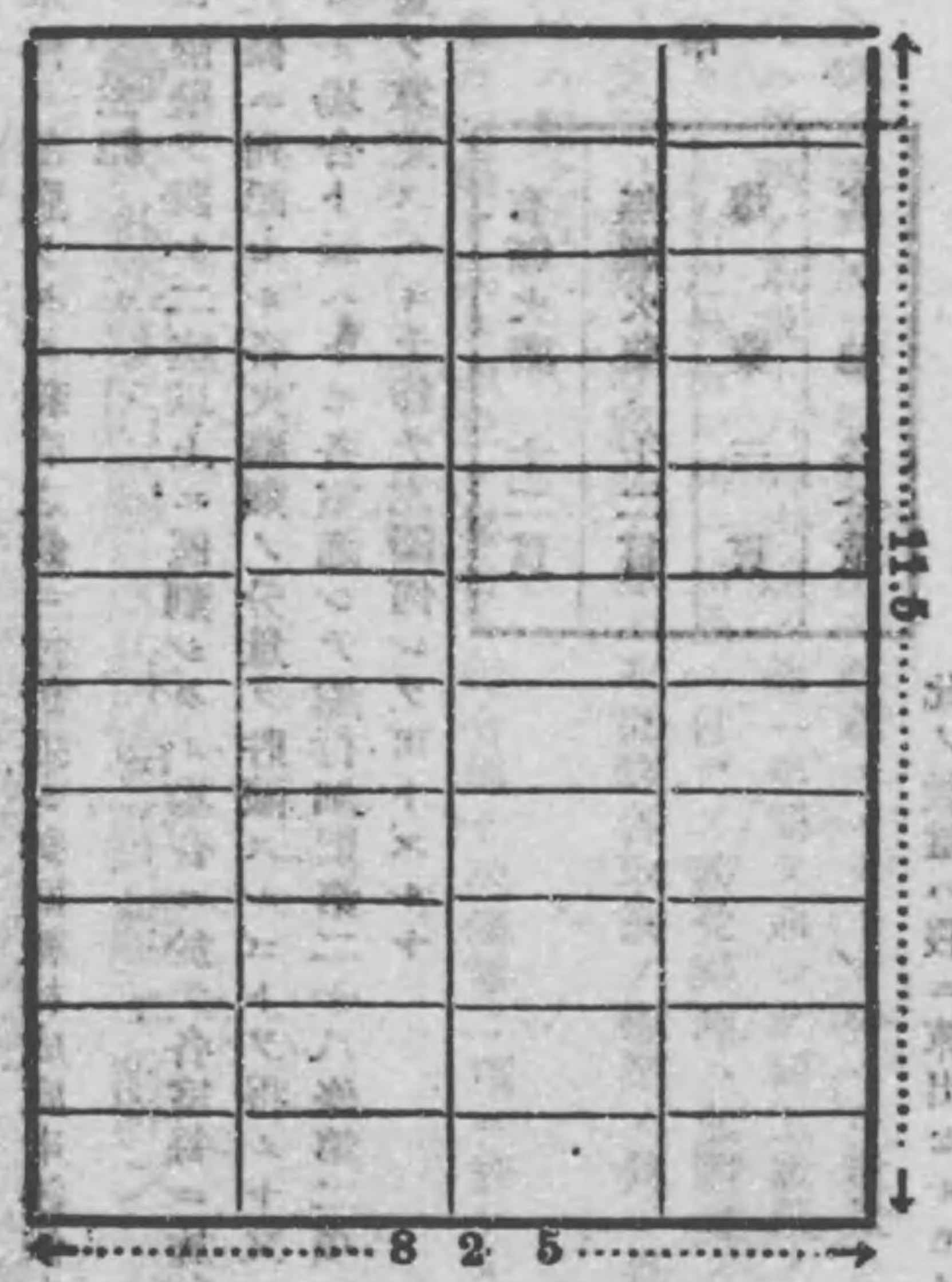
（イ）庫ノ内壁ニ添フテ四方ニ一尺五寸ノ通路及縱横十字形ニ一尺五寸ノ通路ヲ設ケ庫内荷積場所ニ四箇等分ニ區別ス

（ロ）箱ハ之ヲ五層ニ積ミ上ク（第一、第三、第五層ハ各層トモ縱ニ四十四箱第二第四層ハ各層トモ横ニ四十箱ヲ積上ク）方法ニ依レハ各層トモ各箱ノ間ニ多少ノ空隙ヲ存シ空氣ノ流通ヲ計リ得ヘシ

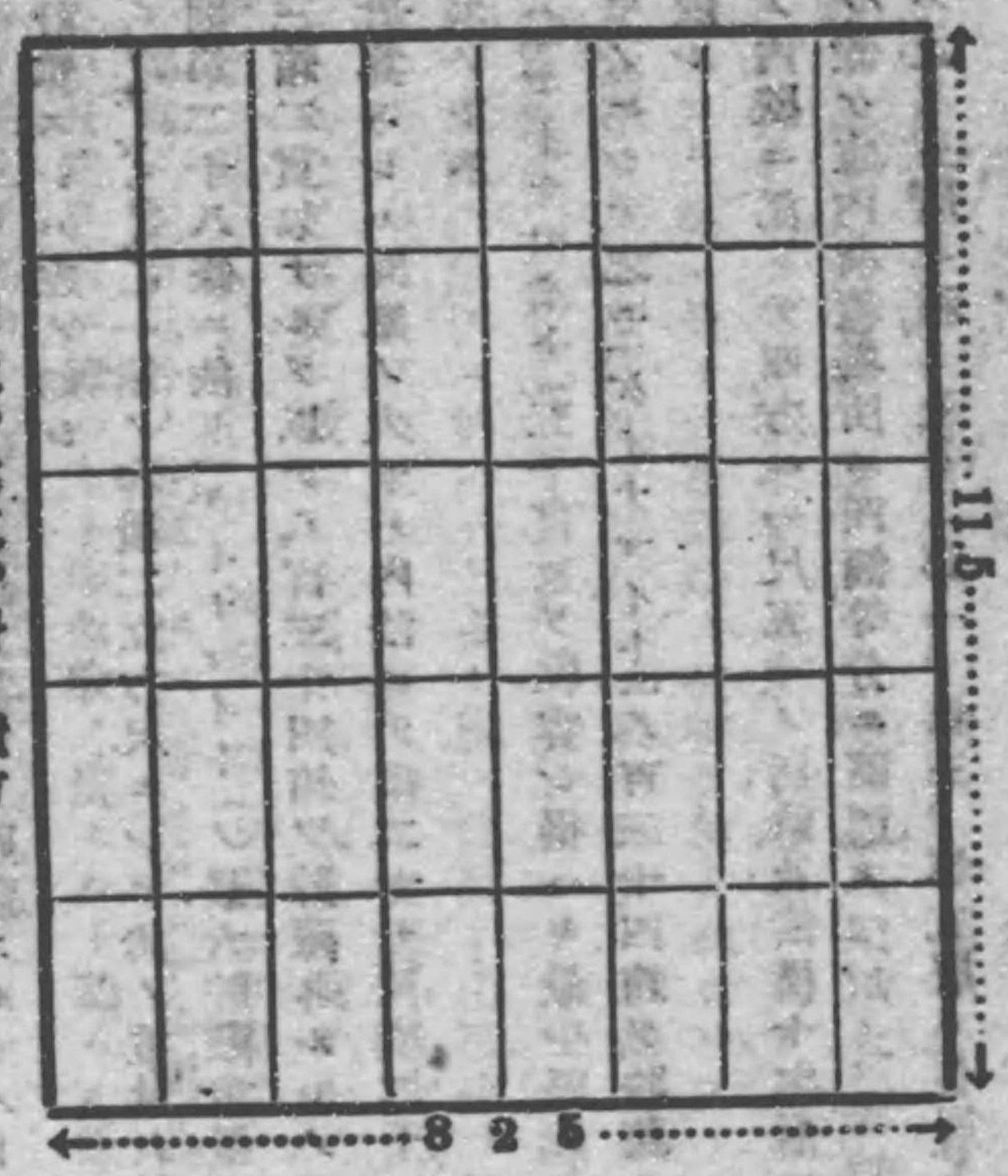
（ハ）右ノ方法ニ依ルトキハ二箱ヲ積ミ餘スヲ以テ適宜ノ場所ニ之ヲ置クヘシ

二、庫内ノ高サ（床ト天井トノ間）ハ火藥箱五層ト枕木トニ依ル五尺三寸以上其ノ上層ヨリ天井迄少クトモ三尺ヲ要スルニ付八尺三寸以上ナラサルヘカラス

三、一區域内ニ於ケル積上方法ハ左記圖示ノ如シ



第二、第四、層ノ積方



第一、第三、第五、層ノ積方

●火藥倉庫ニ隔壁ヲ設ケタル場合ニ於ケル火藥類貯藏數量算定方ニ關スル件

明治四十四年八月
警務長依命關達 收保第一二七三號ノ一

火藥倉庫ニ隔壁ヲ設ケタル場合ニ於ケル火藥類貯藏數量ノ算定方ニ關シ別紙甲號兵庫縣知事ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答シタル旨内務省警保局長ヨリ通牒有之候條同樣造ノ倉庫ニ於ケル火藥類貯藏數量ノ算定ハ左ニ依ル儀ト心得ヘシ

甲號

〔山形縣〕

内務省警保局長宛兵庫縣知事照會 明治四十四年八月十四日
保發第三二一號

火藥倉庫ニ隔壁ヲ設ケタル場合ニ於ケル火藥類貯藏數量ノ算定方ニ付左記ノ通疑義有之候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ本件ハ差懸リタル義有之候ニ付折返シ御回報相成度申添候也

左記

一倉庫ニ隔壁ヲ設ケ二室以上ニ區劃シタル場合ニ於テ各室每ニ施行規則第二十八條ニ列記セル各火藥類ノ分量ヲ貯藏スルコトヲ得ルヤ又ハ隔壁ヲ設ケタル場合ト云ヘトモ各室通シテ施行細則第二十八條第二項ニ依リ貯藏數量ヲ算定スヘキヤ卽チ左圖何レヲ可トスルヤ

甲

有煙火藥	十二貫
無煙火藥	十二貫
爆藥	三貫
其ノ他	各全量

此ノ數量ハ假ニ算出セルモノ

乙

有煙火藥	$\frac{1}{4}$
無煙火藥	$\frac{1}{4}$
爆藥	$\frac{1}{4}$
其他	$\frac{1}{4}$

甲圖ニ依ルトキハ事實ニ於テ規模ノ火藥庫ヨリ以上ノ數量ヲ貯藏スル倉庫存スルニ至ルヘク距離、構造設備ノ權衡ヲ失スルニ至ルヘク乙圖ニ依ルトセハ一室ニ貯藏スルコトヲ得ル各數量ノ算出方不明ニシテ且ツ假リニ乙圖

〔山形縣〕

ノ如ク細則第二十八條第二項ニ準用スルトセハ極メテ小量トナリ甲種火藥商ノ如キ廣ク各種類ニ渉リ貯藏スルコトヲ要スルモノ尠カラサル不自由ヲ感スヘシ

乙號

兵庫縣知事宛警保局長回答 明治四十四年八月二十四日
警兵第九五號ノ一

本月十四日付保發第三二一號ヲ以テ火藥類倉庫貯藏數量算定方ノ件御照會ノ趣了承右ハ甲圖御意見通リ勅令第三十一條及省令第二十八條ニ依リ一倉庫ヲ四室ニ區劃シ每室勅令第二十八條ニ依ル倉庫ノ貯藏數量ヲ收容シ得ル義ニ有之候尤モ四室以上ニ區劃シ同種類ノ火藥類ヲ二室以上ノ場所ニ貯藏スル場合ニ在リテハ右種類ノ火藥類數量ハ各室ヲ通シテ勅令第二十八條ニ依ル倉庫ノ貯藏數量ヲ超過シ能ハサル次第ニ候條御了知相成度此段及回答候也

●火藥類取扱數量計算方ニ關スル件

大正二年六月
警務長依命關達 收保第一七六九號ノ一

火藥類取扱數量計算方ニ關シ左記ノ通照覆アリタル旨内務省警保局長ヨリ通牒有之候條取扱方注意スヘシ

記

大正二年五月六日内務省警保局長宛北海道廳長官照會

銃砲火藥類取締法令中左記事項ニ付疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度及問合候也

左記

一、省令第五條假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥又ハ爆藥トハ勅令第十四條第一項後段ノ如ク一年間ノ取扱數量ト見ルヘキヤ若一年間ノ取扱數量トセハ讓受讓渡シヲ合算シタル數量ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノナルヤ

二、前記假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ハ省令第五條第二項ノ如ク爆藥一貫ハ火藥二貫ト看做シ合算スヘキモノナルヤ

内務省警第二五〇八號北海道廳長官宛警保局長回答（大正二年六月四日）

火藥類取扱人設定ノ件回答

本件ニ關シ本月六日付警保第三三四〇號ヲ以テ御照會ノ處右ハ左記ノ通被存候

一、省令第五條ニ於ケル假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ノ超過スル火藥又ハ爆藥ノ取扱トハ御申越ノ通一年間ヲ通シテ同上數量ノ火藥類ヲ取扱フコトニ有之候但シ同一物品ニ付テノ讓受讓渡ハ勿論其ノ他取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱等各取扱ノ種類ノ異ル每ニ合算スル義ニハ無之候

二、火藥及爆藥ヲ共ニ取扱フ場合ハ勅令第十四條第二項ニ於ケルト同樣御申越ノ通計算スヘキ義ト存候

●火藥類貯藏所保有距離ニ關スル件

大正二年八月
警察部長依命關達 收保第二三三四號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ火藥類貯藏所保有距離ニ關シ別紙ノ通通牒有之候條取扱方注意スヘシ

（別紙）

內務省警第二二五四號

大正二年七月二十八日　內務省警保局長

小田切山形縣知事宛

火藥類貯藏所保有距離ニ關スル件依命通牒

火藥類貯藏所ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十三條ニ依リ一定ノ距離ヲ保有スヘキモノナルヲ以テ同規則附則ニ依リ廳府縣長官ニ於テ指定シタル改造期間經過後ニ於テハ總テ適法ノ距離ヲ有セサルヘカラサルハ勿論貯藏所ノ存在スル限リ同上ノ距離ハ常ニ保有セサルヘカラサル義ナルヲ以テ同貯藏所經營者ハ其ノ新設ノ際ニ於テ相當ノ計畫ヲ立テ新設當時ノ狀態維持ニ力ムヘキハ是亦勿論ノコトナレトモ若シ不幸ニシテ右保有距離內ニ同第三十三條第一項各號ニ列記セルモノ、新營セラル、ニ於テハ貯藏所ハ勢ヒ適當ノ位置ニ移轉セサルヘカラサルニ至ルヘク火藥類貯藏所ノ建設者ニトリテハ業務上多大ノ障害タルヘク被察候ニ付既設ノモノハ格別トシ將來同第三十三條第一項各號ニ列記セル鐵道軌道工場其ノ他ノモノ、建設出願等ノ場合ハ右事情ニ鑑ミラレ可成迂回ノ方法ニ依ル等相當御措置相成候樣致度

〔山形警〕

●加熱試驗施行方法ニ關スル件

大正三年十一月

警察部長依命通達秋高第三一二九號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ加熱試驗施行方法ニ關シ左記ノ通通牒有之候條此旨心得ヘシ

〔山形警〕

加熱試驗法

加熱試驗ハ一定溫度ニテ一定時間爆藥ヲ加溫シ分解セシメ其ノ減耗百分率ヲ測定シ其ノ減耗率ニヨリ爆藥ノ良否ヲ判斷スル爲ニ行フヘキナイトログリセリン若ハ純硝化纖維素類ヲ含有セサル硝酸アンモニアヲ主トセル爆藥ノ良否試驗法トス

第一、所要器具

所要ノ器具ハ其ノ主性能（例ヘハ秤量壜ニ在テハ栓ト口部ノ接合完全ニシテ密閉確實ナルコト除濕器ニテハ密閉確實吸濕劑ノ吸濕力完全ナルコト等）完全ナルニ於テハ其ノ形狀寸度ハ試驗結果ニ何等ノ影響ヲ與フルモノニアラサルヲ以テ强テ之ヲ一定スルノ必要ナキニ依リ適宜ノ器具ヲ用ユルヲ得ルモノトス左ニ所要器具ノ一例ヲ示シ且ツ使用上二、三注意スヘキ事項ヲ揭ク

一、化學天秤、普通化學用天秤、秤量百瓦、感量壹ミリグラムノモノヲ用ユ同天秤各支持點ハ摩擦ヲ減スルカ爲瑪瑙製トスルヲ可トス右使用ニ付テハ化學天秤使用法ヲ熟知シ天秤琺瑪ノ取扱ヲ叮寧ニシ精密器具ノ性能ヲ害セサル樣注意スルヲ要ス其ノ注意事項左ノ如シ

一、天秤臺ハ必ス水平ニ位置セシムルコト

一、秤皿、秤桿及ヒ床板等ハ常ニ清潔ニシ使用前ニ必ス清掃スルコト

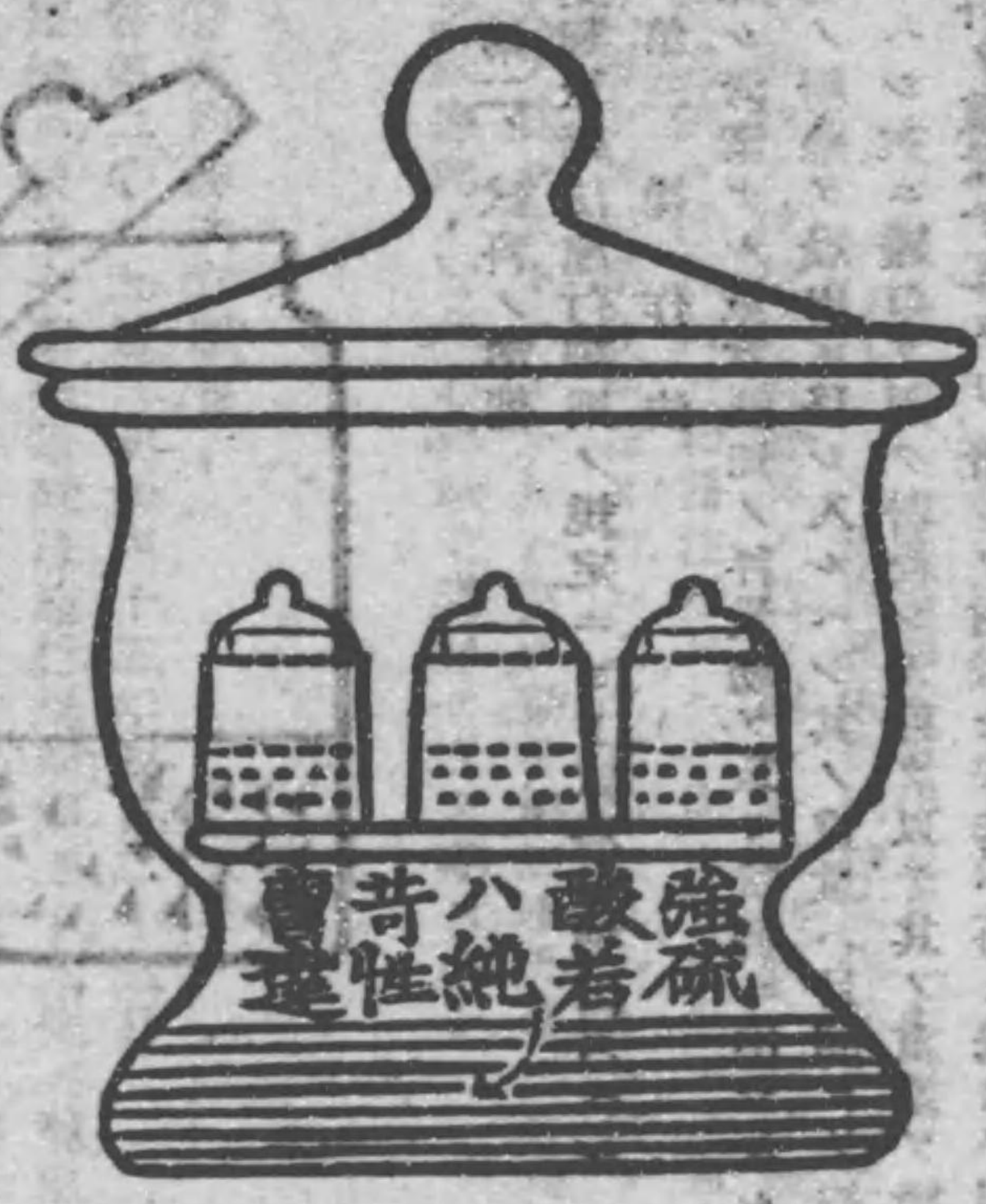
秤皿及ヒ秤桿ヲ其ノ支點ヨリ隔離セシムルトキハ秤桿ハ輕ク運動ヲ始メ指標針ハ標尺ノ零度ノ左右ニ等シク振動スルコト若秤桿平衡ヲ保タサルトキハ秤桿ニ附着スル加量螺子ヲ回轉シテ調整スヘシ又鋭敏度ニ欠點アレハ秤桿ノ中央指標針ノ上部ニ附着セル加量螺子ノ位置ヲ上下スヘシ

秤量スヘキ物料ヲ左方秤皿上ニ琺瑪ヲ右秤皿上ニ置クヲ常トシ琺瑪ハ重量順序ニ從ヒ秤皿上ニ置キ其ノ取扱ハ必ス鋏子ヲ以テ行ヒ決シテ直接指端ヲ以テ扱フヘカラス

一、物料及ヒ琺瑪ノ重量平衡ニ近ツクトキハ天秤箱ヲ閉鎖シ椅子ヲ使用シ平衡ヲ求ムヘシ

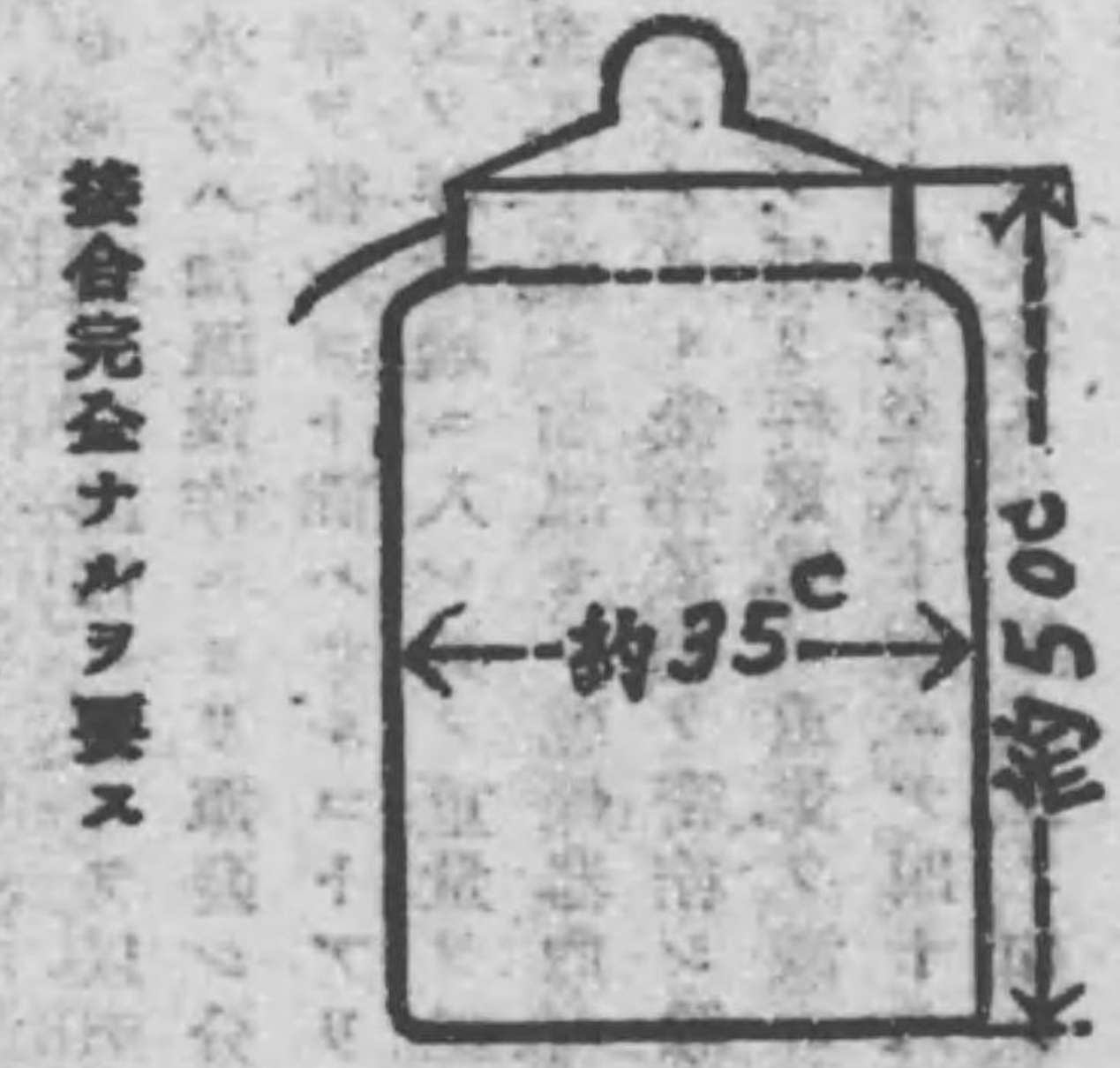
一、物料或ハ琺瑪ヲ加減スル際ハ秤皿及ヒ秤桿ノ動搖ヲ止メ置クヘシ

二、除濕器（デシケーター）玻璃製ニシテ略圖ニ示スカ如シ、蓋ト本體トノ接觸部ハ完全ニ摺リ合セヲナシ全ク吻合スルヲ要ス而シテ少量ノ「ワセリン」若ハ軟質ノ練リ油ヲ塗布スルトキハ完全ニ密着シ決シテ空氣ノ漏洩セサルモノトス又吸濕劑トシテ九十五パーセント以上ノ强硫酸（運搬ニ際シ液ノ動搖ヲ防ク爲浮石數個ヲ入ル）若ハ無水鹽化石灰或ハ純苛性曹達等ヲ使用スヘシ但シ時々吸濕劑ヲ入レ更ヘ且蓋ノ接際面ニ塗布セル油脂ヲ新ニシ吸濕力ト密閉度ヲ完全ナラシムルコトニ注意スヘシ

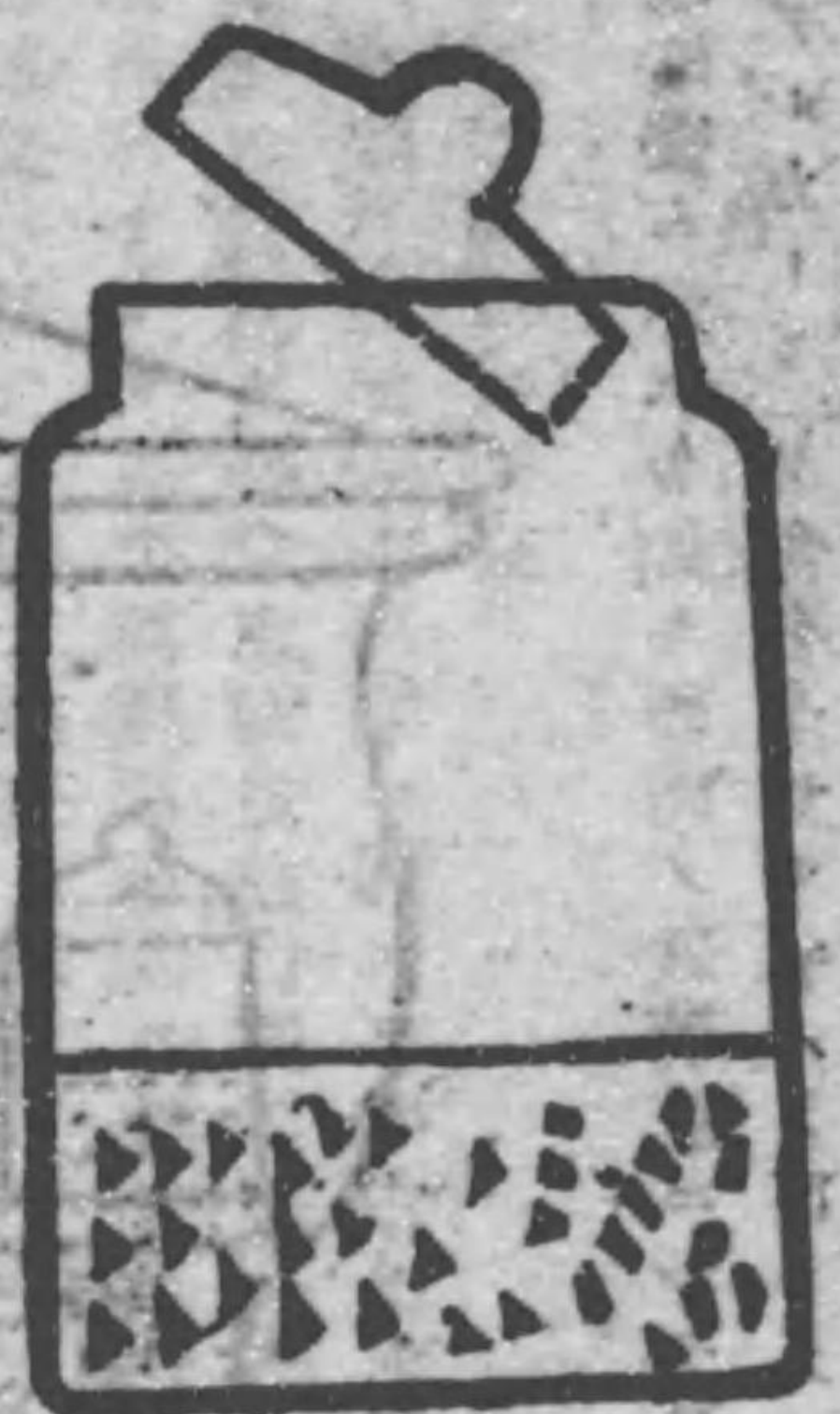


三、秤量壜略圖ニ示スカ如キ薄肉ノ玻璃瓶ニシテ品質ハ熱ノ爲容易ニ破損セス且「アルカーリ」ヲ含有セサルモノヲ可トス蓋ハ摺リ合セヲナシ密閉完全ナルヲ要ス壜ハ充分清潔ニ洗滌シタル後攝氏約百度ニテ約八時間乾燥シ後除濕器ニ入レ秤量室ニ一時間以上放置シ秤量室ノ溫度ト同一ノ溫度ニ達スル迄冷却シ後精密ニ秤量シ正シク其ノ重量ヲ秤リ置クヘシ

四、乾燥器普通化學分析ニ使用スル銅製ノ乾燥器トス器ハ銅製ニシテ周圍ハ二重壁ヲ爲シ其ノ間ニ水ヲ入レ下方ヨリ瓦斯火若ハ酒精燈類ヲ以テ所望ノ溫度ニ加熱スルモノトス上部ニハ檢溫器及溫度調整器ヲ挿入スヘキ孔ヲ設ケ器內ノ溫度ノ測定及溫度整調ヲ爲サシム又內部ハ空室ニシテ中央ニ棚ヲ設ケ此ノ上ニ加溫スヘキ秤量壜ヲ置クモノトス



使用法乾燥器內ニハ先ツ水ヲ充滿シ檢溫器ヲ秤量壜ヲ置クヘキ位置迄挿入シ且溫度調整器ヲ裝シ下方ヨリ加熱シ器內ノ溫度約七十五度ニ達シタルトキ試料ヲ容レタル秤量壜ヲ圖ノ如ク開口シ棚上ニ安置シ所望ノ溫度ヲ以テ加熱スヘシ



第二　試料ノ準備

銃砲火薬類取締法施行細則ノ規定ニヨリ試料ヲ抽出スヘシ

第三　操作法

豫メ乾燥シ清潔ナル重量既知ノ秤量罎ヲ取リ試料ニ供シタル薬包ノ一端ヲ開キ内部ノ粉薬ヲ罎内ニ移シ入ルヘシ其ノ重量ハ目測ニテ約十瓦ヲ得ルコトヲ努ムヘシ次ニ罎口ヲ固ク密栓シ天秤ヲ以テ其ノ重量ヲ精密ニ秤ルヘシ

（若シ試料ノ重量十瓦ヨリ著シク増減セル時ハ再ヒ罎口ヲ開キ試料ヲ減シ若ハ加ヘ略ホ十瓦ニ近キ量トナシタル後精密ニ秤定スヘシ）

試料ノ採取及ヒ秤量ハ可成乾燥セル室内ニ於テ行ヒ且可成操作ヲ迅速ニシ試料ニ水分ヲ吸收セシメサルコトニ注意スヘシ次テ豫メ約七十五度ニ加温セル乾燥器内ニ安置シテ罎口ヲ開キ置キ四十八時間加温スヘシ加温中ハ温度調整器ヲ使用シ温度ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ保持スヘシ

此ノ加熱器ハ瓦斯ノ設備ナキ所ニハ使用不便ナルヲ以テ此ノ場合ニハ普通ノ乾燥器及精酒燈ノ類ヲ用フヘシ但シ加温方ニ注意シ温度ヲ規定ノ範囲内ニ保ツヲ要ス規定時間ノ加温ヲ了スレハ秤量罎ノ口ヲ密閉シ除濕器内ニ入レ天秤室内ニ一時間以上放置シタル後秤量罎ノ重量ヲ再ヒ精密ニ秤量スヘシ

〔山形警〕

減耗率ノ計算ハ左ノ算式ニ依ルモノトス

甲ヲ秤量罎ノ重量トス
乙ヲ加熱前ニ於ケル秤量罎及ヒ試料ノ合量トス
丙ヲ加熱後ノ秤量罎及ヒ試料ノ合量トス

$$\frac{乙-丙}{乙-甲}\times100=\text{減耗率}$$

硝酸アンモニアヲ主トセル爆薬ハ吸濕性ニ富ムヲ以テ容易ニ水分ヲ吸收スルモノナリ而シテ其ノ水分ハ加温操作ニヨリ揮發シ分解百分率ヲ增加シ眞正ナル爆薬分解ノ減耗率ヲ得ルコト能ハサルコトアリ水分多キ疑アルトキハ前記ノ如ク試料約十瓦ヲ秤量罎ニ入レ其ノ重量ヲ正シク秤定スルコトナク直ニ攝氏七十五度乃至八十度ニ加温セル乾燥器内ニ開口ノ儘置キ約五時間加温シ、水分ヲ揮發セシメタル後秤量罎ヲ密栓シ除濕器ニ入レ前記ノ如ク放冷シ後精密ニ其ノ重量ヲ秤リ秤量罎ノ重量ヲ減シテ試料ノ重量ヲ求ムヘシ次テ再ヒ罎口ヲ開キ七十度乃至八十度ニテ四十八時間加温シ後放冷、秤量シ其ノ減耗量ヲ百分率ニ改算ス其ノ算式左ノ如シ

甲ヲ秤量罎ノ重量トス
乙ヲ乾燥後ノ試料及ヒ秤量罎ノ合量トス
丙ヲ加熱後ノ試料及ヒ秤量罎ノ合量トス

$$\frac{乙-丙}{乙-甲}\times100=\text{減耗率}$$

以上二個ノ場合ニ於ケル減耗率ハ百分率ナルヲ以テ其ノ數値前者ニ於テ一、以上後者ニ於テ〇、一以上ナルトキハ不合格ナリトス

●地下倉庫新設ニ關スル件

〔山形警〕

明治四十五年三月
警務長依命通達收保第六五七號ノ一

銃砲火薬類取締法施行細則第三十三條ノ規定ニ依リ倉庫ハ之ヲ地下ニ建設シ得ラル、所ヨリ地上ニ周圍一間以上ノ空地ヲ保有セシムルコトノ困難ナル場合ニ於テ之レカ敷地ヲ住居其ノ他ノ建造物内ノ地下ニ求ムルモノ可有之モ斯クテハ危險勘カラサルヲ以テ斯ル設計ノ倉庫建設ニ對シテハ之ヲ許可セサル方針ニ有之候條取扱上注意スヘシ

●陸軍軍人拳銃ノ授受、携帶ニ關スル件

明治四十五年五月二十三日
警務長依命通牒收保第一四九六號ノ一

陸軍軍人拳銃ノ授受、携帶其ノ他ニ關シ今般別紙ノ通照覆有之候處其ノ筋ヨリ通牒越候ニ付取締上相當注意スヘク尚ホ下士以下ノ軍人ニシテ職務上拳銃ヲ必要トスル場合ニ在リテハ之ヲ官給セラルルニ依リ若同軍人ニシテ之カ買入ヲ爲サムトスルトキハ實施勅令第三十九條ノ許可ヲ受ケシムヘキ義ニ有之候條此ノ旨相心得敢テ遺算ナキヲ期スヘシ

別紙

（甲號）

陸軍次官宛内務次官照會
内務省警第二〇二九號　明治四十五年四月二十五日

拳銃、短銃ハ銃砲火薬類取締法施行規則第三十九條ノ規定ニ依リ職務ノ爲授受運搬又ハ携帶スルニハ警察官署ノ許可ヲ受クルヲ要セサルヲ以テ本年勅令陸第一號陸軍服装規則ニ依リ拳銃ノ佩用ヲ要スル者ハ其ノ現役軍人タルト在郷軍人タルトニ拘ラス警察官署ノ許可ヲ受クルコトナク授受其ノ他ノ行爲ヲ爲スニ於テ差支無之候得共若シ制規ノ服装以外ノ場合ニ於テ同一行爲ヲ爲ストキハ直ニ同第三十九條ニ違反スル次第ニ有之然ルニ制規ノ服装ヲ爲スヘキ場合ハ其ノ數多カラサルニ拘ラス既ニ拳銃ヲ所有スル上ハ不知不識之レヲ携帶スル等違反ノ行爲ヲ爲スノ虞可有之爲ニ處罰ヲ受ルカ如キコト有之ニ於テハ甚タ遺憾ノ義ニ有之候ニ付各軍人ニ對シ注意方可然御訓達相煩度此段及照會候也

別紙

（乙號）

内務次官宛陸軍次官回答
陸軍省送達陸普第一六四九號　明治四十五年五月十三日

四月二十五日内務省警第二〇二九號ヲ以テ照會相成候拳銃、短銃取扱方注意ノ件了承然ルニ軍令陸第一號陸軍服装規則ニ規定ノ場合以外ニ於テ職務上之カ携帶ヲ要スル場合多々相生シ候條軍ニ制服着用以外ニ在テ銃砲火薬類取締法施行規則第三十九條ノ手續ヲ履行スルコトナク運搬携帶等ヲ爲ストキハ相當ノ制裁ヲ受クヘキ旨特ニ陸軍一般ヘ注意致置候間承知相成度此段及回答候也

●銃砲火薬類取締法施行細則第十八條ノ意義ニ關スル件

大正元年八月三日
保安課長依命通牒

銃砲火薬類取締法施行細則第十八條ニ「效力ヲ失ヒ云々」トアルハ獨リ勅令第十九條第三項ノ場合ニ於ケル許可證ノ失效ノミヲ指稱スルニ非ス期間經

途ニ困ル失效其ノ他一切ノ場合ヲ包含シ失效事由ノ如何ヲ問ハス隨テ夫ノ細則第二十一條ノ規定ニ依リ許可證ヲ相手方ニ交付スルカ如キ場合ヲ除キ總テ之ヲ所轄警察官署ニ返納セシムルコトニ道府縣議決定相成候條此ノ旨精心得者ニ徹底セシメ其ノ署從來ノ取扱振ハ爾今之ヲ改ムヘシ

●取締ヲ受クヘキ火薬類ニ關スル件

大正二年六月
警察部長依命通達收保第一九三七號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ火薬類取締方ニ關シ別紙ノ通リ照覆アリタル旨通牒有之候條取締方遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

警保局長宛高知縣知事照會（大正二年五月二十七日）

鷄冠石ト鹽酸加里ノ合薬ハ銃砲火薬類取締法施行規則第二條ノ爆薬ノ一種ト被認火工品トシテ製造販賣ヲ許可スヘキモノニ無之ト被存候得共坊間販賣ノ火工品中前記二種ノ合薬ヨリ成ルモノ有之候處右ハ火工品トシテ製造ヲ許可シ差閊無之哉貴見承知致度此段及問合候也

警高第四五號ノ內高知縣知事宛警保局長回答（大正二年六月二十日）

客月二十七日附保發第一一四號ヲ以テ本件ニ關シ御問合ノ處鷄冠石ト鹽酸加里トノ合薬ハ鹽酸鹽ヲ主トスル爆發薬卽チ爆薬ニ屬スルモノナルヲ以テ銃砲火薬類取締法第二條ニ依リ製造スヘカラサル儀ニ候條御了知相成度候

●火薬類販賣業者ニ於テ火薬庫設備方

大正二年三月二十四日
警察部長依命通達收保第八二四號ノ一

〔山形縣〕

（大正二年三月五日新潟縣知事回答警保局長通牒）

本月五日付保收第二一一八號ヲ以テ本件ニ關シ御回答相成候處營業者ニシテ自ラ火薬庫ヲ備フルコトナク或ハ他府縣所在ノ火薬庫又ハ縣內ニ在テモ遠隔セル土地ニ於ケル火薬庫ヲ借入ルル旨記載有之候然ルニ火薬類販賣業者ニハ定額ノ制限有之ヲ以テ自己ノ營業地外ニ火薬庫ヲ建設シテ商品ヲ貯藏シ又ハ支店ヲ設ケ營業ヲ爲スハ右定額制限ノ主旨ニ背反スル次第ニ付テハ相當御措置相成候樣致度候

●火薬類鐵道運送規程

昭和十四年五月二十七日
鐵道省令第二號

第一條　鐵道ニ依リ火薬類ヲ運送スル場合（航路ヲ介シ鐵道連絡ノ爲貨車積ノ儘船舶ニ依リ運送スル場合ヲ含ム）ハ本規程ニ依ル

第二條　本規程ニ於テ火薬類トハ左ニ揭ゲル火薬、爆薬及火工品ヲ謂フ

甲種

火薬

硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火薬

爆薬

一　點火點爆薬

イ　雷酸鹽（雷汞）ノ類

ロ　起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛）ノ類

ハ　其ノ他

二　ニトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆發薬（各種ダイナマイトノ類）

三　鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發薬

四　ニトロマンニット、四硝酸ペンタエリスリット、硝酸澱粉

〔山形縣〕

五　其ノ他

火工品

火薬又ハ爆薬ヲ裝塡シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

乙種

火薬

一　無煙火薬

二　濕薬　箱內ノ火薬ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕薬ト明記シタルモノ

爆薬

一　爆發ノ用途ニ供スル綿火薬又ハ之ヲ主トスル混和物

二　爆發ノ用途ニ供スル芳香系列ノ硝化物（ニトロベンゾール、ニトロナフタリン、ニトロトルオール、ピクリン酸及テトリールノ類）又ハ之ヲ主トスル混和物

三　硝酸アンモン又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆薬中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有セザルモノ

四　硝酸アンモンヲ主トスル爆薬中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有スルモ其ノ含有總量百分ノ六ヲ超エザルモノ

五　濕薬　箱內ノ爆薬ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕薬ト明記シタルモノ

六　トリメチレントリニトロアミン

火工品

一　薬筒・薬包・彈薬筒

二　火薬又ハ爆薬ヲ裝塡シタル彈丸、爆彈又ハ水雷

三　銃用實包・銃用空包・火薬類ヲ裝塡セザル雷管附又ハ爆管附薬莢

四　雷管・信管・爆管・門管

五　速燃導火線・緩燃導火線・電氣導火線・導爆線

六　信號用雷管・煙火

七　信號焰管・信號紅焰・星火ヲ發スル榴彈（一箱ノ內容十二箇以下ニ限ル）・火箭（一箱ノ內容六箇以下ニ限ル）救命索發射器用ロケット

點火點爆薬類ヲ附シタル爆薬、ニトログリセリン及乾燥セル起爆薬（雷汞窒化鉛ノ類）ハ鐵道ニ依リ運送スルコトヲ得ズ

第三條　火薬類ノ荷送人ハ少クトモ二十四時間前ニ發送停車場ニ運送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムベシ

第四條　火薬類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ
火薬類搬出入ノ日時、場所、方法及火薬類ノ積卸ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フベシ

第五條　左ニ揭グル火薬類ニシテ各下記ノ數量ヲ超過スル場合又ハ左ニ揭ゲザル火工品ニシテ其ノ原料タル火薬又ハ爆薬ガ各下記ノ數量ヲ超過スル場合當該驛ノ鐵道係員ハ火薬類運搬許可證ヲ檢閱スベシ但シ雷管附薬莢、緩燃導火線、煙火、信號焰管、信號紅焰、星火ヲ發スル榴彈、火箭及救命索發射器用ロケット並ニ第二條ノ甲種ノ爆薬第四號及乙種ノ爆薬第六號ニ揭グル火薬類ハ此ノ限ニ在ラズ

一　火薬　四十五瓩

二　爆薬　十一瓩二百五十瓦

三　銃用實包　三萬箇

四　銃用空包　三萬箇

五　銃用雷管　十萬箇

六　工業用雷管　一萬箇

七　信管、爆管、門管　三萬箇

第六條　火薬類ハ別表ノ定ムル所ニ依リ包裝ヲ爲スベシ但シ輸入シタル火薬類ノ包裝ニシテ其ノ安全度ガ別表ニ定ムルモノト同等以上ノモノ及軍

管ノ託送ニ係ルモノニシテ當該軍衙所定ノ包裝ヲ爲シタルモノハ其ノ包裝ニ依ルコトヲ得

第七條　火藥類ハ其ノ包裝ノ外部見易キ箇所ニ火藥、爆藥又ハ火工品ト赤書シ又ハ赤書シタル標札ヲ附シ且轉覆セシムベカラザルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スベシ

第八條　一車ヲ專用シテ積載スベキ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得

附添人ハ火藥類ヲ積載シタル貨車ニ乘車スルコトヲ得

第九條　火藥類ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキニ限リ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ無蓋貨車ヲ使用スルコトヲ得

火藥類ヲ積載スベキ貨車ハ危險防止ノ爲嚴重ニ檢査ヲ爲スベシ

貨車內部ノ火藥類ヲ積載スベキ位置及其ノ附近ノ鐵類ハ木板、革、布又ハ藁ノ類ヲ以テ之ヲ覆フベシ但シ之等ノ材料ヲ以テ火藥類ヲ覆ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　火藥類ハ摩擦、動搖、衝突、顚落又ハ轉覆セザル樣積載スベシ

第十一條　火藥類ノ積載重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十二條　二種類以上ノ火藥類ヲ同一貨車ニ積載スルトキハ左ノ各號ノ火藥類毎ニ相當ノ間隔ヲ保タシメ又ハ木板、革、布若ハ藁ノ類ヲ以テ厚十糎以上ノ隔離層ヲ設クベシ

一　有煙火藥、有煙火藥ヲ裝塡シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝塡シタル其ノ他ノ火工品並ニ硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機硝化物ヲ含有セザルモノ

二　無煙火藥、無煙火藥ヲ裝塡シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝塡シタル其ノ他ノ火工品

〔山形警〕

三　爆藥第一號ノ爆藥ヲ含ム

四　火工品第一號及第二號ノ火工品ヲ含ム

第十三條　火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一貨車ニ混載スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル火藥類ハ各號ノモノ二種以下ニ限リ第二項ニ定ムル條件ヲ具備スル貨物ト混載スルコトヲ得此ノ場合第一號乃至第三號ノ火藥類ニシテ各號ノ一ノミノトキハ各下記數量ノ二倍迄積載スルコトヲ得

一　甲種ノ火藥　四十五瓩以下ノモノ

二　甲種ノ爆藥　十一瓩二百五十瓦以下ノモノ

三　甲種ノ火工品　其ノ原料タル甲種、乙種ノ火藥若ハ乙種ノ爆藥ガ四十五瓩以下ノモノ又ハ甲種ノ爆藥ガ十一瓩二百五十瓦以下ノモノ

四　乙種ノ火藥類

前項但書ノ規定ニ依リ火藥類ト混載シ得ル他ノ貨物ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス此ノ場合火藥類ハ他ノ貨物ト相當ノ間隔ヲ保タシメ又ハ木板、革、布若ハ藁ノ類ヲ以テ厚十糎以上ノ隔離層ヲ設ケ且墜落セザル樣緊密ニ積載スベシ

一　容易ニ燃燒シ、自然發火シ、腐蝕シ又ハ爆發ノ誘因トナルベキ虞ナキモノナルコト

二　包裝完全ニシテ轉覆ノ虞ナキモノナルコト

三　包裝ノ外部ニ鐵ノ露出セザルモノ又ハ露出スルモ外部ヲ木板、革、布若ハ藁ノ類ヲ以テ覆ヒタルモノナルコト

火藥類ト他ノ貨物トヲ混載スルトキノ重量ハ兩者ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ左記數量ノ火藥類ヲ混載スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　甲種又ハ乙種ノ火藥　九十瓩以下ノモノ

二　甲種ノ爆藥　二十二瓩五百瓦以下ノモノ

三　乙種ノ爆藥　九十瓩以下ノモノ

四　甲種又ハ乙種ノ火工品　其ノ原料タル甲種、乙種ノ火藥若ハ乙種ノ爆藥ガ九十瓩以下ノモノ又ハ甲種ノ爆藥ガ二十二瓩五百瓦以下ノモノ

五　第十三條第一項但書ノ規定ニ依リ二種ノ火藥類ヲ混載スル場合ハ其ノ數量前各號ノ二分ノ一以下ノモノ

第十四條　火藥類ノ取扱ヲ爲ストキハ手鉤類ヲ用ヒ又ハ投下スルコトヲ得ズ

火工品ニシテ大型ノモノヲ除クノ外火藥類ハ轉輾スルコトヲ得ズ且轉輾スルモ支障ナキ火工品ニ在リテモ衝動ヲ豫防シ得ル樣革、布又ハ藁ノ類ヲ以テ其ノ經過スベキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外轉輾スルコトヲ得ズ

火藥類ノ取扱ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨車內ニ於テハ安全燈及電燈以外ノ燈火ヲ使用シ又ハ煙草其ノ他ノ發火シ易キ物品ヲ所持シ又ハ喫煙スルコトヲ得ズ

火藥類ヲ取扱フ者ハ底ニ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ズ

火藥類ノ取扱ヲ爲スニ當リテハ作業ノ前後其ノ場所及車內ヲ清掃スベシ

第十五條　火藥類ハ第十三條第一項但書ノ火藥類ヲ除クノ外旅客乘降場ニ於テ取扱ヲ爲スコトヲ得ズ但シ旅客又ハ旅客ノ乘込ミタル客車ガ附近ニ在ラザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　火藥類ハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ除クノ外所轄警察官署又ハ警察官吏ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ日出前、日沒後ニ於テ受授又ハ積卸ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第十三條第一項但書ノ火藥類ハ日出前又ハ日沒後ト雖モ積卸ヲ爲スコトヲ得此ノ場合途中驛ニ於テ繼送スルトキヲ除キ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ屆出ヅベシ

一　火藥　四瓩八百七十五瓦以內

二　銃用實包　千個以內

三　銃用空包　千個以內

四　銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莢　三千個以內

火藥類ハ鐵道構內ニ於テ荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ズ

〔山形警〕

第十七條　火藥類積載貨車ハ兩側面見易キ箇所ニ白地ニ火藥ト赤書シタル標札ヲ附スベシ

第十八條　甲種ノ火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ連結スベシ但シ衝動ノ爲火藥類積載貨車ニ衝擊ヲ與フル虞アル貨物以外ノ不燃質物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナキ貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得

乙種ノ火藥類積載貨車ノ前後ニハ發火ノ虞アリ若ハ燃燒シ易キ貨物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞アル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ連結スルコトヲ得ズ

第一項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第一項及第二項ノ規定ハ第十三條第三項但書ノ火藥類ヲ積載シタル貨車ニハ之ヲ適用セズ

第一項、第二項又ハ前項ノ火藥類積載貨車ヲ相互ニ連續連結スル場合ハ第一項又ハ第二項ノ規定ノ適用ニ付其ノ全部ヲ重キ制限ヲ附シタル火藥類積載貨車ト看做ス

第十九條　一車ヲ專用シテ積載スベキ火藥類積載貨車ハ十四輛以下ニ限リ一貨物列車ニ連結スルコトヲ得但シ七輛ヲ超エテ連續連結スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第二十條　火藥類積載貨車ヲ給炭ニ供スル設備ヲ通過スルトキハ之ヲ汽罐室附近ニ留置スルコトヲ得ズ

第二十一條　第五條ニ定ムル設備ヲ通過スル火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ運搬スル船舶ガ港內ニ於テ航行、碇泊又ハ繫留スルトキハ晝間ハ赤旗ヲ夜間ハ紅燈一個ヲ檣頭其ノ他見易キ場所ニ揭グベシ但シ危險物船舶運送及貯藏規則第二十四條ノ火藥類ノミヲ積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　火藥類積載貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ連結スルコトヲ得ズ但シ第十三條第一項但書ノ火藥類積載貨車及之ト他ノ貨物ヲ混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラズ

貨物列車ヲ運轉セザル區間ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ甲種ヲ火藥類積載貨車ハ一輛ニ限リ之ヲ混合列車ニ連結スルコトヲ得

第一項但書ノ場合火藥類積載貨車ハ客車ヨリ三輛以上又前項ノ場合ハ客車ヨリ三輛以上ヲ隔離スベシ

前二項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第二十三條　火藥類ハ成ルベク到着停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スベシ

第二十四條　火藥類ヲ積載スル貨車ニ對シテハ途中驛ニ於ケル車輛ノ點檢ヲ特ニ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ卽時ニ該貨車ヲ解放シ成ルベク隔離シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

列車運轉中車輛發熱又ハ制動機故障不良ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ發熱部ヲ冷却シ制動機ニ在リテハ之ヲ緩解シ該貨車ノ制動機ノ締切ヲ爲シ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ到リ前項ノ處置ヲ爲スベシ

火藥類積載貨車ヲ停留セシムル場合周圍ノ狀況ガ火藥類ニ危險ヲ及ボス虞アリト認ムルトキハ該貨車ヲ成ルベク隔離シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

〔山形書〕

第一項及第二項ノ規定ニ依リ貨車ヲ解放シ又ハ前項ノ場合五時間以上停留セシムルトキハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ屆出ヅベシ但シ鐵道上ノ事由ニ因リ停留セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條　荷受人ハ火藥類ノ到着後遲滯ナク引渡ヲ受ケ之ヲ停車場外ニ搬出スベシ

荷受人ガ五時間ヲ經過スルモ取卸ヲ爲サザルトキハ火藥類積載貨車ヲ成ルベク隔離シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

取卸ヲ爲シタル火藥類ハ成ルベク他物ヨリ隔離シテ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

第二項ノ場合ハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ屆出ヅベシ前項ノ場合五時間ヲ經過スルモ停車場外ニ搬出セザルトキ亦同ジ

第二十六條　旅客ハ火藥類ヲ所持シテ乘車スルコトヲ得ズ但シ左ニ揭グルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　銃用實包又ハ銃用空包ニシテ二百個以內ノモノ

二　銃用雷管又ハ銃用雷管附藥莢ニシテ四百個以內ノモノ

三　銃用火藥類ニシテ容器荷造共一瓩以內ノモノ

四　緩燃導火線又ハ電氣導火線ニシテ容器荷造共三瓩以內ノモノ

前項各號ニ揭グル火藥類ハ之ヲ同時ニ所持スルコトヲ得

第一項但書ノ火藥類ハ銃用實包、銃用空包及銃用雷管附藥莢ヲ彈帶ニ挿入スル場合ヲ除キ容器ニ收納スベシ

旅客ガ第一項但書ノ火藥類ヲ車內ニ持込ム場合ハ火氣其ノ他保安ニ付特ニ注意スベシ

第二十七條　第七條、第八條、第十二條、第十三條第一項及第二項竝ニ第十九條ノ規定ハ鐵道軍事供用令ニ依リ運送スル場合及航路ト鐵道軍事供用令ニ依ル鐵道トヲ連絡シ運送スル場合之ヲ適用セズ

第十六條ノ規定ハ鐵道軍事供用令ニ依リ運送スル場合之ヲ適用セズ

第十八條ノ規定ハ軍用列車ニ依リ運送スル場合之ヲ適用セズ

〔山形書〕

附　則

本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月閣令第一號火藥類鐵道運送規程ハ之ヲ廢止ス

別表

種別	容器及施封法	外裝法
火藥	亞鉛、アルミニウム、ブリキ板等ノ金屬罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、ファイバー器等ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス但シ水蓄セルモノハ漏水セザル金屬罐ニ收容スルコトヲ要ス	木箱（板ハ乾燥材ニシテ杉、エゾ松若ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有スルモノヲ用ヒ、板ノ厚ハ各部共一・三糎（約四分五厘）以上トシ、釘ハ長三・〇糎（約一寸）以上ニシテ適當ノ間隔ヲ以テ打込ミ、蓋ハ長三・〇糎（約一寸）以上ノ釘又ハ螺旋釘ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘付ス、尙必要アル場合ニハ箱ノ兩橫側ニハ厚一・五糎（約五分）以上幅三・〇糎（約一寸）以上ノ棧ヲ附シ若ハ直徑〇・九糎（約三分）以上ノ提綱ヲ附ス）又ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有スル金屬罐、ファイバー器若ハ軟質木箱ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル處置ヲ施ス
爆藥	火藥ニ同ジ但シダイナマイト類ハ紙包ミニシ內箱ニ納メ、硝酸アンモン其ノ他吸濕性强キモノハ防水紙若ハ金屬薄葉ノ類ヲ以テ密封シ防濕ノ上內箱ニ收容ス。雷汞水量二五%以上ノ含水物トシ緻密ナル二重木綿袋ニ入レ紐ニテ結束シタルモノヲ更ニ內袋ノ周圍各部三・〇糎（約一寸）以上ノ間隔ヲ保チ得ル如キ厚布袋ニ入レ間隙ニハ鋸屑ヲ塡充シ紐ニテ結束ス	火藥ニ同ジ但シ雷汞用外箱ハ框附木箱ニシテ漏水ノ間隙ナキモノヲ用ヒ內裝ト外箱トノ間隙ハ各部共一二・〇糎（約四寸）以上ヲ保チ其ノ間隙ニハ鋸屑ヲ塡充シ注水ノ上密封ス
火工品	火藥ニ同ジ但シ內容	火藥ニ同ジ但シ同等以上ノ强

	物ノ爆發ヲ豫防シ得ル樣適宜ノ處置ヲ施シ內箱ニ納ム。水雷ノ如キ大型ノモノニ在リテハ堅牢ナル外裝ヲ省略スルコトヲ得	壁ヲ有スル木箱ヲ用フルコトヲ得

●陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

明治四十四年四月二十九日
陸軍省令第四號

改正　大正元年陸軍省令第一號

第一條　砲兵工廠ハ左ニ揭クル者ニ對シ軍用銃砲ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一　官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校
二　銃砲販賣業者
三　軍用銃砲ノ輸出ニ付內務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者
四　軍用銃砲ノ讓受ニ付警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

前項第四號ニ據リ拂下クル銃砲ノ數量ハ一人ニ付一個トス但シ在鄕軍人會及其ノ分會ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　砲兵工廠ハ左ニ揭クル者ニ對シ火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一　官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校
二　甲種火藥類販賣業者
三　軍用火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付內務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者、其ノ他ノ火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル者
四　火藥類ノ讓受ニ付廳府縣長官又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者
五　銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ニ依リ火藥類ノ讓受ニ付許可ヲ要セサル者

前項第四號及第五號ノ者ニ拂下クル火藥類ハ火藥ハ十二貫、爆藥ハ三貫、實包ハ三萬個、空包ハ三萬個、銃用雷管ハ十萬個、工業用雷管ハ一萬個、信管爆管門管ハ各三萬個以上トス但シ現役將校同相當官、准士官、在鄕軍人會又ハ學校カ射擊用ノ爲拂下ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　砲兵工廠ハ前條第一項各號ノ一ニ該當スル者ヨリ火藥類ノ變形修理ヲ願出タルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第四條　砲兵工廠ニ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ願出ル者ハ願書ニ拂下ヲ受クヘキ品種、數量ヲ記載シ軍用銃砲火藥類ノ讓受者ハ輸出許可證又ハ讓受ニ關シ其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ提示スヘシ

第五條　砲兵工廠ニ於テ火藥類讓受許可證ニ依リ火藥類ヲ拂下タルトキハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ主任官署名捺印スヘシ

第六條　砲兵工廠ニ於テ讓受許可證ノ交付ヲ受ケ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ交付ヲ受ケタル許可證ヲ每月取纏メ許可ヲ與ヘタル廳府縣長官又ハ警察官署ニ之ヲ送付シ讓受許可證ノ交付ヲ受ケス又ハ讓受許可證ニ依ラス軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、數量、讓受人ノ住所氏名、讓受ノ事由、目的及用途ヲ翌月十日迄ニ讓受人住所地所轄ノ警察官署ニ通報スヘシ

第七條　砲兵工廠ハ每月拂下ヲ爲シタル軍用銃砲及火藥類ノ品種、數量、讓受人ノ住所氏名ヲ翌月十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八條　陸軍兵器本廠ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ限リ會計法第二十四條第八號ノ範圍內ニ於テ隨意契約ニ依リ同廠ニ貯藏スル舊式又ハ不用軍用銃砲火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

前項ノ拂下ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年陸軍省令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

●危險物船舶運送及貯藏規則

昭和九年二月五日
遞信省令第十四號

第一條　船舶ニ依ル危險物ノ運送又ハ船舶ノ常用危險物ノ貯藏ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶ノ常用危險物ノ範圍ニ付テハ開港港則施行規則第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二條　本令ニ於テ危險物トハ別表第一號表ニ定ムルモノヲ謂ヒ火藥類トハ同表第一號乃至第八號ニ揭グルモノヲ謂フ

第三條　火藥類ヲ貨車積ノ儘鐵道連絡ノ爲船舶ニ積ミ運送ヲ爲ス場合ニハ第二十一條及之ニ基ク第二十七條ノ罰則ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セズ又火藥類鐵道運送規程ニ依ル

第四條　危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器及包裝ニ關シテハ別表第二號表ニ定ムル所ニ依ルベシ但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ其ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得

船長ハ危險物ノ積付ノ方法及場所ニ關シテハ別表第二號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第五條　危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器又ハ包裝ノ外部ノ見易キ所ニ品名（火藥類ニ在リテハ火藥、爆藥、火工品及普通火工品ノ別）ヲ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且取扱上ノ注意事項ヲ表示スベシ

第六條　火藥類ハ其ノ容器、包裝及內容ノ表示ニ關シ前二條ノ規定ニ依リタルモノニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ

火藥類ノ荷送人ガ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クベキ場合ニ於テハ船長ガ其ノ許可證ヲ檢閲シタル後ニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ

第七條　危險物ヲ外國ニ於テ船積シ又ハ外國ニ於テ船積シタル危險物ヲ日本ニ於テ積換フルトキハ其ノ容器、包裝及內容ノ表示ニ關シ第四條及第五條ノ規定ヲ適用セズ

第八條　火藥類（普通火工品ヲ除ク）ハ管海官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ遞信大臣ノ認定シタル積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人ノ檢定ヲ經タルトキニ限リ之ヲ火藥庫以外ノ場所ニ積載スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ附錄書式ノ申請書二通ヲ船積地ニ在ル管海官廳ニ提出シ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ手數料ヲ納付スベシ但シ官廳又ハ公共團體ノ申請ニ係ルモノニ付テハ手數料ヲ徵收セズ

手數料ハ當該官吏ノ臨檢一回每ニ三十圓トス

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

手數料ハ申請者ノ都合ニ依リ其ノ申請ヲ取下ゲタルトキト雖モ當該官吏ガ船舶ニ臨檢シタル後ナルトキハ之ヲ徵收ス

第九條　管海官廳ハ前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ申請ヲ適當ト認ムルトキハ申請書ノ一通ニ許可ノ奧書ヲ爲シ許可ヲ爲シタル年月日及官廳名ヲ記載シ官廳印ヲ押捺シ之ヲ申請者ニ還付ス

第十條　積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人第八條第一項ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一　積荷ノ檢定ニ關スル規則
二　手數料及旅費ニ關スル規則

（三）積荷検定員ノ氏名及履歴

逓信大臣ノ認定ヲ受ケタル積荷ノ検定ヲ行フ公益法人積荷検定員ヲ選任セムトスルトキ又ハ前項第一號若ハ第二號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クベシ

逓信大臣ハ第八條第一項ノ認定ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十一條　甲板ヲ有セザル船舶旅客ヲ搭載スルトキハ火薬類ヲ船積スルコトヲ得ズ

甲板ヲ有スル船舶ト雖モ旅客ヲ搭載スルトキハ雷酸塩（雷汞ノ類）其ノ他ノ起爆剤及爆薬ヲ装填シタル火工品ヲ船積スルコトヲ得ズ但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　湖川港内ニ於テ火薬類ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス船舶又ハ火薬類ヲ積載シ湖川港内ニ於テ航行、碇泊若ハ繋留セントスル船舶ハ船積地、陸揚地、發航地、碇泊地又ハ繋留地ヲ管轄スル警察官署ニ其ノ品名及數量竝ニ其ノ日時及場所ヲ届出ヅベシ

前項ノ規定ハ船舶ノ常用火薬類ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條　石油類ヲ積載スル船舶ハ他ノ船艙、機關室、石炭庫、軸路、旅客室、船員室又ハ料理室等ニ其ノ發生ガスヲ漏洩セシメザル水密隔壁其ノ他ノ設備ヲ有シ且該船艙ノ換氣管ハ二重細目金網覆ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

石油類ヲ積載シタル船艙内ノ電線ニハ電流ヲ通ズルコトヲ得ズ但シ船舶設備規程第二百六條ノ規定ニ依ル電氣設備ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　危険物ノ積載、船積又ハ陸揚中ノ船舶ニ於テハ危険ヲ及ボス虞アル修繕工事ヲ爲スコトヲ得ズ

〔山形縣〕

第十五條　火薬類ハ旅客ノ乘船又ハ下船ト同時ニ船積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條　火薬類ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルトキハ之ヲ投下シ又ハ激突セシムベカラズ

第十七條　銃砲火薬類取締法施行規則第十八條各號ニ掲グル以外ノ火薬類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テ之ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルコトヲ得ズ

第十八條　危険物ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス場所又ハ之ヲ積載シタル場所ニ於テハ裸火若ハ燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ、鐵釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ喫煙スルコトヲ得ズ

第十九條　火薬類及石油類其ノ他可燃ガスヲ發スル危険物ヲ積載シタル船艙ニ於テハ安全燈ヲ除クノ外懷中電燈其ノ他ノ燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ又當該船艙ノ開閉ニ當リ金槌等ヲ使用スル場合ハ火花ヲ發セザル樣適當ナル措置ヲ講ズベシ

第二十條　危険物ノ船積又ハ陸揚作業ヲ中止又ハ完了シタルトキハ直ニ火薬庫又ハ船艙ヲ閉鎖スベシ

第二十一條　銃砲火薬類取締法施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火薬類ヲ積載スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊又ハ繋留スルトキハ晝間ハ赤旗ヲ夜間ハ紅燈一箇ヲ檣頭其ノ他見易キ場所ニ掲グベシ但シ船舶ノ常用火薬類及第二十四條ニ掲グル火薬類ノミヲ積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　船舶ニハ其ノ常用外ノ火薬類ヲ貯藏スルコトヲ得ズ但シ乘客用トシテ貯藏スル場合又ハ銃砲火薬類取締法施行細則ノ規定ニ依リ繋留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　旅客ハ火薬類ヲ携帶シテ乘船スルコトヲ得ズ但シ船長ノ許可

ヲ得テ少量ノ銃用火薬類及玩具用普通火工品ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　銃用實包、銃用空包、銃用雷管、雷管、信管、門管、緩燃導火線、濕薬（箱内ノ火薬又ハ爆薬ヲ爆發ノ危険ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕薬ト明記シタルモノ）、芳香系列ノ硝化物又ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆剤ヲ附セザルモノ、硝酸アンモニアヲ主トスル爆薬中ニトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニシテ起爆剤ヲ附セザルモノ、煙火及玩具用普通火工品ニハ第十一條及第十五條ノ規定ヲ適用セズ

第二十五條　船長ハ船舶ニ積載シタル貨物ガ本令ニ違反シタル虞アリト認ムルトキハ何時ト雖モ證人立會ノ上之ヲ開封シテ檢査スルコトヲ得

第二十六條　警察官吏又ハ警察官署ハ危険物ノ運搬及貯藏ニ關シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ且危険豫防ノ爲必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條　船舶所有者又ハ船長第六條、第十一條乃至第十五條、第十七條、第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第四條、第五條又ハ第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　地方長官ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ船舶ニ依ル危険物ノ運搬及貯藏ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

別表

第一號表

〔山形縣〕

附　則

第三十一條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　明治四十四年四月逓信省令第九號火薬類船舶運搬及貯藏規則ハ之ヲ廢止ス

第三十三條　第三十條ニ掲グル規定ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ同條ニ依ル逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附録書式

火薬類火薬庫外積載許可申請書

一　船種、船名
二　國籍、船籍港
三　船舶所有者名
四　船積港、發航日時及陸揚港
五　積載火薬類ノ品目及數量
六　積載場所及其ノ設備
七　積合セ貨物ノ品目及數量

右火薬庫外積載許可相成度危険物船舶運搬及貯藏規則第八條ニ依リ及申請候也

年　月　日

申請人　船舶所有者又ハ船長
住　所（所在地）
氏　名（名稱）

警察官署宛

一　雷酸塩類其ノ他ノ起爆剤（雷汞、雷銀、雷酸カドミニウム、窒化鉛、硫化窒素、ヂアゾパークロレート等白色、灰色又ハ黄色狀物質ニシテ爆藥ノ起爆剤ニ應用セラレ爆發力強大ナルモノ）

二　爆藥類ヲ裝塡シタル火工品（爆藥ヲ裝塡シ又ハ加工シタル彈丸又ハ信管類ニシテ摩擦、動搖又ハ衝撃ニ對シ危險度大ナルモノ）

三　硝酸塩混合火藥類（硝石ヲ主剤トセル粉狀、粒狀、扁平、圓柱、大粒等ノ緩性火藥類ニシテ摩擦、動搖又ハ衝撃ニ對シ危險ナルモノ）

四　硝基化合火藥類（硝酸エステル、ニトロ化合火藥類ヲ指稱シニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥及綿藥、芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物等ニシテ各種ダイナマイト類、トリニトロトルオール、トリニトロフェノール、テトリール等之ニ屬ス）（綿藥又ハニトログリセリンヲ含有スルモノハ自然發火ノ危險アルヲ以テ温度及通風ニハ特ニ注意ヲ要スベキモノ）

五　塩素酸塩爆藥（スプレンゲル氏火藥、塩斗藥等ニシテ自然發火ノ惧アルヲ以テ温度及通風ニ注意ヲ要スベキモノ）

六　過塩素酸塩爆藥（カリツナイト、カーリツト等）

七　火工品（爆藥ヲ裝塡又ハ加工シタル火工品中比較的安全ナルモノニシテ雷管、爆管、門管、銃用實包、銃用空包等）

八　普通火工品（發煙等火藥、發音信號、信號焔管、星火ヲ發スル榴彈、火箭等ノ煙火類似品、打上煙火、ベンガリー煙火、線香花火等ノ玩具用普通火工品）

九　塩素酸塩類（塩素酸カリ、塩素酸ソーダ、塩素酸バリウム等ニシテ無色結晶体ヲ成シ酸化力極メテ強ク分解スルトキハ酸素ガスヲ多量ニ放出シ衝撃又ハ摩擦ニ因リ發火シ他ノ可燃体ト混ズルトキハ其ノ程度特ニ著シキモノ）

十　過塩素酸塩類（過塩素酸アンモン、過塩素酸カリ、過塩素酸ソーダ等ニシテ白色結晶体ヲ成シ其ノ性質塩素酸塩類ト同ジ）

十一　ピクリン酸類（ピクリン酸ノ如ク爆發性ヲ有スルモノ）

十二　黄燐類（帶黄白色蠟狀物質ニシテ空氣ニ接スル時ハ黄綠色ノ焔ヲ發スル有毒物）

十三　金屬ナトリウム（銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應強烈ニシテ燃焼シ苛性ソーダヲ生ズルモノ）

十四　金屬カリウム（銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應強烈ニシテ燃焼シ苛性カリヲ生ズルモノ）

（山梨縣）

十五　燐化カルシウム（黄燐、石灰、木炭ヲ原料トシテ製造シタル褐色固体ニシテ水ニ接スルトキハ燐化水素ヲ生ジ自然發火スルモノ）

十六　硫化燐（白色又ハ黄色結晶性物質ニシテ硫黄ヲ含有スルヲ以テ自然發火スルモノ）

十七　過酸化ソーダ（帶黄色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ）

十八　過酸化バリウム（白色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ）

十九　カーバイド（白色又ハ灰色ノ塊狀ヲ成シ濕氣ニ接スルトキハ非常ニ燃焼シ易キアセチレンガスヲ發生スルモノ）

二十　晒粉（塩素ガスヲ消石灰中ニ吸收セシメタル白色粉末ニシテ團塊ヲ成スコトアリ塩素類ニ類似セル強烈ナル刺戟性ノ臭氣トガスヲ發散スルモノ）

二十一　マグネシウム粉末（銀色粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收シテ發熱シ自然發火スルモノ）

二十二　ニトロセルローズ及其ノ製品（ニトロセルローズハセルロイド、コロヂオン等ノ原料ニシテ植物繊維素ヲ濃厚硝酸、硫酸混液ニ因リ硝化セルモノヲ謂ヒ燃焼極メテ早ク摩擦又ハ日光等ニ依リ發火ス）（其ノ製品コロヂオンハニトロセルローズヲアルコール、エーテルノ混和液又ハアセトンニ溶解セル無色透明粘稠ノ液ニシテ容易ニ引火シ燃焼スルモノ）

二十三　セルロイド（無色透明ナルモ之ニ顔料ヲ混ジタルモノアリ樟腦ノ香氣ヲ有シ彈力アル固体ニシテ燃焼シ易キモノ）

二十四　硝石類（硝石、智利硝石等ニシテ白色結晶体ヲ成シ酸化力強ク容易ニ酸素ヲ放出シ發火スルモノ）

二十五　油紙油布類（亞麻仁油等ノ乾燥性油ニ不乾燥性油及揮發物油ヲ混ジ塗布シタル防水紙又ハ防水布ニシテ油類ノ自己酸化ニ因リ發火スルモノ）

二十六　酸類

發煙硫酸（硫酸中ニ無水硫酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硫酸ニ比シ危險度高キモノ）

塩素酸（油狀ノ液ニシテ酸化力強ク有機質、無機質ヲ酸化シ高熱ヲ生ジ自然發火スルモノ）

發煙硝酸（硝酸中ニ無水硝酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硝酸ニ比シ危險度高キモノ）

硝　酸（無色又ハ黄褐色ノ液ニシテ強キ酸性ヲ有シ有機質ヲ酸化シ自然發火スルモノ）

二十七　二硫化炭素（無色又ハ帶黄色ノ液体ニシテ揮發シ易ク不快臭アリ空氣ト混ズルトキハ爆發性ヲ有シ攝氏零下二十度ニ於テ引火スルモノ）

二十八　石油類　第一種石油、第二種石油（未製石油及其ノ蒸溜生成物又ハ變成石油ニシテアベール又ハペンスキー試驗

二十九　可燃性液体類　發焔試驗器ヲ用ヒ七百六十ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏二十一度未滿ノ温度ニテ發焔スルモノヲ第一種石油トシ二十一度以上七十度未滿ノ温度ニテ發焔スルモノヲ第二種石油トス（エーテル、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ、アルコール、アセトン、キシロール、テレビン油、アミールアルコール、アチールアルコール、芳香系列ノ炭化水素等）

三十　壓縮ガス及液化ガス類

アセチレンガス（カーバイドニ水ヲ作用セシメテ生ズル無色ガスニシテ爆發シ易キモノ）

油ガス（石油類ヲ分解シテ得ラルル下級炭化水素ヲ含有スルモノニシテ燈用ガスナリ）

水素ガス（無色無臭ノ輕キガスニシテ酸素ト混合スルトキハ爆發スルモノ）

硫化水素ガス（硫化物ニ酸ヲ作用セシメテ得ラルルモノニシテ空氣又ハ酸素ト混合シタル場合火氣ヲ近ヅクルトキハ容易ニ爆發スルモノ）

一酸化炭素ガス（炭素ノ不完全燃焼ニ因リ生ズルモノニシテ酸素又ハ空氣ト混合シ火花ニ依リ爆發スルモノ）

石炭ガス（石炭ヲ乾餾シテ得ラルルガスニシテ空氣中百分ノ八乃至二十三ヲ混ズルトキハ爆發性ヲ具備スルモノ）

天然ガス（石油地帶等ニ天然ニ噴出スルガスニシテ空氣ト混ズルトキハ爆發スルモノ）

亞硫酸ガス（無色ニシテ特臭氣アリ熱シタル金屬類ヲガス中ニ投ズルトキハ發火スルモノ）

アンモニアガス（特有ノ刺戟臭アルモノニシテ鹽素ガス又ハ沃度ト混ズルトキハ爆發スルモノ）

鹽素ガス（刺戟臭ヲ有スル重キ黄色ガスニシテ腐蝕性大ナルモノ）

酸素ガス（無色ニシテ化合力強キモノ）

窒素ガス（無色ニシテ化合力弱キモノ）

炭酸ガス（無色ニシテ僅カニ刺戟性アリ消火力大ナルモノ）

亞酸化窒素ガス（無色無臭可燃性ニシテ水素ニ混ズルトキハ引火爆發スルモノ）

〔山形縣〕

第二種表

番號	類名	品名	容器、施封法	包裝法	積付ノ方法及場所
一	雷酸鹽類其ノ他ノ起爆劑	雷汞 疊化鉛	雷酸鹽類ハ清水ヲ滿タセルゴム蓋附硝子器ニ收納ス其ノ他ノ起爆劑ハ亞鉛、銅、アルミニウム等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、ファイバー器等ニ收容シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木製容器ニ收容シ摩擦、動搖又ハ衝擊ヲ豫防シ得ル樣適當ノ方法ヲ講ズ木箱ノ板ハ乾キタル杉、松、エゾ松又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スルモノヲ用ヒ板ノ厚サハ各部共一・三糎以上トシ釘ハ長サ三・〇糎ニシテ適當ノ間隔ヲ以テ打込ミ蓋ハ長サ三・〇糎以上ノ釘又ハ沈頭木螺ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘附ス尙必要アル場合ハ箱ノ兩横側ニハ厚サ一・五糎以上幅三・〇糎以上ノ桟ヲ附シ又ハ〇・九糎以上ノ捻繩ヲ附シ外部ニ鐵類ヲ露出セザルコトス	火藥庫ニ積藏スルコト
二	爆藥類ヲ装塡シタル火工品	彈丸、信管	第一號ニ揭グル其ノ他ノ起爆劑ニ同ジ但シ形狀ノ巨大ナルモノニ在リテハ摩擦、動搖又ハ衝擊ヲ豫防シ得ル樣方法ヲ講ズ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三	硝酸鹽混合火藥類	黑色有煙火藥 褐色有煙火藥	亞鉛、銅、アルミニウム、ブリキ製等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、ファイバー器等ニ收容シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木箱又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スル金屬罐、ファイバー製箱ニ收容シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施ス 木箱ノ構造ニ付テハ右ニ同ジ	右ニ同ジ
四	硝基化合火藥類	綿藥	黑色有煙火藥ニ同ジ但シ水蓄セルモノハ漏水セザル樣金屬罐ニ收容ス	黑色有煙火藥ニ同ジ	右ニ同ジ
		無煙火藥	黑色有煙火藥ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
		ダイナマイト類	紙包ト爲シ内箱ニ納ム但シ硝酸アンモン等吸濕性強キモノハ防水紙等ヲ以テ密容シ防濕ノ上内箱ニ收容ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ
		ピクリン酸其ノ他芳香系列ノ硝化物	黑色有煙火藥ニ同ジ但シピクリン酸ノ如ク金屬ト化合シテ爆發性鹽類ヲ合成スルモノニ在リテハ作用セザル金屬ヲ採用スルコト	右ニ同ジ	右ニ同ジ

〔山形縣〕

五	塩素酸塩爆藥	スプレンゲル氏火藥ノ類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
六	過塩素酸塩爆藥	カーリツト	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
七	火工品	雷管、爆管、門管	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施シ内箱ニ納ム	右ニ同ジ	右ニ同ジ 火藥類ヲ裝塡セザル雷管附又ハ爆管附藥莢ニ付テハ火藥庫ニ積藏セザルコトヲ得
八	普通火工品	緩燃導火線、煙火、煙火類似品及玩具用普通火工品	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施シ木箱ニ納ム		
九	塩素酸塩類	塩素酸カリ 塩素酸ソーダ 塩素酸バリウム	完全ナル罐詰ト爲ス但シ塩素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	木樽又ハ木箱入トス	中甲板又ハ上甲板積ト爲スコト
十	過塩素酸塩類	過塩素酸カリ 過塩素酸ソーダ 過塩素酸アンモン	完全ナル罐詰ト爲ス但シ過塩素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十一	ニトロ染料類	ピクリン酸	陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器、木器等ニ收容シ完全ナル罐詰ト爲ス	右ニ同ジ	上甲板積ト爲スコト
		ヂニトロナフタリン	完全ナル罐詰ト爲ス	右ニ同ジ	成ルベク中甲板積ト爲スコト
十二	黄燐類	黄燐	正味五百瓦未滿ノ場合ハ水ヲ充タセル硝子罎ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ嚴封ス	木箱ニ入レ罎ノ周圍ニ鉋屑、鋸屑、細砂、藁ノ類ヲ塡充ス	上甲板積ト爲スコト

十三		金屬ナトリウム	正味五百瓦以上ノ場合ハ水ヲ充タセル罐ニ入レ嚴封ス但シ一罐ノ正味二十五瓩ヲ超ユルコトヲ得ズ 石油類ヲ入レタル硝子壜又ハブリキ罐ニ入レ密封シ更ニ完全ナル罐ニ嚴封ス	完全ナル木箱入トス 完全ナル木箱入トス	右ニ同ジ
十四		金屬カリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十五		硫化カルシウム	共口硝子壜ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ密封シ罐ニ之ヲ納メ其ノ間隙ニハ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ塡充シ蓋ノ合目ハ目張ヲ施ス	木箱ニ入レ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ニテ塡充ス	中甲板其ノ他容易ニ取出シ得ベキ通風良好ナル場所ヲ選ビ且水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト 他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
十六	硫化燐	三硫化燐 五硫化燐	完全ナル罐詰ト爲ス	木樽又ハ木箱入トス	上甲板積ト爲スコト
十七		過酸化ソーダ	正味五百瓦未滿ノ場合ハ共口硝子壜ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ嚴封シ又ハ完全ナル罐詰トス 正味五百瓦以上五瓩未滿ノ場合ハ完全ナル罐詰トス 正味五瓩以上ノ場合ハドラム入トス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ不燃性物質（白堊粉、滑石粉、石炭殼篩粉、粘土、土砂、灰ノ類）ヲ塡充シ又ハ罐ト密着セルブリキ張木箱トス	成ルベク汽機、汽罐室等ノ熱氣アル場所ニ接近セシメザルコト
十八		過酸化バリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十九		カーバイド	ブリキ製又ハ鐵製ノ罐ニ入レ嚴封シ鑞掛ト爲ス		中甲板其ノ他容易ニ取出シ得ベキ通風良好ナル場所ヲ選ビ且水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト 他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト

二十		晒粉		遠距離ノ熱帶航海ニ於テハ鉛板ヲ以テ内張セル木箱又ハ陶製容器トス	日光ヲ遮蔽シタル場所ニシテ濕氣ナキ通風良好ナル場所ヲ選ブコト 船室ニ接近シテ積載セザルコト 汽罐、汽罐室等熱氣アル場所ニ接近セシメザルコト
二十一		マグネシウム粉末	正味五百瓦未滿ノ場合ハ硝子壜ニ入レ密封ス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ藁ノ類ヲ填充ス	水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト
			正味五百瓦以上ノ場合ハブリキ罐ニ入レ嚴封ス	罐ト密着セル木箱入トス	
二十二		ニトロセルローズ及其ノ製劑	罐又ハ桶ニ入レ完全ニ水濕シ嚴封ス又ハ適當ニ水分ヲ含マシメ之ヲパラフイン紙ニテ包裝シ木箱ニ納メ板ノ縫目ハブリキ板ニテ目張ヲ施ス		成ルベク中甲板積ト爲スコト
二十三		セルロイド（素地及フイルムニ限ル）	堅牢ナル木製容器入トス		他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
二十四	硝石類	硝酸カリ	硝子壜ニ入レ嚴封ス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充ス	
			木箱、木樽又ハドラム入トス		
		智利硝石	嚢積ノ場合ヲ除クノ外内容品ノ露出セザル二重ノ麻袋入トス		
二十五	油紙油布類			枠箱又ハ疎包ト爲ス等内部ノ通氣ヲ阻害セザルコト	成ルベク上甲板積ト爲スコト 船艙内ニ積藏スル場合ハ容易ニ接近シ易キ冷所ニ積藏スルコト

〔山形縣〕

〔山形縣〕

二十六		酸類	壜詰トシ石膏、封蠟ノ類ニテ密封ス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充ス	上甲板積又ハ中甲板積ト爲スコト 他ノ積合セ貨物ナキ場合ニ於テハ下艙ニ積藏スルコトヲ得ルコト 通風良好ナル冷所ヲ選ブコト
			アルミニウム製又ハ不銹鋼製ドラム入トス		
二十七		二硫化炭素	厚サ約〇・三二（三十番）以上ノ鐵板ニテ製シタル二十五立未滿ノ容器ニ入レ嚴封ス	罐ト密着セル木箱入トス	上甲板積ト爲スコト 日光、燈火、火花等ヲ避クル爲帆布ヲ以テ覆ヒスチームパイプ、煙突等有熱物ニ接近セシメザルコト
二十八		石油類	油槽ニ積藏スル場合ヲ除クノ外ドラム又ハブリキ罐ニ入レ嚴封ス	罐ト密着セル木箱入トス 沿海區域ニ於テ小量ヲ運送スル場合ニ限リ裸掛ケ裸罐ト爲スコトヲ得	汽罐室、料理場、石炭庫、旅客室及船員室等火氣アル場所ニ接近シテ積藏セザルコト 裸罐ナル場合ニハ積上ゲ又ハ他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト 木箱入ナルト裸罐ナルトヲ問ハズ横積ト爲シ又ハ容器ヲ不平均ニ壓スルガ如キ積付ヲ爲サザルコト
二十九	可燃性液体類	可燃体類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三十	壓縮ガス及液化ガス類	炭酸ガス、酸素ガス等	ガス注入前耐壓力ヲ試驗シタル砲彈型鐵器（ボンベ罐）ニ入レ口ヲ螺旋栓ニテ密封シ其ノ上ヲ螺帽ニテ被覆ス但シ液化炭酸ガスノ容器、螺旋栓ノ外部ニ突出セザル容器及五立未滿ノ容器ニ在リテハ螺帽ヲ使用セザルコトヲ得	（イ）木枠入トス（直徑六・六糎以上ノ丸太ヲ二ツ割ト爲シタルモノ四本ヲ組合セ其ノ兩端ハ厚サ一・五糎以上ノ板片ヲ十字形ニ釘附シタルモノ若ハ枠ノ形狀ニ相當スル底板ヲ當テタルモノ又ハ帶鐵、繩ノ類ヲ以テ十分緊縛シタルモノ）	通風良好ナル冷所ニ積藏スルコト 日光ニ曝露セシメザルコト

（ロ）堅牢ナル木箱入トス

（ハ）ポンプ罐入ノ罐蓋ノ周圍ニ外徑ハ罐ノ胴丸、內徑ハ罐蓋ノ外徑、高サハ罐蓋ノ高サニ等シキ木又ハ柔軟物製ノ環狀物ヲ挿入シテ罐蓋ヲ完全ニ閉鎖シ覆之ヲ徑〇・九粍以上ノ鐵線ヲ以テ作リタル網袋（目ノ太サ四・五四糎平方以下ノモノ）又ハ籠製ノ袋ニ入レ其ノ口ヲ緊縛ス

備考

一　火藥類以外ノ危險物ニ付テハ事情ニ應シ本表ニ定ムル事項ニ適當ナル變更ヲ加フルコトヲ妨ゲズ

二　本表ニ揭ゲル火藥庫ニハ持運式火藥庫ヲ包含ス

三　火藥類ノ積載ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ

（イ）艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル場所ナルコト

（ロ）燃燒シ易キ貨物其ノ他爆發ノ誘因トナルベキ懼アル貨物ニ接近セシメザルコト

（ハ）外板ニ接觸セル場所、震動ヲ受クル場所及旅客室、船員室、油槽、機關室、蓄電池、發電機、石炭庫、料理室其ノ他火氣又ハ熱氣アル場所ヲ避クルコト

（ニ）他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト

（ホ）露出セル鐵類トノ接觸ヲ避クルコト

四　銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ別種ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スベキモノハ之ヲ同一ノ火藥庫又ハ船艙ニ積載スベカラズ

甲板ナキ船舶ニ在リテハ前項ノ火藥類ヲ同一船舶ニ積載スベカラズ

五　船舶ノ常用火藥類ハ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取出シ得ベキ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スベシ

六　火工品中安全實包及安全型包ハ火藥類ヲ裝塡セザル雷管附藥莢ト同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

七　鹽素酸カリ、鹽素酸ソーダ、ニトロ染料、雷汞、金屬ナトリウム、金屬カリウム、燐化カルシウム、硫化鉀及過酸化ナトリウムハ易燃性

又ハ可燃性物質トノ積合セヲ避クベシ

八　カーバイド、マグネシウム粉末、ニトロセルローズ其ノ他ノ製劑、セルロイド、硝石類、油紙油布類、燐類、石油類及可燃性液體類、壓縮ガス及液化ガス類ハ自然發火ヲ爲シ易キ物質トノ積合セヲ避クベシ

〔山形縣〕

●爆發物貯庫規程

明治四十四年六月二日
內務省告示第四十四號

改正　大正元年內務省告示第一八號、昭和五年第二二四號

第一條　本規程ハ大阪爆發物貯庫、橫濱爆發物貯庫、長崎爆發物貯庫及西島爆發物貯庫ニ付之ヲ適用ス

貯庫ノ管理ハ其ノ所在地所轄ノ地方長官之ヲ行フ

第二條　貯庫ハ新ニ外國ヨリ輸入シタル火藥類ニシテ輸入手續濟ノモノニ限リ庫敷料ヲ徵シ貯藏ヲ許可ス但シ貯庫ノ狀況ニ依リ庫入ヲ爲シ難キトキハ其ノ貯藏ヲ許可セサルコトアルヘシ

輸入手續濟ノモノニアラスト雖特ニ稅關ヨリ假庫入ヲ承認セラレタルモノハ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ

前二項ノ火藥類ヲ貯藏シテ仍餘裕アル場合ニ於テハ特ニ他ノ火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條第二項ノ規定ニ依リ引取ヲ命シタル火藥類ニ對シテハ特ニ再貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條　火藥類貯藏ノ申請ハ別記樣式ノ貯藏申請書ニ依リ貯庫事務所ニ之ヲ爲スヘシ

新ニ外國ヨリ輸入シタル火藥類ニ付テハ輸入免狀又ハ假庫入ヲ承認シタル證ヲ添附スヘシ輸入免狀ハ一覽ノ後之ヲ還付ス

貯庫事務所ニ於テ火藥類ノ貯藏ヲ許可シタルトキハ別記樣式ノ預書ヲ交付スヘシ

第四條　貯藏火藥類引取ノ申請ハ別記樣式ノ引取申請書ニ預リ證書ヲ添ヘ貯庫事務所ニ之ヲ爲スヘシ

貯藏類ヲ分割シテ引取ラムトスルトキハ引取申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ預リ證書ニ引取ノ記入ヲ受クヘシ

第二條第二項ノ規定ニ依リ貯藏ノ許可ヲ得タル火藥類ニ關シテハ前二項引取ノ場合ニ於テ稅關ヨリ庫出ヲ承認シタルノ證ヲ添附スヘシ

第五條　貯藏火藥類ニ關シ權利ノ移轉又ハ名義變更ノ爲メ預リ證書ノ書換ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シ預リ證書ヲ添ヘ當事者ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ貯庫事務所ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ書換ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金五拾錢ノ收入印紙ヲ申請書ニ貼付スヘシ

第六條　火藥類ノ貯藏ハ一年以內ノ期間ヲ限リ之ヲ許可ス但シ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ尙一年以內ノ期間ヲ限リ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ

輸入手續未濟ノ火藥類ノ貯藏ハ一月以內ノ期間ヲ限リ之ヲ許可ス

前二項ノ期間ハ再貯藏ノ許可ヲ得タル火藥類ニ關シテハ前後ノ貯藏日數ヲ通算シ貯藏火藥類ニ關シ權利ノ移轉又ハ名義變更アリタル場合ニ於テハ最初貯藏ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ計算ス

貯藏火藥類ヲ競賣シタル場合ニ於テハ競落人ハ競賣終了ノ翌日ヨリ三月以内ニ其ノ火藥類ヲ引取ルヘシ此ノ期間ニ於ケル庫敷料ハ競落人ニ於テ之ヲ納付スルモノトス

第七條　庫敷料ハ貯藏火藥類引取ノ際火藥類ト引換ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ引取前ニ納付スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ニ拘ハラス飛島爆發物貯庫ニ在テハ火藥類引取前ニ庫敷料ヲ納付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ貯藏額ヲ分割シテ引取ラムトスルトキハ其ノ引取額ニ對スル庫敷料ヲ納付スルモノトス

第八條　庫敷料ハ左ノ各號ノ區分ニ依ル但シ日數十五日以下ハ半月分、十六日以上ハ一月分ヲ徴收シ又火藥類數量ノ計算ニ關シテハ五瓩未滿ハ之ヲ五瓩ニ滿タシム

一　火藥、爆藥ニ付テハ五瓩（包裹ヲ含ム）ニ付一月金六錢トス

二　火工品ニ付テハ五瓩（包裹ヲ含ム）ニ付一月金四錢トス

第九條　包裹完全ナラスト認ムルモノハ火藥類ノ貯藏ヲ拒絶シ既ニ貯藏シタルモノニ付テハ包裹ノ變改ヲ命シ又ハ火藥類ノ引取ヲ命スルコトアルヘシ

貯庫ノ改築又ハ修繕ヲ要シ其ノ他貯庫ノ狀態貯藏ニ適セサルニ至リタルトキハ貯藏火藥類ノ引取ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　貯藏火藥類ニ關シ必要アリト認ムル場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法、同法施行規則及同法施行細則ノ規定ニ基ケル危險豫防ニ必要ナル處置ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　火藥類貯藏ノ期間ヲ經過シ者ハ引取ヲ命セラレ其ノ引取ヲ爲ササルカ爲其ノ火藥類ヲ競賣シタル場合ニ於テハ其ノ引取ノ義務ヲ生シタル日ヨリ競賣終了ノ日迄ノ庫敷料ハ第八條規定額ノ三倍トス

第十二條　貯庫ノ開閉ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ雨雪烈風等ノ場合ハ開庫セス

前項但書ノ場合ノ外臨時閉庫ヲ要スルトキハ所轄地方官廳ノ公布式ニ依リ一週間前ニ之ヲ廣告ス但シ事情切迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　貯庫ハ大祭日、日曜日、一月一日及二日ニ於テハ開庫セス但シ庫入若ハ引取ノ爲二十四時間前ニ開庫ヲ申請シタル者アルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

庫入、引取及危害豫防ノ爲ニスル場合ノ外開庫ヲ申請シタル者アルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第一項但書及第二項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金壹圓ノ收入印紙ヲ添ヘ貯庫事務所ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ手數料ハ開庫ヲ許可セサル場合ニ於テハ之ヲ還付ス

附　則

本規程ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ノ際現ニ貯藏セル火藥類ニ關シテハ其ノ貯藏許可ノ期間内ニ限リ從前ノ例ニ依リ貯藏ヲ許可ス

（別記樣式）

〔山形縣〕

火藥類貯藏申請

住所
申請人　氏名　印

年　月　日

（爆發物貯庫宛）

記號番號	箇數	品名	尺度斤量

〔山形縣〕

火藥類引取申請

住所
申請人　氏名　印

年　月　日

（爆發物貯庫宛）

記號番號	箇數	品名	尺度ノ斤量

火藥類預リ證書

住所

貨主氏名

年　月　日

（爆發物貯藏庫宛）（名義書換ノ場合ハ　年　月　日申請ニ依リ書換）

預リ貨物				引取貨物				現在貨物			
預リ期間	記番號	品名	箇數斤量	引取年月日	記番號	品名	箇數斤量	現在高記入年月日	記番號	品名	箇數斤量

〔山形縣〕

●鑛業用火藥類取扱規則

明治四十四年九月十一日
山形縣令第五十三號

改正　大正二年六月縣令第四六號

第一條　鑛業ノ爲火藥類ヲ使用スル場合ハ銃砲火藥類取締法、同施行規則、同施行細則及同執行規則ニ依ルハ勿論尙本則ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　鑛業權者ハ火藥類ノ授受及其ノ取締ヲ爲サシムル爲火藥類ニ關シ相當技能アル一名乃至數名ノ火藥係ヲ置クヘシ

前項ノ火藥係ニハ銃砲火藥類取締法施行規則第十四條ノ火藥類取扱人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ火藥係ヲ置キタルトキハ十日以內ニ其ノ住所、族籍、氏名、生年月日及履歷ヲ具シ火藥類消費地警察官署ニ之ヲ届出ヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ亙ルトキハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ヘシ

前項ノ届出事項ニ異動ヲ生シ又ハ解雇、死亡其ノ他ノ事故ニ因リ火藥係ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　前條ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタル警察官署ハ取締上必要アリト認ムルトキハ火藥係ノ增員又ハ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　火藥係ハ一日ノ使用見積高ヲ超過スル火藥類ヲ鑛夫ニ交付スルコトヲ得ス

第六條　火藥係ハ別記樣式ノ鑛業用火藥類授受明細簿ヲ調製シ每日ノ交付高、使用高、還付高及其ノ他ノ事項ヲ其ノ都度之ニ記載スヘシ

第七條　火藥係ハ隨時火藥類使用ノ場所ニ臨ミ之ヲ監督シ其ノ狀況ハ其ノ都度之ヲ一定ノ帳簿ニ記錄シ置クヘシ

第八條　火藥係ハ隨時火藥類貯藏所ニ臨ミ火藥類ノ現在量ヲ實査スヘシ

第九條　鑛夫ハ火藥係ヨリ交付ヲ受ケタル火藥類ヲ使用シタル後殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火藥係ニ還付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ火藥類ノ還付ヲ受ケタルトキハ火藥係ハ直ニ之ヲ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘシ

第十條　鑛業權者、火藥係及鑛夫ハ火藥類取締ニ關シ警察官吏又ハ火藥技術員ヨリ書類、帳簿ノ提出ヲ命セラレ又ハ尋問ヲ受ケタルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第十一條　鑛業權者ニシテ少量ノ火藥類ヲ使用スルトキハ消費地又ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ本則ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ免ルルコトヲ得

第十二條　第二條第一項、第五條、第九條及第十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四條ノ命ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十三條　第三條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十四條　本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ニハ直接ノ監督者ヲ現ニ犯シタル者ト同一ノ罰ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ用キタルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第十五條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山形縣〕

（別記樣式）

鑛業用火藥類授受明細簿　（用紙美濃紙）

月日	種類	交付高	使用高	還付高	備考	鑛夫氏名
	爆（火）藥					
	雷管					
	導火線					
	、、、					
	、、、					
	、、、					
	、、、					
	、、、					
	、、、					

一、每月末ニ其ノ月分ノ計ヲ附スヘシ

二、使用高、還付高トヲ合シテ交付高ニ符合セサル場合等ニ於ケル事由其ノ他參考トナルヘキ事項ハ之ヲ備考ノ欄ニ記載スヘシ

●拳銃短銃其ノ他火藥類等ヲ朝鮮臺灣等ニ販賣移出ニ關スル件

大正三年三月
警察部長通達秘高第八九八號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ左記ノ通照會アリタル旨通牒有之候條取締上注意

スヘシ

左　記

甲號　大正三年一月二十日内務省警保局長宛警務總監照會

銃砲火藥類販賣營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ戎器ヲ讓渡スコトヲ得サルハ同規則第四十二條ノ規定スル所ナリ然ルニ朝鮮臺灣等ノ在住人ニ對シテハ該地官憲ノ發シタル移入許可證ニ依リ拳銃短銃等ヲ小包郵便ニ托送販賣シ又火藥類ノ如キハ該許可證ヲ便宜携帶シ來ル者ニ對シ販賣シ居ルヲ發見致候右ハ規則第四十二條違反ト認メラレ候得共各地營業者ハ同樣ノ取扱ヲ爲シ居ル趣ニ有之且又銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニ在リテハ右ノ方法ニ依ルヲ非ナリトセハ自ラ内地ニ渡來スルニ非サレハ之ヲ讓受クルノ途無之實際已ムヲ得サルモノト認メラレ候就テハ該地官憲ノ發シタル許可證ヲ有スル者ニ對シテハ規則第四十二條ノ所謂許可ヲ受ケタルモノト看做シ販賣取扱ハセ候トモ取締上何等差支ナキモノト思料候得共一應御意見承知致度及照會候也

乙號　大正三年三月十二日警務第一一號ノ内警視總監宛警保局長回答

　拳銃短銃其ノ他火藥類等ヲ朝鮮臺灣等ニ販賣移出ノ件回答

一月二十日付保第五號ヲ以テ本件ニ關シ御照會ノ處朝鮮及臺灣ニ於テ交付シタル移入許可證ハ單ニ當該地方ニ陸揚移入スルヲ許可スルノ證ニシテ内地ニ於テ銃砲及火藥類ノ讓受ヲ爲スノ許可證ニアラサルヲ以テ右移入許可證ニ依リ營業者ニ於テ讓渡ヲ爲スヘキモノニ無之候條御了知相成度候

〔山形縣〕

●内地朝鮮間ニ於ケル銃砲火藥類ノ讓渡、讓受ニ關スル件

大正三年三月
警察部長通達收高第九六八號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ左記ノ通リ朝鮮總督府警務總長ノ依頼アリタル趣通牒有之候條此ノ旨相心得取扱上遺算ナキヲ期スヘシ

左　記

朝鮮ニ於テハ銃砲火藥類ノ讓渡、讓受共ニ營業者以外ノ者ハ總テ行政官廳ノ許可ヲ受クルヲ要シ（軍用銃砲ノ讓渡、讓受ニ付テハ營業者亦同シ）候爲メ内地營業者ハ朝鮮在住者ノ注文ニ應シ現品ヲ發送スルニ當リ豫メ在鮮購求者カ規定ノ許可ヲ得シモノナルヤ否ヤヲ知ルノ要アルニ係ラス之カ規定ヲ知ラサルノ結果直ニ現品ヲ發送シ來リ爲ニ該品移入ノ際非常ノ手數ヲ要シ取締上支障不尠ノミナラス購求者モ亦却テ繁雜ノ手續ト多數ノ日子ヲ要スルノ狀況ニ付キ右ノ如キ場合ニ於テ内地ノ營業者ハ購求者カ既ニ讓受ノ許可ヲ得シモノニ非サル限リ現品ヲ發送スルカ如キ事無之樣示達ノ上尙取締官廳ニ於テ相當留意方可然御取計相成候樣致度此段及御依頼候也

●火藥類ノ取締ニ關スル件

大正七年十月
警察部長依命調達收保第五四六一號ノ一

火藥類ノ取締ニ關シ別紙寫ノ通内務省警保局長ヨリ通牒有之候ニ付銃砲火藥類取締法令執行心得第十五條同第十六條ニ依リ措置スルノ外尙右通牒ノ趣旨ニ基キ嚴重取締ヲ爲シ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

右依命調達ス

〔山形縣〕

内務省山警第六六號
大正七年十月四日
川村内務省警保局長

依田山形縣知事殿

火藥類ノ取締ニ關スル件依命通牒

近時火藥類ノ爆發シテ人命財産ニ傷害ヲ及ホシタル事故頻々トシテ發生シ公安上洵ニ遺憾ニ堪ヘサルモノ有之候之カ豫防ニ關シテハ常ニ相當注意相成居候儀ト被存候處火藥類ノ爆發ハ火藥類ノ自然分解ニ基クモノ稀ニシテ多クハ火藥類ヲ貨車船舶又ハ荷車ニ積卸若ハ荷繰リヲ爲ス際手鉤類ヲ容器ニ打チ込ミ或ハ之ヲ投下シ轉輾スルカ如キ粗暴ノ取扱ヲ爲スモノアルニ起因スルモノヽ如ク認メラレ候就テハ是レカ積卸又ハ荷繰ニ從事スル仲仕ノ取締ヲ嚴ニシ其ノ取扱上遺漏ナキヲ期セシメラレ度尙ホ銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條ニ依リ警察官署ニ於テ其ノ管外ニ運搬セラルヽ火藥類ノ運搬ヲ許可シタルトキハ其ノ火藥類ノ品名數量運搬ノ日時方法通路運搬人ノ住所氏名及運搬先ヲ沿道警察官署（鐵道運送ニ依ルモノニアリテハ發送及到着停車場　船舶運送ニ依ルモノニアリテハ船積地及陸揚地所轄警察官署）竝ニ到着地警察官署ニ通報シ其ノ通報ヲ受ケタル警察官署ハ運搬ノ際相當警戒ヲ加ヘ到着地警察官署ハ其ノ著否ヲ許可シタル警察官署ニ通報スル等運搬ノ確實ト沿道ノ危險防止トニ努メラレ度特ニ人家稠密ノ場所ニ於テスル運搬荷積荷卸等ノ場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ違反ナカラシムル樣嚴重御取締相成度鐵道運送ノ場合ニ於ケル火藥類ノ到着停車場ニ著シタルトキノ通報方ニ關シ別紙ノ通鐵道院ヘ照會致置候條右通報ヲ受ケタル警察官署ニ於テ火藥類ノ取締上遺算ナキヲ期セシメラレ度候

山警第六六號
大正七年十月十四日
内　務　文　書

鐵道院副總裁殿

　火藥類運送ニ關スル件照會

近來火藥類ノ運送中ニ於ケル爆發事故頻々發生候ニ付テハ之カ危險豫防上相當警戒ヲ要スルモノ有之候處火藥類鐵道運送規程ニ依レハ其ノ第二十四條ニ於テ火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著スルモ到着後二時間以内ニ荷受人カ火藥類ヲ搬出セサルトキニアラサレハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ通知スルヲ要セサル規定ニ相成居候爲メ二時間以内ニ荷受人カ火藥類ヲ停車場外ニ搬出スル場合ニ於テハ荷受人ノ火藥類取扱ニ關シ警察官吏ノ取締ヲ缺ク場合有之候就テハ自今右規定ノ如何ニ拘ハラス火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ警察官署又ハ警察官吏ニ通知方御取計相成候樣致度尙大阪、下關等多數ノ汽車旅客ノ乘降アリ且ツ人家稠密ノ場所ニ設置シアル停車場又ハ其ノ附近ニ於ケル火藥類運送上ノ取扱ニ關シテハ相當考慮ヲ要スヘキモノ有之樣認メラレ候ニ付右兩驛ハ勿論他ノ各驛ニ於ケル前三ケ年間ノ積込又ハ荷卸ヲ爲シタル火藥類ノ品名數量ヲ各驛毎ニ御調査ノ上御回報相煩度候

●空氣銃取締ニ關スル件

大正八年三月三十一日
警察部長依命調達收保第一四二八號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル趣通牒有之候條此ノ旨相心得取締方遺漏ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號收第二一三九號
大正八年三月五日警保局長宛長野縣知事照會

空氣銃ニ關スル件

左記空氣銃ハ其ノ構造裝置精巧ニシテ相當ノ威力ヲ有シ小鳥類ヲ捕獲シ得ラルルニ付テハ當然銃砲火藥類取締法ノ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト思料スルモ狩獵法第一條ノ適用ヲ受クヘキモノナリヤ否聊カ疑義有之候條何分ノ御回示煩度此段及照會候也

記

一、銃器ノ名稱記號　名稱ナシ賣價拾八圓仕入拾六圓貳拾錢

二、製造元　東京市下谷區佐々木銃砲製造所

三、販賣所　長野縣北佐久郡小諸町銃砲商豐川五右衞門
　仕入先東京市下谷區竹町二十八番地中田鍋吉

四、銃器ノ全長　三尺一寸六分銃身ハ鐵製長サ二尺一寸口徑一分五厘中折式

五、彈丸單發　一個ノ重量一分三厘七毛強一端尖形他ノ一端ハ中央裁分空虛

六、威力　五間ノ距離ニ於テ杉四分板ヲ使徹シ二十間ノ距離ニ於テ杉三分板ヲ使徹ス二十五間ニ至リ彈莫ヲ止ム

乙號警長第二五號

大正八年三月二十八日長野縣知事宛警保局長回答

空氣銃ニ關スル件

三月五日付收第二、一三九號ヲ以テ御照會相成候本件ハ單發銃ナルヲ以テ狩獵法ノ所謂銃器ニハ包含セサルモノニ有之候

●支那へ兵器彈藥輸出差止ノ件

大正八年五月二十一日
警察部長依命調達收保第二五一〇號ノ一

支那へ兵器彈藥輸出差止ノ件ニ關シ別紙ノ通訓令及通牒相成候ニ付銃砲火藥類製造若ハ販賣業者ニ對シ豫メ其ノ趣旨ヲ懇諭シ其ノ計畫ヲ阻止スルニ努ムヘク若シ右諭示ニ從ハサル者アル場合ハ速ニ報告スヘシ

〔山形警〕

（別紙）

內務省訓第二九一號　山形縣

左記兵器彈藥ヲ支那ニ輸出セントスル者アル場合ニ於テハ輸出禁止ノ處分ヲ爲スヘキニ付事前ニ於テ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

右訓令ス

大正八年五月十九日　內務大臣　床次竹二郎

記

一、各種軍用銃（步兵銃、騎銃、擲彈銃、陸海軍制式拳銃ノ類）及其ノ部分品

一、各種機關銃及其ノ部分品

一、各種軍用火砲及其ノ部分品

一、各種軍用火工品及其ノ部分品

一、各種軍用火藥及軍用爆藥ノ類

一、各種軍刀及銃劍ノ類

以上

內務省祕第一一三五號

大正八年五月十九日　川村內務省警保局長

依田山形縣知事殿

支那へ兵器彈藥輸出差止ニ關スル件依命通牒

本日內務省訓第二九一號ヲ以テ本件訓令相成候處右ハ支那ニ於ケル和平促進ノ爲メ英、米、佛、伊ノ各聯合與國ト協議ヲ遂ケ支那ニ於テ全體ヲ通シテ其ノ權力ヲ認メラル、政府ノ成立スルニ至ル迄ハ右聯合與國及帝國ヨリ支那ヘ兵器彈藥ノ輸出ハ之ヲ嚴禁スルコトニ決定シ支那政府ニ對シ前記決定ノ次第、通告濟ニ有之候就テハ帝國內ヨリ密ニ支那ニ之カ輸出ヲ企ツル者ノ取締ニ關シ輸出港稅關長ト御協議ノ上一層嚴密ノ御措置相煩度尙銃砲火藥類ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者ニ對シテハ豫メ前記ノ趣旨ヲ懇諭シ其ノ計畫ヲ阻止スル樣御取計相成度若右諭示ニ從ハスシテ之カ輸出ヲ爲サントスル者アル場合ニ於テハ左記事項ヲ具シ速ニ當省大臣ニ報告相成候樣致度候

追テ差向右輸出計畫中ノモノ、有無至急御調査ノ上御回報相煩度候

記

一、輸出兵器彈藥ノ種類、數量、價格

二、輸出港輸出人（住所職業、國籍氏名）

三、仕向地荷受人（住所職業、國籍氏名）

四、搭載船名及其ノ船籍積出港、出發月日積換地アル場合ハ其ノ地名

以　上

〔山形警〕

●玩具用銃器ニ關スル件

大正九年十月十三日
警察部長依命調達收保第五四三〇號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル趣通報有之候條取締方遺漏ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號

警保局長宛大阪府知事照會（大正九年九月七日保第七、五二五號）

玩具用銃器ニ關スル件

左記小形ノ拳銃ハ發火機能ヲ有シ且彈藥ヲ裝塡スル裝置ヲ爲シ小形ノ鐵彈ヲ發射シ得ルモノニシテ實射試驗ノ結果使用方法ヲ工夫スルトキハ人畜ヲ傷害スルノ威力ヲ發揮スルノ虞有之玩具用ノ範圍ヲ脫スル危險性能ヲ具備セルモノト思料セラル、ニ付該品ノ取締方御審査ノ上何分ノ御指示相成度現品相添へ此段及照會候也

左　記

（イ）小形引落シ銃（模造五連發式）

重量九九匁總長五寸九分口徑五粍但シ銃身ハ八角ニシテ握リ柄ハ七號ノ彫刻ヲ施シ光澤アル黑染シタルモノナリ

（ロ）小形有鷄頭元折銃（模造五連發式）

重量九三匁總長五寸八分口徑五粍但シ銃身ハ八角ニシテ握リ柄ハ七號ニ彫飾ヲ加ヘタル彫刻ヲ施シ光澤アル黑染ヲナシ且ツ自動回轉元折式ニシテ彈藥ノ込替ヘ速カナル特徵ヲ有セリ

（ハ）小形二連發式銃

重量六二匁總長六寸二分口徑八粍但シ銃身ハ、圓筒ニシテ握リ柄ハ七號ノ彫刻ヲ施シタル特許品ニシテ使用上ノ興味ヲ與フル爲メ二連發式トナシ藥莢ヲ使用スルノ特徵ヲ有セリ

（ニ）小形單發式銃

重量五五匁總長六寸二分口徑十粍但シ銃身ハ六角ニシテ其ノ他（ハ）號ニ同シ

（イ）一、製造人ノ住所氏名

大阪市南區高津四番町七六番地

（ロ）大阪市南區阪町五四番地　吉田　惣太郎

（ハ）大阪市東區上本町九丁目二五四番地　荒木　三木太郎

（ニ）右同人

乙號

大阪府知事宛警保局長回答（大正九年十月九日警阪第二七九號）

銃猟用銃器ニ關スル件

九月七日付保第七、五二五號ヲ以テ御照會相成候本件ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル非軍用銃トシテ取締ヲ要スルモノニ有之候

●空氣銃取締ニ關スル件

大正八年二月
警察部長依命通牒收保第五四七號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取締上遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號保第三二三二號

大正七年十二月二十七日警保局長宛警視總監照會

空氣銃ニ關スル件

下谷區西黒門五番地
銃砲製造業、原　徳次郎

右製造ニ係ル、ミクター式（一名マニラ）空氣銃ハ其ノ裝置稍精巧ナルノミナラス相當ノ發射力ヲ有シ小鳥類ヲ捕獲シ得ルモノノ如シ右ハ銃砲火藥類取締法ニ依リ取締ヲ要スルモノニ非サルヤ取扱上聊カ疑義有之候條試射ノ上何分ノ御回答相成度現品相添へ及照會候也

〔山形警〕

（乙號）

大正八年一月三十日警視總監宛警保局長回答

空氣銃ニ關スル件回答

大正七年十二月二十七日付保第三二三二號ヲ以テ御照會相成候本件ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル非軍用銃トシテ取締ヲ要スルモノニ有之候

●空氣銃取締ニ關スル件

大正十年一月二十五日
警察部長依命通牒收保第五四七號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條取締方相當注意セラルヘシ

（別紙）

甲號警第二一六二號

大正九年十二月十八日警保局長宛宮崎縣知事照會

空氣銃ニ關スル件照會

今回左記構造成力ヲ有スル空氣銃發見候處右ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト思料候モ取扱上疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度此段及照會候

記

一、銃器ノ刻印　登錄商標　王冠
CROWN
MADE BY BIZANDO

TOKYO JAPAN.
PURCHASED
BY EMPERIAL HOUSEHOLD

二、仕入先　東京市日本橋區馬喰町一丁目　玩具店　倉持　長吉

三、販賣所　宮崎縣宮崎郡宮崎町橘通一丁目　玩具店　中山　晴重

四、空氣銃ノ全長　二尺六寸
空氣銃々身　ニツケル製一尺六寸八分
空氣銃口徑　一分五厘

五、彈丸　B丸單發、一個ノ重量二分

六、發射試驗　杉板ニ對シ距離五間ニ於テ彈丸ノ$\frac{8}{10}$ヲ沒ス
杉板ニ對シ距離十間ニ於テ彈丸ノ$\frac{7}{10}$ヲ沒ス
杉板ニ對シ距離十五間ニ於テ彈丸ノ$\frac{5}{10}$ヲ沒ス
杉板ニ對シ距離二十間ニ於テ彈丸ノ$\frac{2}{10}$ヲ沒ス
杉板ニ對シ距離二十五間ニ於テ彈丸ノ$\frac{1}{10}$ヲ沒ス
杉板ニ對シ距離三十間彈痕明瞭ナリ

七、威力　最有效ト認ムル約十五間ノ距離ニ於テ小鳥類ヲ射撃スル時ハ捕獲シ得ヘシ

八、價格　賣價金七圓

乙號警宮第五三號

大正十年一月二十一日宮崎縣知事宛警保局長回答

空氣銃ニ關スル件回答

大正九年十二月十八日附警第二、一六二號ヲ以テ御照會ノ空氣銃ハ御意見之通リ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有之候

〔山形警〕

●空氣銃取締ニ關スル件

大正十年三月一日
警察部長依命通牒收保第一一一八號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通報有之候條相當取締方注意スヘシ

（別紙）

甲號

保第一〇九〇號

大正十年二月十日警保局長宛大阪府知事照會

空氣銃取締ニ關スル件

左記英國バーミングハム株式會社外二名製造ニ係ル空氣銃ハ別紙添付圖面ノ通其ノ構造精巧ヲ極メ旣ニ非軍用銃トシテ通牒相成候米國製ミリター式及デージー式空氣銃ニ比シ稍々强大ナルヲ以テ銃砲火藥類取締法ニ依ル非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スルモノト被認候條此段及報告候也

左記

製造人　英國バーミングハム株式會社
BSA式空氣銃

同　大阪市東區鎗屋町一丁目七番地西川善平
ミリター式模造空氣銃

同　大阪府東成郡中本町大字中道參百四十番地片山房吉
BSA式模造空氣銃

同　同人
ミリター式模造空氣銃

〔山形縣〕

THE B.S.A.　　STANDARD.

AIR RIFLE

B.S.A 177BORE (No.1)

THE BIRMINGHAM SMALL ARMS CO.LTD.

ENGLAND PATENTED SOLE MAKERS.

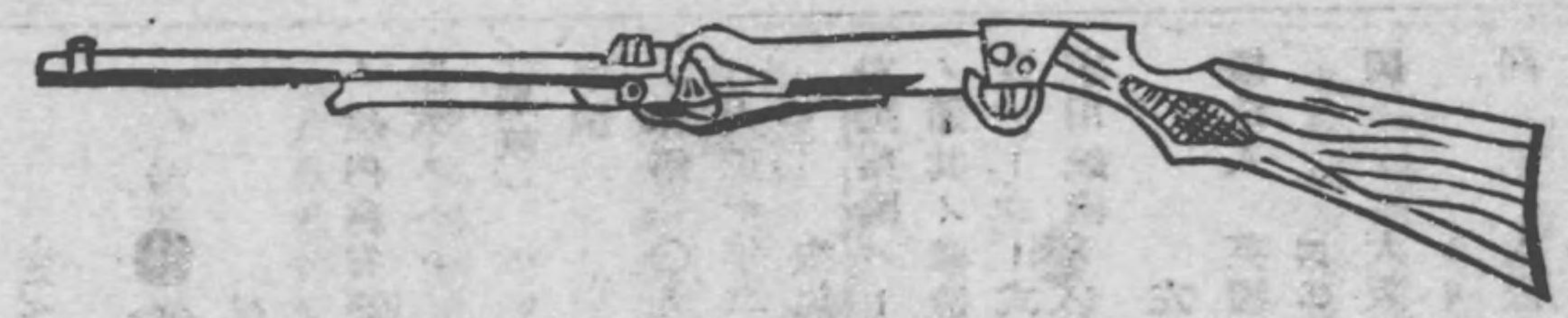
AUSTRALIA. No. 7686 JAN 2ND 1907

CANADA 1906 No. 97984 1907 No.108159

U.S.A. APRIL 3RD 1906 AND

JUNE 16TH 1908 FRANCE

No. 358745 S.G.D.G. GT BRIT RD No. 479972



一、銃身ノ上部ニ上記ノ通記載シアリ

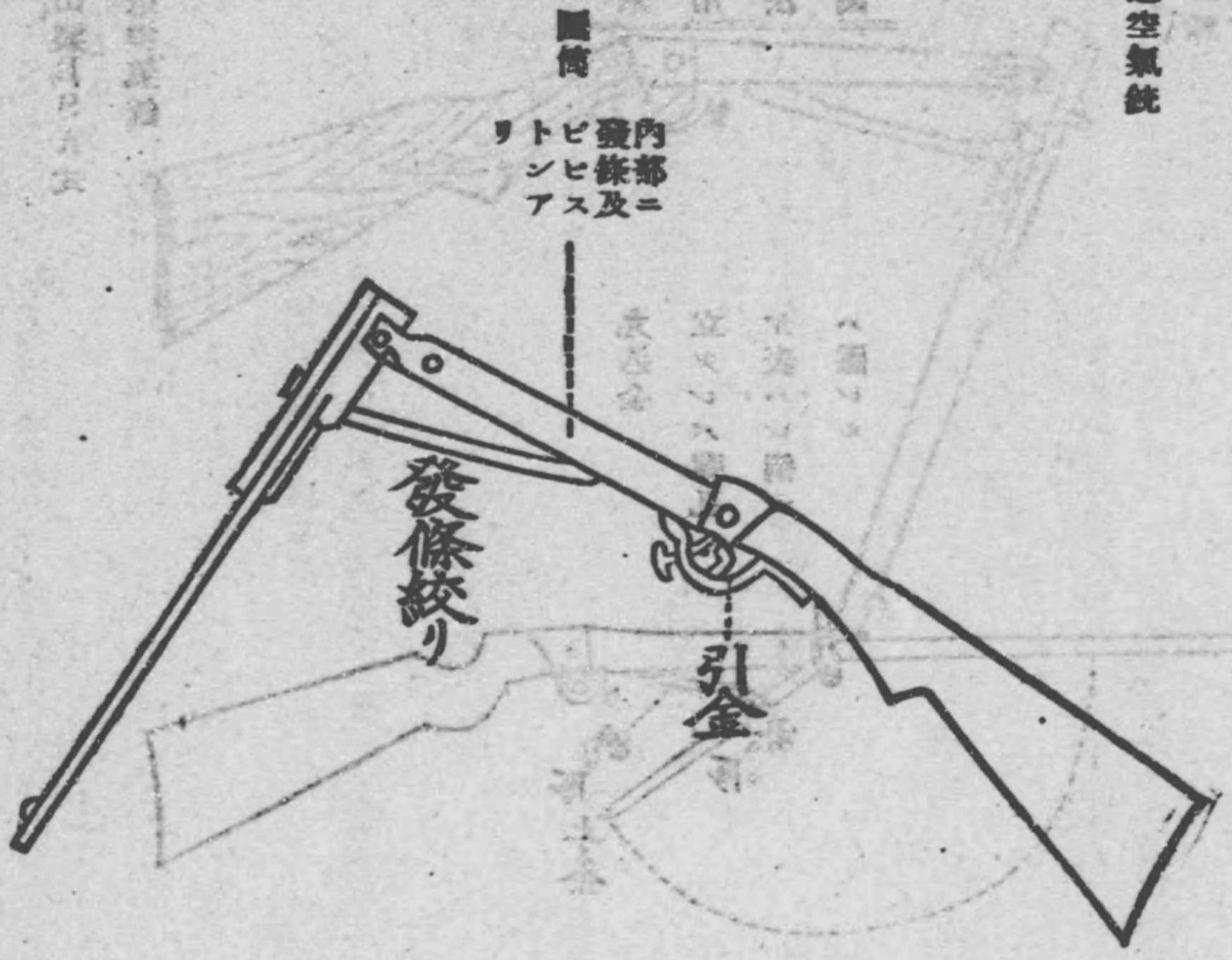
一、彈丸ハ中徑BB散彈ヨリ稍々大ニシテ瓢形ナリ

一、信徹力ハ距離二十間ニテ厚四分ノ杉板ヲ貫通ス

〔山形縣〕

西川製ミリタ一式
模造空氣銃

示用法圖

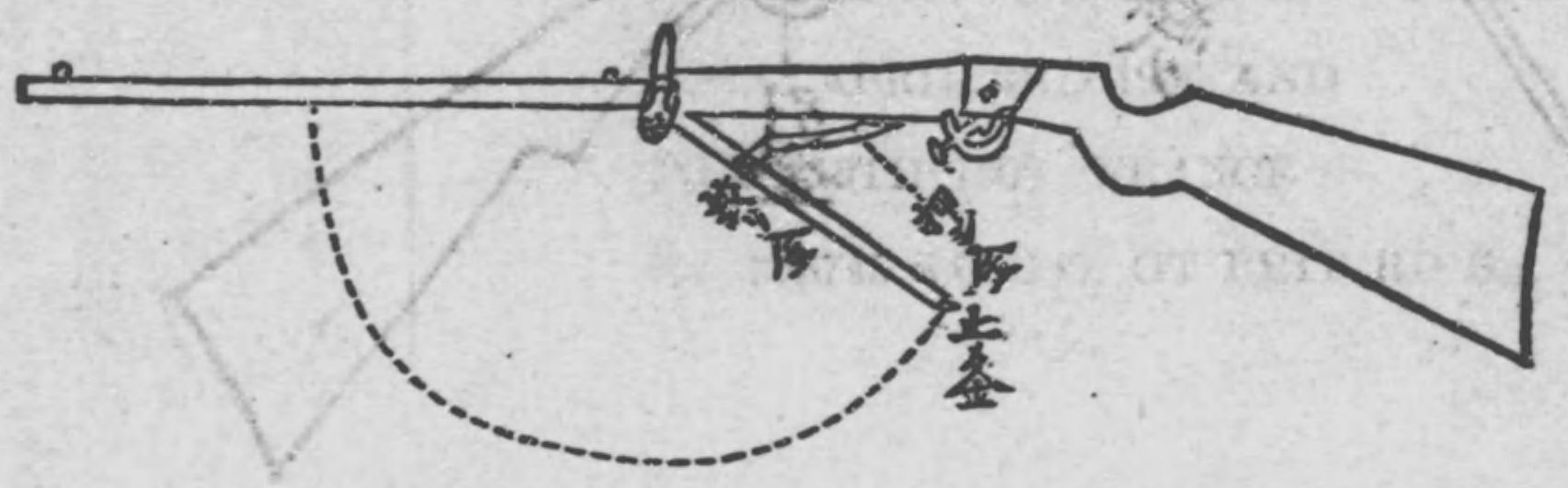


屈折スレバ發條絞リテ自然ニ發條ヲ壓縮シ此時ピストンノ先端ニアル切リ缺キガ引金ニ掛リテ引止メラレ空氣圓筒ニ充チ丸ヲ込メ舊ニ復シテ狙擊ニ當リ引金ヲ引ケバピストンガ外ヅレテ空氣ヲ壓迫シ丸ヲ彈キ飛バスモノトス效力ハ舶來レージ型千連發ニ匹敵ス

片山製ＢＳＡ式
模造空氣銃

示用法圖

丸込金立ツレバ彈孔ガ表ハレ倒セハ隱レル



〔山形縣〕

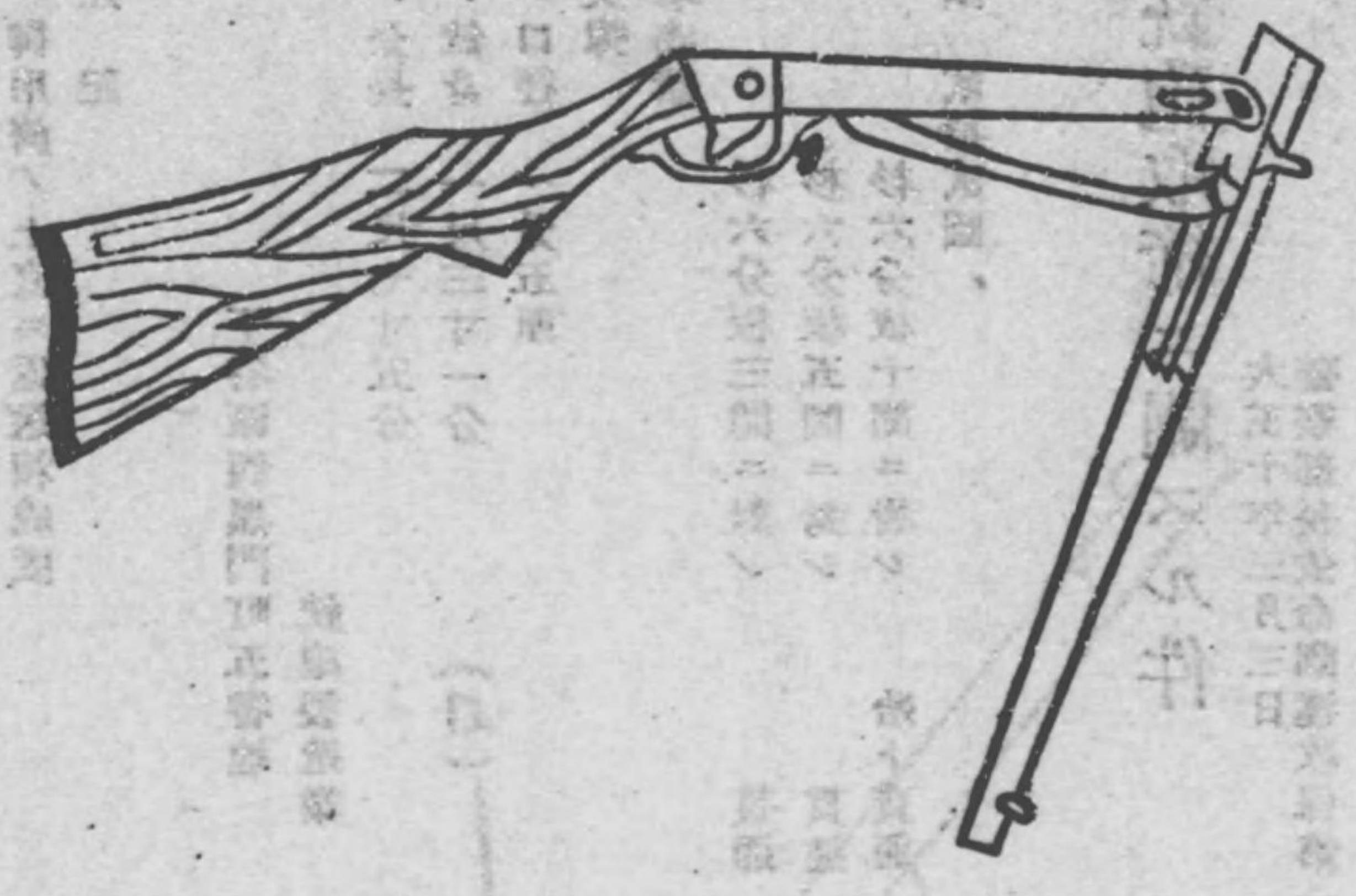
絞リ金ノ先端ニアル止メ金ヲ押ヘレバ絞リ金ガ外ヅレテ之ヲ後方ヘ絞レバ押シ金ガ圓筒內ニアルピストンヲ壓縮シテ自然ニ引金ニ掛リテ引止メラレ絞リ金ヲ舊ニ復シテ丸込金ヲ立ツレバ彈孔ガ表ハレ丸ヲ込メテ倒シ目的物ヲ狙ツテ引金ヲ外ヅセバ空氣ノ壓迫ニヨリ發射スルモノトス

效力ハ五間ニテ雀ヲ射倒スモノ之ヲ使用スルモノハ中學生位ノ少年者

〔山形縣〕

片山製ミリター式
模造空氣銃

空氣銃示用法圖



乙號

警阪第三六號

大正十年二月二十二日各廳府縣長官宛警保局長通牒

空氣銃取締ニ關スル件通牒

二月十日付保第一〇九〇號ヲ以テ甲號ノ通リ大阪府知事ヨリ報告有之非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト認メ候ニ付御參考迄及通牒候

●空氣銃取締ニ關スル件

大正十年三月三日
警察部長依命通牒收保第一一七八號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ別紙照覆アリタル旨通報有之候條相當取締方注意スヘシ

（別紙）

警親第三〇號

大正十年二月二十四日
內務省警保局長
各廳府縣長官殿

空氣銃取締ニ關スル件通牒

本件ニ關シ二月十四日附保第二八號ヲ以テ左記ノ通リ警視總監ヨリ通報有之候處右ハ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト認メ候ニ付御參考迄ニ寫及送附候也

左記

保第二八號

大正十年二月十四日
警視總監
內務省警保局長殿

空氣銃取締ニ關スル件

左記空氣銃ハ其ノ構造威力ノ點ヨリ當然銃砲火藥類取締法ニ依リ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト認メ相當取締方法ヲ講シ置キ候條爲御參考現品相添ヘ此段及通知候也

追テ現品ハ御用濟ノ上直ニ返送相成度

左記

一、製造所　下谷區西黒門町五番地　銃砲製造業　原　德太郎

一、空氣銃ノ全長　二尺七寸五分
　空氣銃ノ銃身　一尺三寸一分
　空氣銃ノ口徑　一分五厘

一、彈丸　尖彈

一、試驗射擊成績　杉六分板三間ニ對シ　貫通
　杉六分板五間ニ對シ　貫通
　杉六分板十間ニ對シ　殆ト貫通

一、價格賣價　貳拾貳圓

●銃砲取締ニ關スル件

大正十年三月三日
警察部長依命通牒收保第一一七九號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通報有之候條相當取締方注意スヘシ

（別紙）

甲號高警發第二五號

〔山形縣〕

大正十年一月二十七日警保局長宛奈良縣知事照會

銃砲ニ關スル疑義ノ件

奈良市久保町時計商　上田米藏

右者左記短銃製造販賣ヲ計畫有之候處其ノ使用ニ依リテハ相當ノ威力有之銃砲火藥類取締法ノ所謂非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト認メラル、モ聊カ疑義相生シ候條御試射ノ上何分ノ御指示相成度現品相添ヘ御伺候也

記

一、名稱　發彈輕便短銃
　實用新案第三九四六二號

(イ)銃身曲尺　一尺　周圍一寸八分　口徑一分五厘

(ロ)銃床　曲尺一尺一寸

(ハ)構造　別紙圖面ノ通リ

二、使用法

(ニ)ニ玩具用火工品（俗ニ殘玉）ヲ五六粒ヲ充塡シ其ノ上ニ散彈（第十號位）ヲ充塡シ(イ)ニ押入シ倚(ロ)ニ殘玉一粒ヲ入レ(ホ)ヲ(ヘ)ニ嵌メ擊鐵ヲ引ク

三、效力

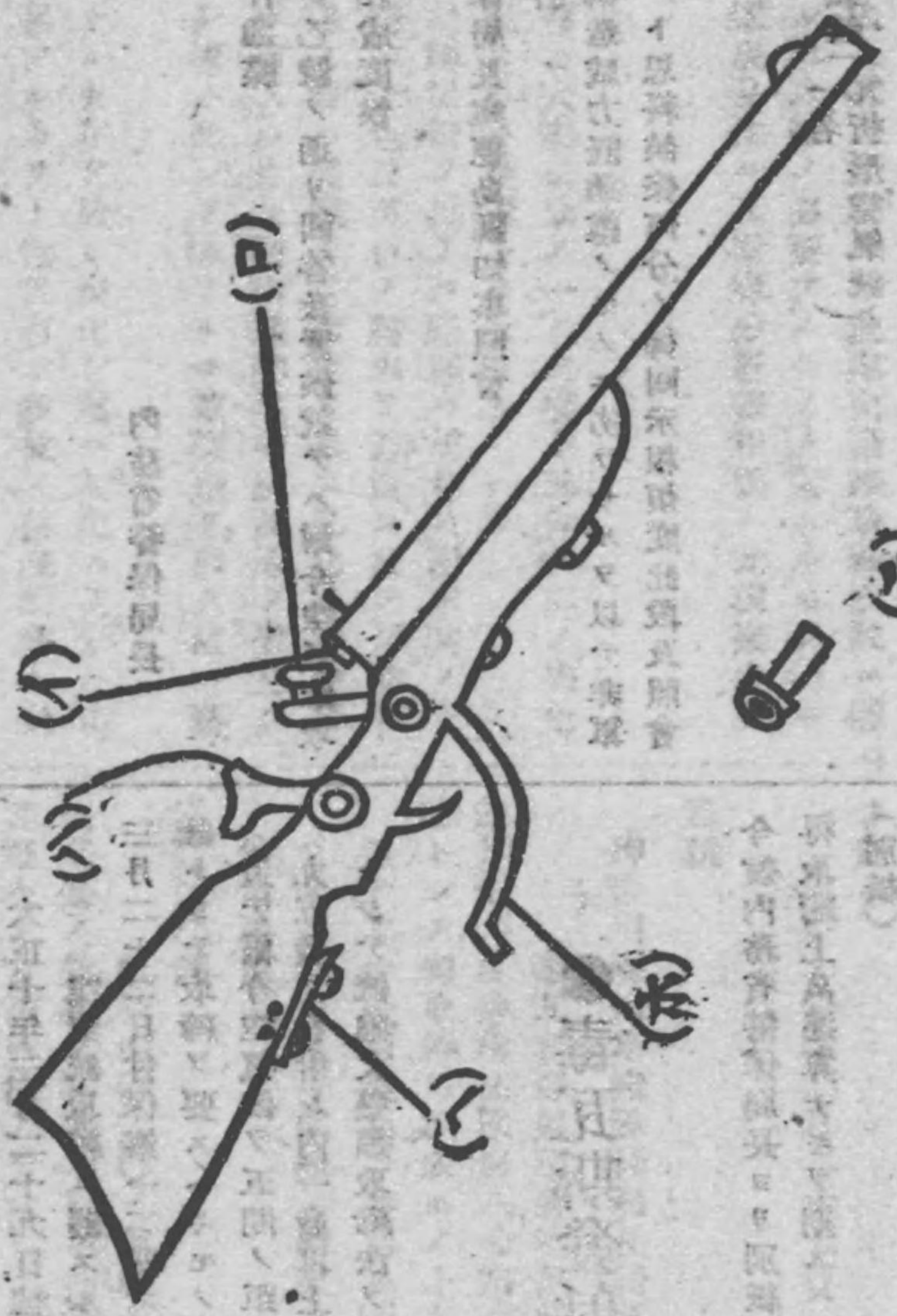
第二項ニ記載シタル如クシテ發砲スルトキハ曲尺二十尺ヲ距テ、彈丸ハ板面ニ二分ノ一突入ス

(ニ)ニ火藥ヲ裝塡シ發砲スルトキハ五間ヲ距テ、杉四分板ヲ貫通ス拾間ヲ距ツルトキハ同樣杉四分板ヲ貫通ス

拾五間ヲ距テ、杉板ニ彈丸ヲ突入ス

拾七間ヲ距テ、彈丸ノ先ヲ突入スル威力アリ

〔山形縣〕



乙號警奈第四號

大正十年二月二十四日奈良縣知事宛警保局長回答

一月二十七日付高警發第二五號ヲ以テ御照會ノ發彈輕便短銃ハ御意見之通リ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有之候

●空氣銃取締ニ關スル件

大正十年四月四日
警察部長依命訓達收保第一七〇二號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通報有之候條相當取締方注意スヘシ

（別紙）

警德第一二號ノ内
大正十年三月二十九日
內務省警保局長
各廳府縣長官殿

空氣銃取締ニ關スル件通牒

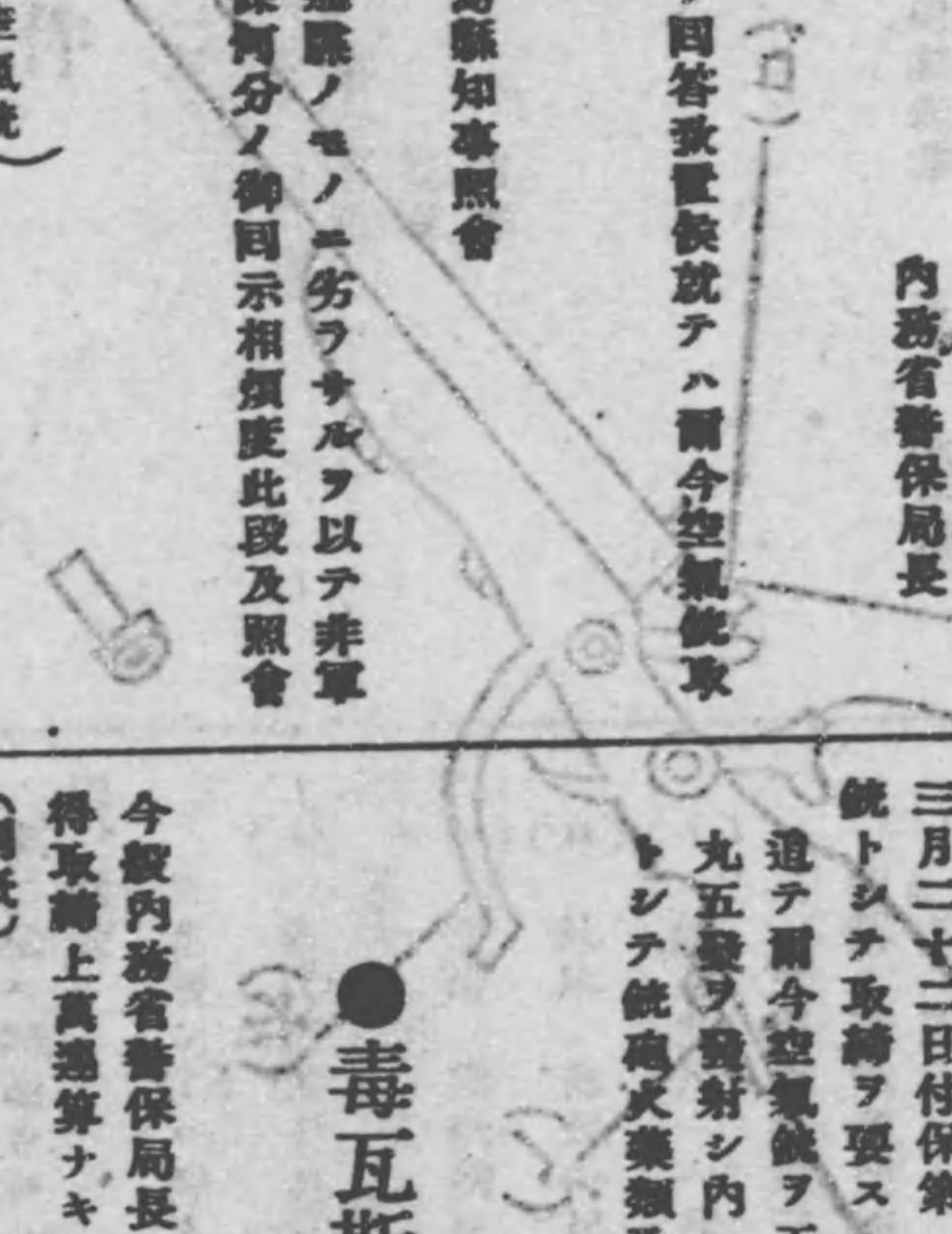
別紙甲號德島縣知事照會ニ對シ乙號ノ通リ回答致置候就テハ爾今空氣銃取締方右標準ニ據ル儀ト御了知相成度候

甲號保第一二四六號
大正十年三月二十二日警保局長宛德島縣知事照會
空氣銃取締ニ關スル件

左記空氣銃ヲ精査スルニ其ノ構造威力既通牒ノモノニ劣ラサルヲ以テ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト思料候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

記

一、銃器ノ名稱　ゲーム式空氣銃（一名元折形空氣銃）
製造者　東京市神田區元佐久間町二番地　濱田銃砲製作所
銃ノ全長　二尺八寸
銃身ノ長　一尺三寸一分
口　徑　約一分五厘
重　量　五百二匁
彈　丸　⌂形ニシテ一發宛充塡シ發射ス
威　力　五間ノ距離ニ於テ杉四分板ヲ優徹シ約十間以内ノ距離ニ於テ雀ヲ射落ス



乙號警德第一二號
大正十年三月二十九日德島縣知事宛警保局長回答
空氣銃取締ニ關スル件回答

三月二十二日付保第一二四六號ヲ以テ御照會ノ本件ハ御意見ノ通リ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有之候

追テ爾今空氣銃ヲ五間ノ距離ニ於テ杉四分板（仕上厚二分五厘）ニ向ケ彈丸五發ヲ發射シ内一發以上貫通スル威力アルモノニ付テハ總テ非軍用銃トシテ銃砲火藥類取締法ヲ適用スル儀ト御了知相成度候

（山形警）

●毒瓦斯發射用銃器ニ關スル件

大正十一年五月八日
警察部長依命訓達收保第二五九三號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取締上萬遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號
警保局長宛神奈川縣照會（神高收第八七四一號 大正十一年三月十六日）
銃砲火藥類取締方ノ疑義ニ關スル件

（山形警）

横濱市尾上町二丁目二十番
銃砲火藥類販賣業　廣嶋　濟三郎

右者ヨリ今般獨逸製毒瓦斯彈發射器販賣致度旨伺出アリタルニ付審査スルニ該發射器ハ拳銃ト同一ノ形狀ヲ有シ其ノ構造簡單ニシテ殆ント玩具ニ等シキモノナルモ之ニ實彈ヲ裝塡シテ使用スル時ハ拳銃ト同樣ノ威力ヲ有スル而已ナラス毒瓦斯彈ヲ充塡シ人畜ニ向ツテ發射スル時ハ五分間乃至二十分間位假死ノ狀態ニ陷ラシムル由ニ有之候就テハ銃砲火藥類取締法並ニ關係法規全部ヲ適用シ所謂拳銃トシテ取締ノ必要アルモノト認ムルモ異例ニ屬スルヲ以テ何分ノ御指揮相仰度現品並ニ瓦斯彈分析書相添ヘ此段稟申候也

假死拳銃藥莢試驗成績

本品ハ雷管付紙製藥莢ニシテ内部ハ大約三分ノ一ノ火藥ト三分ノ二ノ褐色粉末ヨリナリ發射時ニ粉末ヲ散亂スヘキ裝置トナセリ

本品ノ粉末部ヲ取リ水ニ溶解シテ陶汰法ヲ行フニ底部ニ灰色ノ粉末其ノ上部ハ黑色ノ粉末最上部ハ褐色ノ粉末赤色及黃色ノ粉末ヲ浮遊ス此ノ浮遊物ハアルカリニ合ヒテ黃褐色ヲ呈シ酸ニ遇フ時ハ鮮麗ナル赤色ヲ呈ス又此ノ浮遊物ヲ取リテ鏡見スルニ多數ノ斑點ヲ有スル片及樹脂樣物質脂肪油滴ヲ鏡見シ得本品ノ浮遊物ヲ蒸發シテ得タル液ハ此レヲ味フルニ苛烈灼クカ如ク直ニ蕃椒ナルコトヲ直感シ得

本品ノ粉末部ヲ燃燒スレハ美麗ナル火花ヲ散シ炭化シ遂ニ灰化ス灰分ハ比較的多量ニシテ此レカ浸出液ハ强アルカリ性ヲ有シ多量ノ硝酸反應ト炭酸及カリヲ檢出ス尙鹽酸々性液ニ硫化水素瓦斯ヲ通スルニ變化ナシ

本品ノ粉末ニ水ヲ加ヘテ水蒸氣ヲ通シツヽ蒸溜スルニ溜液ハ溷濁シ黃白色ノ沈澱物ヲ生ス此レヲ取リテ燃燒スルニ青色ノ焔ヲ上ケテ燃燒シ硫黃固有ノ臭氣ヲ發ス其他溜液ニ付テ見ルニ反應ナシ

本品ノ粉末ヲ浸テ一般アルカロイド反應ヲ試ミルニ只アルカリーエーテル浸出殘渣中タンニン酸溶液ニヨリテ黑變スルコトアルモ其ノ他ニ變化ヲ認メス尙ホ主ナルアルカロイド殊ニ「ウエラトリン」ニ就テ試ムルニ反應ヲ認メス

以上

右成績ニヨリテ判定スル時ハ本品ノ粉末部ハ火藥末ト蕃椒末ヨリナルモノト認ム

大正十一年二月二十七日
神奈川縣衞生技手　安宅　濟三郎

乙號
神奈川縣知事宛警保局長回答（警神第五八號 大正十一年四月二十九日）
毒瓦斯發射用銃器取締ニ關スル件回答

三月十六日付神高收第八七四一號ヲ以テ御照會相成候本件ハ御見込ノ通拳銃トシテ御取締可相成モノト存候

追テ本件銃用藥包ノ容器ニハ獨逸文ヲ以テ別紙譯文ノ通印刷シアルヲ以テ其ノ效力ニ付試驗ノ結果ハ別紙當局囑託西松唯一報告ノ通ニ有之候ニ付申添候

（獨逸文）譯

氣絕武器（銃）ノ效驗

氣絕銃ノ效驗ヲ試驗スルニハ室内ニ於テ此銃ヲ發射シ射擊方向ニ駈付ケヨ其際次ノ方法ニ依テヤレ

一、銃ノ發射準備ヲナシ　二、腕ト銃ヲ水平ニシ　三、眼ヲ開キ
四、口ヲ開キ　五、發射シ尙發射ト同時ニ進ミ其ノ方向ニ駈ケ行キ
六、强ク呼吸ヲナス　七、眼ト口ハ塞カスニ

已ニ二三秒經過シタル後初メテ發射方向ニ駈ケ出シタラ全ク無益無意味テアル

驚クヘキ效驗アル此瓦斯ハ射撃者ニ對シ射撃實施後直ニ持續セル作用ヲ一時的其ノ顔部及口ニ及ホス

然レトモ此ノ瓦斯ハ普通ノ瓦斯ノ如ク全ク見ルコトヲ得サルモ二三秒後ニハ消散シテ了フ

發射後ノ明瞭ナル點ハ此ノ瓦斯ニ非スシテ此ノ實驗ヲ驚カシ（脅カシ）又強暴ナル襲撃者ニ對シテモ直ニ了解セシムル火藥ノ響テアル

親交アル人ヲ射撃スルナ

假死ピストル調査報告

假死ピストルノ實包ニハ雷管トシテ普通銃用雷管ヲ用ヒ發射藥トシテ黑色火藥ヲ用ヒ其ノ假死藥ハ芥子及胡椒石灰及粉狀黑色火藥ヨリナリ假死又ハ永久死ヲ與フヘキ毒瓦斯ヲ發散又ハ是等ヲ發生スヘキ何等ノ物質ヲ含有セス

動物試驗トシテ南京鼠ヲ用ヒ密閉室中ニテ實包ヲ發射シ所謂毒瓦斯毒霧ヲ南京鼠ニ呼吸セシメタルニ何等ノ異常無カリキ又發明者ノ指示ニ從ヒ發射後本囑託自身其煙霧中ニ突入シタルニ少シク刺戟性瓦斯アリテ嚏ヲ催シタルノミニテ身體ニ何等ノ反應ヲ起サヽリキ

實包ヲ一米距リタル衝立ニ向ツテ發射セシニ多クノ孔ヲ穿チ半米距リタル衝立ニ向ツテ發射セシニ密接セル無數ノ孔ヲ穿チタリ

故ニ當ピストル實包ヨリ發生スル瓦斯及霧ハ人體ニ假死若ハ永久死ヲ與ヘサレ共之ヲ一米以内ノ距離ヨリ人ノ顔面ニ向ツテ發射スル時ハ眼潰トシテ永久ノ失明創傷ヲ與フルコト、思ハル

右報告仕候

大正十一年四月十七日

警保局事務囑託　西松唯一

〔山形警〕

警保局長湯地幸平殿

●中學校生徒實彈射撃演習ニ關スル件

大正十一年六月十二日
警察部長依命通牒收保第三五二六號ノ一

今般内務省警保局長及文部省普通學務局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取扱上萬遺漏ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號收第四九五五號

大正十一年五月四日警保局長宛長野縣知事照會

中學校生徒實彈射撃演習ニ關スル件照會

長野中學校長　江口俊博

右之者ヨリ同校三、四、五學生徒約四百名ノ實彈射撃演習ノ爲使用スル村田銃實包參千發ノ讓受許可出願アリタル處右ハ規律アル學校職員監督ノモトニ行フモノナルヲ以テ他ニ危害ヲ及スカ如キ事ハ無之ト思料候モ空包ヲ使用スル發火演習等トハ自然趣ヲ異ニスルモノニシテ保安上之カ許否ニ關シ聊カ疑義相生候條至急何分ノ意見承知致度此段及照會候也

乙號警長第六九號

大正十一年六月三日長野縣知事宛（警保局長及普通學務局長）回答

中學校生徒實彈射撃演習ニ關スル件回答

大正十一年五月四日付收第四九五五號ヲ以テ御照會ノ本件ハ官公署ノ火藥類ノ讓受ニ付テハ許可ノ形式ヲ要セサルモノニ有之候處中學校三年生程度ノ心身ノ發育不充分且銃器ノ操法未熟練ノモノニ對シ實彈射撃演習ヲ爲サシムルハ危險物取扱上自然愼重周到ノ用意ヲ缺キ危險豫防及保護上ヨリ見

〔山形警〕

ルモ穩當ナラサル樣被認候尙四、五年生ノ實彈射撃演習ニ在リテモ陸軍ノ射撃場ニ於テ當該陸軍官憲ノ監督指導ノ下ニ於テ實施スル樣御取計相成度候

●變裝空氣銃取締ニ關スル件

大正十二年一月十三日
警察部長依命通牒收保第二四九號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通リ照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取締上萬遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號

保第二八二號

大正十一年十二月十九日警保局長宛警視總監照會

變裝空氣銃取締ニ關スル件

府下荏原郡大井町元芝九二九番地
都花空氣銃研究所　國下博文

右之者製造ニ係ル左記空氣銃ハ其ノ構造精巧ヲ極メ「ステツキ」形ニ之ヲ變裝シ市内各玩具店ニ於テ販賣シ居ルヲ發見致候ニ付其ノ威力ヲ試驗致候處結果左記ノ通リニ有之比較的微力ニシテ非軍用銃ノ範圍ニ屬セサルモ其ノ構造變裝ニ係リ普通一般ノ空氣銃ト同一ニ單ニ其ノ威力ノ強弱ニ依リ之カ取締ノ要否ヲ決定スヘキモノニアラスト思料セラレ候ニ就テハ本銃ノ威力ノ程度ト雖モ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ仕込銃トシテ取締ヲ要スルモノト思料候ヘ共御意見承知致度現品（一挺）相添ヘ此段及照會候也

追テ現品御試驗濟ノ上ハ返戻相成度申添候

左記

一、銃器ノ名稱　ステツキ形空氣銃
一、製造所　東京府荏原郡大井町元芝九二九
　　都花空氣銃研究所
一、銃ノ全長　二尺七寸六分
　　銃身　二尺六寸三分
　　彈丸　圓錐彈
一、威力　五間ノ距離ニ於テ松四分板仕上二分五厘ニ五發々射スルニ最大威力深サ約一分五厘ノ彈痕ヲ認ム

乙號

警親第四四三號

大正十一年十二月二十七日警視總監宛警保局長回答

變裝空氣銃取締ニ關スル件

大正十一年十二月十九日保第二八二號ヲ以テ御照會相成候變裝空氣銃ノ件ハ御意見ノ通リ其ノ威力ノ強弱ニ拘ラス苟モ人畜ヲ傷害シ得ルニ足ルヘキモノハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ仕込銃トシテ御取締相成度候

追テ現品ハ返戻候

●拂下軍用銃標識打刻ノ件

大正十二年二月二日
警察部長依命通牒收保第六九三號ノ一

今般内務省警保局長ヨリ別紙ノ通リ拂下軍用銃標識打刻ニ關シ通牒有之候條此ノ旨相心得取締上遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

警閣第一八號

大正十二年一月二十六日　　內務省警保局長

各廳府縣長官殿

拂下軍用銃模擬打刻ノ件通牒

陸軍省ヨリ學校及在鄕軍人會ニ拂下ヘキ小銃ニハ尾筒御紋章ノ下部約十粍ノ位置（舊式連發銃ニ在リテハ相當位置）ニ左記模擬ヲ打刻シ且學校ニ拂下ノ分ニ對シテハ銃ノ番號ノ頭ニ番號ト同一字形ノ○ヲ二個在鄕軍人會ニ拂下ノ分ニ對シテハ同上○ヲ三個併列打刻スルコトニ定メタル趣陸軍省ヨリ通牒有之候ニ付御了知相成度候

左記

學校ニ拂下ノ分ノ標識　文　（徑約八粍）

在鄕軍人會ニ拂下ノ分標識　M　（徑約八粍）

●清水式電氣導火線製造竝其ノ取扱方ニ關スル件

大正十二年四月十一日
警察部長依命通牒收保第二二八八號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ別紙ノ通照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取締上遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號

保第一〇二一號

大正十二年三月六日內務大臣宛京都府知事照會

清水式電氣導火線製造竝其ノ取扱方ニ關スル件

〔山形警〕

京都府宇治郡山科村大字四ノ宮小字堂後一番地
合資會社、清水商會
代表者　清水貞介

右ノ者從來銃砲火藥類取締法施行規則第六條ニ依リ電氣工業用雷管竝工業用雷管ノ製造ヲナシツヽ有之者ニ候處今般更ニ專賣特許第二〇五三七號清水式電氣導火線ヲ同取締法ニ據ラスシテ製造販賣方許可申請、共ニ汽車及船舶輸送取扱ニ關シテモ家庭用燐寸同數品トシ取扱許可相成度申請ニ付調査候處前記ノ通ニシテ許可支障ナキモノヽ如ク存候得共其ノ目的カ導火線ト效用ヲ同フスルモノニ有之候ヘハ其ノ許可取扱取締方ニ付テモ聊カ疑義相生シ候條御試驗ノ上之カ許可ノ可否ニ關シ御意見承知致度現品相添ヘ右稟伺候也

記

一、製造ノ目的

鑛業及一般土木工業用火藥類爆發點火用ニ供スル電氣導火線ヲ製造販賣セントスルモノ

二、構造ノ大要

被覆銅線二十五番線二本ノ兩端ヲ捻合セ端末約五粍ヲ剝脫シ其ノ剝脫シタルトコロト被覆セル接際部ヲ約二粍幅ノ絨力ヲ以テ緊束シ其ノ兩端末ヲ五十番白金線ヲ以テ鑞付トシ其ノ上ヲ發火劑ニテ塗抹シ之ヲ長サ一七粍徑六粍底部ニ徑二粍五ノ穿孔ヲ有スル銅製ノ管體ニ挿入シ鑞劑又ハ硫黃ヲ溶解注入シタルモノ及鑞劑硫黃セメント又ハ護謨類ヲ以テ發火劑ヲ被覆シ管體ニ代ヘタルモノトノ二種トス

三、發火劑ノ成分

鹽酸加里ヲ主劑トシ糊形等ノ輕量木炭トヨリナリ之ヲ淸水ト膠類ヲ以テ捏加シタルモノニシテ其ノ配比ハ次ノ如シ

鹽酸加里10　木炭1トス

四、本導火線ノ特性

1、價格極メテ低廉ナルコト
2、點火確實迅速ニシテ且安全ナルコト
3、硝煙發生スルコトナク且臭氣ナキコト
4、點火後ノ時間ヲ空費スルコトナク直ニ事業ニ着手シ得ルコト
5、導線ハ安全界ニ去リタル後電氣ヲ以テ發火セシムルヲ以テ全ク危險ナシ
6、點火ニ際シ火氣ノ必要ナク且火焰ヲ噴出スルコトナキヲ以テ瓦斯爆發ヲ誘起セシムルノ虞ナキコト
7、微力ノ電氣ヲ以テ裝藥シタル多數ノ火藥類ヲ一齊ニ爆發シ得ルコト
8、不點火ヲ容易ニ發知シ且雷管ヲ拔去ルコト容易ナルコト
9、導火線ニ比シ耐水力ニ富ミ永久保存ニ堪ヘルコト
10、雷管內ニ挿入スルトキハ電氣雷管ト毫モ異ルコトナキコト
11、比較的輕量ナルヲ以テ運搬費ヲ輕減シ得ルコト

五、製造スヘキ豫定數量

一ケ月　貳拾五萬個（發火劑六貫二百五十匁）
一日　壹萬個（同　二百五十匁）

六、販賣價格ノ割合

一尺ニ對シ	二尺	三尺	四尺	五尺	六尺	七尺	八尺	九尺	一〇尺
一錢[illegible]厘	一錢九厘	二錢二厘	二錢五厘	二錢八厘	三錢一厘	三錢四厘	三錢八厘	四錢二厘	四錢六厘

七、標準導火線トノ重量比較

〔山形警〕

五千尺一箱ニ對シ電氣導火線ハ二貫六百匁ニシテ緩燃導火線ハ七貫二百五十匁ナリ

八、緩燃導火線ト大貨物第一級品トノ取扱別ニ依ル賃金ノ差額

割合　山科驛ヨリ汐留驛間ヲ輸送スルモノト假定シ

山科、汐留驛間三百二十三哩

緩燃導火線トシテ取扱フ場合四十八圓二千斤未滿ト雖モ二千斤ノ運賃ヲ要ス

千斤ニ對スル運賃

大貨物一級品トシテ取扱フ場合十六圓其ノ量ニ應シ支拂ヲナシテ可ナリ

乙號

警發乙第一五九號

大正十二年四月四日京都府知事宛警保局長回答

清水式電氣導火線製造竝其ノ取扱方ニ關スル件

三月六日付保第一〇二一號ヲ以テ內務大臣ヘ伺出相成候本件ハ鹽酸加里ト木炭トノ配合物ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二條ニ規定ノ鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥ニ有之候ニ付キ之ヲ使用シテ導火ノ用ニ供スル製品ハ同條ノ所謂火工品ニ外ナラサルモノト被存候條之カ製造及取扱ニ關シテハ緩燃導火線ト同樣ノ御取締相成候樣致度候

●消火ピストル輸入販賣取締ニ關スル件

大正十二年五月二十一日
警察部長依命通牒收保第三二〇〇號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ別紙ノ通リ照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相

心得取締上萬遺算ナキヲ期スヘシ

（別表）

甲號

保第九七號

大正十二年四月九日警保局長宛警視總監照會

消火「ピストル」輸入販賣ニ關スル件

東京市麴町區有樂町一丁目一番地
帝國消火銃合資會社

右會社ニ於テ消火「ピストル」販賣方新聞廣告（別紙添付）致シ居リ候ヲ以テ調査候處本品ハ在獨逸國伯林ウオルフ、ゴフツクス株式會社ヨリ輸入販賣セントスルモノニシテ其ノ構造爲作用ノ詳細ハ左記ノ通リニ有之消火彈發射器ノ構造及作用ハ略々拳銃ト類似スレトモ强ヒテ銃砲火藥類取締法令ヲ適用スルノ必要無之被認候ヘ共消火彈ハ其ノ實質ニ於テ同法施行規則第二條第三號火工品ニ該當スルモノト被認候處右ハ火工品中ノ實包ニ屬スヘキカ又ハ火藥爆藥ヲ使用シタル火工品ト認ムヘキカ又或ハ實包ノ點ヨリシテ煙火又ハ船舶信號用煙火類似ノ火工品ニ準シ同法施行規則第四十四條第二項ニ依リ法令ノ一部ヲ除外シテ取締ルヘキヤニ付疑義相生シ候ニ付何分ノ御提示仰度現品相添へ此段及照會候也

左記

一、消火「ピストル」ノ構造

（イ）發射器ノ構造

發射器ノ全身長一尺三寸一分銃身部九寸口外徑一寸九〇五厘ニシテ全部鋼鐵ヲ以テ製造シ擊鐵彈力箱包裝部ヨリ成リ銃身ハ下部蝶番上部ハ支鐵ヲ以テ接合シ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シアリ

〔山形警〕

（ロ）消火彈ノ構造

消火彈ハ銅鐵製ノモノニシテ全長八寸九分五厘口外徑一寸七分五厘ニシテ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シ管尾ニ銃用雷管ヲ嵌シ管底ニ厚五分ノ紫紙ヲ填メ小粒黑色火藥約二瓦ヲ填藥シ更ニ厚紙ヲ以テ塡塞シ炭酸曹類ヲ主剤トセル消火劑約六百瓦ヲ填藥シ之ヲ厚紙ヲ以テ塡塞シ更ニ封蠟ニテ密閉シタルモノニシテ全重量約千瓦アリ

二、消火「ピストル」ノ效力

實驗ノ狀況

新聞紙數枚ニ石油エーテル約四十瓦ヲ注キ之ニ點火シ約二米突ノ距離ニ於テ發射器ニ依リ消火彈ヲ發射スルニ二回ニシテ全ク消火セリ又空間ニ向テ發射スルニ藥劑約八米突ノ距離ニ飛散シ「アンモニア」臭ヲ發セリ

乙號

警發乙第二〇四號

大正十二年五月八日警視總監宛警保局長回答

消火「ピストル」輸入販賣取締ニ關スル件回答

四月九日付保第九七號ヲ以テ御照會相成候本件消火彈ハ火藥及爆藥ヲ裝塡シタルモノニシテ煙火若ハ煙火類似ノ火工品ト其ノ效用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第二條第一項第三號ノ火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品トシテ取締ルヘキモノニシテ其發射器ハ消火彈ヲ發射シテ防禦用ニ供セラルヽモノナルノミナラス右消火彈ニ加工シ彈丸ノ類ヲ裝塡スルトキハ之ヲ發射シテ人畜ヲ傷害スルノ用ニ供シ得ヘキモノナルヲ以テ同則第一條ノ所謂非軍用銃トシテ取締ルヘキモノト存候

●硝安火藥取扱ニ關スル件

大正十二年六月四日
警察部長依命通牒收保第三七二九號ノ一

今般內務省警保局長ヨリ別紙ノ通リ照覆アリタル旨通牒有之候條此ノ旨相心得取締上萬遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

甲號

保發第二五一〇號

大正十二年三月八日　警保局長宛福岡縣知事照會

硝安火藥取扱ニ關スル件

客年十一月頃ヨリ宇治火藥製造所ニ於テ製造販賣シツヽアル硝安火藥ノ授受運搬貯藏等ニ關シテハ法令ノ所謂火藥トシテ取扱可然モノト思料候得共其ノ主成分ハ硝酸「アンモニア」ニシテ從來ノ硝安爆藥ニ酷似セルモノト推測セラレ候ニ就テハ爆藥トシテ取扱フヘキモノニハアラサルヤノ疑義相生シ候ニ付御意見承知致度候條至急何分ノ御回報相煩度及照會候也

乙號

警開第一七二號

大正十二年五月三十日　福岡縣知事宛警保局長回答

硝安火藥取扱ニ關スル件回答

本年三月八日付保發第二五一〇號ヲ以テ御照會ノ本件硝安火藥ハ硝酸「アンモニア」ヲ主剤トシ之ニ若干量ノ「ナイトロナフサリン」竝ニ不燃性無機鹽類ヲ混和セルモノニシテ其ノ性狀從來ノ硝安爆藥ト同樣ノモノニ有之之カ授受、運搬、貯藏ニ當テハ爆藥トシテ取扱フ儀ト御了知相成度候

〔山形警〕

●支那へ兵器彈藥輸出差止ノ件

大正十二年七月三日
警察部長依命通牒收保第四三七八號ノ一

支那へ兵器彈藥輸出差止ノ件ニ關シテハ大正八年五月二十一日附收保第二、五一〇號ノ一通牒ノ次第モ有之候處獵銃及軍用以外ノ護身用拳銃及是等銃器ノ實包ハ支那ノ軍用ニ供セラルヽ疑ナキモノニ對シテハ輸出禁止ノ限ニ無之旨今般內務省警保局長ヨリ通報有之候條委細ハ別紙五月十七日附亞一機密第一二八號外務次官ヨリ內務次官宛ノ書面ニ依リ了承取締上萬遺漏ナキヲ期スヘシ

（別紙）

亞一機密第一二八號

大正十二年五月十七日　外務次官　田中都吉

內務次官　塚本清治殿

支那へ獵銃及拳銃等輸出ニ關スル件

本件ニ關シ五月十一日附亞密第一六號貴信ヲ以テ御來照ノ趣了承獵銃及軍用以外ノ護身用拳銃及之等銃器ノ實包ハ本件對支兵器禁輸協定ニ基キ之カ輸出ヲ絕對ニ禁止スル必要無之候得共斯ル名義ノ下ニ軍用銃器彈藥ノ輸出ヲ企圖スルモノ無之ニアラサルヘク又此種ノ銃器中ニモ少許ノ變更ヲ加フルコトニ依リ軍用ニ使用シ得ルモノモ可有之殊ニ拳銃ノ如キハ假令帝國陸海軍ノ制式ニアラサルモノト雖モ軍用ニ供シ得ヘキモノ尠カラスト存候ニ付各許可ノ場合ニ當リテハ單ニ出願者ノ陳述ノミニ信頼セラルヽコトナク各種ノ事情御考慮ノ上其ノ軍用ニ供セラレサルコトノ心證ヲ得ラレタル上許可相成樣致度殊ニ輸出數量大ナル場合ハ右ノ危險モ大ナルヤニ認メラレ候ニ付斯ル場合若ハ他ノ場合ニ於テモ疑ハシキ廉アリト認メラレタル時ハ

許可前營業ノ爲メ當省ヘ御協議相成候樣致度此段及回答候也

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

大正十一年四月十一日
法律第三十一號

第一條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

相續又ハ法人ノ合併ニ因リ前項ノ業ヲ繼承スル場合ハ前項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條　行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條　行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所、貯藏所其ノ他之ヲ收藏スルノ虞アル場所ニ臨檢シ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器竝之ヲ收藏スルノ虞アル物件若ハ事業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル數量ニ限リ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防又ハ衞生ノ爲壓縮瓦斯液化瓦斯ノ製造所、貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四條　行政官廳ハ保安上必要アリト認ムルトキハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第五條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　本法ヲ適用セサル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ範圍
二　壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣、授受、使用、運搬其ノ他ノ取扱

第六條　第一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第三條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第三條若ハ第四條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

〔山形縣〕

〔山形縣〕

第十一條　前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年四月勅令第百七十七號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令

昭和十一年七月二十日
内務省令第二十三號

第一章　總則

第一條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ハ攝氏三十五度ニ於テ十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯、攝氏十五度ニ於テ二氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮アセチレン瓦斯及總テノ液化瓦斯ニ之ヲ適用ス

第二條　本令ニ於ケル瓦斯容積ハ溫度攝氏零度氣壓七百六十ミリメートルノ狀態ニ換算シタル容積トス

第三條　壓縮瓦斯及液化瓦斯ノ容器ヲ分チテ左ノ三種トス

大容器　内容積五百リツトル（塩素瓦斯ヲ充塡スルモノニ在リテハ四百リツトル）以上ノモノ
中容器　内容積五リツトルヲ超エ五百リツトル（塩素瓦斯ヲ充塡スルモノニ在リテハ四百リツトル）ニ滿タザルモノ
小容器　内容積〇・一リツトル以上五リツトル以下ノモノ

第二章　製造、貯藏、販賣

第四條　一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ニ申請スベシ但シ第四號ト、チ、第六號及第七號ノ事項ニシテ申請ノ際未定ナルモノハ其ノ旨記載シ決定ノ上提出スルヲ妨ゲズ

一　住所、氏名、生年月日及職業（法人ニ在リテハ名稱、事務所ノ所在地及代表者ノ住所氏名以下之ニ同ジ）
二　製造ノ目的、瓦斯ノ種類及名稱、作業ノ工程竝ニ一日内ニ製造スベキ最大數量
三　製造所ノ位置及附近ノ狀況（圖面ヲ添附スルコト）
四　製造所ノ設備
　イ　全體ノ配置圖
　ロ　各作業室ノ構造及設備（圖面ヲ添附スルコト）
　ハ　壓縮機ノ種類、型式、構造（回轉數、ピストン行程、氣筩内徑、段數）、能力（各段ノ壓力、每時壓縮量）、製作所名、製作年月及試驗壓
　　（壓縮機ノ圖面ヲ添附スルコト）
　ニ　瓦斯分離裝置、電槽及其ノ他ノ設備ヲ表ハシタル圖面
　ホ　壓力計ノ型式、目盛及個數
　ヘ　瓦斯メートルノ型式及個數

ト　耐壓試驗裝置ノ構造、能力及臺數

チ　瓦斯分析裝置及其ノ個數、分析方法並ニ分析瓦斯採取個所

リ　瓦斯容器ノ型式、構造、容量及外部ノ塗裝

ヌ　充塡シタル容器ノ貯藏室、貯藏方法及最大貯藏數量

五　原料ノ種類、貯藏方法及最大貯藏數量

六　作業主任者ノ氏名及履歴

七　職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規程

第五條　百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯（壓縮瓦斯ト液化瓦斯トヲ共ニ貯藏スル場合ハ壓縮瓦斯一立方メートルヲ液化瓦斯十キログラムト看做ス以下之ニ同ジ）ヲ貯藏セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ貯藏所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一　住所、氏名、生年月日及職業

二　貯藏所ノ位置、設備及附近ノ狀況

三　貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

第六條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一　住所、氏名、生年月日及職業

二　販賣スベキ瓦斯ノ種類及名稱

三　販賣所、貯藏室及詰替所ノ位置、設備及附近ノ狀況

四　貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

壓縮酸素瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル場合ニシテ其ノ貯藏數量五立方メートルヲ超エザルトキハ前項各號ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ其ノ具シタル事項ヲ變更シ又ハ其ノ業ヲ廢止シタルトキ亦同ジ

第七條　前三條ノ規定ニ依リ申請書ニ具シタル事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ住所、氏名、職業、第四條第一項第四號ホ、ヘ又ハ同項第七號ノ事項ニ付テハ其ノ變更ノ日ヨリ二十日以內ニ地方長官ニ屆出ヅベシ

前三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ開始シ若ハ廢止シ又ハ一月以上休止セントスルトキハ地方長官ニ屆出ヅベシ

第八條　第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ相續又ハ法人ノ合併ニ因リ繼承シタルトキハ二十日以內ニ地方長官ニ屆出ヅベシ

第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ讓渡セントスルトキハ關係者連署ノ上地方長官ニ申請スベシ

第三章　作業主任者

第九條　一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニハ作業主任者トシテ化學主任者免狀ヲ有スル者及機械主任者免狀ヲ有スル者ヲ置クベシ但シ製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ在リテハ化學主任者免狀ヲ有スル者ヲ、壓縮機ヲ使用セズシテ瓦斯ヲ液化スル製造所ニ在リテハ機械主任者免狀ヲ有スル者ヲ置カザルコトヲ得

第十條　前條ノ化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ通トス

甲種化學主任者免狀

總テノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

乙種化學主任者免狀

特定瓦斯ノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

甲種機械主任者免狀

總テノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

乙種機械主任者免狀

一時間ニ付千立方メートル以下ノ瓦斯ヲ攝氏三十五度ニ於テ二百氣壓以下ニ壓縮スル製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

丙種機械主任者免狀

製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

第十一條　化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ資格ヲ有シ且壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令ノ知識ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ內務大臣銓衡ノ上之ヲ交付ス

甲種化學主任者免狀

一　高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業者ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從事シタル者

二　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スル者

乙種化學主任者免狀

一　工業學校（尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ）又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業者ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從事シタル者

二　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スル者

甲種機械主任者免狀

一　高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ機械ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業者ニシテ一年以上壓縮機取扱ノ作業ニ從事シタル者

二　壓縮機取扱ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スル者

乙種機械主任者免狀

一　工業學校（尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ）又ハ之ト同等以上ノ學校ノ機械ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業者ニシテ一年以上壓縮機取扱ノ作業ニ從事シタル者

二　壓縮機取扱ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スル者

丙種機械主任者免狀

製氷又ハ冷凍用ノ壓縮機取扱ノ作業ニ六月以上從事シタル者

前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル免狀ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ申請ハ申請者ノ住所地ノ地方長官ヲ經由スベシ

內務大臣保安上必要アリト認ムルトキハ免狀ノ返納ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ作業主任者ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第四章　作業上ノ制限

第十三條　第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ容器ニ付檢査ヲ受ケ合格スルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十四條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者容器ニ瓦斯ヲ充塡シタルトキハ製造所ニ於テ其ノ都度別記第一號樣式ニ依ル充塡日誌ニ所定ノ事項ヲ記錄スベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替ハ之ヲ充塡ト看做ス

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者瓦斯ノ授受ヲ爲シタルトキハ製造所ニ於テ其ノ都度別記第二號樣式ニ依ル容器臺帳ニ所定ノ事項ヲ記錄スベシ

第十五條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ貯藏者、輸入者又ハ販賣業者瓦斯ノ授受ヲ爲シタルトキハ其ノ都度別記第三號樣式ニ依ル取引簿ニ所定ノ事項ヲ記錄スベシ但シ販賣業者ニシテ製造業者ヲ兼ヌル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造所ノ構造及設備ハ左ノ制限ニ從フベシ但シ第四號、第五號及第十號ノ制限ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　製造所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ製造所ノ標示ヲ爲スコト

二　可燃性又ハ支燃性ノ瓦斯ヲ製造シ又ハ其ノ壓縮、液化若ハ充塡ヲ爲ス作業室竝ニ其ノ瓦斯及引火又ハ發火ノ虞アル原料ノ貯藏室ハ不燃性材料ヲ以テ築造シ其ノ照明裝置ハ電燈ヲ用ヒ且外部見易キ場所ニ火氣ニ對スル警戒標示ヲ爲スコト

〔山形縣〕

三　毒性瓦斯發散ノ虞アル作業室及貯藏室ハ換氣ヲ完全ニシ且發散瓦斯ノ排氣又ハ吸收裝置ヲ爲スコト

四　五立方メートル以上ノ瓦斯ヲ常時收納スル瓦斯溜ハ鐵材ヲ用ヒ氣密ニ構造シ瓦斯放出裝置ヲ施シ可燃性瓦斯溜ニ在リテハ赤色ノ塗料ヲ、不燃性又ハ支燃性瓦斯溜ニ在リテハ黑色ノ塗料ヲ其ノ外部ニ塗布シ且可燃性瓦斯溜ノ出口ニハ逆火ヲ防止スルニ足ル安全裝置ヲ施スコト

五　瓦斯壓縮機ト瓦斯ヲ容器ニ充塡スル場所トノ間ニハ高サ二、五メートル以上厚サ十センチメートル以上ノ煉瓦壁又ハ之ニ相當スル強サヲ有スル障壁ヲ設クルコト

六　アセチレン瓦斯ヲ發生セシメ又ハ之ヲ溶劑ニ溶解セシムル爲ニ使用スル機械器具類ノアセチレン瓦斯ニ接觸スル部分ニハ銅ヲ使用セザルコト

七　水ノ電氣分解ニ依ル酸素又ハ水素ノ製造ニ要スル發電機、開閉器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ赤熱スルノ虞アル器具ノ類ハ電槽室又ハ壓縮機室以外ノ場所ニ之ヲ設置シ其ノ電路ニハ電槽ニ生ズル逆電流ニ依リ發電機磁極ノ逆變ヲ妨グベキ適當ノ自動裝置ヲ爲スコト

八　可燃性瓦斯ノ發生室及壓縮機室ニ電氣裝置ヲ爲ス場合ニハ發火ヲ誘致スルノ危險ヲ防止スルニ必要ナル設備ヲ爲スコト

九　瓦斯ノ貯藏、壓縮、液化、充塡、耐壓試驗等ニ使用スル溫度計、瓦斯メートル又ハ壓力計ハ度量衡法第八條ノ規定ニ抵觸セザルモノヲ使用シ且壓力計ハ常用壓力ノ一倍半以上二倍以下ノ最高目盛アルモノヲ使用スルコト

十　製造所內ノ機械、裝置及導管ニシテ常用壓力十氣壓以上ノモノハ每年一回以上其ノ常用壓力ニ其ノ二分ノ一以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒタルモノナルコト

前項第九號ノ壓力計ハ別ニ標準壓力計二個以上ヲ備ヘ之ニ據リ每月一回以上其ノ精度ヲ試驗スベシ

前項ノ標準壓力計ニ付テハ每年一回以上中央度量衡檢定所ノ比較檢査ヲ受ケ且其ノ檢査成績書ノ交付ヲ受クベシ但シ地方長官ノ檢査ニ合格シタル壓力計試驗機ニ依リ每月一回以上試驗ヲ行ヒ其ノ誤差度量衡法施行令第十條ニ規定シタル公差ノ二分ノ一ヲ超エザルモノヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ壓力計試驗機ノ分銅ニ付テハ五年ニ一回中央度量衡檢定所ノ比較檢査ヲ受クベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替所ノ構造及設備ニ付テハ第一項第二號及第三號ノ規定ヲ準用ス

第十七條　瓦斯ノ壓縮又ハ液化作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　作業者手前分析ヲ行ヒ可燃性瓦斯中ニ酸素容量二パーセント以上、酸素瓦斯中ニ可燃性瓦斯容量二パーセント以上ヲ含有スルモノハ壓縮セザルコト

二　水ノ電氣分解ニ依リ酸素又ハ水素ヲ製造スルトキハ電槽ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯、他ノ製造方法ニ依リ水素其ノ他ノ可燃性瓦斯ヲ製造スルトキハ其ノ製造裝置ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯ニ就キ一時間每ニ分析ヲ行ヒ其ノ收納シタル瓦斯溜ノ瓦斯ハ瓦斯溜ノ出口ニ近キモノニ就キ一日二回以上分析ヲ行ヒ其ノ成績ハ分析者名ト共ニ之ヲ記錄スルコト

〔山形縣〕

三　酸化性ヲ有スル瓦斯ノ壓縮機ノ內部潤滑劑ニハ油、脂肪又ハ濃厚ナルグリセリンヲ使用セザルコト

四　作業室內ノ機械、裝置、導管等ノ內部ニ異物ノ蓄積ナカラシムルコト

第十八條　第十六條第一項第二號及第三號ノ規定ハ製造所以外ノ場所ニ於ケル二十立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ二百キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ニ之ヲ準用ス

前項ノ貯藏室又ハ貯藏所ニハ見易キ場所ニ其ノ標示ヲ爲スベシ

第十九條　一日ニ付十立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ノ作業室及貯藏室、可燃性、支燃性又ハ毒性瓦斯ヲ收納スル容量五立方メートル以上ノ瓦斯溜竝ニ百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ヲ新設セントスルトキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシムベシ

一　宮城、離宮、御用邸、神宮又ハ皇陵ヘ四百メートル以上

二　社寺、公園、學校、寄宿舍、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建造物ヘ百メートル以上

前項ノ施設ハ其ノ外側ヨリ前項第一號ニ揭グルモノヘ二百メートル以上、前項第二號ニ揭グルモノ及人家ヘ二十メートル以上ノ距離ヲ保有スベシ

第二十條　地方長官ハ所在地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ申請ニ依リ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十一條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ充塡作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　壓縮瓦斯ニ在リテハ最高充塡壓力以上ノ壓力アル瓦斯ヲ充塡シ又ハ液化瓦斯ニ在リテハ第二十三條第六號ノ充塡重量ヲ超エテ充塡セザルコト

二　アセチレン瓦斯ヲ充塡スルトキハ豫メ容器內ニ多孔質物ヲ緊密ニ詰メ之ニ溶劑ヲ均等ニ浸潤セシムルコト

三　アセチレン瓦斯ハ攝氏十五度ニ於テ十五氣壓ヲ超ユル壓力ヲ以テ充塡セザルコト

四　アセチレン瓦斯以外ノ瓦斯ヲ充塡スルトキハ豫メ其ノ內部ヲ照明檢査シ塵埃、鐵片其ノ他ノ異物アルトキハ之ヲ除去スルコト

五　酸素瓦斯又ハ空氣ヲ充塡スルトキハ豫メ容器ノ瓦斯ニ接觸スベキ部分ノ油脂類ヲ洗除シ且容器ニ可燃性緊塞材料ヲ使用セザルコト

六　容器ノ瓦斯開閉裝置及之ニ取付クル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ充塡ノ爲加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ溫湯ヲ以テスルコト

七　瓦斯開閉裝置ノ突出セル容器ニハ瓦斯充塡後其ノ損傷ヲ防グニ足ルベキ鐵製ノ小孔アル帽蓋ヲ緊着スルコト但シ內容積五リツトル未滿ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

八　瓦斯ヲ充塡シタル容器ニハ外面見易キ箇所ニ瓦斯ノ名稱、充塡者ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、充塡場所及充塡年月日竝ニ壓縮瓦斯（アセチレン瓦斯ヲ除ク）ニ在リテハ其ノ攝氏三十五度ニ於ケル壓力、液化瓦斯ニ在リテハ容器ノ重量（瓦斯開閉裝置、帽蓋等附屬物ノ重量ヲ含ム）、內容積及瓦斯ノ充塡重量ヲ明記シ且毒性瓦斯ニ付テハ「毒」、引火ノ虞アル瓦斯ニ付テハ「燃」ノ字ヲ朱書シタル票紙ヲ貼付シ又ハ結束スルコト

〔山形縣〕

九　瓦斯ヲ充塡シタル容器ヲ包裝シタルトキハ其ノ外部見易キ箇所ニ瓦斯ノ種類及名稱ヲ明記シ且毒性瓦斯ニ付テハ「毒」、引火ノ虞アル瓦斯ニ付テハ「燃」ノ字ヲ朱書スルコト

第二十二條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ充塡シタル容器ノ貯藏、運搬及取扱ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　危害ノ生ズル虞アル場所又ハ物件ト隔離スルコト

二　攝氏三十五度以上ノ場所ニ貯藏セザルコト

三　液化瓦斯ヲ充塡シタル容器ハ其ノ溫度ヲ攝氏四十度以下ニ保ツベキ適當ノ措置ヲ爲シテ之ヲ運搬スルコト

四　突出セル瓦斯開閉裝置ニ付テハ常ニ帽蓋ヲ緊着セシメ置クコト但シ內容積五リツトル未滿ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

五　容器ハ動搖又ハ轉落等ノ虞ナカラシメ且投下其ノ他粗暴ノ取扱ヲ爲サザルコト

六　容器ノ瓦斯開閉裝置及之ニ取付クル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ溫湯ヲ以テスルコト

第五章　容器

第二十三條　左ノ各號ニ該當シ當該官廳ヨリ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ非ザレバアセチレン瓦斯、攝氏三十五度ニ於テ二十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル他ノ壓縮瓦斯及總テノ液化瓦斯ヲ充塡スルコトヲ得ズ

一　材料ニハ鋼又ハ鐵ヲ用フルコト但シ壓縮酸素瓦斯又ハ液化炭酸瓦斯ヲ充塡スル小容器ニシテ內務大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノ製造シタル輕合金製ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二　大容器ヲ除クノ外繼目ナク製作シタルモノナルコト

三　鎔接シタル大容器ハ內務大臣ノ指定シタル者ノ鎔接シ鎔接技術適當ナル方法ニ依リ鎔接シタルモノナルコト

四　大容器ハ別ニ定ムル屈曲試驗及延伸試驗ニ合格シタル材料ヲ以テ製作シ中容器及小容器ハ別ニ定ムル壓潰試驗及延伸試驗ニ合格シタルモノナルコト

五　アセチレン瓦斯ヲ充塡スベキ容器ハ攝氏十五度ヲ標準トセル充塡壓力ノ三倍以上ノ壓力、其ノ他ノ壓縮瓦斯ヲ充塡スベキ容器ハ攝氏三十五度ヲ標準トセル充塡壓力ニ其ノ三分ノ二以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗（容器ノ耐壓試驗ハ水壓ニ依ル以下之ニ同ジ）ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル內容積ノ恒久增加ガ全增加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ノモノナルコト

六　左ノ液化瓦斯ヲ充塡スベキ容器ハ各表示ノ耐壓試驗壓力以上ノ壓力ニ對シ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル內容積ノ恒久增加ガ全增加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ナルコトノ外充塡物ノ重量一キログラムニ對シ各表示ノ內容積以上ヲ有スルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	耐壓試驗壓力	內容積
炭酸瓦斯	二〇〇氣壓	一・三四リツトル
亞酸化窒素瓦斯	二〇〇	一・三四
アンモニア瓦斯	三〇	一・八六
鹽素瓦斯	二五	〇・八
亞硫酸瓦斯	二〇	〇・八
ホスゲン瓦斯	二五	〇・八
油瓦斯	二〇〇	二・五
プロパン瓦斯	三〇	二・三五
クロルメチル瓦斯	二〇	一・二五
クロルエチル瓦斯	一五	一・二五

〔山形縣〕

七　瓦斯開閉裝置ハ充塡瓦斯ニ依リ侵蝕セラレザル材料ヲ以テ作リタルモノナルコト

八　瓦斯開閉裝置ニハ容器ノ耐壓試驗壓力ノ十分ノ八ノ壓力ニ耐ヘザル安全裝置ヲ備フルコト

九　瓦斯充塡口及放出口ノ螺子ハ可燃性瓦斯ヲ充塡スベキ容器ニ在リテハ左回轉、其ノ他ノ瓦斯ヲ充塡スベキ容器ニ在リテハ右回轉タルコト

十　アセチレン瓦斯ヲ充塡スベキ容器ノ安全裝置、瓦斯開閉裝置等瓦斯ト接觸スル部分ニハ銅ヲ用ヒザルコト

十一　外部ニ損傷ヲ生ジタル容器又ハ最近ノ耐壓試驗後三年（大容器及輕合金ヲ以テ製作シタル小容器ニ在リテハ二年）ヲ經過シタル容器ハ第五號又ハ第六號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

十二　容器ハ其ノ見易キ箇所ニ容器番號（記號アルモノハ之ヲ含ム以下之ニ同ジ）、耐壓試驗年月日、容器製造所ノ名稱又ハ其ノ符號、充塡シ得ベキ瓦斯ノ名稱並ニ液化瓦斯ノ容器ニ在リテハ耐壓試驗壓力及其ノ內容積、壓縮瓦斯ノ容器ニ在リテハ最高充塡壓力ヲ鮮明ニ刻印セルモノナルコト

十三　左ノ瓦斯ヲ充塡スベキ容器ハ其ノ外面ヲ各表示ノ色別ニ塗裝シ其ノ他ノ瓦斯ヲ充塡スベキ容器ハ其ノ外面ニ充塡スベキ瓦斯ノ名稱ヲ記載シタルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	塗色
酸素瓦斯	黑
水素瓦斯	赤
炭酸瓦斯	綠
アンモニア瓦斯	白
鹽素瓦斯	黃
アセチレン瓦斯	褐

第二十四條　大容器ニ關スル前條第四號ノ[illegible]タル[illegible]スル毎ニ作リタル試驗片ニ就キ之ヲ行フ

中容器及小容器ニ關スル前條第四號ノ壓潰試驗及延伸試驗ハ同一製造所ニ於テ同一ノ材料ヲ以テ製作シタル同形ノ容器ニシテ製作時期一月以內ニ製作サレタル容器百個以內ノ一群ノモノノ中ヨリ任意ニ一個（小容器ニシテ必要アル場合ハ任意ニ二個）ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ其ノ一群ニ屬スル容器ハ全部ヲ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ヲ不合格品トス

第二十五條　アセチレン瓦斯ヲ充塡スベキ容器ニシテ第二十三條第十一號ノ規定ニ依リ行フ耐壓試驗ハ製造所、內容積、形狀及製造年月ヲ同ジクスルモノノ中ヨリ任意ニ一個ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ殘餘ノモノニ對スル試驗ヲ省略シ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ニ對シ試驗ヲ行フベシ

前項ノ試驗ハ容器所有者ノ申請ニ依リ各個ノ容器ニ付多孔質物及溶劑ヲ詰メタル儘酸素含有量一パーセント以下ノ窒素瓦斯ヲ以テ行ヒ之ニ代フルコトヲ得

第二十六條　第二十三條第四號乃至第六號及第十一號ノ試驗ハ容器ノ製造者又ハ所有者ノ申請ニ依リ大容器ニ在リテハ內務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官之ヲ行フ此ノ場合ニ於テ內務大臣又ハ地方長官ハ其ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條　容器ノ所有者容器證明書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ構造（設計及材料ヲ含ム）、製作工程及製造所ノ設備ニ關スル事項ヲ具シ大容器ニ在リテハ內務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

當該官廳前項ノ規定ニ依リ申請シタル容器ニ付第二十三條各號ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別記第四號樣式ノ容器證明書ヲ交付ス

第二十三條第十一號ノ試驗ニ合格シタルトキハ當該官廳ハ其ノ容器證明書ニ之ヲ記入スルモノトス

容器證明書ハ容器ノ所有者ニ於テ之ヲ保管スベシ

〔山形縣〕

〔山形縣〕

容器ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ讓渡人ハ其ノ容器證明書ヲ容器ト共ニ讓渡[illegible]讓受人ハ遲滯ナク容器證明書ニ[illegible]ヲ爲スベシ

容器證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ交付シタル官廳ニ對シ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

容器ノ使用ヲ廢止シタルトキハ所有者ハ其ノ旨地方長官ニ屆出テ容器證明書ヲ返納スベシ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法第三條第三項ノ規定ニ依リ容器ノ使用ヲ禁止セラレタルトキ亦同ジ

第二十八條　前條第二項ノ容器證明書ヲ有スル容器ニ付其ノ充塡シ得ベキ瓦斯ノ種類、內容積又ハ最高充塡壓力ヲ變更セントスルトキハ所有者ハ大容器ニ在リテハ內務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第二十三條第十二號ノ刻印ヲ改訂シ又ハ同條第十三號ノ塗色若ハ瓦斯ノ名稱ノ記載ヲ變更スベシ

當該官廳前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ容器證明書ノ記載事項ヲ改訂ス

第二十九條　容器ノ製造、輸入又ハ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ニ屆出ヅベシ

前項ノ製造業者又ハ輸入業者ハ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ付左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　容器ノ種別、充塡瓦斯ノ種類及名稱、容器製造所ノ名稱（輸入シタル容器ニ付テハ[illegible]）、容器番號、內容積並ニ製造年月日

二　耐壓試驗及延伸試驗ノ場所、年月日及成績竝ニ試驗ニ供シタル容器ノ容器番號

三　破裂試驗ノ場所、年月日及成績

四　材料トシテ使用シタル鋼塊ノ製造業者

五　容器ヲ讓渡シタルトキハ讓渡年月日及讓渡先

第三十條　容器ノ製造業者、輸入業者又ハ販賣業者ハ毎年一月末日迄ニ別記第五號樣式ニ依リ其ノ前年末ニ於ケル容器ノ現存數量及前年中ニ製造、輸入又ハ販賣ヲ爲シタル容器ノ數量ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

第三十一條　左ノ各號ニ該當スル容器ニ非ザレバ攝氏三十五度ニ於テ二十[illegible]氣壓未滿ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯ヲ充塡スルコトヲ得ズ

一　第二十三條第七號、第九號、第十二號及第十三號規定ノ事項

二　攝氏三十五度ヲ標準トセル充塡壓力ノ三倍以上ノ壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ堪ヘ且膨脹均一ノモノナルコト

三　外部ニ損傷ヲ生ジタルモノ又ハ最近ノ耐壓試驗後三年ヲ經過シタルモノニ在リテハ前號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

第三十二條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ輸入又ハ移入シタル場合ニ於テハ其ノ容器ガ充塡瓦斯ノ種類又ハ壓力ニ應ジ第二十三條各號又ハ前條各號ノ規定ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ授受又ハ運搬スルコトヲ得ズ

第六章　手數料

第三十三條　容器證明書、化學主任者免狀及機械主任者免狀ノ交付又ハ再交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

容器證明書	容器種別		
	大容器	中容器	小容器
交付（容器一本ニ付一枚）	內容積一立方メートル迄ハ一〇圓以後一立方メートル及其ノ端數每ニ三圓	三圓	一圓

再交付（容器一本ニ付一枚）	五〇錢	三五錢	二〇錢
	種別		
化學主任者免狀及機械主任者免狀	甲種	乙種	丙種
交付（各一枚ニ付）	三圓	二圓	一圓五〇錢
再交付（各一枚ニ付）	五〇錢	五〇錢	五〇錢

第三十四條　前條ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ交付又ハ再交付申請書ニ貼付スベシ

旣納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第七章　雜則

第三十五條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ニ依リ災害ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク所轄警察署ニ屆出ヅベシ

第三十六條　製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル作業ニシテ一日ノ冷凍能力二十噸ニ滿タザルモノニ付テハ第四條、第九條、第十四條乃至第十七條、第十九條及第二十一條ノ規定ヲ、一日ノ冷凍能力二十噸以上ノモノニ付テハ第十四條第一項及第三項、第十五條、第十六條第一項第二號及第五號、同條第二項乃至第四項及第十九條ノ規定ヲ適用セズ

密閉セザル容器ニ液化瓦斯ヲ充塡スル場合ハ第二十一條第五號、第二十二條第二號、第五號及第六號ノ規定ヲ除クノ外容器及充塡ニ關スル本令ノ規定ヲ適用セズ

第三十七條　內務大臣ハ壓縮瓦斯、液化瓦斯若ハ其ノ製造設備又ハ其ノ容器ニシテ特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ又ハ特別ノ事由ニ因リ本令ノ規定ニ依リ難シト認ムルモノニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外特別ノ制限ヲ命ジ又ハ本令ノ規定ニ異ル取扱ヲ命ジ若ハ許可スルコトアルベシ

〔山形警〕

第八章　罰則

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第九條、第十三條、第十六條第二項乃至第四項、第十七條、第二十一條、第二十八條第一項又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第二十三條又ハ第三十一條ノ規定ニ適合セザル容器ヲ販賣シ又ハ之ニ瓦斯ヲ充塡シタル者

四、容器ニ虛僞ノ刻印、塗裝又ハ記載ヲ爲シタル者

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第六條第二項、第七條、第八條第一項、第二十二條、第二十七條第四項、第五項若ハ第七項、第二十九條第一項、第三十條又ハ第三十五條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十四條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ違反シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

第九章　附則

第四十條　本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條　本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ壓縮瓦斯若ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏若ハ販賣ノ業ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者又ハ壓縮瓦斯若ハ液化瓦斯ノ容器ニシテ耐壓試驗ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ其ノ許可又ハ試驗ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十二條　從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル化學主任者免狀又ハ壓縮機械取扱主任者免狀ハ本令施行後一年以內ニ限リ本令ニ依リ交付ヲ受ケタル甲種化學主任者免狀又ハ甲種機械主任者免狀トシテ效力ヲ有スルモノトス

〔山形警〕

前項ノ免狀ヲ有スル者其ノ有效期間滿了後引續キ化學主任者免狀又ハ機械主任者免狀ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ有效期間滿了前六月以內ニ申請スルコトヲ得

第四十三條　第十四條及第十五條ノ規定ニ關シテハ本令施行後六月以內ニ限リ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第四十四條　本令施行ノ際現ニ使用スル容器又ハ本令施行後六月以內ニ輸入シタル容器ニシテ從前ノ規定ニ依リ有效ナル容器證明書ヲ有スルモノハ第二十三條第四號、第十二號及第十三號又ハ第三十一條ノ規定ニ拘ラズ本令施行後一年以內ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ容器ノ所有者本令施行ノ日ヨリ一年以內ニ前項ノ證明書ヲ內務大臣ニ提出シ新ニ容器證明書ノ交付ヲ受ケ且容器ノ外面ニ所定ノ刻印、塗裝又ハ記載ヲ爲シタルトキハ第二十三條第四號ノ規定ニ拘ラズ前項ノ期間經過後ト雖モ仍引續キ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十五條　前條第二項ノ規定ニ依リ容器證明書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

大容器	五十錢
中容器	三十五錢
小容器	二十錢

前項ノ手數料ニ關シテハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

（別記）

第一號樣式（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十四條第一項）

壓縮（液化）瓦斯充塡日誌

年　月　日　　　　充塡場

容器					充塡瓦斯ノ名稱	摘要
記號	番號	最近ノ耐壓試驗			充塡量	
		年	月	日		
日計						

備考

一　本樣式ニ揭ゲタル事項ノ外事業上ノ必要事項若干ヲ附記スルヲ妨ゲズ

二　日計欄ニハ當日ノ充塡總量ト容器總數トヲ記載スベシ

三　日計欄ニハ前號ノ外容器ノ種類別ニ依ル充塡總量及容器總數ヲ記載スルヲ妨ゲズ

第二號様式（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十四條第三項）

容器記號番號

壓縮(液化)瓦斯容器簿

容器證明書番號			容器ノ所有者			
容器	種別		製造所ノ名稱又ハ符號		充塡	瓦斯ノ名稱	
	製造年月日		内容積	立		壓力	(氣壓)
	購入年月日		重量			量	
	購入先						

耐壓試驗	年　月　日					
	壓力 (氣壓)					
	摘要					

讓渡				廢棄			摘要
年	月	日	讓渡先	年	月	日	

備考

一　本様式ニ掲ゲタル事項ノ外事業上ノ必要事項若干ヲ附記スルヲ妨ゲズ

二　カード式ニ依ルト綴込式ニ依ルトハ隨意トス

〔山形縣〕

〔山形縣〕

第三號様式（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十五條）

壓縮(液化)瓦斯取引簿

充塡瓦斯ノ名稱	

容器		瓦斯ノ充塡量	充塡場	仕入先				賣渡先				廢棄			摘要
記號	番號			年	月	日	氏名	年	月	日	氏名	年	月	日	

備考

本様式ニ掲ゲタル事項ノ外事業上ノ必要事項若干ヲ附記スルヲ妨ゲズ

第四號様式ノ二（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十七條第二項）

第　　號

壓縮(液化)瓦斯大容器證明書

（表）

容器所有者		充塡瓦斯ノ名稱	容器製造所ノ名稱	容器ノ内容積	容器ノ重量	容器番號	耐壓試驗及氣密試驗施行	
住所	氏名						日時	場所
				立	瓩		年　月　日	

本容器ハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

年　月　日

内務省印

（裏）

耐壓試驗成績

年月日	試驗壓力（氣壓）	容積（リツトル）	全增加（立方糎）	恒久增加（立方糎）	恒久增加ノ全增加ニ對スル割合（％）	試驗場所	保安官又ハ試驗者ノ氏名印	備考

容器所有者

讓受年月日						
住所						
氏名						

（大容器圖面添附）

第四號樣式ノ二（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十七條第二項）

第　　號

壓縮（液化）瓦斯中（小）容器證明書

（表）

容器所有者 住所 氏名	充塡瓦斯ノ名稱	容器製造所ノ名稱	容器ノ內容積	容器ノ重量	容器番號	壓潰試驗及延伸試驗施行 日時	壓潰試驗及延伸試驗施行 場所
			立	瓩		年　月　日	

本容器ハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

年　月　日

道府縣名　印

（裏）

備考			
一　材料		四　刻印ノ完否	
二　外部損傷ノ有無		五　塗色	
三　安全裝置ノ種類		六　其ノ他	

耐壓試驗成績

年月日	試驗壓力（氣壓）	容積（リツトル）	全增加（立方糎）	恒久增加（立方糎）	恒久增加ノ全增加ニ對スル割合（％）	試驗場所	保安官又ハ試驗者ノ氏名印	備考

容器所有者

讓受年月日						
住所						
氏名						

第五號樣式（壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第三十條）

壓縮（液化）瓦斯容器製造（輸入、販賣）調

年　月　日

住所

氏名

容器製造所ノ名稱			
容器ノ種類			
容器ノ內容積			
充塡瓦斯ノ種類			
充塡瓦斯ノ名稱			
前年中ノ製造（輸入、販賣）數量			
現存高			

備考

一　容器製造所ノ名稱欄ハ輸入業者ニ限リ之ヲ記載スベシ

二　容器ノ種類欄ニハ大、中、小ノ種別ヲ記載スベシ

三　充塡瓦斯ノ種類欄ニハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ種別ヲ記載スベシ

四　充塡瓦斯ノ名稱欄ニハ酸素、水素、アンモニア等其ノ名稱ヲ記載スベシ

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行細則

昭和十一年八月三日
山形縣令第三十一號

第一條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令及本令ニ依リ知事ヲ經由シ又ハ知事ニ提出スベキ申請書若ハ屆書ハ製造所貯藏所及販賣所所在地ノ所轄警察署長ヲ經由スベシ但シ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十六條第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依ル申請書ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル工事竣功シタルトキハ直ニ知事ニ屆出ヅベシ

第三條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十一條第一項ノ申請書ニハ卒業證書ノ寫履歷書作業經歷書其ノ他資格ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スベシ

第四條　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者他人ノ容器ニ瓦斯ヲ充塡セントスルトキハ其ノ容器證明書ノ寫ヲ作製シ三年間保存スベシ

第五條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル試驗ニ合格セザル容器ニハ線ノ太サ約二ミリメートル大サ約二十ミリメートル平方ノ「不」ノ文字ヲ刻印スベシ

第六條　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十九條ノ規定ニ依リ屆出ヲナシタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ十日以內ニ知事ニ屆出ヅベシ

第七條　第二條第四條第五條及第六條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年五月山形縣令第四十一號壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行細則ハ之ヲ廢止ス

〔山形警察〕

●銃砲射的場取締規則

大正十五年二月十日
山形縣令第七號

改正　大正一五年一〇月縣令第一四一號

第一條　銃砲射的場ヲ設置セムトスル時ハ主幹者ヲ定メ願書ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

一、願人ノ住所身分職業氏名年齡

一、射的場ノ位置及射擊ノ種類（射擊ノ種類ハ軍用銃射擊、獵銃射擊ノ別並不動目標射擊又ハ動目標射擊（クレー射擊）ノ類）

一、軍用銃ノ射擊ニアリテハ射臺ノ前方兩側五百「メートル」射垜ノ後方千五百「メートル」以內獵銃ノ射擊ニアリテハ射臺ノ前方兩側及射垜ノ後方各二百「メートル」以內ノ狀況ヲ記シタル圖面並他人ノ土地ニ係ルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾書寫

一、射垜並射臺射門覆道ノ構造又仕樣書

一、規約書寫

一、會員名簿（軍人分會ヨリ出願ノ場合ハ役員名簿並會員數ノミヲ記入シタル書類添付ノコト）

第二條　軍用銃ノ射擊ニアリテハ射臺ノ前方兩側五百「メートル」以內射垜ノ後方千五百「メートル」以內獵銃實彈射擊ニアリテハ射臺ノ前方兩側及射垜ノ後方各二百「メートル」以內獵銃散彈射擊ニアリテハ射臺ノ前方兩側及射垜ノ後方各百「メートル」以內ニ於テ官公署、學校、社寺、病院、人家、工場、公園、墓地、火藥類及爆發性ヲ帶ヒタル物品ノ貯藏所其ノ他衆人群集ノ場所及舟楫ノ通スヘキ水面並鐵道軌道ノナキコトヲ要ス

軍用銃射的場ノ構造ハ射垜ノ後方及兩側面ニ相當ノ空地ヲ設ケ若シ其ノ餘地ナキトキハ覆道又ハ射臺前七五「メートル」ノ所ヨリ射垜前二十五「メートル」ノ間ニ於テ千「メートル」每ニ射門ヲ建設スヘシ

獵銃實彈射的場ノ構造ハ前項ノ規定ニ準據シテ建設スルヲ要ス

第三條　軍用銃獵銃射的場共ニ天然ノ丘阜又ハ堤防ニ據リテ射垜ヲ設ケ其他周圍ノ狀況危險ノ虞ナシト認メタルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス特ニ許可スルコトアルヘシ

第四條　射擊開始ノ日時ハ開始二十四時間以前ニ標的及射擊ノ種類ヲ具シ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第五條　射擊中ハ場外ヨリ見透シ易キ位置ニ長サ一「メートル」幅〇、七「メートル」ノ赤旗ヲ建テ且看守者ヲ置キ衆人ヲシテ危險ノ場所ニ近寄ラシムヘカラス

第六條　日出前日沒後ハ射擊ヲ爲スヘカラス

第七條　知事ハ取締上必要アリト認メタルトキハ射的場ノ構造變更若ハ其ノ廢止ヲ命シ又所轄警察署長ニ於テ保安上必要アリト認メタルトキハ射擊ノ中止ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　主幹者ハ左ノ者ヲシテ入場セシメ又ハ射擊ヲ爲サシムルコトヲ得ス

一、瘋癲者白痴者及酒氣ヲ帶ヒタル者

一、射擊ニ經驗ナキ者但主幹者ニ於テ指導スル場合ハ此限ニアラス

第九條　主幹者ハ射的場ニ於テ左ノ各項ヲ爲サシムルコトヲ得ス

一、射擊中ニ非ラサル者ニシテ濫リニ銃器ニ手ヲ觸ルヽコト

一、銃口ヲ標的以外ノ方ニ向クルコト

一、裝彈ノマヽ銃器置場ニ銃器ヲ置クコト

第十條　射的場ハ落成後所轄警察官署ニ屆出竣工檢査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第十一條　第二條、第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

明治二十七年二月縣令第八號銃砲射的場取締規則ハ之ヲ廢止ス

●銃砲射的場取締規則執行手續

大正十五年二月
山形縣訓令第二號

第一條　銃砲射的場取締規則第一條ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ記載事項ノ確否ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

第二條　銃砲射的場取締規則第七條ノ規定ニ依リ處分ヲ命シタルトキハ直ニ其顚末ヲ詳具シ報告スヘシ

第三條　射的場ノ竣工檢査ヲ爲シ不備ノ點ナキヲ認メタルトキハ第一號樣式ノ臺帳ニ登錄シ其ノ都度加除訂正シ其旨報告スヘシ

第一號樣式

銃砲射的場臺帳

（用紙美濃紙）

主幹者氏名	許可年月日	射的場ノ位置

〔山形警察〕

射撃ノ種類	射的場構造ノ概要

●射的場取締標準

明治十七年九月
警保局長通牒

第一　凡ソ射的ヲナサントスル者ハ豫メ組合ヲ設ケ主幹ヲ定メ其名稱規則書及ヒ組合員ノ名簿ヲ添ヘ主幹ヨリ出願セシムルモノトス

第二　主幹ハ組合中一切ノ責ニ任シ且左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ

一　射手興奮ノ擧動及ヒ照準發射ノ方法ヲ監視シ且銃器ヲモ檢査シテ其用ニ堪ヘス危險ノ虞アルモノハ之ヲ省クヘシ

二　發射ニ熟達セサル者ハ必百「メートル」以内ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシムヘシ

三　飲酒スル者及ヒ瘋癲白痴ト認ムル者ハ場内ニ入ルヲ禁スヘシ

第三　射的ヲ分テ左ノ二種ト爲ス

一　軍用銃射的

二　免許銃射的

第四　何種ノ射的ヲ論セス發射時限ハ日出ヨリ日沒マテトス

第五　射的開會ノ日時ハ軍用銃射的免許銃射的ノ別ナク豫メ主幹ヨリ其地所轄ノ警察署ニ屆出ツヘキモノトス

第六　射的場ノ構造ハ射阜ノ後ロ千五百「メートル」兩側五百「メートル」ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキ時ハ覆道又ハ射場前十五「メートル」ノ所ヨリ射阜前二十五「メートル」ノ間ニ於テ十「メートル」毎ニ射門建設スヘシ但天然ノ丘阜ニ據テ的阜ヲ築キ背後左右人家及ヒ道路遠隔ノ場所ハ此限ニアラス

〔山形縣〕

第七　的阜ノ構造ハ第一圖ノ如クスヘシト雖モ標的二個以上ヲ用フルモノハ其一個每ニ的阜幅二十四尺ヲ伸長スルモノトス但免許銃射的ニ用フル射阜ハ其地ノ景狀ニ依リ縦横各三尺乃至六尺ヲ減縮スルコトヲ得

第八　的阜ノ四面傾斜高度ハ概ネ四十五度ヲ法トス尤土性特ニ粘膠質ナルモノハ側面ノ傾斜ヲ四十四度乃至四十三度ニ減縮スルコトヲ得

第九　的阜築造用ノ土性脆軟質ナルトキハ其中腹ニ土俵ヲ積ミ若クハ亂杭ヲ立列シテ崩壞ヲ防クヘシ

第十　射門ノ構造ハ第二圖ノ如ク長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ衝撃毀壞ヲ防ク爲メ釘又ハ鎹ノ類ヲ以テ所所貫綴スヘシ

第十一　標的二個以上ヲ用フル射門ハ第三圖ノ如ク其一個每ニ之ヲ建設スヘシ

（圖式省略）

●煙火原料用火薬爆薬及煙火製造作業主任者資格試驗細則

大正十四年五月五日
山形縣令第四十三號

第一條　煙火原料用火薬爆薬及煙火製造作業主任者資格試驗ニ應セムトスル者ハ毎年四月末日迄ニ第一號樣式ニ依ル願書及第二號樣式ニ依ル履歷書竝戶籍抄本ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ知事ニ願出ツヘシ但シ一年以上火薬類製造ノ實務ニ從事シタル履歷ヲ有スル者ニ非サレハ試驗ニ應スルコトヲ得ス

第二條　試驗ハ每年五月左ノ科目ニ付キ之ヲ行フ

〔山形縣〕

一、火薬類ノ製造及取扱
二、銃砲火薬類取締法令ノ大意
三、度量衡ニ關スル算術

第三條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ試驗合格決定後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　本則ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ試驗施行ノ都度之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十四年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

火薬類作業主任者資格試驗願書
住　所
氏　名
生年月日

一、丙種火薬類作業主任者

右火薬類作業主任者ノ資格試驗規則ニ依リ前記ノ試驗相受度此段及願出候也

年　月　日
現住所
氏　名㊞

知事宛

第二號樣式

履歷書
原　籍
住　所
氏　名
生年月日

一、學業
何年何月何日何々學校入學
何年何月何日何々學校卒業
何年何月何日何々云々

一、職務
何年何月何日ヨリ何々ニ從事
何年何月何日何々云々

一、賞罰
何年何月何日何々ニ依リ何賞ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年　月　日
氏　名㊞

●火薬類讓受許可ニ關スル件

昭和六年五月
警察部長調達收保第三四四九號

銃砲火薬類取締法施行規則第十七條ニ依リ警察官署ニ於ケル火薬類讓受許可ニ關シ其ノ數量ハ必ズシモ特定ノ用途ニ消費スベキ全部ノ數量ノ通算シタルモノト解釋スルノ要無キモ工事ノ規模其ノ他事業ノ狀況ニ依リ多量ノ火薬類ヲ消費スルコト明カナルニモ不拘其ノ數量ヲ分割シ屢々警察官署ニ讓受ノ申請ヲナスモノヽ如キハ之ヲ許可スベカラザル趣内務省警保局長ヨリ通牒有之候處右ニ關シテハ昭和四年六月十五日發保第八八號ヲ以テ指示致置候次第モ有之其ノ取扱ニ付遺憾ナキヲ期セラルベシ

警保局警發甲第四五號

昭和六年五月十五日　　內務省警保局長

各廳府縣長官殿（除愛知縣）

火藥類讓受許可ニ關スル件

右ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通リ回答致置候條御了知相成度候

別紙

警保局長宛愛知縣知事照會（昭和六年四月六日）

工事中鑛業用、漁業用、船內銃砲用其ノ他ノ工業用ニ充ツル火藥類ノ讓受ケヲ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ニ基キ警察官署ニ於テ許可スル場合右ハ同條ニ依リ定限セラレタル火藥類ノ數量內ニテ工事其ノ他消費目的ガ一定期間內ニ完了シ得ル場合ノミニ限リ許可スルモノナルヤ又ハ工事其ノ他ノ消費ノ目的完了迄ニ多量火藥類ヲ要スルト認ムル場合ニ本人ノ申請ニ基キ其ノ都度同條ニ定限セラレタル數量宛回數ニ制限ナク許可スルモ支障ナキモノナルヤ若シ後段ノ如キ取扱ヲナストキハ同則第十六條ノ規定ニ反スル如ク解セラルヽモ此ノ點明瞭ナラサルタメ之カ取扱ハ各府縣區々ニ亘リ居ルヤノ傾向アリ爲メニ火藥類ノ貯藏其ノ他犯則行爲ヲ惹起スル虞アルノミナラス取扱上ニモ支障尠ナカラサルヲ以テ何分ノ御指示ヲ相仰度此段及稟伺候也

（乙號）

警保局警發乙第六一七號愛知縣知事宛警保局長回答（昭和六年五月十五日）客月六日附警發第七六號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會有之候處銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ノ數量ハ必スシモ特定ノ用途ニ消費スヘキ全部ノ數量ヲ規定シタルモノト解釋スルノ要無キモ工事ノ規模其ノ他事業ノ狀況ニ依リ多量ノ火藥類ヲ消費スルコト明カナルニモ不拘故ニ其ノ數量ヲ分割シテ屢々警察官署ニ讓受ノ申請ヲナスモノヽ如キハ之ヲ許可スヘカラサル儀ト御了知相成度

●銃砲火藥類授受許可證等ノ取扱ニ關スル件

昭和九年二月二十日
警察部長通牒收保第一七九三號ノ一

首題ノ件ニ關シテハ昭和八年十一月二十七日附警保第一六四號ヲ以テ通達致置キタル所ナルガ今般左記ノ通內務省警保局長ヨリ通牒有之候條其ノ旨心得取扱上遺憾ナキヲ期セラルベシ

追テ本縣ニ於テ發行ノモノ ニ限リ 有效期間滿了後速ニ本廳宛返戻相成度

記

從來銃砲火藥類取締法施行細則第八條第九條ノ規定ニ依リ警察官署ニ差出シタル許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀等ニ關シテハ往々其ノ取扱區々ニ渉ル嫌アルヤニ被存候處右書類ハ之ガ提出ヲ受ケタル所轄警察官署ニ於テモ取締上必要ナル場合有之樣思料セラルヽヲ以テ總テ當該警察官署ニ於テ保管スルコトトシ右書類中自署以外ノ官廳ニ於テ發給シタルモノアリタルトキ又ハ所轄外ノ居住者ニシテ規則第二十一條、第三十九條等ノ規定ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ヲ讓渡又讓受タル者アリタルトキハ遲滯ナク關係各廳（許可證ニ付テハ發給官廳讓受證書及委任狀ニ付テハ本人ノ所轄警察官署）ニ對シ取締上ノ必要事項ヲ通報セシムル樣御取計相成度

發保第一六四號

〔山形縣令〕

昭和八年十一月二十七日　警察部長

各廳府縣警察部長殿

縣下各警察署長殿

銃砲火藥類讓受許可證返戻方ニ關スル件

從來讓受人ニ於テ銃砲火藥類讓受許可證ヲ發給官廳ニ返納スヘキ規定無之取締上不便有之ヲ以テ爾今本縣ニ於テハ他廳府縣發給ノ前記證書ノ屆出有之タルトキハ直ニ發給官廳ニ返送可致候條貴廳府縣ニ於テモ本縣發給ノ證書ヲ受理シタルトキハ發給官廳ニ直接御送附相成樣致度此ノ段及照會候也

縣下各警察署長ハ前記證書ノ屆出ヲ受ケタルトキハ縣ノ內外ヲ問ハス夫々發給官廳ニ送付セラルヘシ

●拳銃取締ニ關スル件

昭和七年四月八日
警察部長通牒收保第一九五二號ノ一

陸軍々人拳銃ノ授受携帶其ノ他ニ關シテハ明治四十五年五月二十三日收保第一四九六號ノ一ヲ以テ通達及置候處近時下士以下ノ在營軍人及應召者中營業者ヨリ所轄ノ許可ヲ受クルコトナク單ニ所屬隊長又ハ憲兵分隊長等ノ發給シタル證明書ニ依リ營業者ヨリ拳銃ヲ讓受ケ之ガ携帶ヲ爲シタルモノ有之趣ナル處陸軍服裝規則ニ依リ軍裝用トシテ拳銃ノ佩用ヲ要スル將校同相當官等ヲ除クノ外其ノ授受携帶等ニ關シ必ス所轄警察署長ノ許可ヲ要スル次第ニ付此際其管部內營業者ニ對シ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ違反ナキ樣特ニ嚴重示達スルト共ニ前記證明書ニ依ル讓渡事實ノ有無ヲ調査シ若シ其ノ讓受者ノ住所ガ所轄外ニ係ル者在ラハ所轄署長ニ相互通報シ管外ニ係ル場合ハ直ニ報告セラルヽ樣萬遺漏無キヲ期セラルヘシ

明治四十五年五月二十三日
警務長依命通達收保第一四九六號ノ一

陸軍々人拳銃ノ授受携帶其ノ他ニ關シ今般別紙ノ通リ照覆有候趣其ノ筋ヨリ通牒越候ニ付取締上相當注意スヘク尙下士以下ノ軍人ニシテ職務上拳銃ヲ必要トスル場合ニ在リテハ之ヲ官給セラルヽニ依リ若同軍人ニシテ之カ買入ヲ爲サムトスルトキハ當然勅令第三十九條ノ許可ヲ受ケシムヘキ義ニ有之候條此旨相心得敢テ遺算ナキヲ期スヘシ

（別紙）

內務省警第二三七九號

陸軍軍人拳銃ノ授受携帶其ノ他ニ關シ甲號ノ通リ陸軍次官ニ照會相成候處乙號ノ通リ同次官ノ回答有之候條右御含ノ上相當御取締相成度依命此段及通牒候也

明治四十五年五月十八日
　　內務省警保局長法學博士　古賀　廉造

山形縣知事馬淵鋭太郎殿

追テ下士以下ノ軍人ニ在リテハ職務上必要ノ場合ハ拳銃ヲ官給セラルヽニ付若シ同軍人ニシテ之レカ買入レヲ爲サントスルトキハ當然許可ヲ受クヘキ義ニ有之候條御了知相成度此段申添候也

（甲乙照復文省略）

●仕込刀劍其ノ他變裝戎器ノ取締ニ關スル件

昭和九年十月二十日
警察部長通牒收保第一一七八八號ノ一

今般首題ノ件ニ關シ内務省警保局長ヨリ左記ノ通リ通牒有之候條取締上遺漏ナキヲ期セラルヘシ

記

警保局警發甲第一二三號
昭和九年十月十日　内務省警保局長
各廳府縣長官殿（除栃木）

仕込刀劍其ノ他變裝戎器ノ取締ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

（別紙）

甲號

保發第一九一八九號
昭和九年九月八日　警保局長宛栃木縣知事照會

仕込刀劍其ノ他變裝戎器ノ取締ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義有之候ニ付至急何分ノ御指示相煩度此段及稟伺候也

記

一、古物商取締法第五條第二號同細則第十三條等ニ徴スレハ古物商ニシテ刀劍ノ賣買交換ノ免許ヲ得タル者カ仕込刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ヲ賣買交換セムトスルトキハ更ニ之ニ關シ免許ヲ要スルモノト思料セラルルモ右ノ如ク取扱フヘキ義ナリヤ

二、右ニ依リ仕込刀劍其ノ他刀劍ヲ仕込タル器具類ノ免許ヲ得タル古物商カ之ヲ賣買交換スルハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂「銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合」ニ該當スルモノトシテ授受、運搬、携帶ニ付警察署ノ許可ヲ要セサル義ナリヤ

〔山形警〕

乙號

警保局警發乙第一、六八七號
昭和九年十月八日　栃木縣知事宛警保局長回答

仕込刀劍其ノ他變裝戎器ノ取締ニ關スル件

九月八日保發第一九一八九號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會相成候處銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂銃砲ニ關スル營業トハ銃砲ノ製造及販賣ノ營業ヲ指稱スルモノニシテ古物商ノ免許ヲ受ケタル者ノ如キハ右營業中ニ包含スルノ限ニ在ラザルモノト御了知相成度

●鑛業法ニ依リ鑛物ノ採掘ヲ爲ス者ノ火藥類讓受ニ關スル件

昭和十年五月十五日
警察部長通牒收保第四九〇九號ノ一

標記ノ件ニ關シ左記ノ通照覆アリタル旨今般内務省警保局長ヨリ通牒有之候條取締上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

記

警保局警發甲第七四號
昭和十年五月八日　内務省警保局長
各廳府縣長官殿（除佐賀縣）

鑛業法ニ依リ鑛物ノ採掘ヲ爲ス者ノ火藥類讓受ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通リ回答致置候條御了知相成度

（別表）

甲號

保第六八六號
昭和十年三月三十日警保局長宛佐賀縣知事照會

鑛業法ニ依リ鑛物ノ採掘ヲ爲ス者ノ火藥類讓受ニ關スル疑義ノ件

鑛業法ニ依リ鑛物ノ採掘ヲ爲ス者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セザルモノナルカ右ハ一日ノ讓受制限ナリト解釋スヘキモノト思料セラレ候モ法文上一日ノ讓受數量ナルヤ又ハ一回ノ讓受數量ナルヤ判然セザル結果該數量範圍内宛一日數回讓受クルモ支障ナキ樣解釋セラレ將シテ後段ノ如ク解釋セハ讓受數量ノ制限ヲ受ケザル如キ結果ト相成取締上疑義有之候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

〔山形警〕

乙號

警保局警發乙第四九六號
昭和十年五月六日　佐賀縣知事宛警保局長解答

鑛業法ニ依リ鑛物ノ採掘ヲ爲ス者ノ火藥類讓受ニ關スル件

三月三十日保第六八六號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會有之候處銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條中ニ於テ第十七條各號ノ火藥類ト稱スルハ讓受ノ都度ニ於ケル其ノ數量ヲ指稱スルモノナルモ讓受人ニ於テ鑛物ノ試掘權若ハ採掘權ヲ濫用シ試掘若ハ採掘作業ニ必要ナル程度ヲ超ヘテ火藥類ノ讓受ヲ爲サントスルカ如キ者ニ對シテハ銃砲火藥類取締法第十條及第十二條等ノ規定ヲ適用シテ相當御取締相成度

●古物商取締細則中疑義解釋ニ關スル件

昭和十一年十一月十九日
警察部長通牒收保第一〇七〇一號ノ一

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ警保局長ヨリ通牒有之候條取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

記

警保局警發甲第一二二號
昭和十一年十月二十四日　内務省警保局長
各廳府縣長官殿（除滋賀縣）

古物商取締法細則中疑義ノ件

標記ノ件ニ關シ別紙甲號滋賀縣知事照會ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

（別紙）

甲號

保發第一八九號
昭和十一年十月十二日　警保局長宛滋賀縣知事照會

古物商取締法細則中疑義ノ件

古物商取締法細則第十三條ニ「古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス」トアリ本則中露店市場トハ如何ナル市場ヲ指稱シタルモノナリヤ、或ハ露店ト市場トノ二態樣ニ見テ古物市場（第九條ニ依リ許可ヲ受ケタルモノ）ニ於テモ刀劍ノ賣買交換ヲ禁シタルノ法意ナリヤ聊カ疑義有之何分ノ御回示相煩度右相伺候也

乙號

警保局警發乙第五九七號

昭和十一年十月二十三日　滋賀縣知事宛警保局長回答

古物商取締法細則中疑義ノ件

昭和十一年十月十二日付保警第一九九號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處古物商取締法細則第十三條ノ露店市場ハ露店及市場ノ兩者ヲ包含スルノ儀ニ有之

●銃砲火薬類ノ輸出取締其ノ他ニ關スル件

昭和十三年一月二十五日　警察部長通牒收保第三五二號ノ一

標記ノ件ニ關シ内務省警保局長ヨリ別紙ノ通取締方通牒有之候條移民其ノ他出國就者ニ對シ取扱上遺憾ナキヲ期セラルベシ

（別紙）

警保局警發甲第二號

昭和十三年一月十九日　内務省警保局長

各廳府縣長官殿

銃砲火薬類ノ輸出取締其ノ他ニ關スル件

滿洲國其ノ他外國ヘ移民遊覽旅行等ノ爲銃砲火薬類ヲ携帶シテ渡航セントスル者ハ銃砲火薬類取締法第八條同法施行規則第二十三條ノ規定ニ依リ廳府縣長官ノ輸出許可ヲ要スルモノナル處之ガ手續煩瑣ノ爲渡航期日ヲ變更スルノ已ムナキニ至リ又ハ手續ヲ無視スルノ事例ヲ惹起スル虞不尠候條向後ハ明治四十四年六月内務省警甲第一三四號通牒ノ主旨ヲ參酌シ可然便法ヲ講セラルル樣致度尚住所移轉ニ伴フ拳銃ノ運搬許可ニ關シテモ之ガ形式的手續ハ極力簡易ニシ實質的取締ニ重點ヲ置カルル樣致度

（註）警甲第一三四號

〔山形警〕

銃砲火薬類ノ輸入ニ付テハ銃砲火薬類取締法第九條同法施行規則第二十三條ニ依リ許可ヲ要シ候ニ付テハ夫々取調ノ上許可相成ハ勿論之次第ニ有之候處別紙寫之如キ事實モ有之候ニ付テハ本邦渡來旅客携帶用ノ短銃等及獵銃並ニ之レニ要スル銃實包ノ如キハ上陸地警察官署ニ於テ貴官名輸入許可證ヲ附與シ得ルノ便法ニ依ラシメサルニ於テハ支障可有之被存候條相當御措置相成候樣致度此段及通牒候也

明治四十四年六月一日　内務省警保局長　有松英義

山形縣知事馬渕鋭太郎殿

追テ本人輸入許可證交付ノ場合ニハ携帶許可證ヲモ付與可相成此段申添候也

別紙省略

●銃砲火薬類ノ輸出取締ニ關スル件

昭和十二年七月二十七日　警察部長通牒收保第七一二九號ノ一

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ内務省内務次官ヨリ通牒有之候條取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

（別紙）

内務省發警第四三號

昭和十二年七月二十日　内務次官

山形縣知事殿

銃砲火薬類ノ輸出取締ニ關スル件

取締上必要有之候條標記ノ件ニ關シテハ當分ノ間左記ニ依リ嚴重取締方

行相成度此段及通牒候

追テ本件ハ滿洲國ヘノ輸出ハ含マザル儀ト御了知相成度

記

一、銃砲火薬類取締法施行規則第二十三條第一項ニ依リ銃砲火薬類ノ輸出ヲ許可セントスル場合ハ豫メ當省ニ稟議スルコト

二、銃砲火薬類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ム者ガ銃砲火薬類取締法施行細則第十三條ニ依リ銃砲火薬類ヲ輸出スル場合ニ在リテハ現品ヲ船積セザル前ニ當省ト協議シ得ル樣措置スルコト（之ガ爲ニハ豫メ關係業者ニ示達シ置クノ要アリ）

三、銃砲火薬類ノ原料ト認メラルベキ物件ノ輸出ニ關シテモ注意ヲ寄スルコト

四、本件取締上重要ト認メラルル事項ハ其ノ都度報告スルコト

五、税關其ノ他關係官廳ト連絡ヲ密ニシ銃砲火薬類取締法第八條違反者（密輸）ノ取締方ニ關シ徹底ヲ期スルコト

〔山形警〕

●滿洲國向火薬類輸出手續ニ關スル件

昭和十三年八月十三日　警察部長依命通牒收保第五五七八號ノ一

火薬類ノ製造又ハ販賣業者ニシテ火薬類ヲ輸出セムトスルトキハ銃砲火薬類取締法施行細則第十三條ニヨリ輸出前輸出港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ屆出ツベキモノ、處是等業者ニシテ滿洲火薬販賣株式會社ニ對シ販賣ノ目的ヲ以テ滿洲國向火薬類ヲ輸出スル場合ニ在リテハ同會社ノ特殊性ニ鑑ミ特ニ便宜ナル措置ヲ講セラル、樣致度趣其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付テハ別紙要領ノ上關係業者ニ其ノ旨示達シ取扱上遺憾ナキヲ期スヘシ

（別紙）

警保局警發甲第九四號

昭和十三年七月二十九日　内務省警保局長

各廳府縣長官殿

滿洲國向火薬類ノ輸出手續ニ關スル件

火薬類ノ製造、販賣業者ガ滿洲火薬販賣株式會社ニ對シ販賣ノ目的ヲ以テ滿洲國向火薬類ヲ輸出スル場合ニ在リテハ同會社ノ特殊性ニ鑑ミ特ニ便宜ナル措置ヲ講セラルル樣致度

追テ滿洲國向銃砲火薬類ノ輸出ニ關シテハ昭和四年四月二十七日内務省發警第三六號及同年九月十日警保局警發甲第一三六號通牒ハ適用無キ儀ニ付爲念申添候

滿洲火薬販賣株式會社法（康德二年十一月一日勅令第百二十九號）

第一條　政府ハ治安ヲ維持スル爲火薬類販賣統制ヲ圖ル目的ヲ以テ滿洲火薬販賣株式會社ヲ設立セシム

第三條　滿洲火薬販賣株式會社ノ資本ノ額ハ五十萬圓トシ内二十五萬圓ハ政府ノ出資トス

第七條　滿洲火薬販賣株式會社ニ理事長一人、理事三人以内及監事二人ヲ置ク

通牒文

追テ書中ニ警保局ノ通牒内容

一、昭和四年四月二十七日内務省發警第三六號通牒ハ支那ニ對シ

（一）

1、軍用銃及部分品

2、機關銃及部分品

3、軍用火工品及部分品

4、軍用火藥及爆藥